沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書　第21集

与那国島

# 嘉田地区古墓群

—嘉田地区ほ場整備事業に伴う緊急発掘調査報告書—

２００４年（平成16）３月

沖縄県立埋蔵文化財センター

## 序

本報告書は、沖縄県農林水産部からの分任事業として、平成14年度から平成15年度にかけて実施した嘉田地区ほ場整備事業に伴う緊急発掘調査の成果をまとめたものであります。

遺跡の所在する与那国島は日本の最西端の地で、台湾や東南アジアに近接していることから、先史時代においては当該地域との文化的関連のある地域として考えられています。また、後続するグスク時代以降の遺跡調査では、当時の集落や陶磁器交易等の様相が明らかになりつつあります。

今回の調査の結果、嘉田地区古墓群では近世から近代にかけての石積墓や岩陰墓など様々な形態の墓が30基余検出され、そのうち３基の墓からは埋葬時の状態を保った人骨が確認されております。

また、墓室内や周辺から陶磁器を中心とした多くの遺物が得られており、特に陶磁器は一ヶ所からまとまった状態で出土し、さらに県内では出土例がない資料も得られております。陶磁器の中には墨書を記した資料があり、文字資料として与那国島では希少な例であります。

このように、嘉田地区古墓群の発掘調査においては当時の葬墓制、葬送習俗、陶磁器交易とその編年、および人骨資料にもとづく形質人類学的特質等の解明にとって貴重な情報が得られております。

さらに与那国島では1477年に漂着した朝鮮人（済州島民）の見聞記録のなかに崖葬墓についての記載がありますが、今回の調査成果との比較によってその後の墓制の変遷を検討することが可能であります。

以上のように、今回の調査では八重山地域における近世から近代にかけての葬墓制に関する貴重な資料が得られております。これらの情報が記録された本報告書は、八重山地域のみならず本県における歴史、葬墓制研究にとって貴重なものであり、広く県民をはじめ内外の方々に有効に活用されることを期待しております。

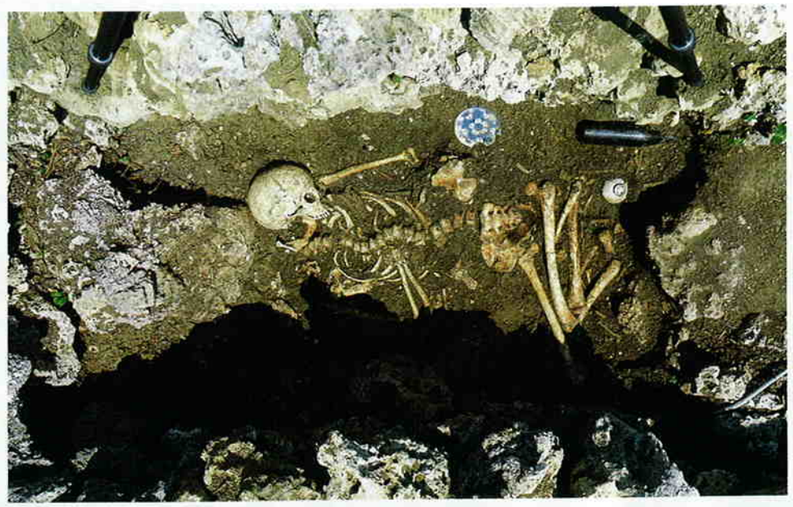
末尾ながら、現地調査にあたっては与那国町教育委員会をはじめ各機関や個人から多大なるご協力を賜り、おかげさまで円滑に調査を進めることができました。また、資料整理にあたっては琉球大学医学部の土肥直美助教授をはじめ諸先生方からご指導を頂き、内容の充実した分析情報を掲載した報告書を刊行することができました。記して深く感謝申し上げる次第であります。

２００４年（平成16）３月

沖縄県立埋蔵文化財センター
所長　　安里　嗣淳

巻頭図版１　与那国島（航空写真）

巻頭図版２　上：嘉田地区遠景　下：10号墓近景



20号墓

21号墓

22号墓

巻頭図版３　人骨検出状況

白磁

染付（碗）

染付（碗・皿・杯・瓶）

巻頭図版４　出土遺物１

本土産色絵

色絵

本土産染付

本土産染付

本土産染付（碗・皿・杯・瓶）

本土産染付（瓶）

巻頭図版５　出土遺物２

沖縄産施釉陶器

沖縄産施釉陶器（墨書）

煙管

玉

沖縄産無釉陶器

巻頭図版６　出土遺物３

沖縄産無釉陶器

納骨器

中国産褐釉陶器

タイ産褐釉陶器

巻頭図版７　出土遺物４

# 例　　言

1　本報告書は、沖縄県農林水産部からの分任事業として、平成14年度～平成15年度にかけて沖縄県立埋蔵文化財センターが実施した嘉田地区ほ場整備事業に伴う緊急発掘調査の成果をまとめたものである。

2　本報告書で使用した地図の一部は沖縄県八重山支庁から提供していただいた。

3　出土遺物鑑定、調査協力は次の皆様によるものであります（職名等は当時）。記して深謝いたします。

陶磁器鑑定　・・・・・大橋　康二（佐賀県立九州陶磁文化館）
〃　・・・・・堀内　秀樹（東京大学埋蔵文化財調査室）
〃　・・・・・家田　淳一（佐賀県立博物館）
〃　・・・・・野上　建紀（有田町歴史民俗資料館）
〃　・・・・・中野　雄二（波佐見町教育委員会）
ガラス瓶鑑定・・・・・キリンビール（株）お客様センター
貝類遺体鑑定　・・・・名和　純　（潟の生態史研究会）
石質鑑定　・・・・・・神谷　厚昭
人骨調査　・・・・・・土肥　直美（琉球大学医学部）
墨書・記銘判読　・・・小野まさ子（財団法人沖縄県文化振興会　公文書管理部）
金工　・・・・・・粟国　恭子（玉泉洞王国村）
基礎文献収集　・・・・島袋　綾野（石垣市総務部市史編集課）

4　沖縄県立博物館所蔵の与那国島資料（古墓盗掘の押収品）の閲覧にあたっては同館の仲座久宜氏に便宜を図っていただいた。

5　本報告書は片桐千亜紀を中心として編集し、又吉純子ほかが携わった。各節の執筆は次のとおりである。

片桐千亜紀　・・・第１章第２節、第４章第４・５・13・15節
西銘　　章　・・・第１章第１・３節、第２章、第３章、第４章第１～３・６～12・14・16～23・32節、第６章
青山　奈緒　・・・第４章第24～27節
宮城　奈緒　・・・第４章第28～31節
土肥　直美　・・・第５章

6　第５章は土肥直美先生より玉稿を賜った。記して感謝申し上げます。

7　本書に掲載された出土遺物の撮影及び現像・焼付は光嶋香・後藤典子が行った。

8　貝類遺体は県立埋蔵文化財センター保管のサンプルを照合した。

9　発掘調査で出土した遺物及び実測図・写真等の記録は、沖縄県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。また、人骨は与那国町納骨堂（祖納所在）に安置している。

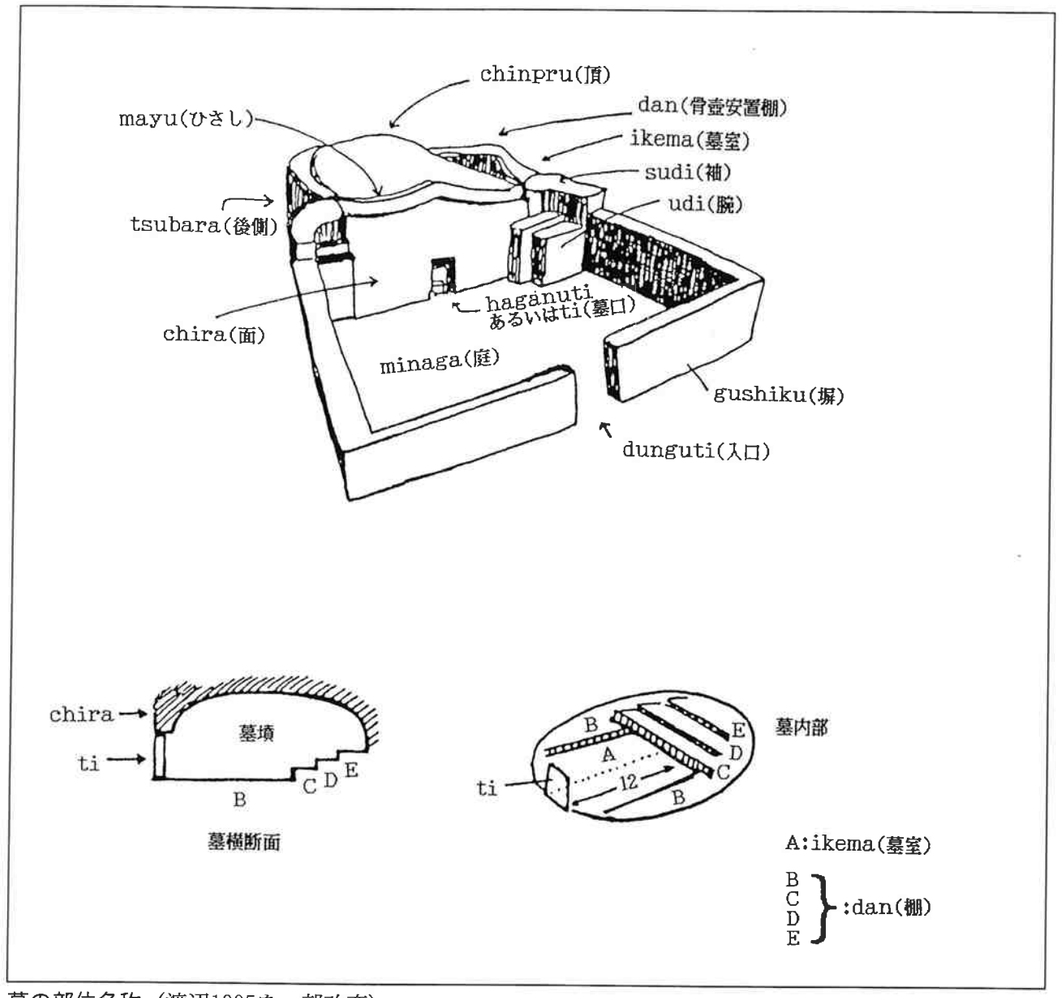
10　調査地の小字名は「野武原（ぬんばる）」であるが、事業名に準じて「嘉田地区古墓群」とした。

11　集計表中で墓周辺採集のものは地区北側などで一括し、観察表中で採集場所を明示した。

12　骨を納める容器は「厨子甕」、「蔵骨器」などがあるが、ここでは「納骨器」を用いた。

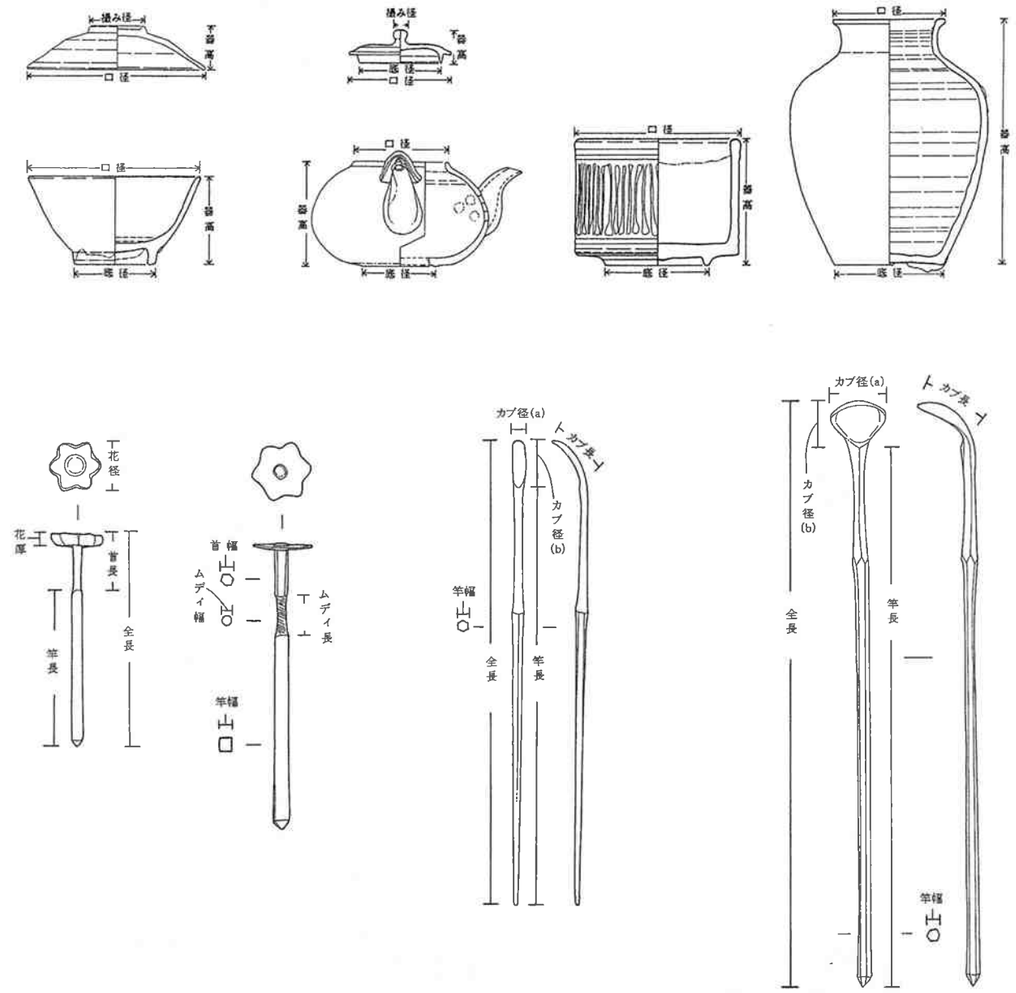
13　大型の壺・甕などの貯蔵具も納骨器に転用したと考えられるが、明らかに骨を収めていたもののみを第１節で扱った。その他は各節で扱い、納骨器に転用しているもので器形が特徴的なものも各節で扱った。

14　引用・参考文献は末尾に一括して記載した。




墓の部位名称（渡辺1995を一部改変）

凡例：計測位置



# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | かたちくこぼぐん |
| 書名 | 嘉田地区古墓群 |
| 副書名 | 嘉田地区ほ場整備事業に伴う緊急発掘調査報告書 |
| 巻次 | － |
| シリーズ名 | 沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第21集 |
| 編著者名 | 西銘章、片桐千亜紀、青山奈緒、宮城奈緒、土肥直美 |
| 発行機関 | 沖縄県立埋蔵文化財センター |
| 所在地 | 〒903-0125　沖縄県中頭郡西原町字上原193番地の7 |
| 発行年月日 | 2004年3月26日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯<br>°′″ | 東経<br>°′″ | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| かたちくこぼぐん<br>嘉田地区古墓群 | おきなわけん よなぐにちょう<br>沖縄県　与那国町<br>あざよなぐにぬんばる<br>字与那国野武原 | 47382<br>与那国町 | | 122°<br>58′<br>45″ | 24°<br>27′<br>44″ | 2002.8.1<br>～<br>2002.11.29 | 250 | ほ場整備 |

| 所収遺跡名 | 種類 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 嘉田地区古墓群 | その他の墓 | 近世～近代 | 墓 | 中国産陶磁器(青磁、白磁、染付、色絵、瑠璃釉・鉄釉磁器、褐釉・無釉陶器)、本土産陶磁器(青磁、白磁、染付、陶器、近代磁器)、タイ産褐釉陶器、沖縄産陶器(施釉、無釉)、土器、類須恵器、金属製品(釘、カンザシ、キセル、ヤカン)、石器、石製品、貝製品、骨製品、ガラス製品、自然遺物、人骨 | 近代の埋葬人骨を確認。陶磁器などが集中して出土し、県内では類例のない肥前系染付が出土。 |

# 目　次


序
巻頭図版
例言
報告書抄録

第１章　調査に至る経緯 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査体制 …… 1
　第３節　調査経過 …… 2

第２章　位置と環境 …… 3
　第１節　自然的環境 …… 3
　第２節　歴史的環境 …… 3

第３章　遺構 …… 6
　第1節　遺構の概要 …… 6
　第2節　各墓の状況 …… 6

第４章　遺物 …… 30
　第１節　納骨器 …… 30
　第２節　青磁 …… 34
　第３節　白磁 …… 34
　第４節　染付 …… 37
　第５節　青磁染付 …… 37
　第６節　褐釉磁器 …… 47
　第７節　瑠璃釉 …… 47
　第８節　中国産陶器 …… 47
　第９節　色絵 …… 47
　第10節　褐釉陶器 …… 50
　第11節　本土産青磁 …… 52
　第12節　本土産白磁 …… 52
　第13節　本土産染付 …… 53
　第14節　本土産色絵 …… 60
　第15節　本土産陶器 …… 60
　第16節　本土産近代磁器 …… 65
　第17節　沖縄産施釉陶器 …… 67
　第18節　沖縄産無釉陶器 …… 77
　第19節　土器 …… 83
　第20節　類須恵器 …… 84
　第21節　瓦 …… 84
　第22節　石器・石製品 …… 84
　第23節　貝製品・骨製品 …… 86
　第24節　釘 …… 88
　第25節　簪 …… 88
　第26節　煙管 …… 91
　第27節　銭貨 …… 94
　第28節　金属製品 …… 94
　第29節　櫛 …… 95
　第30節　玉 …… 96
　第31節　ガラス瓶 …… 97
　第32節　自然遺物 …… 100

第5章　人骨 …… 145

第6章　結語 …… 167

## 挿図目次


第１図　与那国の地質図……………………3
第２図　沖縄本島の位置……………………4
第３図　与那国島の位置･島内の遺跡および
ウガン　……………………………5
第４図　墓の分布状況･嘉田地区周辺…………10
第５図　２号墓検出状況……………………15
第６図　７号墓検出状況……………………16
第７図　８・９号墓検出状況………………16
第８図　10号墓検出状況……………………17
第９図　11号墓検出状況……………………18
第10図　14号墓検出状況……………………18
第11図　18号墓検出状況……………………18
第12図　16号墓検出状況……………………19
第13図　19号墓検出状況……………………19
第14図　20号墓検出状況……………………21
第15図　22号墓検出状況……………………23
第16図　21号墓検出状況……………………25
第17図　23号墓検出状況……………………26
第18図　24号墓検出状況……………………26
第19図　25・27号墓検出状況………………27
第20図　28号墓検出状況……………………28
第21図　30号墓検出状況……………………29
第22図　納骨器（専用器）…………………32
第23図　納骨器（土器）……………………33
第24図　納骨器（転用器）…………………33
第25図　青磁、白磁　………………………36
第26図　染付１………………………………41
第27図　染付２………………………………42
第28図　染付３………………………………43
第29図　染付４………………………………44
第30図　染付５………………………………45
第31図　染付６、青磁染付…………………46
第32図　褐釉磁器、瑠璃釉、中国産陶器………48
第33図　色絵…………………………………49
第34図　中国産褐釉陶器、タイ産褐釉陶器……51
第35図　本土産青磁、本土産白磁……………52
第36図　本土産染付１………………………56
第37図　本土産染付２………………………57
第38図　本土産染付３………………………58
第39図　本土産染付４………………………59
第40図　本土産色絵…………………………62
第41図　本土産陶器１………………………63
第42図　本土産陶器２………………………64
第43図　沖縄産施釉陶器１…………………72
第44図　沖縄産施釉陶器２…………………73
第45図　沖縄産施釉陶器３…………………74
第46図　沖縄産施釉陶器４…………………75
第47図　沖縄産施釉陶器５…………………76
第48図　沖縄産無釉陶器１…………………80
第49図　沖縄産無釉陶器２…………………81
第50図　沖縄産無釉陶器３…………………82
第51図　土器　………………………………83
第52図　類須恵器　…………………………84
第53図　石器・石製品　……………………85
第54図　貝製品・骨製品　…………………87
第55図　釘……………………………………88
第56図　簪……………………………………90
第57図　煙管…………………………………93
第58図　金属製品、櫛………………………95
第59図　玉　…………………………………97
第60図　脳頭蓋計測値の比較………………149
第61図　顔面頭蓋計測値の比較……………150
第62図　顔面平坦度の比較…………………150
第63図　四肢骨主要示数の比較……………150
第64図　頭蓋計測値14項目の主成分分析……152


## 図版目次


巻頭図版１　与那国（航空写真）
巻頭図版２　上：嘉田地区遠景
下：10号墓近景
巻頭図版３　人骨検出状況
巻頭図版４　出土遺物１
巻頭図版５　出土遺物２
巻頭図版６　出土遺物３
巻頭図版７　出土遺物４

図版１　墓検出状況１………………………105
図版２　墓検出状況２………………………106
図版３　墓検出状況３………………………107
図版４　墓検出状況４………………………108
図版５　墓検出状況５………………………109
図版６　墓検出状況６………………………110
図版７　墓検出状況７………………………111
図版８　墓検出状況８………………………112
図版９　墓検出状況９………………………113
図版10　墓検出状況10………………………114
図版11　墓検出状況11………………………115
図版12　墓検出状況12………………………116
図版13　墓検出状況13………………………117
図版14　墓検出状況14………………………118
図版15　墓検出状況15………………………119
図版16　墓検出状況16………………………120
図版17　納骨器（専用器）…………………121
図版18　納骨器（土器）……………………122
図版19　納骨器（転用器）…………………123
図版20　上：青磁　下：白磁………………124
図版21　上：染付１　下左：染付２
下右：染付３………………………125
図版22　上：染付４　中：染付５
下：染付６・青磁染付……………126
図版23　上左：褐釉磁器　上右：瑠璃釉
上右下：中国産陶器
下：色絵……………………………127
図版24　上左：中国産褐釉陶器
上右：タイ産褐釉陶器
中左：本土産青磁　中右：本土産白磁
下：本土産色絵……………………128
図版25　上：本土産染付１
下：本土産染付２…………………129
図版26　上：本土産染付３
下：本土産染付４…………………130
図版27　本土産近代磁器　…………………131
図版28　上左：本土産陶器１
上右：本土産陶器２
下：沖縄産施釉陶器１……………132
図版29　上：沖縄産施釉陶器２
下：沖縄産施釉陶器３……………133
図版30　上：沖縄産施釉陶器４
下：沖縄産施釉陶器５……………134
図版31　沖縄産無釉陶器１…………………135
図版32　沖縄産無釉陶器２…………………136
図版33　沖縄産無釉陶器３…………………137
図版34　上：土器　上下：類須恵器
中：石器・石製品
下：貝製品・骨製品………………138
図版35　上：釘　下：簪　…………………139
図版36　上：煙管　下：煙管入れ　………140
図版37　煙管（Ｘ線透過）…………………91
図版38　煙管入れ（Ｘ線透過）……………91
図版39　上：銭貨　下：金属製品　………141
図版40　銭貨（Ｘ線透過）…………………94
図版41　玉　…………………………………97
図版42　ガラス瓶　…………………………142
図版43　上：巻貝、下：二枚貝　…………143
図版44　人骨１………………………………161
図版45　人骨２………………………………163
図版46　人骨３………………………………165

## 挿表目次


第１表　各墓の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
第２表　１号墓遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
第３表　２号墓遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
第４表　３号墓遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
第５表　５号墓遺物出土一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
第６表　６号墓遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
第７表　７号墓遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
第８表　８号墓遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
第９表　９号墓遺物出土一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
第10表　10号墓遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
第11表　11号墓遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
第12表　12号墓遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
第13表　13号墓遺物出土一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
第14表　14号墓遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
第15表　15号墓遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
第16表　16号墓遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
第17表　17号墓遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
第18表　18号墓遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
第19表　19号墓遺物出土一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
第20表　20号墓遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
第21表　21号墓遺物出土一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
第22表　22号墓遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
第23表　23号墓遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
第24表　24号墓遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
第25表　25号墓遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
第26表　26号墓遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
第27表　27号墓遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
第28表　28号墓遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
第29表　29号墓遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
第30表　30号墓遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
第31表　31号墓遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
第32表　32号墓遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
第33表　33号墓遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
第34表　マンガン厨子出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・31
第35表　納骨器観察一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
第36表　白磁出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
第37表　青磁・白磁観察一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
第38表　染付出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
第39表　染付観察一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
第40表　瑠璃釉出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
第41表　褐釉磁器・瑠璃釉
　　中国産陶器観察一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
第42表　色絵観察一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
第43表　褐釉陶器観察一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50
第44表　中国産褐釉陶器出土状況・・・・・・・・・・・・・52
第45表　本土産染付出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・53
第46表　本土産染付観察一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・54
第47表　本土産近代磁器観察一覧・・・・・・・・・・・・・65
第48表　本土産近代磁器出土状況・・・・・・・・・・・・・66
第49表　沖縄産施釉陶器観察一覧・・・・・・・・・・・・・68
第50表　沖縄産施釉陶器出土状況・・・・・・・・・・・・・69
第51表　沖縄産無釉陶器観察一覧・・・・・・・・・・・・・77
第52表　沖縄産無釉陶器出土状況・・・・・・・・・・・・・79
第53表　土器出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・83
第54表　土器観察一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・83
第55表　石器・石製品観察一覧・・・・・・・・・・・・・・84
第56表　貝製品・骨製品観察一覧・・・・・・・・・・・・・86
第57表　簪計測一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・89
第58表　煙管出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・92
第59表　煙管観察一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・92
第60表　銭貨観察一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・94
第61表　金属製品観察一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・94
第62表　玉観察一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・96
第63表　ガラス瓶観察一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・99
第64表　貝類出土状況（巻貝）・・・・・・・・・・・・・・101
第65表　貝類出土状況（二枚貝）・・・・・・・・・・・・・101
第66表　嘉田地区古墳群出土人骨一覧・・・・・・・145
第67表　頭蓋骨主要計測値（男性）・・・・・・・・・・149
第68表　頭蓋非計測的形質の出現頻度・・・・・・・149
第69表　上肢骨計測値（男性）・・・・・・・・・・・・・・151
第70表　上肢骨計測値（女性）・・・・・・・・・・・・・・151
第71表　下肢骨計測値（男性）・・・・・・・・・・・・・・151
第72表　下肢骨計測値（女性）・・・・・・・・・・・・・・151
第73表　測定身長（男性）・・・・・・・・・・・・・・・・・・151
第74表　頭蓋骨主要計測値　・・・・・・・・・・・・・・・・155
第75表　上肢骨計測値（男性）・・・・・・・・・・・・・・156
第76表　上肢骨計測値（女性）・・・・・・・・・・・・・・157
第77表　下肢骨計測値（男性）・・・・・・・・・・・・・・157
第78表　下肢骨計測値（女性）・・・・・・・・・・・・・・158
第79表　頭蓋骨非計測的形質・・・・・・・・・・・・・・・158


# 第１章　調査に至る経緯

## 第１節　調査に至る経緯

嘉田地区古墓群発掘調査事業は、平成14年度～平成15年度に沖縄県農林水産部の分任を受けて、嘉田地区ほ場整備事業に伴う記録保存のための緊急発掘調査として実施した。

嘉田地区ほ場整備事業は、与那国空港南側の嘉田地区において実施されている県営ほ場整備事業である。同事業は施工面積77.2ha、平成７年度～平成15年度の予定で進められている。

同事業を実施している嘉田地区内にはこれまでの分布調査で周知の遺跡は確認されていなかったが、与那国町教育委員会から地区内に古墓が所在するとの連絡を受け、平成13年度に沖縄県教育庁文化課職員及び県立埋蔵文化財センター職員が立ち会って古墓の確認を行った。その後、事業を所管する沖縄県農林水産部農地水利課と教育庁文化課との間で埋蔵文化財の取扱に関する協議を行い、翌年度の平成14年度に農林水産部からの分任事業として沖縄県立埋蔵文化財センターが発掘調査を実施することとなった。現地での調査は平成14年８月１日から着手した。

## 第２節　調査体制

発掘調査および資料整理に係る業務は、平成14年度～平成15年度に沖縄県立埋蔵文化財センターが実施した。調査体制は次のとおりである。

調査主体者
　沖縄県教育委員会　（平成14年度～平成15年度）
　　教育長　　津嘉山朝祥（平成14年度）
　　〃　　山内　　彰（平成15年度）
調査所管
　沖縄県立埋蔵文化財センター　（平成14年度～平成15年度）
　　埋蔵文化財センター所長　　安里　嗣淳（平成14年度～平成15年度）
　　〃　　副所長　　安富祖英紀（平成14年度～平成15年度）
調査事務
　沖縄県立埋蔵文化財センター
　　庶務課長　　安富祖英紀（平成14年度～平成15年度）
調査総括
　沖縄県立埋蔵文化財センター
　　調査課長　　盛本　　勲（平成14年度～平成15年度）
調査担当
　沖縄県立埋蔵文化財センター
　　指導主事　　西銘　　章（平成14年度）
　　専門員　　片桐千亜紀（平成15年度）
　　調査補助員　嘱託員　　青山　奈緒（平成14年度）
　　〃　　〃　　宮城　奈緒（平成14年度～平成15年度）
　　〃　　〃　　秋本　真孝（平成14年度）
　　〃　　〃　　宮城　智宏（平成14年度）
　沖縄県教育庁文化課
　　主任専門員　　岸本　義彦（平成14年度）
　調査作業員
　　調査作業員（平成14年度）
　　阿部佳代子、東濵みずき、石井幸恵、大屋好伸、大宜見政彦、高橋知子、鳩間隆介
　　資料整理作業員（平成14年度～平成15年度）
　　金武正紀、国場のりえ、平良貴子、棚原司江、永吉弘子、比嘉登美子、宮崎典子

報告書編集等（平成14年度～平成15年度）
新垣利津代、荻堂さやか、上原美穂子、大村由美子、我那覇悠子、金城恵子、金城敬子、久保田由美、崎原美智子、比嘉孝子、譜久村泰子、又吉純子

調査の実施にあたっては、調査の便宜や機材の貸与など与那国町教育委員会から多大なご協力をいただいた。また、墓の移転等にあたっては与那国町土地改良課に調整を依頼し、現地調査では株式会社大光建設から重機を手配していただいた。記して感謝申し上げます。

### 第３節　調査経過

第１節に記したとおり、平成13年の２月に現地において古墓の確認を行い、予算、調査方法について協議し同年８月から調査を行うこととなった。

現地における調査は平成14年７月24日に事前調整を行った後、８月１日から開始した。墓の番号は地区北側で東から１号墓、地区西側で25号墓、地区南側で28号墓から算用数字で番号を付した（表記の番号は資料整理にあたって直したものである。調査では地表から確認できたものを先に番号を付し、重機でトレンチ内から確認したものは枝番号とした）。

まず、地区北側から伐採作業を行い、各墓の状況を確認した後、２号墓から検出作業を行った。調査は墓の周囲の雑草などを取り除いた後に外面を写真撮影、基準ラインを設定して実測作業を行った。そして、天上石を取り外して墓室内の検出作業を行い、内面を写真撮影し、再び基準ラインを設定して実測作業を行った。石積みを取り除く際には一部で重機を用いた。

地区北側の南側は土地改良の際に盛土による造成が行われていた。そのため、東西に横断する形で（２号墓前から14号墓前まで）重機によりトレンチを設け、埋められた墓の確認を行った。同様に地区西側と南側でも重機による確認を行った。

当初は11月中旬に現地調査を完了する予定であったが、遺構の保存状態が当初の予想以上に良好で出土遺物が多量であったこと、台風襲来等による天候不良のために作業に時間を要し、期間を延長せざるを得なくなった。そのため、農地水利課、文化課、埋文センターの三者による協議を行い、11月末まで調査期間を延長することとなった。

地区南側には未移転の墓が３基あり、町土地改良課に移転の調整を依頼し、11月11日に墓の管理者及び埋文センター職員、町土地改良課職員の立ち会いのもと移転を行った。移転先は祖納集落北側の浦野墓地である。移転後はすぐに検出及び実測作業に入った。

地区南側の調査後、現地での最終確認、遺物の梱包・搬出後に調査機材等の撤収作業を行い、11月29日に現地におけるすべての作業を完了した。また、平成15年１月29日に現地の事業完了確認等を行った。

資料整理は平成14年度から現地調査と並行して埋文センターにおいて行い、平成15年度に報告書を刊行して全事業に係る作業を終了した。



## 第２章　位置と環境

### 第１節　自然的環境

嘉田地区古墓群が所在する与那国島は日本最西端の地として知られ、年に数回、台湾を遙か洋上に望むことができる。島は東西に長い六角形で、面積は28.88㎢である。地形的には山がちであり島の分類では高島に属し、標高231.2mの宇良部岳を最高峰として100～200m級の山が連なっている。

古墓群の所在する一帯は祖納集落の西側、島の中央北側である。現時点では土地改良がほぼ完了しており旧地形をうかがうことはできないが、標高が40～60m前後の台地で、北から南へ緩やかに下る地形である。土地改良以前は木の生い茂る地域であった。西側には大きな谷が形成され川が流れており、北側は急峻な崖である。島仲村への行き来はこの谷間を利用し、トゥグル浜を港としていたとのことである。

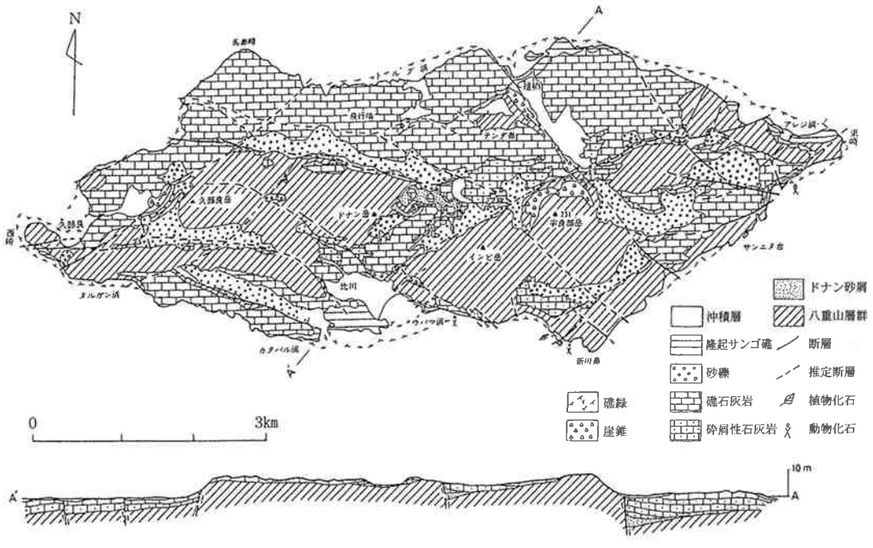
島の地質は砂岩などからなる八重山層群を基盤層として、その上位に石灰岩からなる琉球層群が覆っており、北側の崖面でその状況を確認できる。本古墓群一帯の地質は石灰岩で、地区北側に露頭がある（第１図）。

### 第２節　歴史的環境

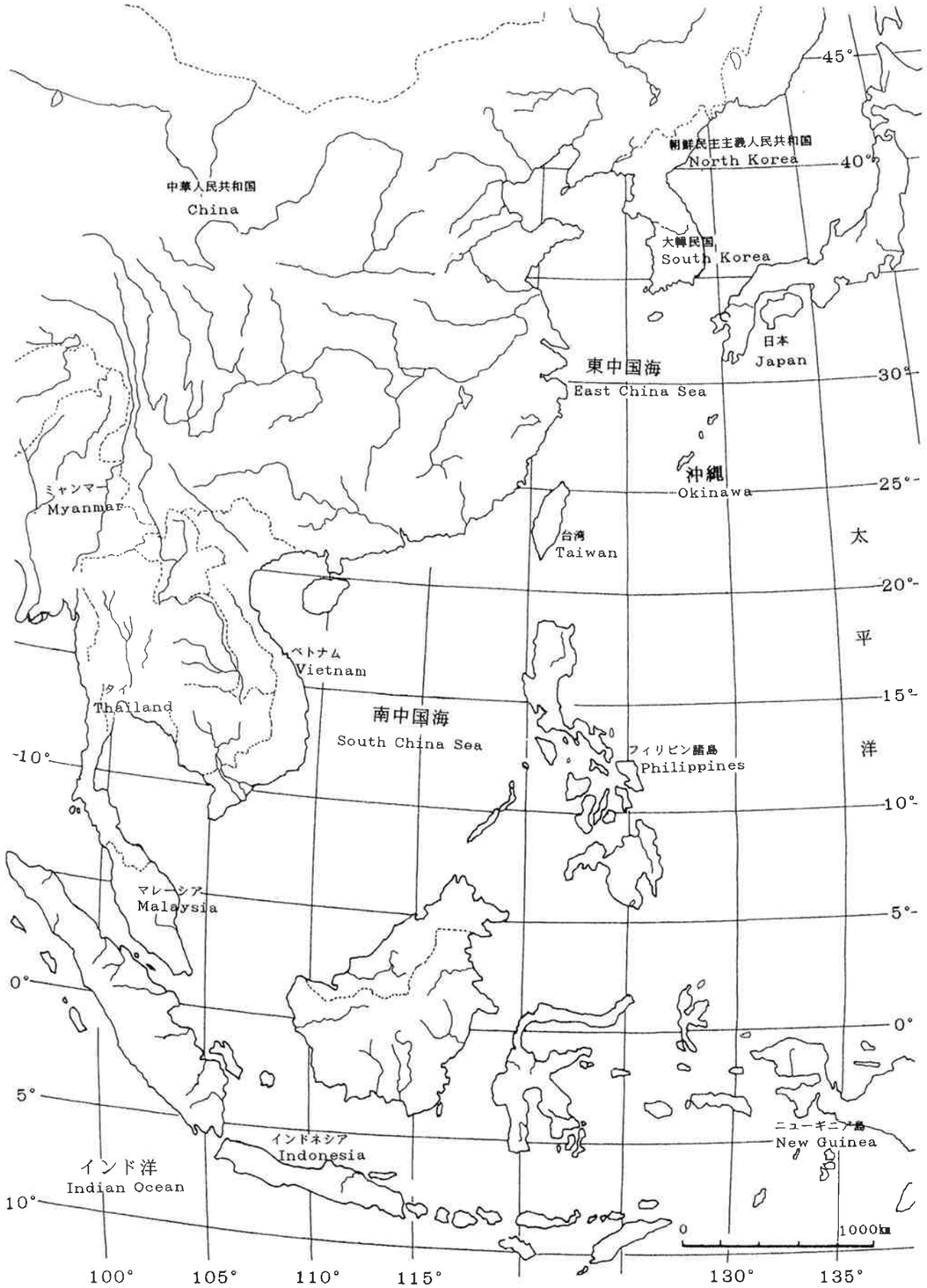
嘉田地区古墓群の歴史的環境は明らかでないが、サンアイイソバの墓がある（与那国町2003）とも、またはその一族の墓がある（宮良2000）とも伝えられている地域である。

本古墓群周辺には、東側に近世の村跡である島仲村跡遺跡が県道を隔てて所在する。島仲村は本古墓群の葬られた人々が暮らしていたと考えられ、イソバの生まれた村として知られている。村は与那国島の中でも古い時期から存在しており現在でも祭祀の中心地である。村はしだいに海岸付近への移転がすすみ、昭和の初め頃には廃村となった（宮良2000）。平成11年度～平成13年度に与那国町教委による分布調査が行われ、広い遺跡の範囲の中に遺物が集中する地点を確認し、遺跡南側では溝状遺構を確認した。また、墓４基を確認している（与那国町教委2002）。

北側にはトゥグル浜遺跡、西側にはトゥグル遺跡、サンバル村跡遺跡が所在する。トゥグル浜遺跡は沖縄県教委により昭和58年度に発掘調査が行われ、石斧を主体とした遺物が出土している。石器は東南アジアとの関わりが指摘され、有孔サメ歯製品は先島で初の確認であった（沖縄県教委1985）。また、サンバル村跡遺跡は平成11年度に行われた分布調査の際に拝所が２ヶ所確認された（沖縄県教委2000）。

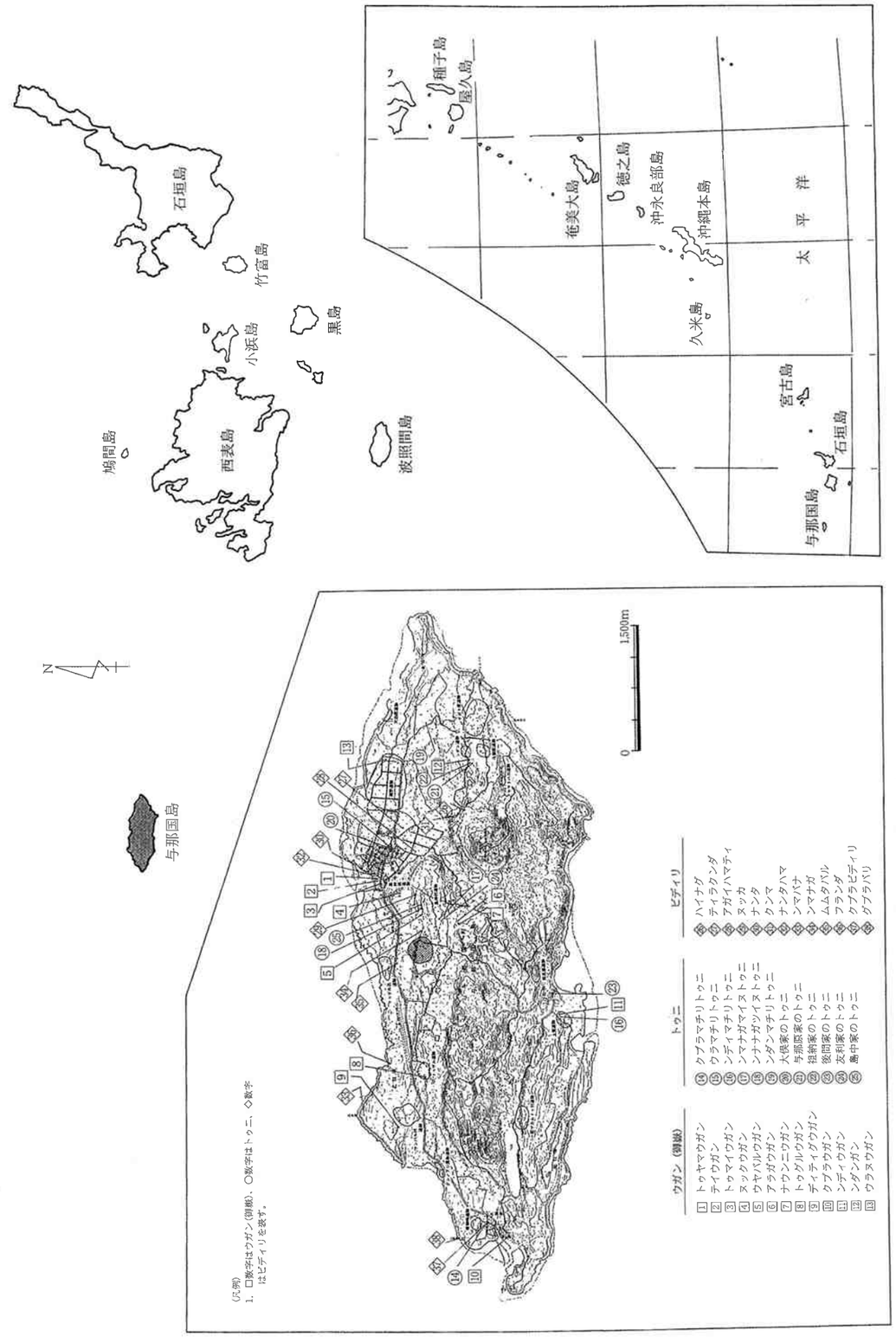



第１図　与那国の地質図（坂井1985）




第２図　沖縄本島の位置






第３図　与那国島の位置・島内の遺跡およびウガン（知念1989）

# 第３章　遺構

## 第１節　遺構の概要

番号は調査を開始した地区北側の東端から算用数字で番号を付し、33基の墓を確認した。約４分の１は破壊により形態が確認できないものの、残りの墓は保存状態が良好である。下記の４類５種に分類した。

Ⅰ：石積石室墓。石灰岩礫を積み上げたタイプ。
　ａ：上面観が方形をなすタイプ。
　ｂ：上面観が馬蹄形をなすタイプ。
　ｃ：地山を掘り下げて礫を積み、再度、埋め戻したタイプ。
Ⅱ：半地下式石棺墓。地山を掘り下げ石室をつくるタイプ。
　ａ：墓室は地中で天井石が地表に露出するタイプ。
　ｂ：墓室が一部地表に露出する半地下式のタイプ。
Ⅲ：岩陰墓。岩陰を利用して墓室を形成。
Ⅳ：破風・亀甲墓。外観が破風墓、亀甲墓に似るタイプを一括。

嘉田地区古墓群において主体をなすものはⅠ類で、半数余りがこのタイプに属し、ａ種に属するタイプが多い。ｂ種は正面を亀甲墓のように平面につくるタイプで、古い時期のものであるという（池間1959）。ただし、ａ種の積石が崩落したものを含む可能性がある。

Ⅱ類の半地下式石棺墓は墓室内に木棺を納めた墓で、洗骨前（一次葬）のための仮墓的なものと思われる。ｂ種としたものには外観は積石墓（Ⅰ-ｂ）と同様であるが、一次葬の人骨を伴うこと、岩盤を掘り窪め半地下式にしていることなど、特徴的なものであることからこれに加えた。

Ⅲ・Ⅳ類は少ない。Ⅲ類のうち保存状態の良好なものは１面に土留め石積みをもつという共通点がある。また、Ⅳ類は破風墓、亀甲墓といった定型的なものを一括し、さらに墓室は岩陰を利用したものでも外観を破風墓にしたタイプはこれに含めた。

細分が不明確なものは残存状況から類推して分類した。墓の部位名称は渡辺（1994）に拠った。

## 第２節　各墓の状況

上述のとおり、33基の墓を確認した。１～23号墓が地区北側、24～27号墓が地区西側、28～33号墓が地区南側である。各墓の状況は第１表のとおりである。

第１表ａ　各墓の概要

| 図・図版番号 | | 墓番号 | 分類 | 概　　要 | 主な遺物 | | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図番号 | 図版番号 | | | | 種類 | 備考 | |
| ― | ― | 1号墓 | 不明 | 調査前に行われた移転で多量の遺物が得られている。２号墓の東側にあったようだが、周辺で検出作業を行ったものの位置を確認することはできなかった。 | 白磁、染付、本土産陶磁器、沖縄産陶器、玉、ガラス瓶など | | 近世？ |
| 第5図 | 図版1－1、2 | 2号墓 | Ⅰ類ａ種 | 一辺が約２m四方でほぼ正方形をなす。頂の天井石は大きな板状砂岩を用いている。墓口は板状砂岩で閉じている。墓室内には四肢骨の細片や指骨などの小型の骨が散乱し、土が堆積していた。墓室床には板状砂岩を敷く。遺物は人骨が多く、陶磁器などは少ない。墓口脇に水溜用と思われる小型壺があった。 | 染付、本土産陶磁器、色絵、沖縄産陶器、玉など | １号墓と接合できる陶磁器片あり。 | 近世 |
| ― | ― | 3号墓 | Ⅰ類？ | 造成の埋土中から確認した。板状砂岩が残っていることからⅠ類に含められると思われる。墓室内に納骨器が残っていた。 | 沖縄産陶器、瓦 | | 近世 |
| ― | ― | 4号墓 | Ⅲ類 | 造成の際に大きく削り取られており墓室奥がわずかに残っていた。遺物は人骨のみ。 | なし | | 近世？ |
| ― | 図版2－1 | 5号墓 | Ⅳ類 | 基盤の石灰岩を掘り込み墓室を形成するが非常に狭い。頂の部分が丸みを帯び、一部にひさしと思われる切石を配しており、外観は亀甲墓に似る。構築中に沖縄戦となり防空壕に転用したとのこと。墓室内に遺物はなく、庭からわずかに陶磁器片が得られた。 | 本土産磁器、沖縄産陶器 | | 近代 |



第１表ｂ　各墓の概要

| 図・図版番号 | | 墓番号 | 分類 | 概　　要 | 主な遺物 | | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図番号 | 図版番号 | | | | 種類 | 備考 | |
| ― | ― | 6号墓 | 不明 | 遺物と石灰岩礫が混在した状態であったため、造成時に破壊したと思われる。遺物は陶磁器、人骨が多量に出土した。 | 白磁、染付、瑠璃釉、沖縄産陶器 | | 近世？ |
| 第6図 | ― | 7号墓 | Ⅲ類 | 石灰岩の岩陰を利用し、西面に土留めの石積みを設けている。入口部分は破壊を受けており、板石で閉じていたようである。墓室は流れ込みの土で埋もれていたが、墓室東側に焼骨、中央に陶磁器など、西側に転用納骨器と人骨が集中して出土した。遺物は陶磁器がもっとも多く、いずれも近世に属するものである。 | 白磁、染付、瑠璃釉、色絵、褐釉陶器、本土産磁器、沖縄産陶器、土器、貝製品、銭貨 | １号墓と接合できる陶磁器片あり。 | 近世 |
| 第7図 | 図版2－2<br>図版3－1 | 8号墓 | Ⅰ類ａ種 | １辺が約1.5m四方のほぼ正方形をなしている。天井石に俵台の石灰岩を用い、上位をジャリで覆っている。墓室床には板状砂岩を敷いている。西側に９号墓が併設されている。また、８・９号墓前には薄く白色砂を敷く。遺物は墓口側に集中する。遺物は沖縄産陶器など少ないが、クロム青磁を伴っているため近代の構築と考えられる。 | 本土産磁器、沖縄産陶器 | | 近代？ |
| 第7図 | 図版2－2 | 9号墓 | Ⅰ類ａ種 | 長軸は１m弱と非常に小型。墓室床に板状の石灰岩を敷く。遺物は印判染付など近代に属するもののみで、極めて少ない。 | 本土産磁器 | | 近代？ |
| 第8図 | 図版3－2<br>図版4－1 | 10号墓 | Ⅳ類 | サンアイイソバに関係する墓とされ、調査前に移転済み。墓室は岩陰を利用する。面は板状砂岩を用いる。天井石(頂)は大きなビーチロックを用い、外観は破風墓に似る。周辺に石灰岩を積んで塀としており、西側は土手状に盛土する。墓口前に白色砂を敷く。墓室は棚は設けず、流れ込んだ土砂で埋もれ、墓室西側に陶磁器などが集中する。碗や小杯を伏せた状態で複数重ねられた状態のものがあった。陶磁器は肥前系染付や福建・広東系染付など近世に属するものである。 | 白磁、染付、瑠璃釉、褐釉磁器、本土産磁器、沖縄産陶器、土器、骨製品 | 庭に散乱するタイ産褐釉などはこの墓に属すると思われる。 | 近世 |
| 第9図 | 図版4－2 | 11号墓 | 不明 | 造成もしくは移転時に大破、墓室奥のみが残る。墓室床に陶片を敷く。床面に板状石を敷く例が複数確認されているが、陶片を敷いたものは本墓のみである。また、墓室奥に納骨器が１基残っていた。遺物は人骨が墓室奥の部分に集中し、これらは本来の位置を保っているように思われる。陶磁器などは墓室前部に集中するが、乱雑な状態であるため攪乱土坑への廃棄かと思われる。 | 白磁、染付、瑠璃釉、色絵、褐釉陶器、中国産陶器、本土産磁器、沖縄産陶器、ガラス瓶 | | 近世 |
| ― | ― | 12号墓 | 不明 | 埋土中に陶磁器片などが乱雑に混ざっており、移転時に廃棄したものをまとめたと考えられる。 | 中国産陶器、本土産磁器、沖縄産陶器 | | 近代？ |
| ― | ― | 13号墓 | Ⅲ類 | 掘削によりほとんどが削り取られ、墓室奥の岩陰に人骨などが残るのみ。人骨の下位には陶片があり、本来、人骨は納骨器に納められていたと考えられる。人骨以外の遺物は少なく、青磁染付碗と白磁小杯が伏せた状態で重ていた。 | 青磁染付、白磁、沖縄産陶器 | | 近世 |
| 第10図 | 図版5－1 | 14号墓 | Ⅲ類 | 石灰岩の岩陰を利用し、７号墓と同様に西側に土留めの石積みを設ける。墓室内には遺物はほとんどなく、人骨がわずかと、白磁小杯と印判染付皿を伏せて重ねていた。 | 瑠璃釉、本土産磁器、沖縄産陶器、瓦、ガラス瓶 | | 近代 |
| ― | ― | 15号墓 | 不明 | 遺物と石材が混在しており、移転時に破壊されたか移転時に廃棄した場所と考えられる。遺物は人骨と陶磁器が比較的多く出土し、陶磁器は沖縄産陶器碗が複数重ねられた状態で出土した。また、人骨は納骨器に納められた状態で出土した。 | 瑠璃釉、沖縄産陶器 | | 近世 |
| 第12図 | 図版5－2<br>図版6－1、2 | 16号墓 | Ⅰ類ｃ種 | 大型の積石墓である。地山を掘り込んで板状砂岩で墓室をつくり、床面にも板状砂岩を敷く。墓室は人頭大から拳大の石灰岩礫で覆い、それをさらに土で埋め戻す。遺物は少なく、墓口側の覆土から青磁などがわずかに出土した。墓室内には人骨細片が散乱し、わずかにガラス製小玉などが出土した。近代に属する遺物を含まないことから近世に構築されたと考えられる。 | 青磁、染付、褐釉陶器、本土産磁器、沖縄産陶器、土器、玉、貝類 | 周辺に散乱する土器壺などはこの墓に属すると思われる。 | 近世 |

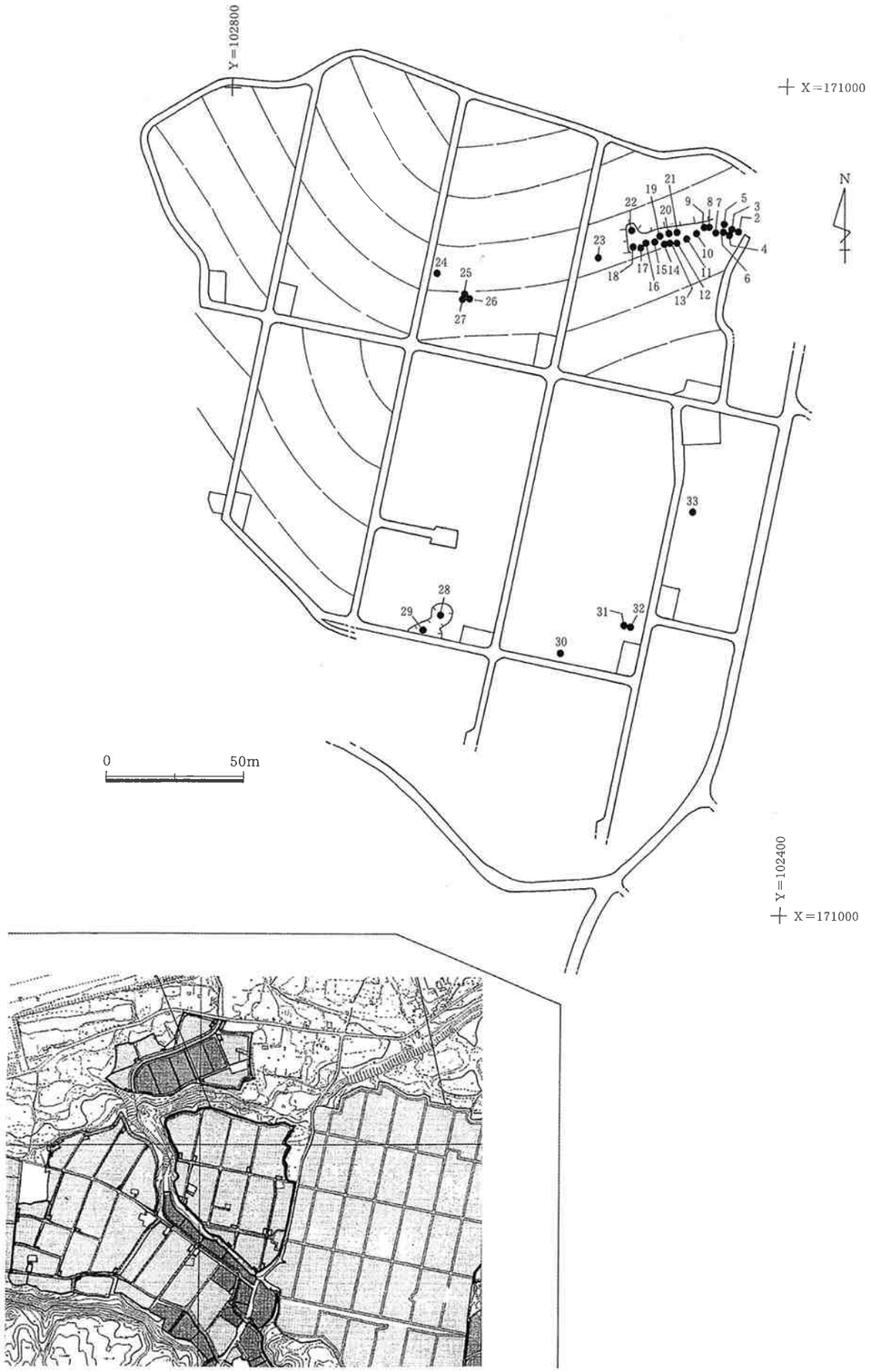
## 第１表c　各墓の概要

| 図・図版番号 | | 墓番号 | 分類 | 概　　要 | 主な遺物 | | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図番号 | 図版番号 | | | | 種類 | 備考 | |
| － | － | 17号墓 | 不明 | 遺物と石材が混在し、造成の際に破壊されたか移転時の遺物をまとめたと思われる。 | 本土産磁器、沖縄産陶器 | | 近代 |
| 第11図 | 図版7－1 | 18号墓 | Ⅰ類？ | 大きな石灰岩に接地し、破壊のため墓室床と石積み根石のみ残る。おそらくⅠ類のいずれかに含まれるものと考えられる。墓室床には板状砂岩を敷き、残存状況からみると墓室は小規模と思われる。また、墓室床から庭にかけて白色砂を敷く。遺物は近現代の遺物を含むため、近年まで用いたと考えられる。 | 本土産磁器、沖縄産陶器、瓦、ガラス瓶 | | 近現代？ |
| 第13図 | 図版7－2 | 19号墓 | Ⅱ類 a種？ | 造成時に掘削され半壊。残存状況からこれに含めてよいと思われる。石室の壁と天井石がわずかに残っている。遺物は白磁小杯、ビール瓶が出土したのみ。 | 白磁、ガラス瓶 | | 近代 |
| 第14図 | 図版8－1、2<br>図版9－1 | 20号墓 | Ⅱ類 b種 | 墓室の３分の１は地表に露出する。墓室の壁は人頭大から拳大の石灰岩を用い、石材に加工はみられない。墓室はルーズな方形である。天井石には俵大の大きな石灰岩を用いる。埋葬人骨は１体で、頭位は北、膝を折った屈葬であった。人骨周囲からは鉄釘が多く出土したことから、木棺に納められていたと考えられる。民俗事例では木棺に膝を折った状態で納めることから、今回も同様の埋葬方法と思われる。釘以外の遺物は少なく、印判染付やビール瓶など新しい時期の遺物が出土する。 | 本土産磁器、ガラス瓶 | | 近代 |
| 第16図 | 図版９－2<br>図版10－1、2 | 21号墓 | Ⅱ類 a種 | 墓室の壁には拳大の石灰岩を用い、石材に加工はみられない。墓室は角がしっかりとした方形である。天井石には俵大の石灰岩を用いる。埋葬人骨は１体で、頭位は北、屈葬である。同じく人骨周辺からは鉄釘が多く出土し、わずかに木片を伴う。釘以外の遺物は少なく、ガラス瓶や不明の金属製品などが伴う。 | ガラス瓶、金属製品 | | 近代 |
| 第15図 | 図版11－1、2<br>図版12－1 | 22号墓 | Ⅱ類 b種 | 墓室の３分の２は露出しており、上面観は馬蹄形をなす。墓室の壁は拳大の石灰岩を用い、天井石には俵大の石灰岩を用いる。床面は岩盤を削って平坦する。また、人骨覆土は粗い白色砂がわずかに混ざる。埋葬人骨は１体で、頭位は西、屈葬である。人骨周辺からは鉄釘が多く出土し、その他にガラス瓶、敲石、櫛などが伴う。ただし、敲石は墓室覆土からの出土で、本来は伴わない可能性がある。 | 本土産磁器、ガラス瓶、金属製品、石器、キセル入など | | 近代 |
| 第17図 | － | 23号墓 | Ⅰ類 a種？ | 墓室床と石積み根石のみが残り、残存状況から考えてⅠ類ａ種に含めてよいと思われる。全体的に大きな石灰岩を用いる。遺物は極めて少なく、陶磁器がわずかに出土した。 | 白磁、本土産磁器、沖縄産陶器 | | 近世？ |
| 第18図 | 図版12－2 | 24号墓 | Ⅰ類 b種 | 周辺は埋められており本来の形状は不明であるがこれに含めてよいものと思われる。ただし、後側の部分は地山を切って利用し、ｃ種に近い。墓室石積みには加工した石灰岩を用い、天井石には大きな板状ビーチロックを用いる。また、墓室床には板状ビーチロックを敷き、上位にはサンゴジャリを敷く。遺物は少なく、陶磁器などがわずかに得られた。石積み内からの出土が多い。 | 白磁、染付、褐釉陶器、本土産磁器、沖縄産陶器、瓦、貝 | 周辺に散乱する陶磁器はこの墓に属すると思われる。 | 近世 |
| 第19図 | 図版13－1 | 25号墓 | Ⅰ類 c種？ | 造成の際に半壊。墓室が地下式であることからⅡ類にもみえるが、墓室が極めて小さいことから小型の積石墓（Ⅰ類ｃ種）と考えるのが適当であろう。また、床面には板状ビーチロックを敷く。遺物は陶磁器などが比較的多く得られた。 | 白磁、染付、瑠璃釉、色絵、本土産磁器、沖縄産陶器、瓦 | | 近世 |
| － | － | 26号墓 | 不明 | 25号墓が破壊された際に同時に破壊か。遺物と石材が混在する。人骨、陶磁器が比較的多く出土した。 | 白磁、瑠璃釉、沖縄産陶器 | | 近世 |



## 第１表d　各墓の概要

| 図・図版番号 | | 墓番号 | 分類 | 概　　要 | 主な遺物 | | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図番号 | 図版番号 | | | | 種類 | 備考 | |
| 第19図 | 図版13－1、2<br>図版14－1、2 | 27号墓 | Ⅰ類 c種 | Ⅰ類ｃ種に分類したが、16号墓とは異なり頂に覆土はない（ただし、天井石は取り除かれ、覆土があったことも考えられる）。地山を掘り込んで墓室をつくり周囲を埋め戻す点で共通するためこれに分類した。墓室は人頭大の石灰岩を用い、周辺にみられる板状ビーチロックや砂岩を天井石にしたと考えられる。墓室床に板状砂岩を敷く。墓室内には人骨が納められた状態の土器壺など11基を確認した。また、墓室縁には陶磁器などが重ねられた状態で出土した。 | 白磁、染付、褐釉磁器、本土産染付、沖縄産陶器、貝 | 陶磁器の構成は10号墓とほぼ同一。 | 近代 |
| 第20図 | 図版15－1 | 28号墓 | Ⅰ類？ | 小型の墓室を拳大の石灰岩で覆う。遺物は人骨は少なく、陶磁器などがわずかに伴っていた。 | 沖縄産陶器 | | 近代？ |
| － | － | 29号墓 | 不明 | 人頭大の石灰岩を集積した部分に陶磁器などが混在する。造成の際に破壊されたものと思われる。遺物の量は少なく、やや陶磁器が多い程度である。 | 本土産磁器、沖縄産陶器 | | 近代？ |
| 第21図 | 図版15－2<br>図版16－1、2 | 30号墓 | Ⅰ類 b種 | 正面を直線的につくり、入口は比較的大きい。また、眉にも大きな石灰岩を用いる。積石は拳大から人頭大の石灰岩で、天井石には俵大の石灰岩を用いる。墓室床面には板状砂岩及び石灰岩を用い、墓室の後半に敷くことから棚を意識したと考えられる（墓室内に残っていた納骨器は敷石上に乗る）。墓室内には入口側に陶磁器が散乱していた。盗掘の影響か。積石内にもわずかに遺物が伴い、瓦片が数点伴う。 | 白磁、染付、本土産磁器、沖縄産陶器、瓦、玉、ガラス瓶、貝 | 墓前の沖縄産陶器などは盗掘品を戻したものであるとのこと。 | 近代 |
| － | － | 31号墓 | Ⅰ類 | Ⅰ類に属するが周辺の礫が集積されており、本来の形状は不明。墓室も極めて小さく、人骨がわずかに伴う。また、積石には陶磁器片がわずかに伴う。 | 白磁、本土産磁器、沖縄産陶器、瓦 | | 近代 |
| － | － | 32号墓 | 不明 | 石材に遺物が混在しており、造成の際に破壊されたと思われる。 | 染付、色絵、本土産磁器、沖縄産陶器 | 器種で2点１対になるものが複数ある。 | 近代 |
| － | － | 33号墓 | Ⅰ類？ | 移転の際に大破しており本来の形状を伺うことができない。周辺も削平したとのことである。板状砂岩を敷いた墓室床がわずかに残り、積石墓と思われる。遺物は周辺に陶磁器片が散乱していた。 | 染付、本土産染付、沖縄産陶器 | | 近世？ |




第４図　墓の分布状況・嘉田地区周辺

## 第２表　１号墓遺物出土状況

| 種類＼器種 | 碗 | 小碗 | 皿 | 杯 | 小杯 | 蕎麦猪口 | 瓶 | 油壺 | 壺 | 花生 | 火取 | 酒器 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 白磁 | | | 1 | 2 | 3 | | | | | | | | 6 |
| 染付 | 4 | 2 | | | 1 | | | | 1 | | | | 8 |
| 褐釉磁器 | | | | 1 | 1 | | | | | | | | 2 |
| 瑠璃釉 | | | | | 3 | | | | | | | | 3 |
| 中国産陶器 | | | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| 色絵 | 1 | | 2 | | | | | | | | | | 3 |
| 本土産白磁 | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 本土産染付 | 1 | | 3 | | | 1 | 9 | 2 | | | | | 16 |
| 本土産陶器 | 1 | | | | | | | | | | | | 1 |
| 本土産近代磁器 | 2 | | | | | | | | | | | | 2 |
| 沖縄産施釉陶器 | 11 | | 1 | | 1 | | 14 | 7 | | | | 3 | 37 |
| 沖縄産無釉陶器 | | | 1 | | | | | 1 | 2 | 1 | | | 5 |
| 土器 | | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| 簪 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 3 |
| 煙管 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 4 |
| 金属製品 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 2 |
| 玉 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 6 |
| ガラス瓶 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 |
| 合計 | 20 | 2 | 9 | 3 | 9 | 1 | 24 | 10 | 3 | 1 | 1 | 3 | 102 |

2、7号墓と接合遺物あり、4点。

## 第６表　６号墓遺物出土状況

| 種類＼器種 | 碗 | 杯 | 小杯 | 瓶 | 油壺 | 壺 | 酒器 | 器種不明 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 白磁 | | 3 | 2 | | | | | | 5 |
| 染付 | | | | | | | | 1 | 1 |
| 瑠璃釉 | | | 1 | | | | | | 1 |
| 中国産褐釉陶器 | | | | | | | | 1 | 1 |
| 本土産染付 | | | | 1 | | | | | 1 |
| 本土産白磁 | | | | 1 | | | | | 1 |
| 本土産色絵 | | | | | 1 | | | | 1 |
| 沖縄産施釉陶器 | 16 | | | 4 | 3 | | 1 | | 24 |
| 沖縄産無釉陶器 | | | | | 1 | 6 | | 7 | 14 |
| 簪 | - | - | - | - | - | - | - | - | 2 |
| 煙管 | - | - | - | - | - | - | - | - | 3 |
| 合計 | 16 | 3 | 3 | 6 | 5 | 6 | 1 | 9 | 54 |

## 第７表　７号墓遺物出土状況

| 種類＼器種 | 碗 | 小碗 | 杯 | 小杯 | 瓶 | 油壺 | 壺 | 急須 | 蓋 | 蓮華 | 器種不明 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 青磁 | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| 白磁 | | | 1 | 9 | | | | | | 1 | | 11 |
| 染付 | 5 | | | 2 | | | | | | | | 7 |
| 瑠璃釉 | | | | 3 | | | | | | | | 3 |
| 中国産陶器 | | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| 色絵 | | | | 1 | | | | | | | | 1 |
| 中国産褐釉陶器 | | | | | | | | | | | 6 | 6 |
| 本土産染付 | 1 | | | | 2 | 1 | | | | | | 4 |
| 本土産陶器 | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| 本土産近代磁器 | | 2 | | | | | | | | | | 2 |
| 沖縄産施釉陶器 | 1 | | | | 4 | | | 1 | | | | 6 |
| 沖縄産無釉陶器 | | | | | 2 | | 11 | | 1 | | 10 | 24 |
| 土器 | | | | | | | 4 | | | | | 4 |
| 類須恵器 | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| 石製品 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 |
| 貝製品 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 |
| 簪 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 4 |
| 煙管 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 7 |
| 銭貨 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 3 |
| 金属製品 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 2 |
| 巻貝 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 |
| 合計 | 9 | 2 | 1 | 15 | 8 | 1 | 16 | 2 | 1 | 1 | 16 | 91 |

1号墓と接合遺物あり、2点。

## 第３表　２号墓遺物出土状況

| 種類＼器種 | 碗 | 小杯 | 壺 | 器種不明 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 瑠璃釉 | | 2 | | | 2 |
| 本土産陶器 | | | | 1 | 1 |
| 沖縄産施釉陶器 | 5 | | | | 5 |
| 沖縄産無釉陶器 | | | 3 | 2 | 5 |
| 簪 | - | - | - | - | 2 |
| 煙管 | - | - | - | - | 7 |
| 巻貝 | - | - | - | - | 4 |
| 合計 | 5 | 2 | 3 | 3 | 26 |

1号墓と接合遺物あり、2点。

## 第４表　３号墓遺物出土状況

| 種類＼器種 | 碗 | 小杯 | 瓶 | 壺 | 器種不明 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 本土産近代磁器 | | 1 | | | | 1 |
| 沖縄産施釉陶器 | 3 | | 1 | | | 4 |
| 沖縄産無釉陶器 | | | | 5 | 5 | 10 |
| 瓦 | - | - | - | - | - | 1 |
| 簪 | - | - | - | - | - | 1 |
| 煙管 | - | - | - | - | - | 1 |
| 合計 | 3 | 1 | 1 | 5 | 5 | 18 |

## 第５表　５号墓遺物出土一覧

| 種類 | 器種 | 出土数 |
|---|---|---|
| 本土産青磁 | 瓶 | 1 |
| 沖縄産施釉陶器 | 碗 | 2 |

## 第８表　８号墓遺物出土状況

| 種類＼器種 | 碗 | 小杯 | 皿 | 油壺 | 急須 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 染付 | 2 | | | | | 2 |
| 本土産近代磁器 | 2 | 1 | 1 | | | 4 |
| 沖縄産施釉陶器 | 3 | | 1 | 2 | 3 | 9 |
| 合計 | 7 | 1 | 2 | 2 | 3 | 15 |

## 第９表　９号墓遺物出土一覧

| 種類 | 器種 | 出土数 |
|---|---|---|
| 本土産近代磁器 | 碗 | 2 |
| 〃 | 皿 | 1 |
| 〃 | 小杯 | 1 |
| 沖縄産施釉陶器 | 瓶 | 1 |

第10表　10号墓遺物出土状況

| 種類＼器種 | 碗 | 小碗 | 杯 | 小杯 | 壽麦猪口 | 皿 | 瓶 | 壺 | 花生 | 火取 | 香炉 | 器種不明 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 白磁 | | | 4 | 9 | | | | | | | 1 | | 14 |
| 染付 | 5 | 1 | | 5 | | 2 | | | | | | | 13 |
| 褐釉磁器 | | | 4 | | | | | | | | | | 4 |
| 瑠璃釉 | | | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| 色絵 | | | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| タイ産褐釉陶器 | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| 本土産染付 | 4 | | | 1 | 1 | 1 | 4 | | | | | | 11 |
| 本土産色絵 | | | | | | | 2 | | | | | | 2 |
| 沖縄産施釉陶器 | 1 | | | | | | 3 | | | | | | 4 |
| 沖縄産無釉陶器 | | | | | | | 4 | 4 | 1 | 1 | | 10 | 20 |
| 土器 | | | | | | | | 7 | | | | | 7 |
| 骨製品 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 |
| 簪 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 2 |
| 煙管 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 12 |
| 金属製品 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 2 |
| 巻貝 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 2 |
| 合計 | 10 | 1 | 8 | 17 | 1 | 3 | 13 | 12 | 1 | 1 | 1 | 10 | 97 |

第11表　11号墓遺物出土状況

| 種類＼器種 | 厨子 | 碗 | 小碗 | 杯 | 小杯 | 皿 | 瓶 | 油壺 | 壺 | 甕 | 急須 | 火取 | 酒器 | 器種不明 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| マンガン | 16 | | | | | | | | | | | | | | 16 |
| 白磁 | | | | 1 | 8 | 3 | | | | | | | | | 12 |
| 染付 | | 5 | 1 | | 1 | | | | | | | | | 2 | 9 |
| 瑠璃釉 | | | | | 2 | | | | | | | | | | 2 |
| 色絵 | | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 中国産褐釉陶器 | | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| 本土産染付 | | | | | | | 1 | | | | | | | | 1 |
| 本土産近代磁器 | | 4 | 3 | | | 1 | | | | | | | | | 8 |
| 沖縄産施釉陶器 | | 30 | 1 | | | 1 | 16 | 3 | | | 3 | | 5 | 5 | 64 |
| 沖縄産無釉陶器 | | | | | | 1 | 3 | 1 | 35 | 1 | | 2 | | 50 | 93 |
| 貝製品 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 |
| 簪 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 21 |
| ガラス瓶 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 |
| 貝類 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 |
| 合計 | 16 | 40 | 5 | 1 | 11 | 6 | 20 | 4 | 35 | 1 | 3 | 2 | 5 | 59 | 232 |

第12表　12号墓遺物出土状況

| 種類＼器種 | 厨子 | 碗 | 小碗 | 小杯 | 瓶 | 壺 | 油甕 | 急須 | 器種不明 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| マンガン | 4 | | | | | | | | | 4 |
| 中国産陶器 | | | | | | | | | 1 | 1 |
| 本土産近代磁器 | | | 2 | 1 | | | | | | 3 |
| 沖縄産施釉陶器 | | 3 | | | 1 | | 2 | 1 | | 7 |
| 沖縄産無釉陶器 | | | | | | 4 | | | 10 | 14 |
| 合計 | 4 | 3 | 2 | 1 | 1 | 4 | 2 | 1 | 11 | 29 |

第16表　16号墓遺物出土状況

| 種類＼器種 | 碗 | 小杯 | 皿 | 瓶 | 油壺 | 壺 | 急須 | 火取 | 器種不明 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 青磁 | 1 | | | | | | | | | 1 |
| 染付 | 1 | 1 | | | | | | | 2 | 4 |
| 中国産褐釉陶器 | | | | | | 1 | | | 1 | 2 |
| 本土産染付 | 4 | | | | 1 | | | | | 5 |
| 本土産陶器 | | | 1 | | | | | | | 1 |
| 本土産近代磁器 | | | | | | | 1 | | | 1 |
| 沖縄産施釉陶器 | 3 | | | 1 | | | 1 | | 1 | 6 |
| 沖縄産無釉陶器 | | | | | | 13 | | | 26 | 39 |
| 土器 | | | | | | 10 | | 1 | | 11 |
| 釘 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 2 |
| 煙管 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 8 |
| 金属製品 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 |
| 玉 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 4 |
| 二枚貝 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 |
| 合計 | 9 | 1 | 1 | 1 | 1 | 24 | 2 | 1 | 30 | 86 |

第15表　15号墓遺物出土状況

| 種類＼器種 | 碗 | 小杯 | 皿 | 瓶 | 壺 | 器種不明 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 瑠璃釉 | | 2 | | | | | 2 |
| 色絵 | | 1 | | | | | 1 |
| 沖縄産施釉陶器 | 8 | | 1 | 3 | | | 12 |
| 沖縄産無釉陶器 | | | | | 5 | 5 | 10 |
| 簪 | - | - | - | - | - | - | 2 |
| 煙管 | - | - | - | - | - | - | 5 |
| 合計 | 8 | 3 | 1 | 3 | 5 | 5 | 32 |

第13表　13号墓遺物出土一覧

| 種類 | 器種 | 出土数 |
|---|---|---|
| 沖縄産施釉陶器 | 碗 | 2 |
| 沖縄産無釉陶器 | 壺 | 2 |
| 簪 | ― | 3 |

第14表　14号墓遺物出土状況

| 種類＼器種 | 厨子 | 碗 | 小杯 | 皿 | 瓶 | 壺 | 器種不明 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| マンガン | 2 | | | | | | | 2 |
| 瑠璃釉 | | | 1 | | | | | 1 |
| 本土産近代磁器 | | | | 1 | | | | 1 |
| 沖縄産施釉陶器 | | 1 | | | | | | 1 |
| 沖縄産無釉陶器 | | | | | 1 | 1 | 13 | 15 |
| 瓦 | - | - | - | - | - | - | - | 1 |
| 煙管 | - | - | - | - | - | - | - | 1 |
| ガラス瓶 | - | - | - | - | - | - | - | 4 |
| 合計 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 13 | 26 |

第17表　17号墓遺物出土状況

| 種類＼器種 | 碗 | 小碗 | 小杯 | 皿 | 瓶 | 壺 | 急須 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 染付 | 5 | 5 | 3 | 1 | | | 1 | 15 |
| 本土産近代磁器 | 5 | 5 | 3 | | | | 1 | 14 |
| 沖縄産施釉陶器 | 4 | 1 | | | 3 | | 2 | 10 |
| 沖縄産無釉陶器 | | | | | | 1 | | 1 |
| 煙管 | - | - | - | - | - | - | - | 1 |
| 金属製品 | - | - | - | - | - | - | - | 1 |
| 合計 | 14 | 11 | 6 | 1 | 3 | 1 | 4 | 42 |



第18表　18号墓遺物出土状況

| 種類＼器種 | 碗 | 小碗 | 小杯 | 壺 | 花生 | 燭台 | 器種不明 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 本土産近代磁器 | | 4 | 1 | | 2 | 1 | | 8 |
| 沖縄産施釉陶器 | 3 | | | | | | | 3 |
| 沖縄産無釉陶器 | | | | 4 | | | 11 | 15 |
| 土器 | | | | 3 | | | | 3 |
| 瓦 | - | - | - | - | - | - | - | 1 |
| ガラス瓶 | - | - | - | - | - | - | - | 1 |
| 合計 | 3 | 4 | 1 | 7 | 2 | 1 | 11 | 31 |

第19表　19号墓遺物出土一覧

| 種類 | 器種 | 出土数 |
|---|---|---|
| 白磁 | 小杯 | 1 |
| 沖縄産無釉陶器 | 不明 | 1 |
| ガラス瓶 | ― | 1 |

第20表　20号墓遺物出土状況

| 種類＼器種 | 碗 | 小杯 | 皿 | 瓶 | 壺 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 本土産近代磁器 | | 1 | 2 | | | 3 |
| 沖縄産施釉陶器 | 1 | | | 1 | | 2 |
| 沖縄産無釉陶器 | | | | | 1 | 1 |
| 瓦 | - | - | - | - | - | 1 |
| 釘 | - | - | - | - | - | 52 |
| 煙管 | - | - | - | - | - | 1 |
| 金属製品 | - | - | - | - | - | 12 |
| ガラス瓶 | - | - | - | - | - | 1 |
| 合計 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 73 |

第21表　21号墓遺物出土一覧

| 種　類 | 出土数 |
|---|---|
| 貝製品 | 1 |
| 釘 | 67 |
| 煙管 | 1 |
| 金属製品 | 10 |
| ガラス瓶 | 2 |

第22表　22号墓遺物出土状況

| 種類＼器種 | 碗 | 急須 | 器種不明 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| 本土産近代磁器 | 7 | | | 7 |
| 沖縄産施釉陶器 | 1 | 1 | 1 | 3 |
| 瓦 | | | 3 | 3 |
| 石器 | - | - | - | 1 |
| 石製品 | - | - | - | 1 |
| 骨製品 | - | - | - | 1 |
| 釘 | - | - | - | 112 |
| 煙管 | - | - | - | 1 |
| 金属製品 | - | - | - | 4 |
| 櫛 | - | - | - | 1 |
| ガラス瓶 | - | - | - | 1 |
| 合計 | 8 | 1 | 4 | 135 |

第23表　23号墓遺物出土状況

| 種類＼器種 | 碗 | 杯 | 皿 | 壺 | 鉢 | 花生 | 急須 | 香炉 | 器種不明 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 白磁 | | 2 | 1 | | | | | | | 3 |
| 本土産陶器 | 1 | | | | | | | | | 1 |
| 本土産近代磁器 | 2 | | | | | 2 | | 1 | | 5 |
| 沖縄産施釉陶器 | 1 | | | | | | 2 | | | 3 |
| 沖縄産無釉陶器 | | | | 5 | 1 | | | | 2 | 8 |
| 合計 | 4 | 2 | 1 | 5 | 1 | 2 | 2 | 1 | 2 | 20 |

第24表　24号墓遺物出土状況

| 種類＼器種 | 碗 | 小杯 | 皿 | 瓶 | 壺 | 擂鉢 | 火取 | 器種不明 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 白磁 | | 4 | | | | | | | 4 |
| 染付 | 1 | 2 | | | | | | | 3 |
| 中国産褐釉陶器 | | | | | | | | 5 | 5 |
| 本土産染付 | | | | 1 | | | | | 1 |
| 本土産近代磁器 | | | 1 | | | 1 | | | 2 |
| 沖縄産無釉陶器 | | | | | 4 | | | 2 | 6 |
| 土器 | | | | | | | 1 | | 1 |
| 瓦 | - | - | - | - | - | - | - | - | 7 |
| 石器 | - | - | - | - | - | - | - | - | 2 |
| 貝製品 | - | - | - | - | - | - | - | - | 2 |
| 簪 | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 |
| 煙管 | - | - | - | - | - | - | - | - | 3 |
| 銭貨 | - | - | - | - | - | - | - | - | 2 |
| 金属製品 | - | - | - | - | - | - | - | - | 2 |
| 巻貝 | - | - | - | - | - | - | - | - | 4 |
| 合計 | 1 | 6 | 1 | 1 | 4 | 1 | 1 | 7 | 45 |

第25表　25号墓遺物出土状況

| 種類＼器種 | 碗 | 小杯 | 瓶 | 壺 | 器種不明 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 白磁 | | 3 | | | | 3 |
| 染付 | 4 | | | | 1 | 5 |
| 瑠璃釉 | | 1 | | | | 1 |
| 色絵 | | 1 | | | | 1 |
| 本土産青磁 | | | 1 | | | 1 |
| 本土産色絵 | 1 | | | | | 1 |
| 本土産近代磁器 | 1 | | | | | 1 |
| 沖縄産無釉陶器 | | | | 1 | 9 | 10 |
| 土器 | | | | 4 | | 4 |
| 瓦 | - | - | - | - | - | 2 |
| 簪 | - | - | - | - | - | 1 |
| 煙管 | - | - | - | - | - | 1 |
| 合計 | 6 | 5 | 1 | 5 | 10 | 31 |

第26表　26号墓遺物出土状況

| 種類＼器種 | 碗 | 杯 | 小杯 | 皿 | 瓶 | 油壺 | 壺 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 白磁 | | 2 | | | | | | 2 |
| 瑠璃釉 | | | 3 | | | | | 3 |
| 本土産陶器 | | | | 1 | | | | 1 |
| 沖縄産施釉陶器 | 9 | | | 2 | 3 | 3 | | 17 |
| 沖縄産無釉陶器 | | | | | | | 1 | 1 |
| 簪 | - | - | - | - | - | - | - | 2 |
| 煙管 | - | - | - | - | - | - | - | 2 |
| 金属製品 | - | - | - | - | - | - | - | 2 |
| 合計 | 9 | 2 | 3 | 3 | 3 | 3 | 1 | 30 |

第27表　27号墓遺物出土状況

| 種類＼器種 | 碗 | 小碗 | 杯 | 小杯 | 皿 | 瓶 | 油壺 | 壺 | 急須 | 火取 | 蓋 | 器種不明 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 白磁 | | | 3 | 13 | | | | | | | | | 16 |
| 染付 | 16 | 4 | | 4 | 2 | | | | | | | | 26 |
| 褐釉磁器 | | | 2 | 1 | | | | | | | | | 3 |
| 本土産染付 | | | | | 3 | 9 | | | | | | | 12 |
| 本土産色絵 | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 本土産陶器 | 3 | | | | | | | | | | | | 3 |
| 沖縄産施釉陶器 | 1 | | | | | 6 | 1 | | 1 | | | | 9 |
| 沖縄産無釉陶器 | | | | | | 1 | | 13 | 1 | 1 | 1 | 17 | 34 |
| 土器 | | | | | | | | 16 | | | | | 16 |
| 貝製品 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 |
| 簪 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 3 |
| 煙管 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 9 |
| 金属製品 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 |
| 巻貝 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 2 |
| 二枚貝 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 |
| 合計 | 20 | 4 | 5 | 18 | 5 | 16 | 2 | 29 | 2 | 1 | 1 | 17 | 137 |

第28表　28号墓遺物出土状況

| 種類＼器種 | 碗 | 小碗 | 油壺 | 壺 | 急須 | 器種不明 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 沖縄産施釉陶器 | 6 | 3 | 1 | | 1 | | 11 |
| 沖縄産無釉陶器 | | | | 1 | | 1 | 2 |
| 簪 | - | - | - | - | - | - | 3 |
| 煙管 | - | - | - | - | - | - | 1 |
| 合計 | 6 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 17 |

第30表　30号墓遺物出土状況

| 種類＼器種 | 碗 | 小碗 | 小杯 | 皿 | 瓶 | 壺 | 擂鉢 | 鉢形 | 甕 | 急須 | 火取 | 器種不明 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 白磁 | | | 4 | | | | | | | | | | 4 |
| 染付 | 9 | | | | | | | | | | | | 9 |
| 瑠璃釉 | | | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| 本土産染付 | 1 | | | | | | | | | | | | 1 |
| 本土産陶器 | | | | 1 | | | | | | 2 | | | 3 |
| 本土産近代磁器 | 5 | 1 | | 1 | | | | | | | | | 7 |
| 沖縄産施釉陶器 | 3 | | | 1 | 6 | | | | | 2 | | 2 | 14 |
| 沖縄産無釉陶器 | | | | | | 10 | 1 | | 1 | | 2 | 7 | 21 |
| 土器 | | | | | | 4 | | 1 | | | | | 5 |
| 瓦 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 6 |
| 石製品 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 |
| 簪 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 6 |
| 煙管 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 9 |
| 金属製品 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 |
| 玉 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 15 |
| ガラス瓶 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 |
| 巻貝 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 35 |
| 二枚貝 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 |
| 合計 | 18 | 1 | 5 | 3 | 6 | 14 | 1 | 1 | 1 | 4 | 2 | 9 | 140 |

第32表　32号墓遺物出土状況

| 種類＼器種 | 碗 | 小碗 | 小杯 | 皿 | 小皿 | 瓶 | 急須 | 蓋物 | 香炉 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 白磁 | | | 1 | | | | | | | 1 |
| 染付 | 1 | | | | | | | | | 1 |
| 色絵 | | | 1 | 1 | 1 | | | | | 3 |
| 本土産陶器 | | | | | | | 2 | | | 2 |
| 本土産近代磁器 | | 2 | | | | | 1 | | | 3 |
| 沖縄産施釉陶器 | 3 | | 1 | 2 | | 8 | 2 | 1 | 1 | 18 |
| 簪 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 |
| 合計 | 4 | 2 | 3 | 3 | 1 | 8 | 5 | 1 | 1 | 29 |

第29表　29号墓遺物出土状況

| 種類＼器種 | 碗 | 小杯 | 皿 | 壺 | 器種不明 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 本土産近代磁器 | 1 | 1 | | | | 2 |
| 沖縄産施釉陶器 | 1 | | 1 | | | 2 |
| 沖縄産無釉陶器 | | | | 7 | 2 | 9 |
| 土器 | | | | 1 | | 1 |
| 合計 | 2 | 1 | 1 | 8 | 2 | 14 |

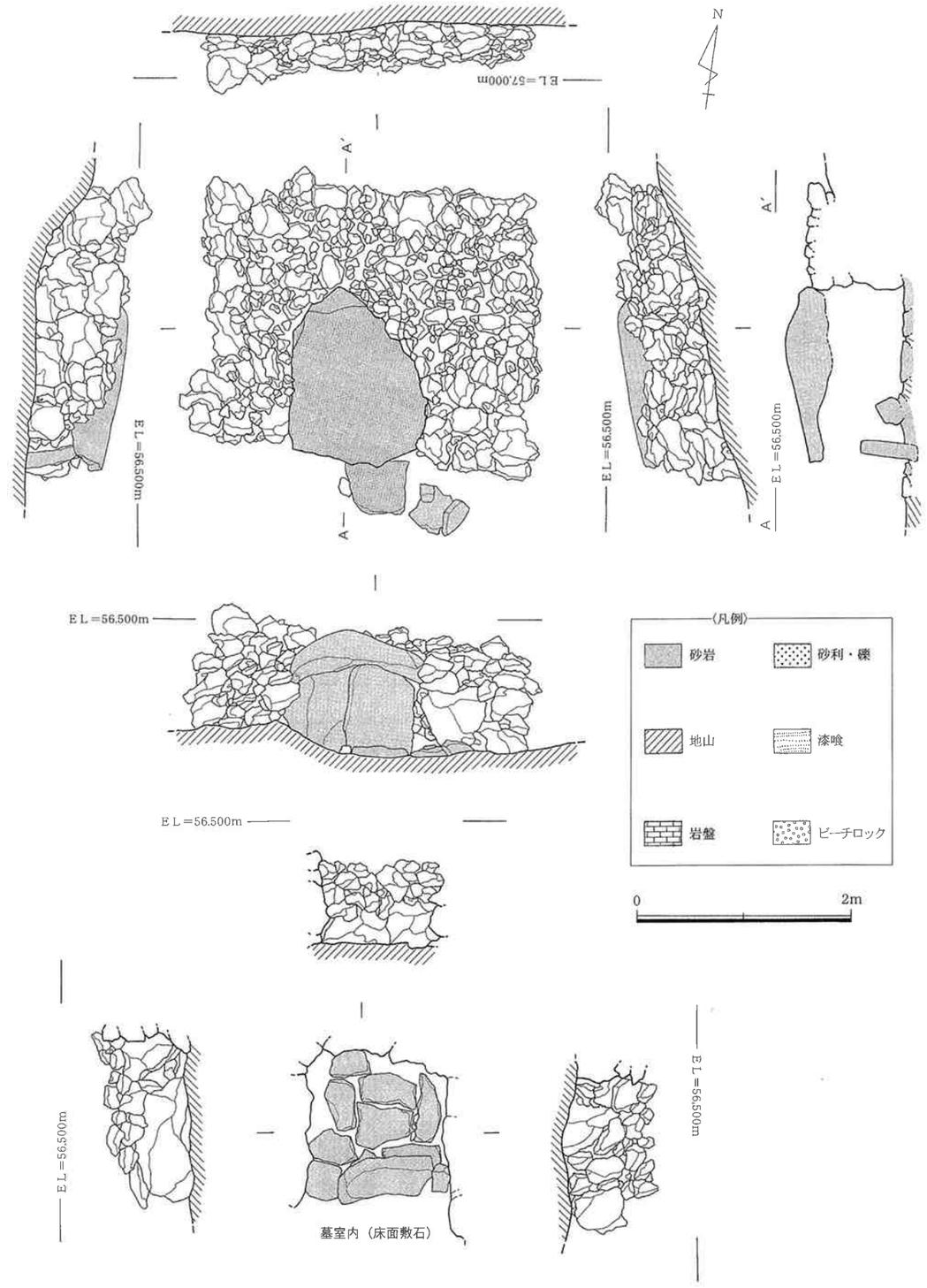
第31表　31号墓遺物出土状況

| 種類＼器種 | 碗 | 小杯 | 皿 | 壺 | 甕 | 器種不明 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 青磁 | 1 | | | | | | 1 |
| 白磁 | | 1 | | | | | 1 |
| 本土産近代磁器 | 4 | | 1 | | | | 5 |
| 沖縄産施釉陶器 | 1 | | | | | | 1 |
| 沖縄産無釉陶器 | | | | 10 | 2 | 12 | 24 |
| 瓦 | - | - | - | - | - | - | 1 |
| 貝製品 | - | - | - | - | - | - | 1 |
| 合計 | 6 | 1 | 1 | 10 | 2 | 12 | 34 |

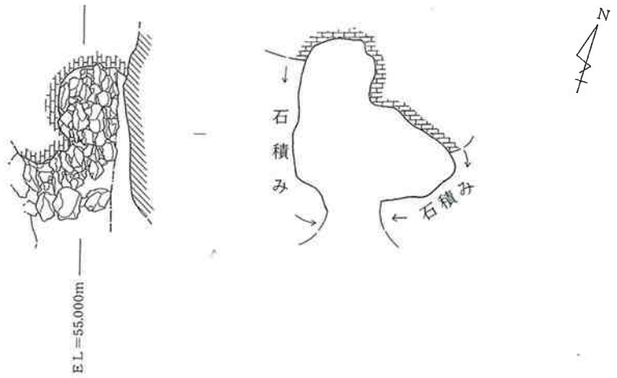
第33表　33号墓遺物出土状況

| 種類＼器種 | 碗 | 瓶 | 壺 | 火取 | 器種不明 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 染付 | 1 | | | | | 1 |
| 本土産染付 | | 2 | | | | 2 |
| 沖縄産施釉陶器 | 2 | 1 | | | 1 | 4 |
| 沖縄産無釉陶器 | | | 3 | 1 | 6 | 10 |
| 煙管 | - | - | - | - | - | 1 |
| 合計 | 3 | 3 | 3 | 1 | 7 | 18 |

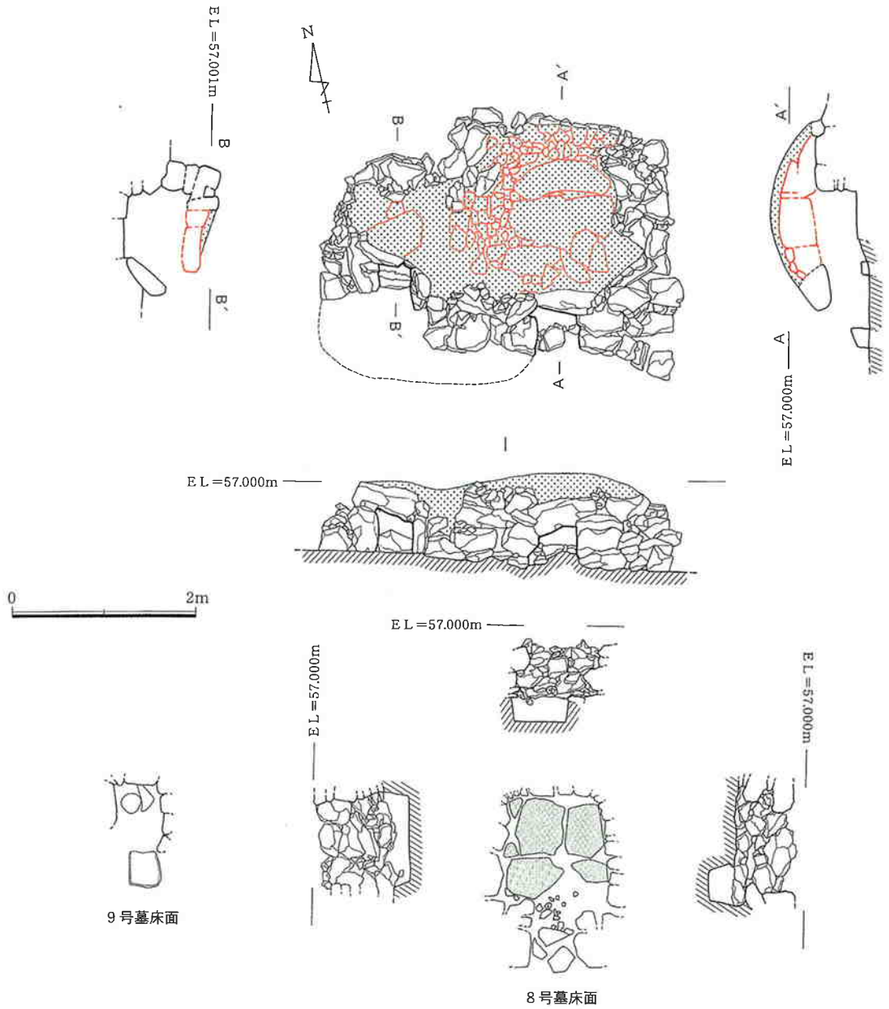





第５図　２号墓検出状況

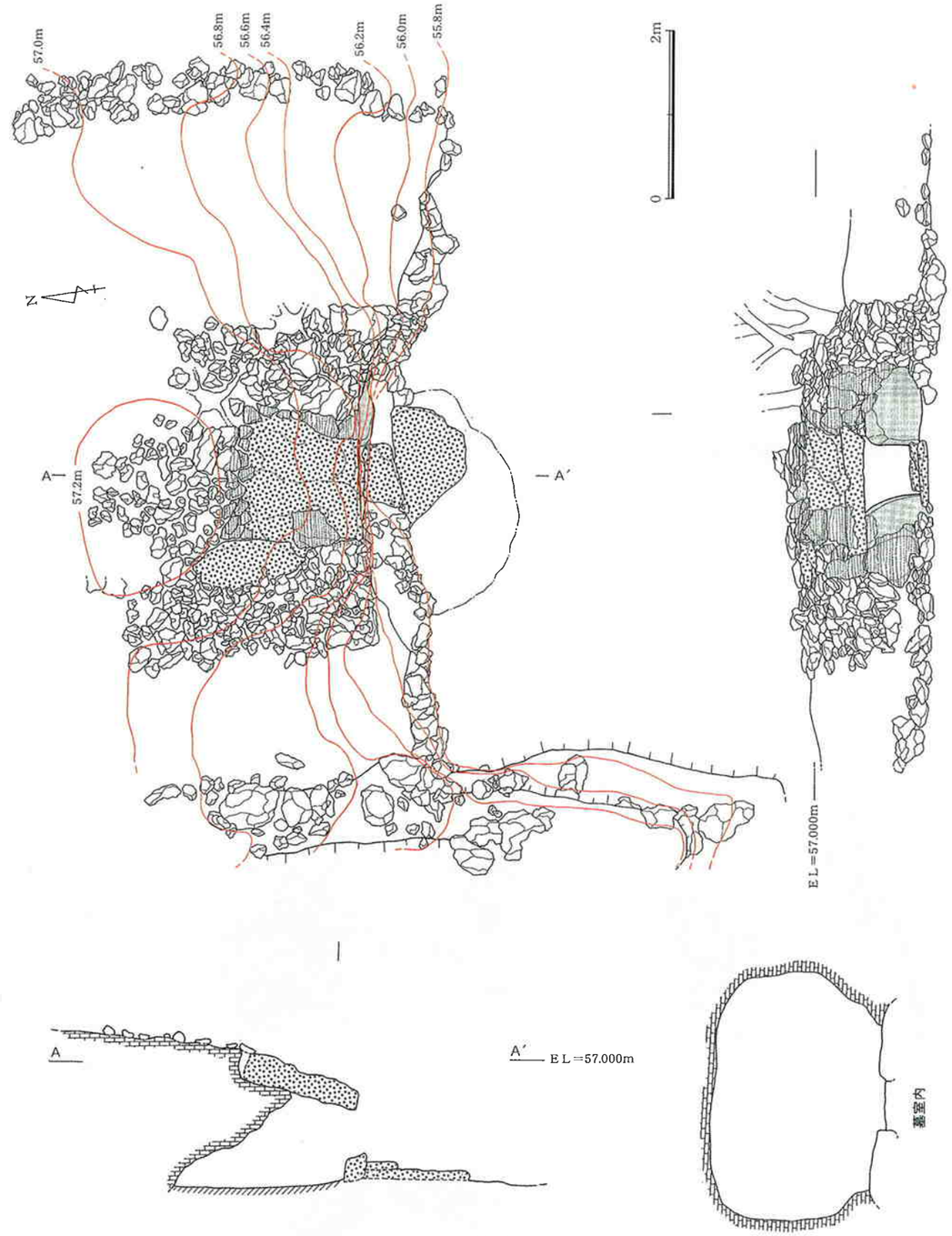



第６図　７号墓検出状況

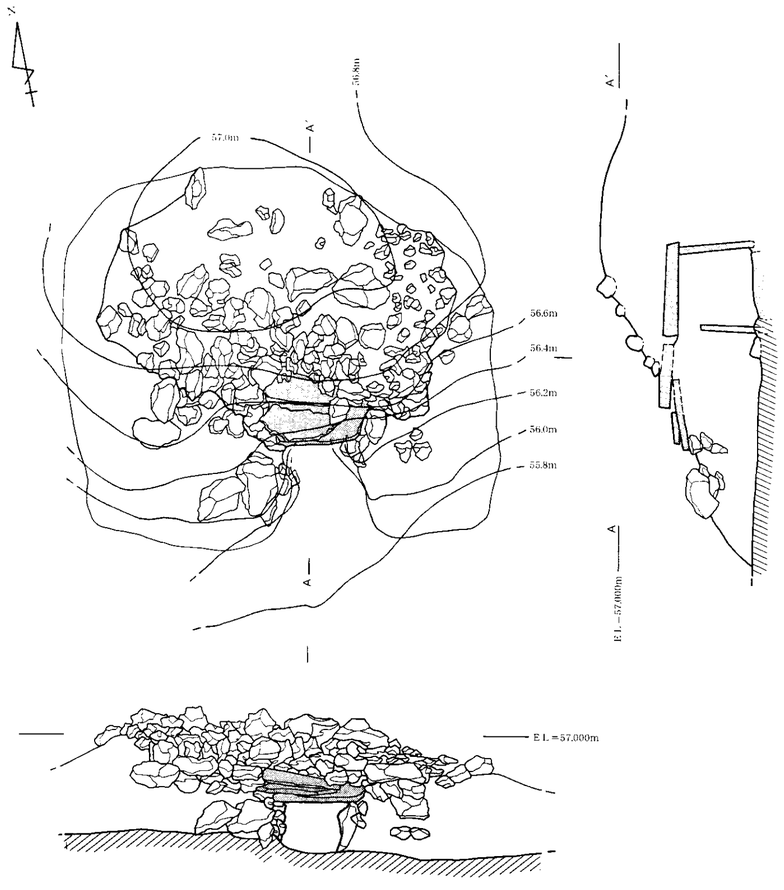



第７図　８・９号墓検出状況

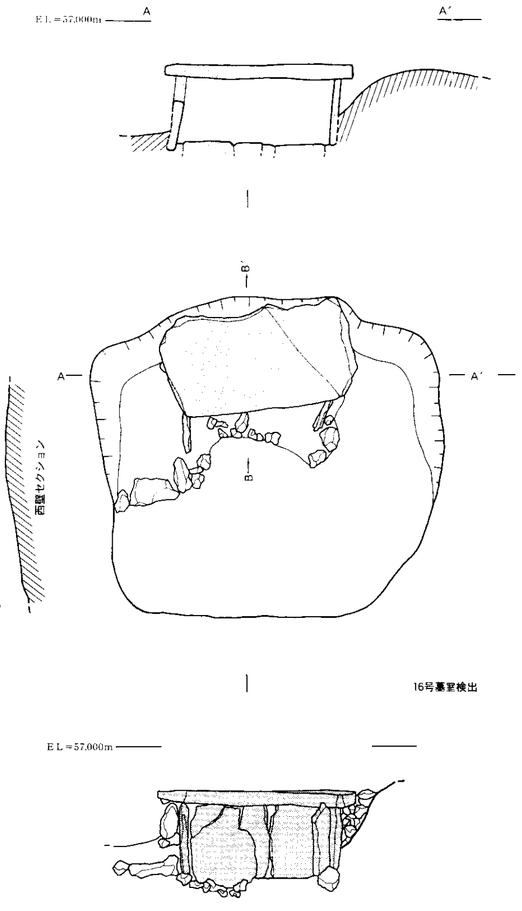


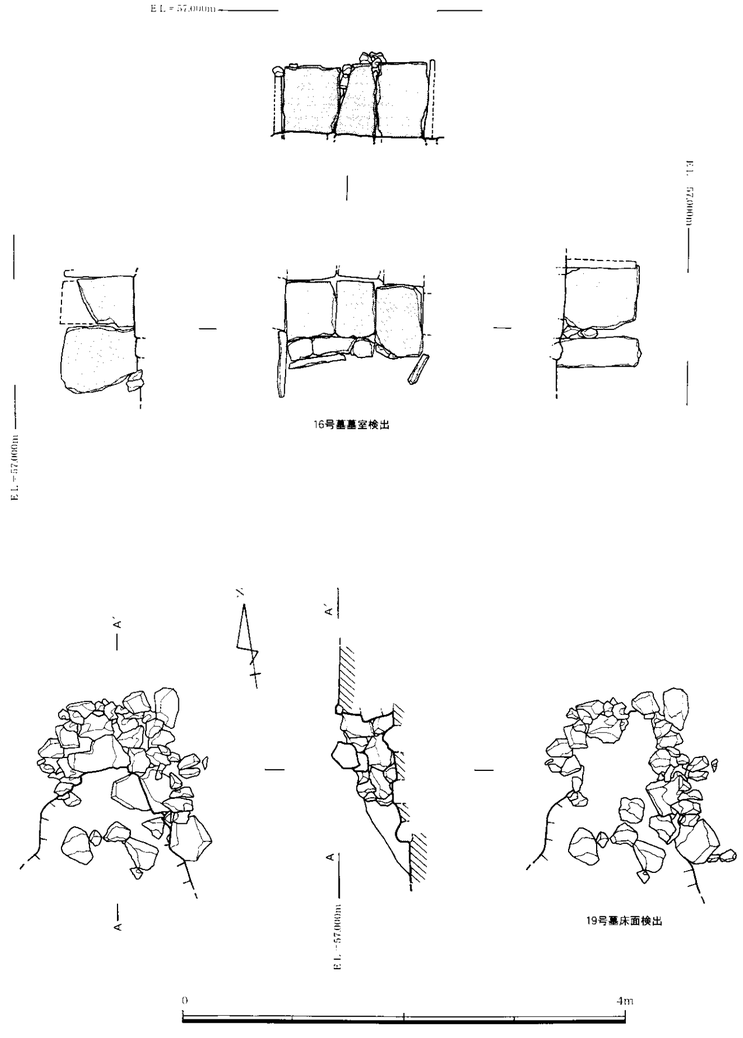



第８図　10号墓検出状況

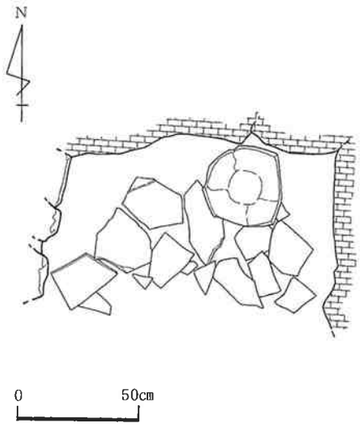



第12図　16号墓検出状況

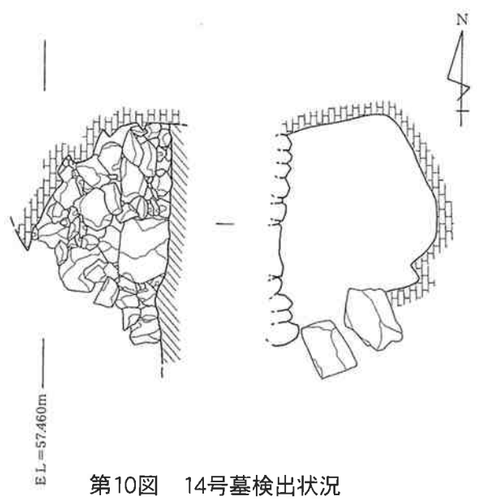



第13図　19号墓検出状況



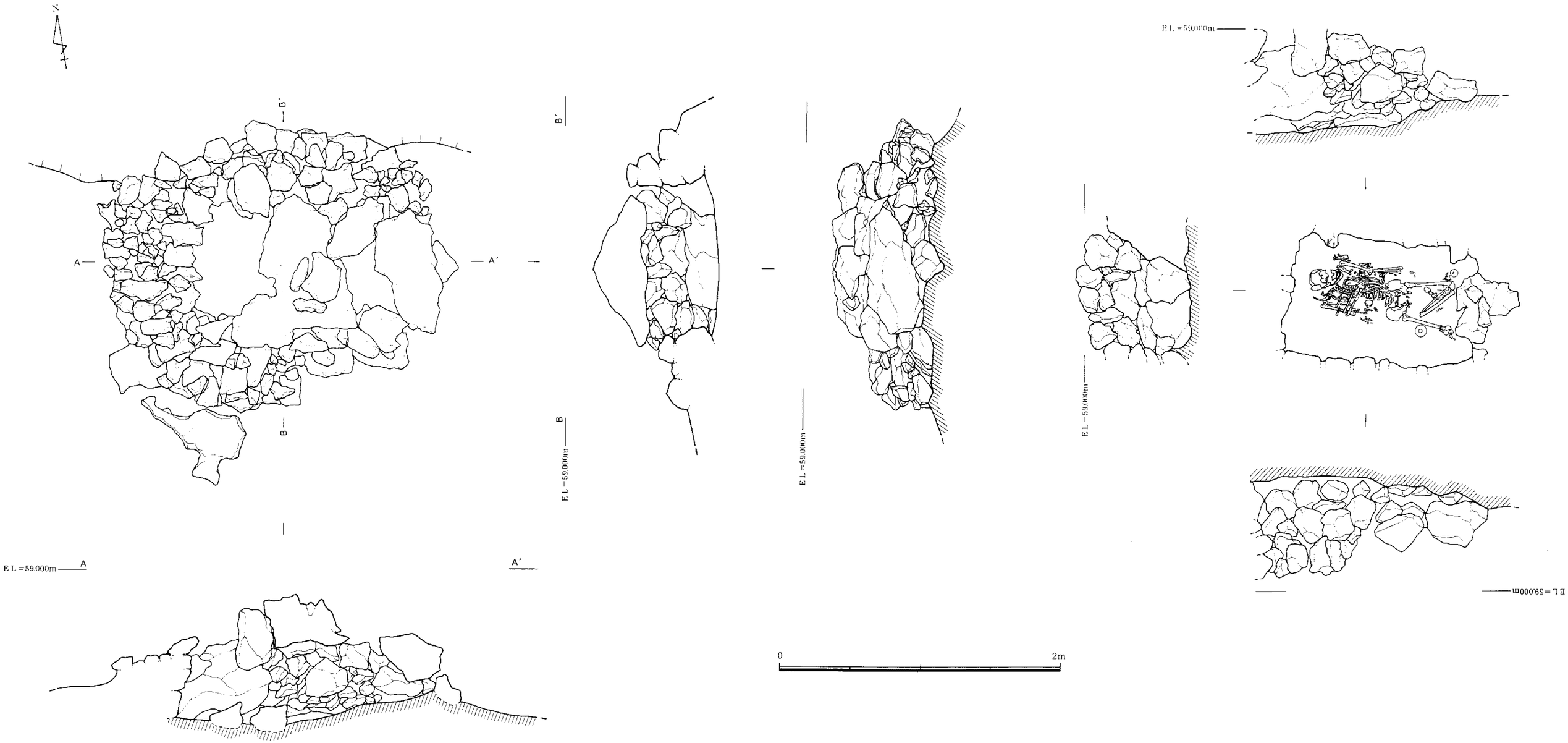

第９図　11号墓検出状況



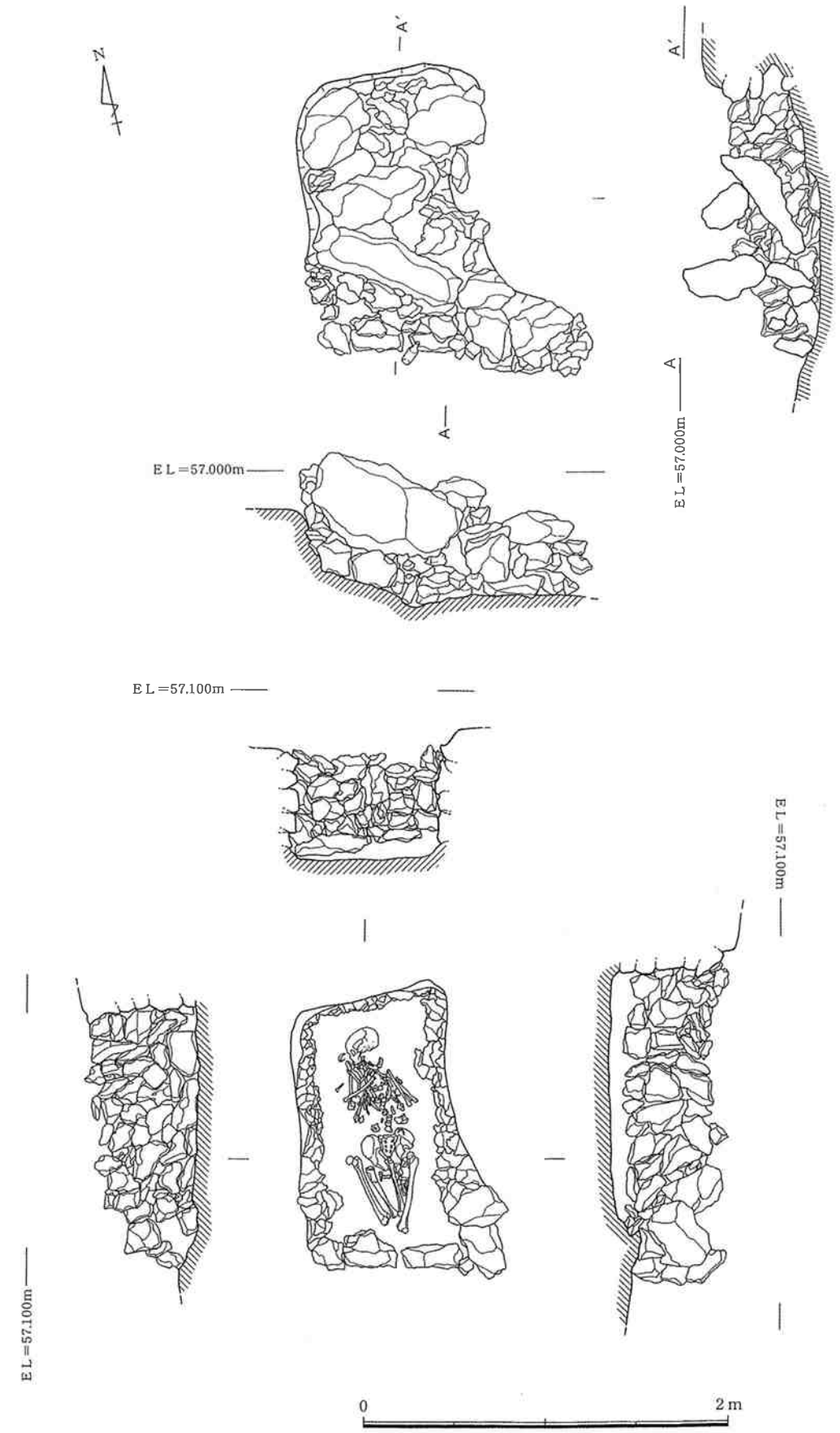

第10図　14号墓検出状況

第11図　18号墓検出状況

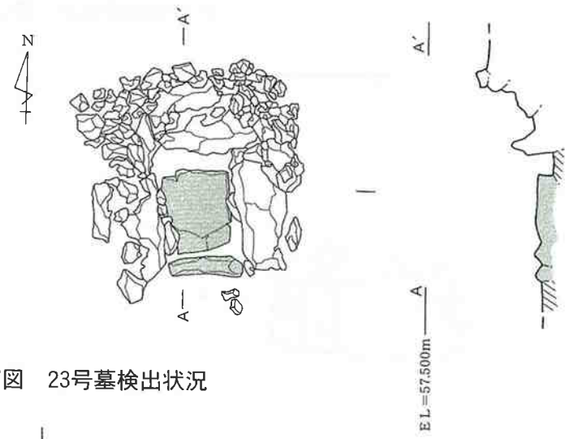
第14図　20号墓検出状況



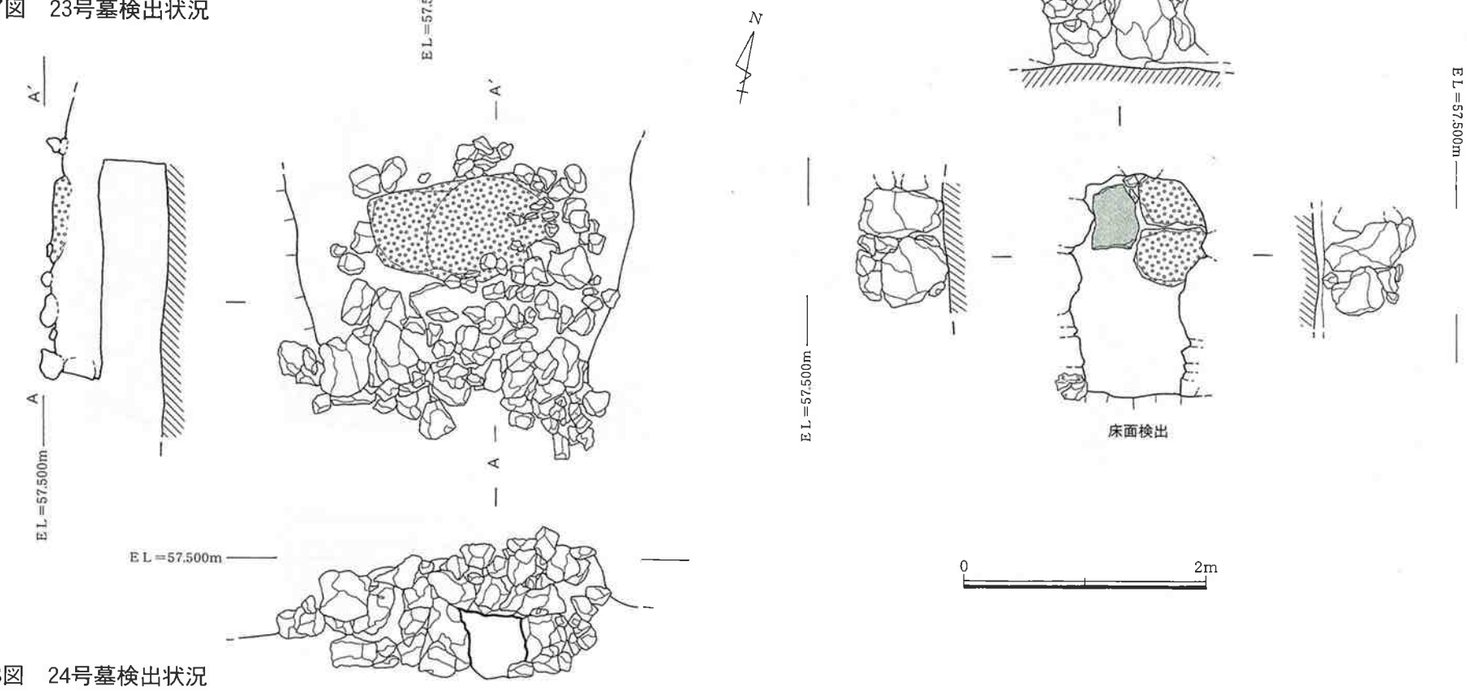

第15図　22号墓検出状況



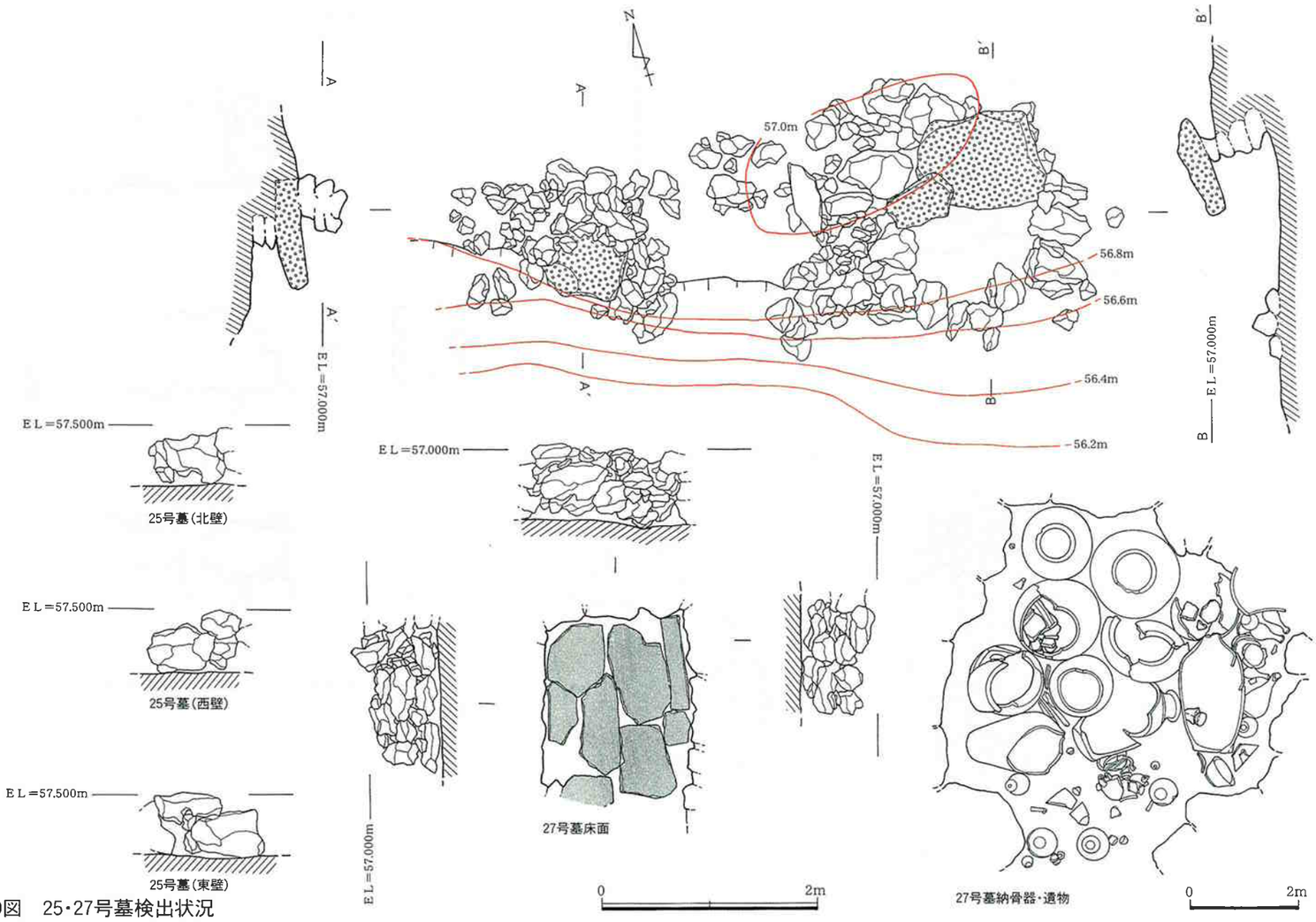

第16図　21号墓検出状況



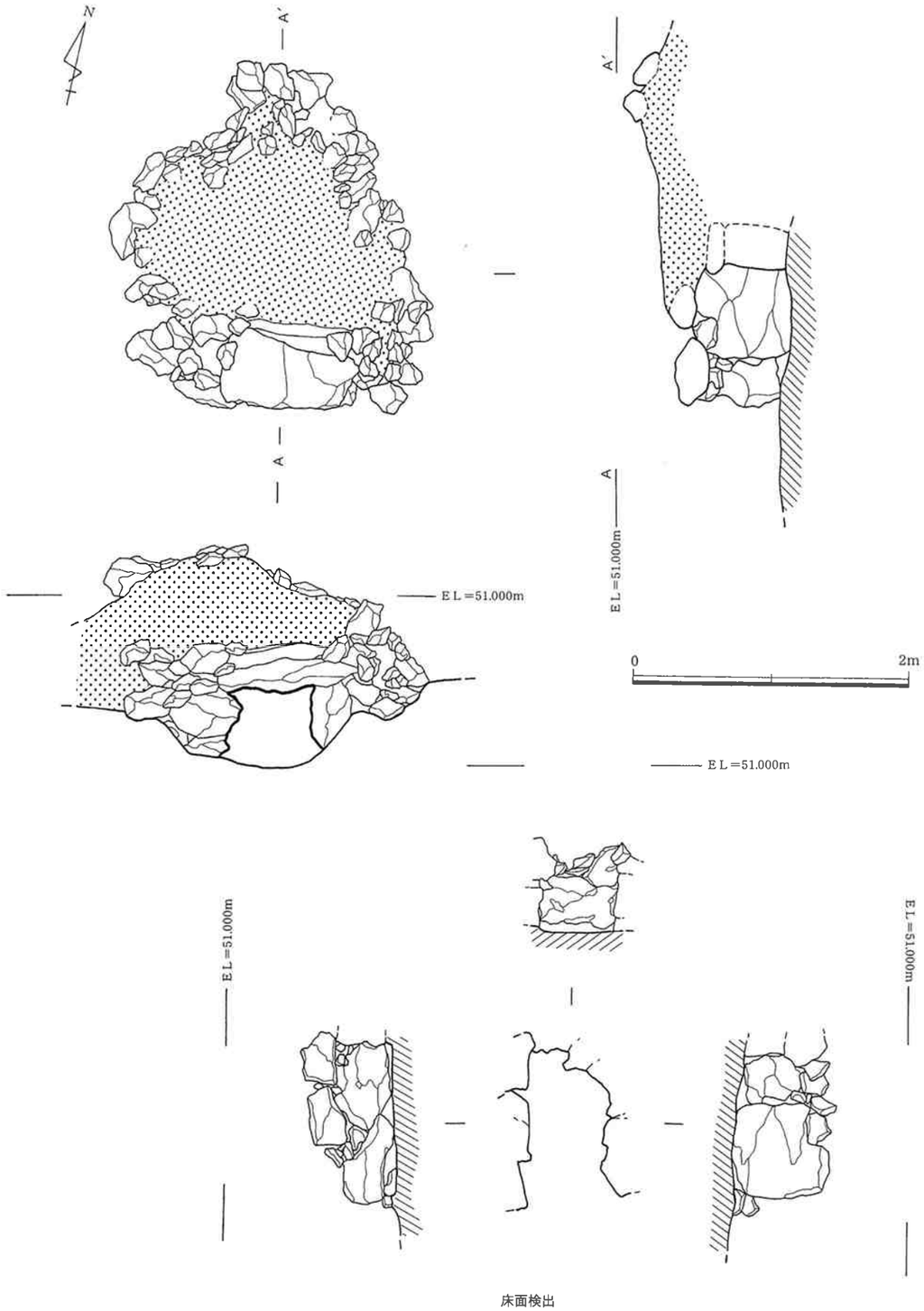

第17図　23号墓検出状況



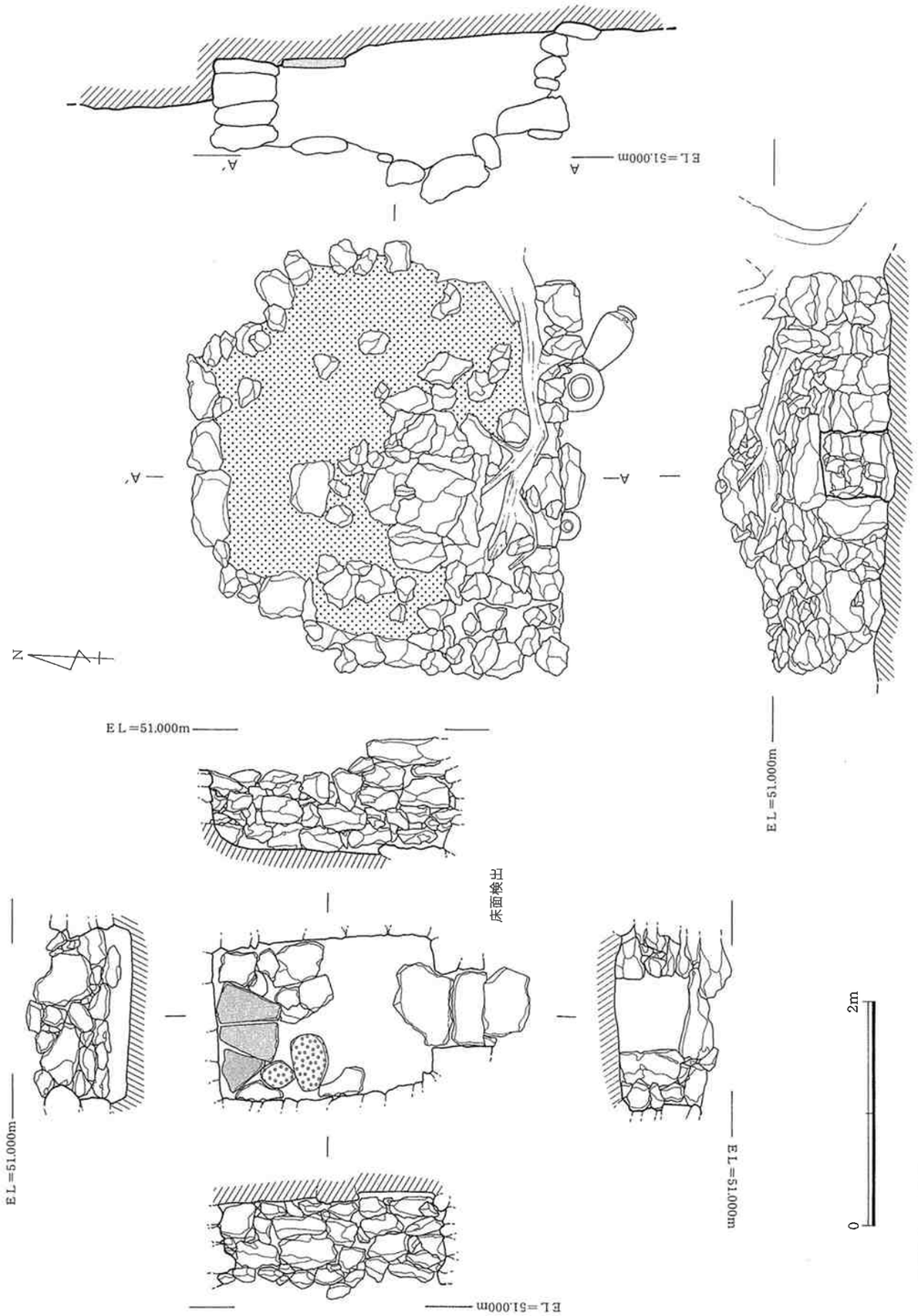

第18図　24号墓検出状況




第19図　25・27号墓検出状況




第20図　28号墓検出状況




第21図　30号墓検出状況

# 第４章　遺物

今回の発掘調査で出土、採集した遺物は近世の遺物が主体である。沖縄産陶器を中心として、中国産染付、本土産染付などの陶磁器、釘やキセルなどの金属製品、有孔製品などの貝製品が出土した。近世以前の遺物は僅少で、わずかに類須恵器が得られた。また、近代に属する陶磁器やガラス瓶などが出土しており、本古墓群が使用された時期や葬送儀礼のあり方を考える上で参考になると思われるため取り上げた。

## 第１節　納骨器

納骨のための用いられた容器である。ほとんどの墓が移転しており実際に骨を収めていた資料は多くない。また、逝去年などの銘書を記した資料は得られなかった。以下、概要を記し、詳細は観察表に記した。

### １．専用器

第22図で、納骨を目的として製作されたものである。今回出土したのはいわゆる「マンガン掛け焼締め厨子甕」で５～６個体得られ、４個体を図示した。納骨した状態での出土はなく、墓周辺や造成埋土などからの採集である。口縁部の形態は中村（1989)、その他の部位名称、編年は浦添市教委（1997）に従った。

１・２は小型のタイプで、首里崎山古墓群（那覇市教委2001）では明治40（1900）年代の銘書が確認され、同古墓のⅦ群19類に似る。３は口縁部のみでバチ形をなす。４・５は大型のタイプで屋門はアーチ形、６・７は大型の脚付きで屋門は線彫りの唐破風形である。いずれもⅤ期（1900～10年代）以降のタイプに比定できる。

### ２．土器

第23図で、底面などに穿孔を施し、納骨のための容器としたものである。全てパナリ焼[注1)]に属し、確認できる器種は壺形と鉢形で、前者がほとんどを占める。

壺形の器形はおおむね底部が丸底で胴部が張り、口縁が外反する。下記の２類２種に細分した。

あ：頸部の発達が弱く、口縁部が短い。

ア：器高が高く、胴部の張りが弱い。

イ：器高が低く、胴部の張りが強い。

い：頸部の発達が強く、口縁部が長い。

出土点数は10点余りと多くないが、「あ」のタイプがほとんどを占め、中でも「ア」が多い。「ア」のタイプは１・２で、胴の最大径が胴下部、側面観が台形状をなすものである。「イ」のタイプは３で、胴の最大径が胴中央部にくるもので、正面観は楕円形になる。「い」のタイプは４で極めて少ない。

鉢形は５の１点のみである。口縁が欠失した胴下半部の資料で寸胴な器形である。底面に穿孔する。

文様を施す資料はなく、すべて無文である。肩部に「‖」、「＋」の記号や「可年山」の文字を刻む例（１）があり窯印であろうか。ほとんどが穿孔を施し、穿孔方法は単に打ち割った例、丁寧に穿孔した例がみられ、後者が多い。穿孔は底面に施すが、胴上部に３ヶ所穿孔した資料（２）があり、専用器の窓（孔）を意識したものだろう。

### ３．転用器

第24図で、大型の壺や甕といった貯蔵具を納骨の容器に二次利用したものである。墓の周辺からも壺や甕が得られており、納骨に使用したものを廃棄した可能性がある。ただし、水溜めに用いたと思われる資料もあることから、実際に骨を収めていたもののみを扱った。第34図１の褐釉陶器壺も納骨器に転用していた可能性が考えられる。

転用器の使用方法は、２・３のように容器をそのままの状態で使用する例、４～６のように容器の一部を打ち欠くなどして使用する例と大きく２つに分けられ、後者の例がほとんどである。後者は身の半分を打ち欠いて片身を使用した資料（５）や、底部を打ち欠き骨が漏れ出ないよう蓋石を入れた資料（６）がある。

＜注事項＞

注１）胎土や混和材にバリエーションがみられるが、パナリ焼で一括した。集計表は後節の土器とまとめた。



第34表　マンガン厨子出土状況

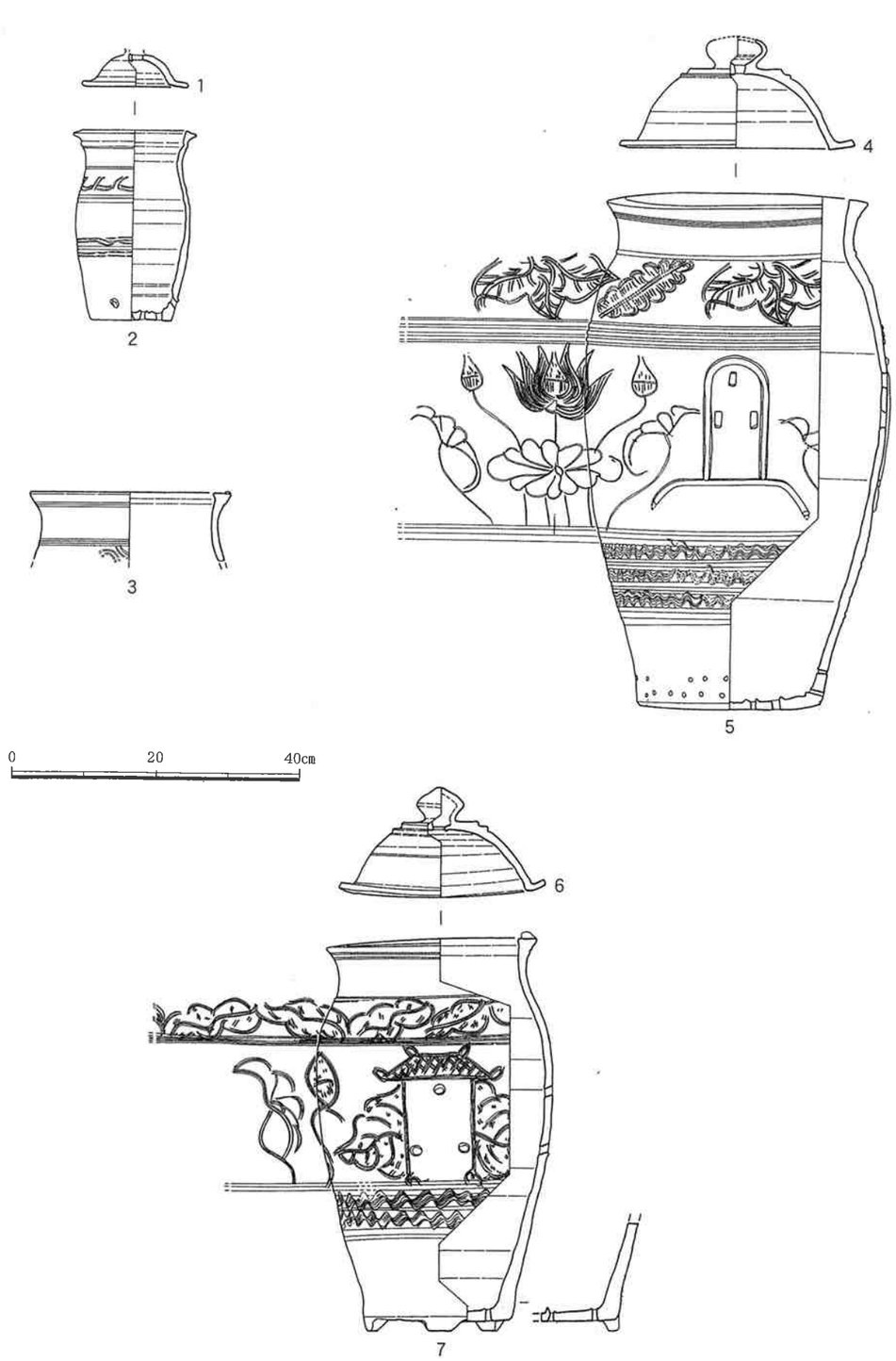
| 部位＼出土地 | 11号墓 内 | 12号墓 内 | 14号墓 前庭 | 地区北側 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 完形 | 2 | | | | 2 |
| 口縁部 | 2 | 1 | | 3 | 6 |
| 胴　部 | 9 | 3 | 1 | 6 | 19 |
| 底　部 | | | | 4 | 4 |
| 蓋 | 3 | | 1 | 2 | 6 |
| 合　計 | 16 | 4 | 2 | 15 | 37 |

第35表　納骨器観察一覧

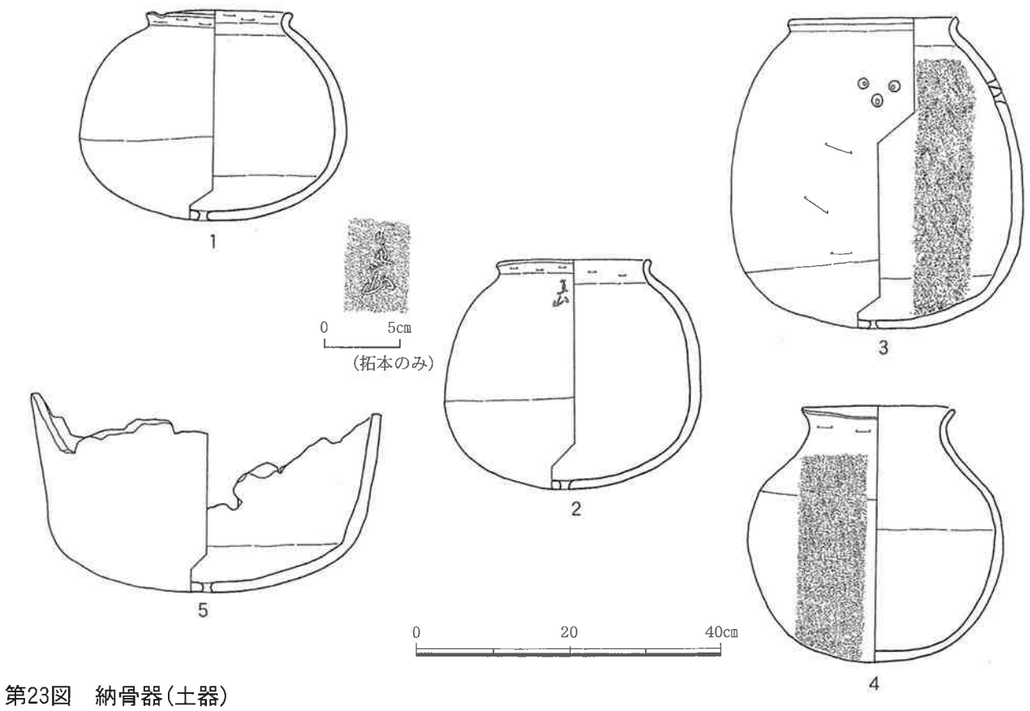
単位：cm

| 図番号 | | 種別 | 口径 | 底径 | 器高 | 観察事項 | 出土地 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第22図・図版17 | 1 | 専用器 | 14.9 | － | － | 小型のマンガン掛け厨子の蓋。つまみは破損。 | 20号墓周辺 |
| | 2 | | 17.2 | 11.1 | 26.6 | 1の身。口縁部と底部の破片から図上復元した。口縁部はバチ形である。肩部、胴下部文様帯はくずれた波状文。 | 20号墓周辺 |
| | 3 | | 28.4 | － | － | マンガン掛け厨子の口縁部。口縁部はバチ形。わずかに沈線が残る。 | 14号墓周辺 |
| | 4 | | 33.2 | － | 15.3 | 大型のマンガン掛け厨子の蓋。つまみは先端破損、宝珠型か。 | 11号墓土坑 |
| | 5 | | 36.5 | 25.0 | 72.8 | 3の身。口縁部は三角形である。屋門は浮文のアーチ形で珠飾りはつかない。孔は3個で四角。肩部文様帯に葉文、胴部文様帯に蓮華文、胴下部文様帯は櫛描波状文が3条。横帯はいずれも凹線。口縁部に漆喰が付着。 | 11号墓土坑 |
| | 6 | | 29.0 | － | 15.2 | 大型のマンガン掛け厨子の蓋。つまみは宝珠型。 | 11号墓 |
| | 7 | | 29.6 | 19.8 | 54.5 | 4の身。口縁部は三角形をなす。屋門は線彫りの唐破風形で、孔は3個で丸い。肩部文様帯に葉文、胴部文様帯に蓮華文、胴下部文様帯は櫛描波状文が2条。横帯はいずれも凹線。三脚をなす。口縁部に漆喰が付着。 | 11号墓＋<br>11号墓周辺 |
| 第23図・図版18 | 1 | 土器 | 19.5 | － | 27.7 | あ-アのタイプ。最大径が胴下部で台形状に近い。頸部の発達は弱く、口縁部は弱く外反。肩部に「可年山」の文字を彫る。胴下半部にケズリがみられる。底面に穿孔。 | 30号墓 |
| | 2 | | 20.7 | － | 30.6 | あ-アのタイプ。胴上部に「∵」状の孔を3つ穿つ。1よりもやや器高が高い。頸部の発達は弱く、口縁部は弱く外反。外面は前面ナデ。内面に指オサエの痕が明瞭。底面に穿孔。 | 27号墓厨子4 |
| | 3 | | 22.8 | － | 40.4 | あ-イのタイプ。胴の最大径が中央部。頸部の発達は弱く、口縁部は弱く外反。外面はナデで底面にケズリ。 | 25～27号墓周辺 |
| | 4 | | 20.5 | － | 33.9 | いのタイプ。頸部が長く伸び口縁は緩く外反する。肩部～口縁はナデ、肩部以下はケズリが明瞭。穿孔はなしか？ | 27号墓厨子8 |
| | 5 | | － | － | － | 鉢形。口縁が欠失しており、寸胴な器形である。丸底で底面に穿孔。内面はナデを施す。混和材に粗い白色粒を多量に含み、器壁は厚手。 | 30号墓内 |
| 第24図・図版19 | 1 | 転用品 | 11.9 | 6.2 | 4.2 | 2の蓋。縁辺は打ち欠いたものか。 | 12号墓内 |
| | 2 | | 9.3 | 9.5 | 20.5 | 1の身。油甕をそのまま使用。 | 12号墓内 |
| | 3 | | 45.6 | 30.0 | 44.8 | 甕をそのまま使用。検出時には胴下半部のみであったが、本来は口縁部まで揃っていたと思われる。 | 11号墓内転用 |
| | 4 | | － | － | － | 壺の口縁部を打ち欠いて使用。底部に穿孔。 | 27号墓厨子5 |
| | 5 | | － | － | － | 壺の片身を打ち欠いて横倒しで使用。胴中央に穿孔。 | 27号墓厨子3 |
| | 6 | | － | － | － | 壺の底部、口縁部を打ち欠き下部に蓋石を入れる。検出時には破損していたが、本来は図示の形態であったと思われる。 | 30号墓周辺＋<br>30号墓内転用 |

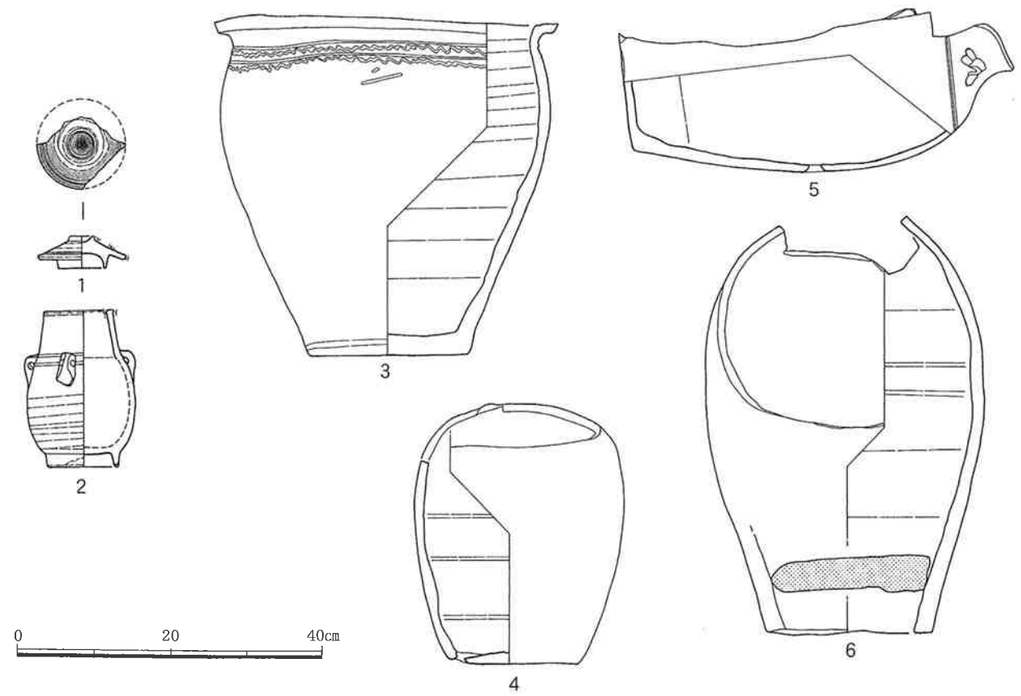
注　「＋」は接合の意。




第22図　納骨器(専用器)




第23図　納骨器(土器)




第24図　納骨器(転用器)

## 第２節　青磁

青磁は第25図１～３である。碗のみが得られた。詳細は観察表に記した。

１・２は底部のみで無文の碗と思われる。３は完形の碗で外面に細刻蓮弁を施す。10号墓前庭の覆土からの出土で墓に供献されたものか。

## 第３節　白磁

白磁は第25図４～24である。小杯が多く、杯、皿などの供膳具がほとんどである。詳細は観察表に記した。

第25図４～７は杯で口径が8.0cm前後のものとした。小杯は白磁全体の約７割を占め、久米島ヤッチのガマと同じ傾向がみられる。器高や底径などで次のとおり分類した。

Ⅰ類：器高が高い

Ⅱ類：器高が低い　さらに　Ａ：底径が小さい　Ｂ：底径が大きい

Ⅰ類は４で口径と器高の比が７割程度になるタイプである。Ⅱ類は５～７で、器高が口径の半分程度の低平な器形であり、さらに直口するタイプ（ａ）と口縁が外反するタイプ（ｂ）がある。ⅡAaがほとんどである。

同図８～20は小杯で口径3.0～4.0cm前後のものとした。器高や底径などから杯に準じて次のとおり分類した。

Ⅰ類：器高が高い　　Ⅱ類：器高が低い　　Ⅲ類：Ⅰ・Ⅱ類の中間　　Ⅳ類：その他

小杯も直口口縁（ａ）と外反口縁（ｂ）で細分した。Ⅳ類は稜花、八角杯である。Ⅲ類が半数を占める。

同図21・22は皿である。21は口禿の平低な器形で、図示したもの以外に２点ありいずれも特徴は似る。22はやや深い器形である。23は蓮華で１点のみ得られた。24は香炉で１点のみ得られた。筒形の三足香炉で外面全体に細かな貫入がみられる。

### 第36表　白磁出土状況

| 器種分類 / 出土地 | 杯 | | | | 小杯 | | | | | | 皿 | | 蓮華 | 香炉 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ | Ⅱ A | Ⅱ B | | Ⅰ | | Ⅱ | | Ⅲ | Ⅳ | | | | | |
| | b | a | a | b | a | b | a | b | a | | | | | | |
| | 完形 | 完形 | 完形 | 完形 | 完形 | 完形 | 完形 | 完形 | 完形 | 完形 | 完形 | 口 | 完形 | 完形 | |
| 1号墓　内 | 1 | 1 | | | | 2 | | | 1 | | 1 | | | | 6 |
| 6号墓　内 | | 2 | | 1 | | | 2 | | | | | | | | 5 |
| 7号墓　内 | | 1 | | | | | 2 | | 7 | | | | 1 | | 11 |
| 10号墓　内 | | 3 | | 1 | | 1 | | | 8 | | | | | 1 | 14 |
| 11号墓　内 | | | 1 | | | 2 | 5 | | 1 | | 1 | 2 | | | 12 |
| 19号墓　内 | | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| 23号墓　内 | | | | 2 | | | | | | | 1 | | | | 3 |
| 地区北側 | | | | 1 | | | | 1 | | | | 1 | | | 3 |
| 24号墓　内 | | | | | | 2 | | | 2 | | | | | | 4 |
| 25号墓　内 | | | | | | 1 | | | 2 | | | | | | 3 |
| 26号墓　内 | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | 2 |
| 27号墓　内 | 1 | 2 | | | 2 | 1 | 3 | | 5 | 2 | | | | | 16 |
| 地区西側 | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | 2 |
| 30号墓　内 | | | | | | 2 | | | 2 | | | | | | 4 |
| 31号墓　内 | | | | | | | 1 | | | | | | | | 1 |
| 32号墓　内 | | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| 合　計 | 2 | 11 | 2 | 5 | 3 | 12 | 13 | 1 | 28 | 3 | 3 | 3 | 1 | 1 | 88 |

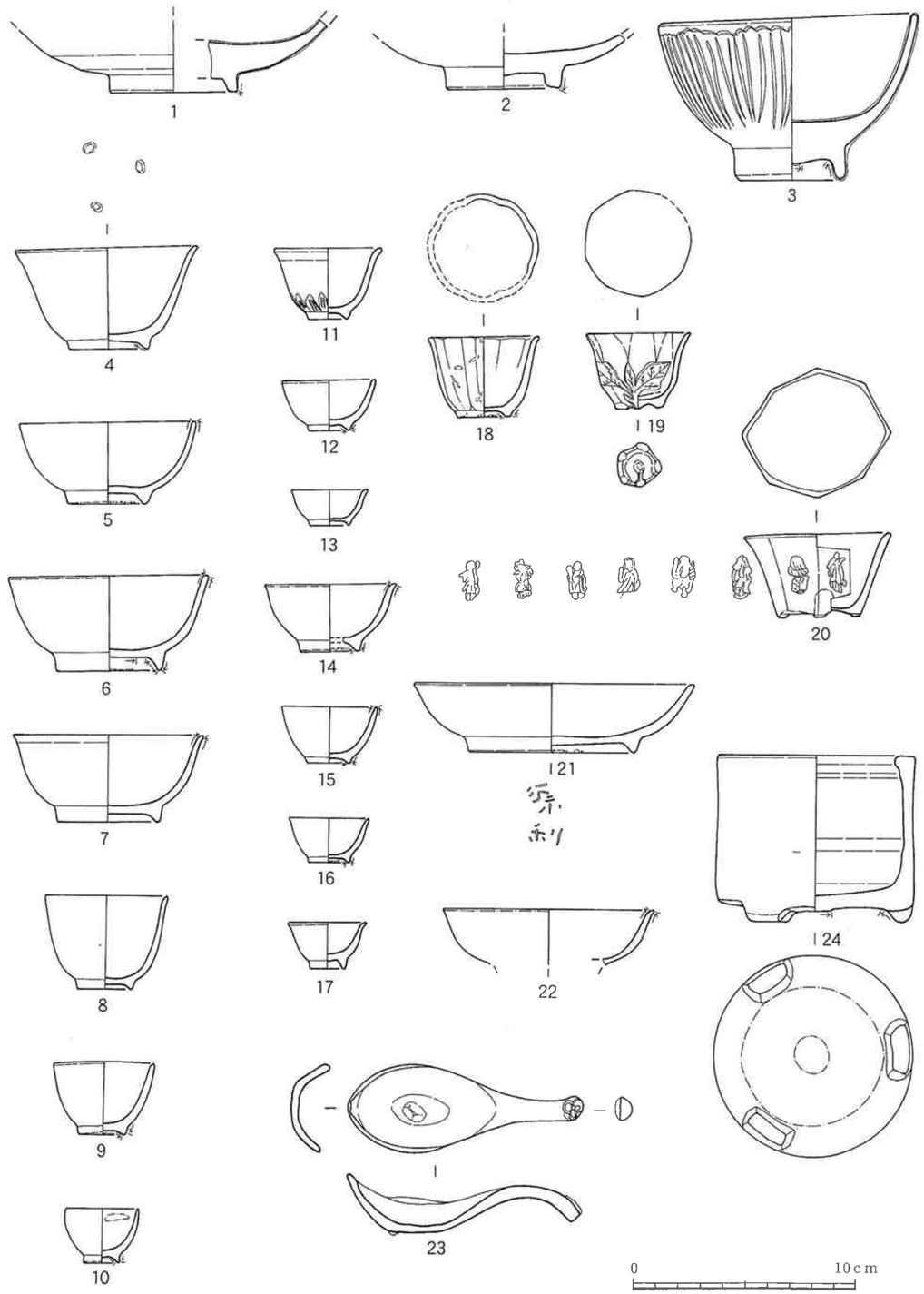


### 第37表　青磁・白磁観察一覧

単位：cm

| 図番号 | | 種別 | 器種 | 分類 | 口径 | 器高 | 底径 | 観察事項 | 出土地 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第25図・図版20 | 1 | 青磁 | 碗 | － | － | － | 5.8 | 無文の碗か。素地は白色で、明緑灰色の釉で外底面は無釉。底部は厚くつくる。 | 7号墓内 |
| | 2 | | | － | － | － | 5.2 | 無文の碗か。素地は青灰色で釉は風化で不明。底部はやや薄くつくる。 | 31号墓 |
| | 3 | | | － | 11.8 | 7.2 | 5.1 | 細刻蓮弁碗。蓮弁はかなり雑。素地は白色でオリーブ灰色の釉。底部はかなり厚く高台は小さい。 | 16号墓前庭覆土 |
| | 4 | 白磁 | 杯 | Ⅰb | 8.3 | 4.6 | 3.7 | 型成形。腰部がわずかに丸みを帯び直に立ち上がる。口縁の外反は弱い。外底面以外は総釉。内底面に重ね焼きの目痕。 | 1号墓 |
| | 5 | | | ⅡAa | 8.0 | 3.7 | 3.7 | 型成形。腰部が丸みを帯びる。口唇、畳付以外は総釉で口禿。外底面に籾殻が付着。 | 27号墓 No.25 |
| | 6 | | | ⅡBa | 9.1 | 4.3 | 4.9 | 型成形か。腰部がわずかに丸みを帯び、直に立ち上がる。口唇、畳付以外は総釉で口禿。外底面にわずかに籾殻。 | 11号墓 |
| | 7 | | | ⅡBb | 8.6 | 4.0 | 4.7 | 器形は前者に似る。外反は微弱。口唇、畳付以外は総釉、口禿。 | 6号墓 |
| | 8 | | 小杯 | Ⅰa | 5.5 | 4.2 | 2.6 | 型成形。畳付以外は総釉。全面に細かな貫入。外底に籾殻。 | 27号墓 No.2 |
| | 9 | | | Ⅲa | 4.6 | 3.2 | 2.2 | やや低い器形。型成形で畳付以外は総釉。外底に籾殻。 | 30号墓 |
| | 10 | | | Ⅰa | 3.3 | 2.5 | 1.7 | 型成形か。全体的に丸みを帯びる。畳付以外は総釉、外底に籾殻。 | 32号墓内 |
| | 11 | | | Ⅰb | 4.9 | 3.2 | 1.9 | 型成形で腰部に芭蕉文。腰部はわずかに丸みを帯び、口縁の外反は弱い。畳付以外は総釉。 | 24号墓内 |
| | 12 | | | Ⅱa | 4.2 | 2.3 | 1.9 | 型成形。腰部はやや角張る。口唇、畳付以外は総釉。 | 27号墓内 |
| | 13 | | | Ⅱa | 3.4 | 1.6 | 1.8 | 型成形、きわめて小型。底面に穴が開く。畳付以外は総釉。 | 6号墓 |
| | 14 | | | Ⅱb | 5.9 | 3.0 | 2.8 | 型成形。口縁は微弱に外反。口唇、畳付以外は総釉。 | 10号墓周辺 |
| | 15 | | | Ⅲa | 4.3 | 2.6 | 2.0 | 型成形。口唇、畳付以外は総釉。外底に籾殻。 | 30号墓 |
| | 16 | | | Ⅲa | 3.6 | 2.0 | 1.9 | 型成形。畳付以外は総釉。外底に籾殻。 | 10号墓内 |
| | 17 | | | Ⅰb | 3.6 | 2.1 | 1.6 | 型成形か。畳付以外は総釉。口縁は微弱に外反。 | 1号墓 |
| | 18 | | | Ⅳ | 5.0 | 3.6 | 2.4 | 型成形で稜花状につくる。畳付以外は総釉。外面に籾殻。 | 27号墓内 |
| | 19 | | | | 4.8 | 3.4 | 2.2 | 型成形で稜花状に形成し、外面に木の葉の浮文。底部は脚状にする。 | 19号墓 |
| | 20 | | | | 6.7 | 3.8 | 3.8 | 型成形の八角杯。底部は脚状に形成。外面に人物の浮文。八仙か。外底は無釉。 | 27号墓 No.49 |
| | 21 | | 皿 | － | 12.7 | 3.1 | 7.7 | 型成形か。外底内に「源利」。外底はわずかに籾殻。 | 1号墓土坑 |
| | 22 | | | － | 9.6 | － | － | 前者よりやや深い器形。口唇以外は総釉か。 | 11号墓 |
| | 23 | | 蓮華 | － | (長さ) 10.6 | (幅) 4.0 | (厚さ) 0.3 | ほぼ全面に釉を施す。持ち手は彎曲が強い。 | 7号墓内 |
| | 24 | | 香炉 | － | 9.0 | 7.5 | 8.8 | 全面に釉を施し、外底は蛇の目釉剥ぎ。細かい貫入がみられる。口縁は内面に張り出すように形成。3脚をなす。 | 10号墓内 |

注　「No.」は取り上げ番号。




第25図　青磁　碗(1～3)、白磁　碗(4～7)、小杯(8～20)、皿(21・22)、蓮華(23)、香炉(24)



## 第４節　染付

染付は総数103点出土した。状態が良く完形や図上復元が可能な遺物が大半を占める。器種は碗・小碗・小杯・皿・壺があり、碗が大半を占め、小杯、小碗、皿と続く。分類はまず器種による分類を行い、器種の中では文様構成により大別した。同様の文様構成をもつ遺物が多数あり、よく表現されているものから、くずれているものまである。同様の文様構成グループのなかではもっともよく表現されているもの抽出した。したがって、異なる文様構成をもつ遺物はすべて図示し、文様等の詳細は観察表に記した。
グスク時代の所産と思われる第26図１・２を除きすべて近世の所産である。
また、今回の調査で青磁染付が１点出土しており、染付と合わせて報告する。第31図47に図示した。

碗

碗の器形は腰が丸く張り外反口縁を呈する第26図１～４のタイプ。腰が丸く張り口縁が僅かに折れる第26図５・６のタイプ。高台から逆ハの字にシャープに開く第27図７・８のタイプ。腰が丸く張り直口口縁を呈する第27図10・11、第28図、第29図17～19のタイプなどがある。また、これらのものとは様相を異にし、釉がくすんだ青灰色を帯びており、口径に比する底径の割合が比較的高く、見込は蛇目状に釉剥ぎし、貫入が目立つものがある。高台から逆ハの字にシャープに開き外反口縁（または、口縁が僅かに折れる）を呈する第29図21・22・23、第30図25～29のタイプ。高台から逆ハの字にシャープに開き直口口縁を呈する第29図20、第30図24のタイプなどがある。畳付は面取りされたものが多い。

小碗

小碗の器形は、腰が丸く張り直口口縁を呈する第30図30～33のタイプと、腰が丸く張り外反口縁を呈する第30図34のタイプがある。第30図30などは高台が高くハの字に開く。

小杯

小杯の器形は、高台から逆ハの字に開き外反口縁を呈する第31図35・36のタイプと、腰がやや張り逆ハの字に開く直口口縁を呈する第31図37～41のタイプがある。第31図37などは腰の張りが強く、立ち上がりも垂直に近い。

皿

皿の器形は、腰が丸く張り直口口縁を呈する第31図43・45のタイプと、高台から逆ハの字状に大きく開くタイプを呈する第31図42・44のタイプがある。

壺

壺は１点のみ出土した。高台をもち、胴部が丸く成形され肩がやや張り、屈曲して外反口縁を呈する器形である。

## 第５節　青磁染付

器形は高台がやや内傾し、腰が丸く張り、胴部は若干逆ハの字状に開き直口口縁を呈する。胎土は白色微粒子。釉色は内面が灰白色で外面は明緑灰色である。外底面は透明釉で銘が書かれている。畳付は釉剥される。口径9.2cm、器高4.9cm、器高4.8cm。13号墓内出土。

## 第38表　染付出土状況

| 出土地＼器種 | | 碗 | | | 小碗 | | 小杯 | 皿 | 壺 | 不明 | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 完形 | 口 | 底 | 完形 | 口 | 完形 | 完形 | 完形 | 口 | 胴 | 底 | |
| 1号墓 | 内 | 4 | | | 2 | | 1 | | 1 | | | | 8 |
| 6号墓 | 内 | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| 7号墓 | 内 | 4 | 1 | | | | 2 | | | | | | 7 |
| 8号墓 | 内 | 2 | | | | | | | | | | | 2 |
| 10号墓 | 内 | 5 | | | 1 | | 5 | 2 | | | | | 13 |
| 11号墓 | 内 | 3 | 1 | 1 | 1 | | 1 | | | | 1 | 1 | 9 |
| 16号墓 | 内 | | | | | | 1 | | | | 1 | | 2 |
| | 前庭覆土 | 1 | | | | | | | | | 1 | | 2 |
| 17号墓 | 内 | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| 地区北側 | | 4 | 2 | | | | | | | | | 1 | 7 |
| 24号墓 | 内 | | 1 | | | | 2 | | | | | | 3 |
| 25号墓 | 内 | 3 | 1 | | | | | | | | 1 | | 5 |
| 27号墓 | 内 | 16 | | | 2 | 2 | 4 | 2 | | | | | 26 |
| 地区西側 | | 1 | | | | | 1 | | | | | | 2 |
| 30号墓 | 内 | 8 | 1 | | | | | | | | | | 9 |
| 32号墓 | 内 | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| 33号墓 | 内 | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| 不明 | | | 1 | | | | | | | 1 | 2 | | 4 |
| 合　計 | | 53 | 8 | 1 | 6 | 2 | 17 | 5 | 1 | 1 | 7 | 2 | 103 |

## 第39表a　染付観察一覧

単位:cm

| 図番号 | | 器種 | 部位 | 口径 | 器高 | 底径 | 文様構成等観察事項 | 出土地 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第26図・図版21 | 1 | 碗 | 完形 | 11.9 | 5.9 | 4.5 | 外面口縁直下及び高台脇、腰部に1条の圏線、体部は龍が2匹と花卉文が2つそれぞれ交互に配されている。内面は口縁直下に2条の圏線、見込に1条の圏線とその中に団龍。淡青白色の釉で畳付は釉剥。胎土は白色細粒子。 | 7号墓内一括 |
| | 2 | | 完形 | 11.7 | 5.9 | 4.2 | 外面は口縁直下及び高台脇、腰部に1条の圏線。外体部は玉取獅子が2対。内面は口縁直下に1条、見込に2条の圏線とその中に卍状の不明文。淡青白色の釉で畳付は釉剥。胎土は白色微粒子。 | 16号墓前庭覆土 |
| | 3 | | 口～底 | 15.2 | 7.7 | 6.5 | 外面胴部及び内面口縁部、見込に白抜きの4つ菊唐草文。外面腰部は連弁文。外底面に2条の圏線とその中に双魚文。淡青白色の釉で畳付は釉剥。胎土は白色微粒子。 | 27号墓No.66 |
| | 4 | | 口～底 | 15.2 | 7.9 | 7.8 | 外面胴部及び内面口縁部、見込に4つ菊唐草文、それぞれ1条～2条の圏線で画されている。外面腰部は連弁文の簡略化されたものか。外底面に2条の圏線とその中に銘款。淡青白色の釉で畳付は釉剥。胎土は白色微粒子。 | 1号墓 |
| | 5 | | 完形 | 14.3 | 6.4 | 7.1 | 外面口縁直下に1条、腰部に3条、高台際に1条の圏線。外体面に5つの草花文、腰部に簡略化された連弁文。内面口縁直下に1条、見込に2条の圏線。見込中央に不明文。青灰白色の釉で、畳付は釉剥。胎土は白色微粒子。 | 8号墓内 |
| | 6 | | 口～底 | 12.4 | 5.4 | 6.2 | 外面口縁直下に1条、腰部に3条、高台際に1条の圏線。外体面に5つの草花文。内面口縁直下に1条、見込に2条の圏線。見込中央に不明文。青灰白色の釉で、畳付は釉剥。胎土は白色細粒子。 | 11号墓土坑＋11号墓周辺＋11号墓焼骨＋11号墓 |
| 第27図・図版21 | 7 | 碗 | 完形 | 14.0 | 6.2 | 7.3 | 外面口縁直下に1条、腰部に1条、高台際に2条の圏線。外体面に山水画と不明文。灰白色の釉で、見込は蛇目状に釉剥。畳付は釉剥で砂目が残る。胎土は白色細粒子。 | 1号墓 |
| | 8 | | 完形 | 13.8 | 6.1 | 6.2 | 外体面に寿字文と梅花文、腰部に簡略化された連弁文か。外底面に「程」。内面は口縁直下に1条、見込に2条の圏線。見込中央に不明文。見込は蛇目状に釉剥。淡青白色の釉で、畳付を釉剥で砂目が残る。胎土は白色素粒子。 | 8号墓内 |

注　「No.」は取り上げ番号、「＋」は接合の意。



## 第39表b　染付観察一覧

単位:cm

| 図番号 | | 器種 | 部位 | 口径 | 器高 | 底径 | 文様構成等観察事項 | 出土地 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第27図・図版21 | 9 | 碗 | 完形 | 15.3 | 7.5 | 7.0 | 外面口縁直下と高台脇に1条、外底面に2条の圏線。外体面は梵字。腰部は簡略化された連弁文か。内面は口縁直下、見込に2条づつ圏線。見込中央に外体面と同様の梵字1字。外体面中央は四角銘款。淡青灰色の釉で、畳付を釉剥。胎土は白灰色微粒子。 | 30号墓 |
| | 10 | | 完形 | 15.8 | 7.0 | 6.6 | 外面は口縁直下、腰部、高台脇、外底面に2条の圏線。外体面は4つ菊唐草文。外底面中央は銘款。内面は口縁直下、見込に2条の圏線。見込中央に花草文。白灰色の釉で畳付を釉剥。胎土は白色微粒子。 | 27号墓内No.23 |
| | 11 | | 完形 | 14.7 | 6.5 | 6.6 | 外面口縁直下に1条、腰部、高台脇、外底面に2条の圏線。外体面に丸文と2段の花卉文がそれぞれ交互に4つ。外底面に「玉」。内面は口縁直下、見込に2条の圏線。見込中央に花卉文。青灰色の釉で畳付を釉剥。胎土は白色微粒子。 | 30号墓 |
| 第28図・図版21 | 12 | 碗 | 口～底 | 15.1 | 6.7 | 6.1 | 外面口縁直下に1条、腰部、高台脇、外底面に2条の圏線。外体部は構成が不明文様。外底面は「盛玉」と銘款。内面は口縁直下、見込に2条の圏線。見込中央に花卉文。淡青白色の釉で畳付は釉剥。胎土は灰白色の細粒子。 | 27号墓No.76 |
| | 13 | | 完形 | 14.9 | 6.6 | 7.4 | 外面は丸文に2段の花卉文がそれぞれ交互に4つ。見込に不明文。淡青白色の釉で、見込は蛇目状に釉剥。畳付は釉剥ぎ。胎土は白色微粒子。 | 25号墓内 |
| | 14 | | 完形 | 12.5 | 5.4 | 6.5 | 外面口縁直下、腰部に1条、高台脇、外底面に2条の圏線。外体面は丸文、花卉文がそれぞれ交互に3つ。見込に不明文。外底面に銘款。淡青白色の釉で畳付は釉剥。胎土は白色微粒子。 | 25号墓内 |
| | 15 | | 完形 | 10.9 | 6.6 | 5.6 | 外面口縁直下、高台脇、外底面に2条の圏線。外体面は菊唐草文を3つ。腰部は簡略化された連弁文か。外底面は四角銘款。内面口縁直下、見込に2条の圏線。見込は菊唐草文。淡青白色の釉で畳付は釉剥。胎土観察できず。 | 27号墓内No.67 |
| | 16 | | 完形 | 12.6 | 6.2 | 5.3 | 外面口縁直下、腰部に1条、高台脇、外底面に2条の圏線。体部中央は鳥4匹。腰部は簡略化された連弁文か。外底面は四角「盛玉」。内面口縁直下、見込に2条の圏線。見込中央に鳥。淡青灰色の釉で畳付は釉剥。胎土観察できず。 | 27号墓内No.47 |
| 第29図・図版22 | 17 | 碗 | 完形 | 11.8 | 5.6 | 5.8 | 外面口縁直下に1条、高台脇、外底面に2条の圏線。外体面は雲から顔を出し玉を追う龍。雲から龍の体部も見え隠れする。外底面に銘款。淡青白色の釉で畳付を釉剥。胎土は白色微粒子。 | 11号墓内一括 |
| | 18 | | 完形 | 11.8 | 5.6 | 5.7 | 外面腰部、外底面に2条の圏線。外体部は山水文と松文。外底面に「？元」と銘款。淡青白色の釉で口禿とし、畳付は釉剥。胎土観察できず。 | 27号墓No.51 |
| | 19 | | 口～底 | 10.3 | 5.5 | 4.9 | 外面口縁直下を6区画し斜格子文と花草文をそれぞれ交互に配した欅文。それを挟むように1条ずつ圏線。高台脇に2条の圏線。その上の腰部に芭蕉文を13個。内面口縁直下、見込に1条の圏線。見込中央に宝文。青白灰色の釉で口禿げ、畳付と外底面の一部は釉剥。 | 10号墓内No.2 |
| | 20 | | 口～底 | 15.1 | 6.7 | 8.7 | 外体面に丸に鶴？と三角形状の草文？をそれぞれ3つずつ配する。黄白色の釉で、見込を蛇目状に釉剥し、畳付は露胎。細かい貫入が目立つ。胎土は黄橙色で細粒子。 | 27号墓内No.33 |
| | 21 | | 口～底 | 15.2 | 6.4 | 8.4 | 外体面に5つの菊花文。淡青白色の釉で、見込は蛇目状に釉剥、畳付は露胎。胎土は白黄色で細粒子。 | 24号墓周辺 |
| | 22 | | 口～底 | 12.7 | 5.6 | 7.5 | 外面口縁直下に1条の圏線。外体面に菊花文と三角形状の草文？をそれぞれ3つずつ配する。灰白濁色の釉で、見込は蛇目状に釉剥、畳付は露胎。細かい貫入が目立つ。胎土は黄橙色で細粒子。 | 27号墓内No.32 |
| | 23 | | 口～底 | 13.5 | 6.0 | 7.5 | 外面口縁直下に1条の圏線。外体面に菊花文と三角形状の草文？をそれぞれ3つずつ配する。灰白色から淡黄色の釉で、見込は蛇目状に釉剥、畳付は露胎。細かい貫入が目立つ。胎土は黄橙色で細粒子。 | 30号墓 |
| 第30図・図版22 | 24 | 碗 | 完形 | 11.3 | 5.2 | 6.7 | 外体部にかなり簡略化された感のある草文？が3つ。淡灰白濁色の釉で見込は蛇目状に釉剥。畳付も釉剥。胎土は黄橙色で細粒子。 | 27号墓No.61 |
| | 25 | | 口～底 | 13.3 | 5.7 | 7.1 | 外体面に簡略化された感のある草文？が巡る。青灰色の釉で見込及び高台から腰部は露胎する。胎土は黄橙色の素粒子。 | 1号墓 |
| | 26 | | 完形 | 14.4 | 6.4 | 7.9 | 外体部にかなり簡略化された感のある草文？が3つ。淡灰白濁色の釉で見込は蛇目状に釉剥。高台は露胎する。胎土は黄橙色で細粒子。 | 27号墓 |

注　「No.」は取り上げ番号の意。

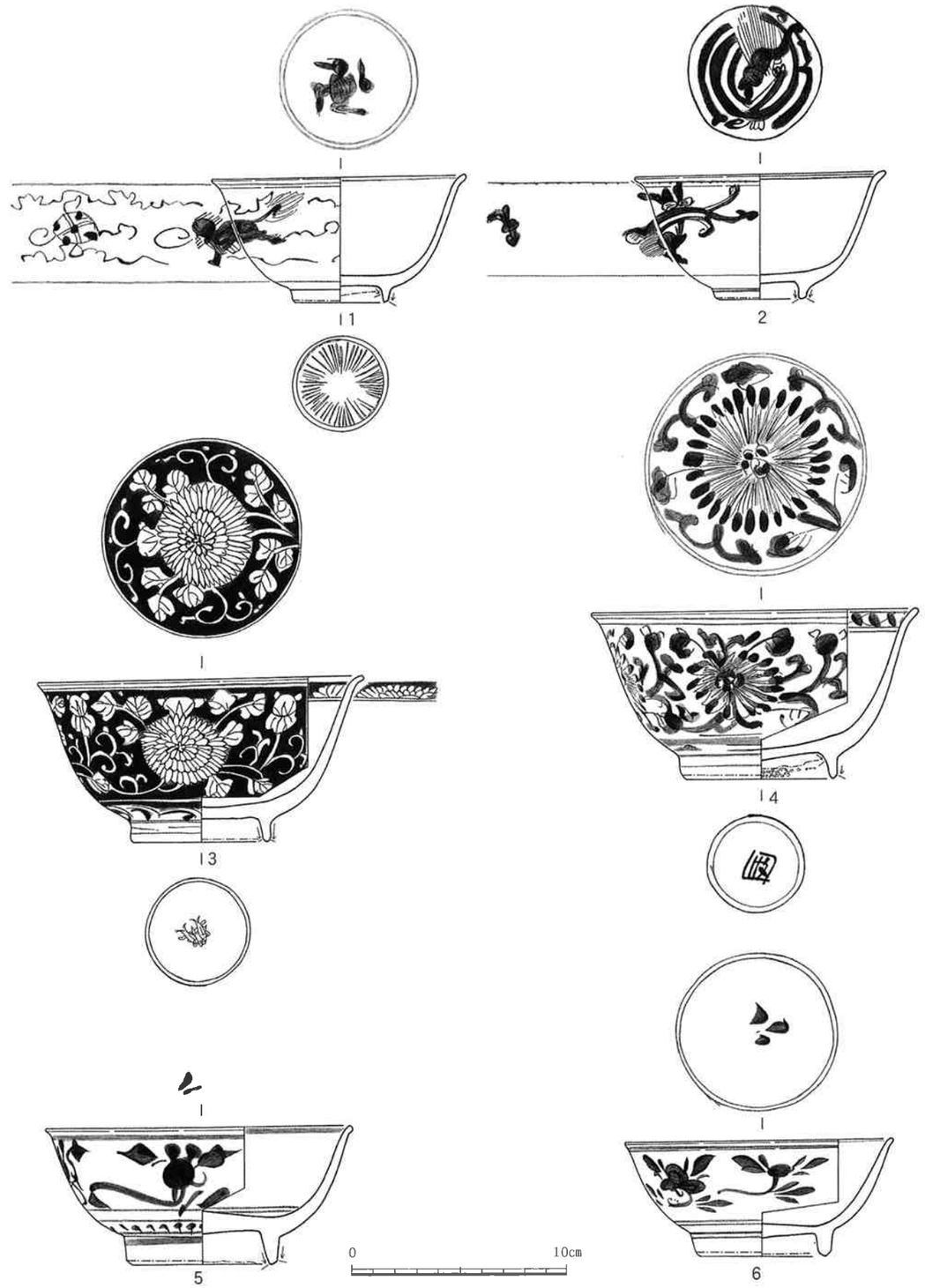
## 第39表c　染付観察一覧

単位:cm

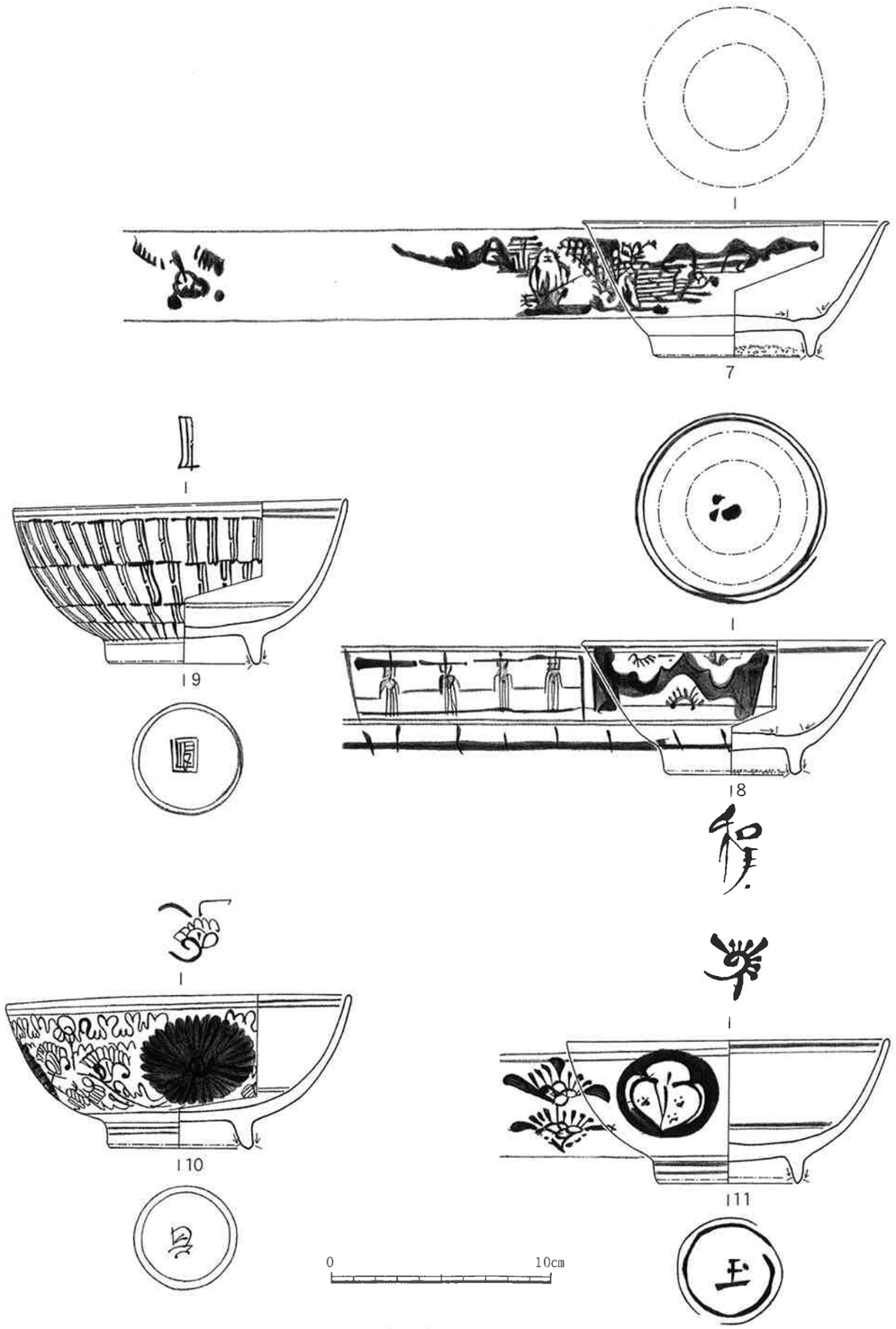
| 図番号 | | 器種 | 部位 | 口径 | 器高 | 底径 | 文様構成等観察事項 | 出土地 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第30図・図版22 | 27 | 碗 | 完形 | 14.8 | 6.7 | 7.8 | 外体面にかなり簡略化された感のある2種類の草文？を2対。灰白濁色の釉で、見込は蛇目状に釉剥。畳付と高台脇も釉剥。胎土は白色細粒子。 | 7号墓内一括 |
| | 28 | | 完形 | 13.4 | 5.2 | 6.6 | 外体面にかなり簡略化された感のある草文？を2つ。淡青灰色色の釉で、見込は蛇目状に釉剥。畳付と腰部の一部釉剥。釉は2度掛けか。胎土は白黄色細粒子。 | 10号墓内 |
| | 29 | | 完形 | 14.2 | 6.1 | 7.5 | 外体部に花文と蔓？が2つ、不明文が2つ。青灰色の釉で見込は蛇目状に釉剥。畳付も釉剥。胎土は白黄色で細粒子。 | 10号墓内№.3 |
| | 30 | 小碗 | 完形 | 8.8 | 5.6 | 4.1 | 外面口縁直下、高台脇、外底面に2条の圏線。外体面に魚・玉？等の文様群が3対。外底面に銘款。内面口縁直下見込に2条の圏線。見込中央に不明文。淡青白色の釉で、畳付は釉剥。胎土は観察できず。 | 27号墓№.68 |
| | 31 | | 完形 | 7.1 | 3.8 | 3.1 | 外面口縁直下、高台脇に2条の圏線。外体面に寿字文と花卉文を交互に3つずつ配する。内面口縁直下と見込に2条の圏線。見込中央に3点文。乳白色の釉で口禿。胎土は白色で微粒子。 | 11号墓焼骨＋11号墓土坑＋11号墓一括 |
| | 32 | | 完形 | 7.1 | 3.8 | 3.2 | 外面口縁直下の襷文を挟むように圏線。高台脇に2条の圏線。襷文は松？を配する。松？の直下に銘款？。内面は口縁直下、見込に2条の圏線。見込中央に外体面と同様の銘款？。乳白色の釉で口禿。畳付は癒剥。 | 1号墓 |
| | 33 | | 完形 | 7.2 | 4.2 | 3.3 | 外面口縁直下、高台脇に2条の圏線。外体部は草花文。内面口縁直下、見込に2条の圏線。見込中央に宝文？。乳白色の釉で口禿。 | 10号墓内一括 |
| | 34 | | 完形 | 10.0 | 5.1 | 4.5 | 外面口縁直下、腰部、高台脇に1条の圏線。外体部に「金名題口」と銘款。内面口縁直下に1条、見込に2条の圏線。見込中央に「貴」と銘款。淡青白色の釉で、畳付は釉剥。胎土は白色微粒子。 | 1号墓 |
| 第31図・図版22 | 35 | 小杯 | 口～底 | 5.2 | 3.1 | 2.5 | 外面口縁直下に2条、高台脇に1条の圏線。外体部に馬と不明文が2対。内面口縁直下に2条、見込に1条の圏線。見込中央は簡略化された荒磯文？。淡青白色の釉で口縁は口錆。畳付は釉剥。胎土は白色微粒子。 | 24号墓周辺 |
| | 36 | | 口～底 | 5.7 | 3.8 | 2.2 | 外面口縁直下に2条、高台脇に1条の圏線。外体面の文様は簡略化されすぎ判然としない。内面は口縁直下、見込に1条の圏線。見込中央の文様も簡略化されすぎ判然としない。白濁色の釉で畳付は釉剥。胎土は白色細粒子。 | 7号墓内一括 |
| | 37 | | 口～底 | 5.1 | 3.0 | 1.8 | 外面口縁直下、高台脇に1条の圏線。外体面は草花文。内面口縁直下、見込に1条の圏線。淡青灰色で畳付から外底面は釉剥。胎土は白灰色で細粒子。 | 16号墓 |
| | 38 | | 完形 | 4.4 | 2.9 | 2.0 | 外体面に花卉文と寿字文を2対ずつ。淡青白色の釉で口禿。畳付は釉剥。外底面は砂目が多量に付く。胎土観察はできず。 | 10号墓内一括 |
| | 39 | | 完形 | 4.4 | 3.1 | 1.9 | 外面口縁直下に襷文。体部は※状の文様。高台脇に1条の圏線。淡青白色の釉で口禿。畳付は釉剥。胎土は白色微粒子。 | 27号墓 |
| | 40 | | 完形 | 4.4 | 2.8 | 2.0 | 外面口縁直下に襷文。高台脇に1条の圏線。淡青白色の釉で口禿。畳付は釉剥。胎土は白色微粒子。 | 10号墓内№.13 |
| | 41 | | 完形 | 4.4 | 2.8 | 2.0 | 外体面に草花文と寿字文？を3対ずつ配する。白灰色の釉で口禿。畳付は釉剥。胎土観察できず。 | 10号墓内一括 |
| | 42 | 皿 | 完形 | 16.5 | 3.0 | 9.3 | 外体面は草文が2対。外底面に２条の圏線と中央に銘款。内面口縁直下に1条、見込に2条の圏線。見込は中心に不明文。唐草文と菱形の宝文と方形の宝文が2つ。淡青灰色の釉で畳付は釉剥。胎土は白色微粒子。 | 27号墓内 |
| | 43 | | 口～底 | 12.6 | 4.7 | 6.1 | 内面口縁直下に1条の圏線。内面は草花文・馬・鳥？。外底面は2条の圏線と銘款。淡青白色の釉で畳付は釉剥。胎土は白色微粒子。 | 10号墓内一括 |
| | 44 | | 口～底 | 14.6 | 2.5 | 7.2 | 内面口縁直下に連続文。見込に荒磯文？。灰色の釉で見込は蛇目状に釉剥。畳付と外底面は釉剥。胎土は灰色細粒子。今回報告の染付の中で最も特異な色と胎土である。 | 17号墓 |
| | 45 | | 完形 | 10.2 | 2.3 | 6.1 | 内面口縁直下に2条の圏線。内底に山水文。乳白色の釉で口禿。畳付から外底面は釉剥。貫入が目立つ。胎土は白色細粒子。 | 10号墓内一括 |
| | 46 | 壺 | 完形 | 4.1 | 7.1 | 3.4 | 外面腰部、高台脇に1条の圏線。頸部に○×の連続文。○×が４対。頸部脇に連続渦巻文。肩部から体部に芭蕉文が2つと芭蕉文と同型で中の絵が異なる文様をもつものが2つ交互に配される。淡青白色の釉で口錆。畳付は釉剥。胎土は白色微粒子。 | 1号墓 |

注　「№.」は取り上げ番号、「＋」は接合の意。



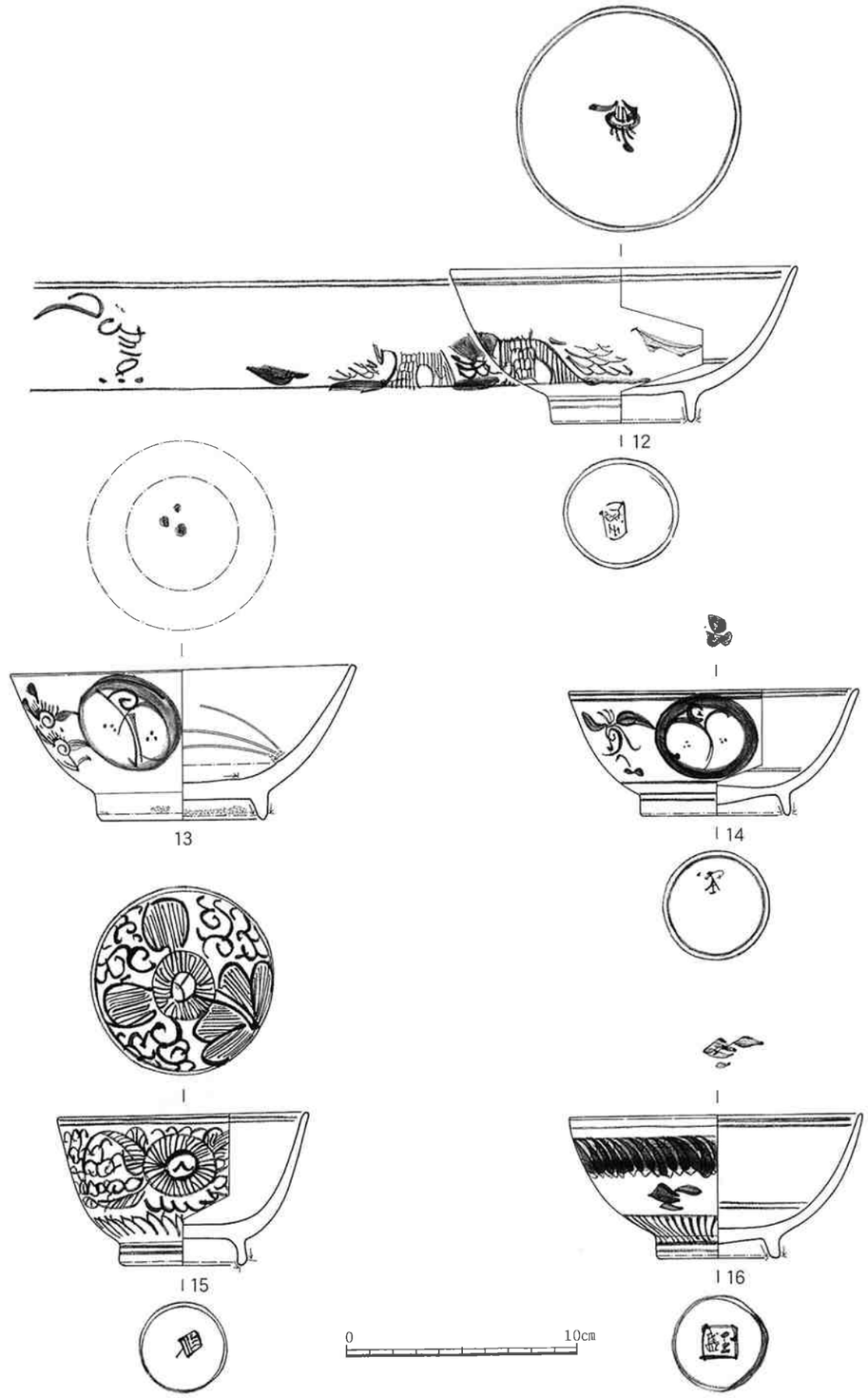



第26図　染付１　碗

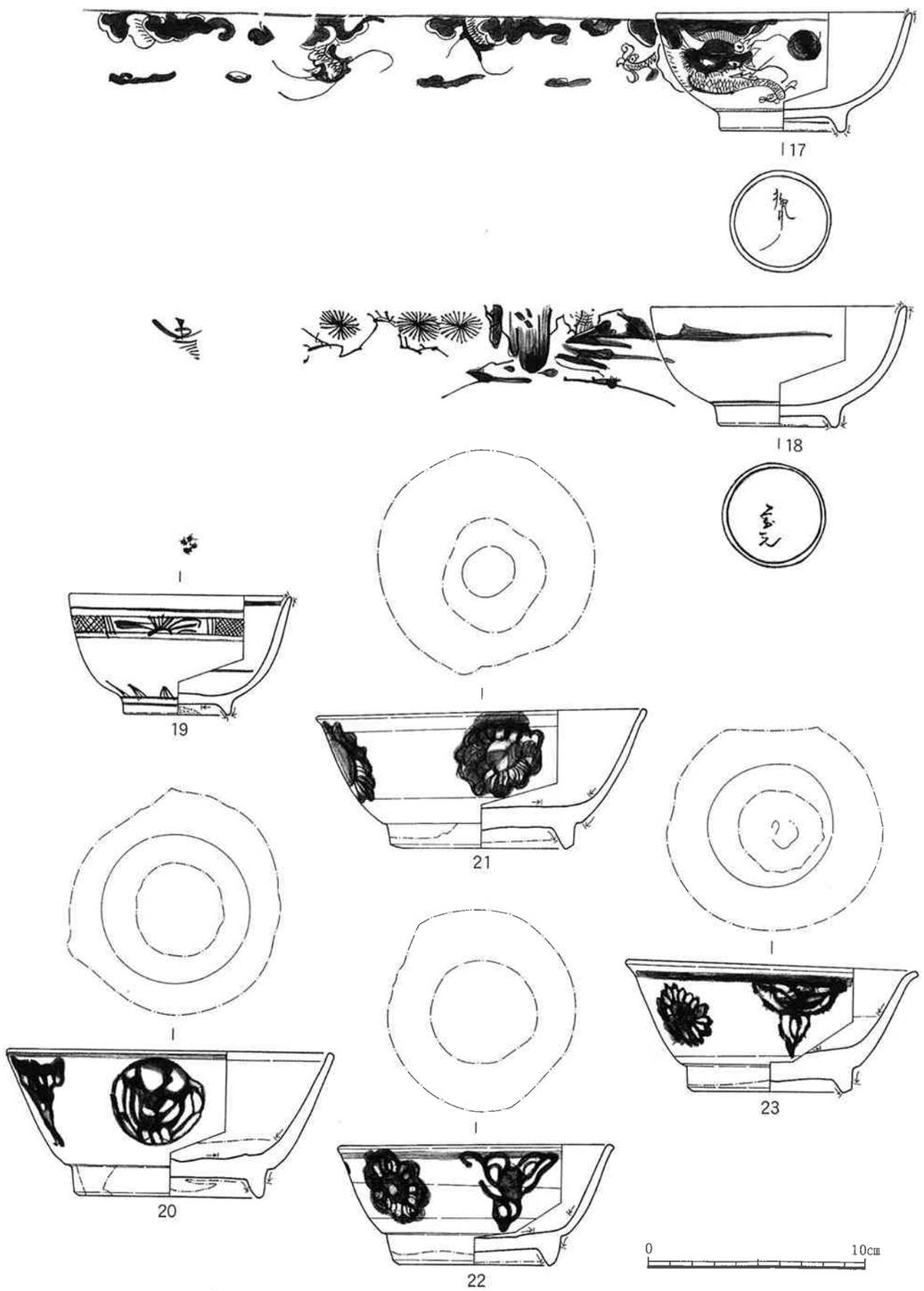



第27図　染付２　碗



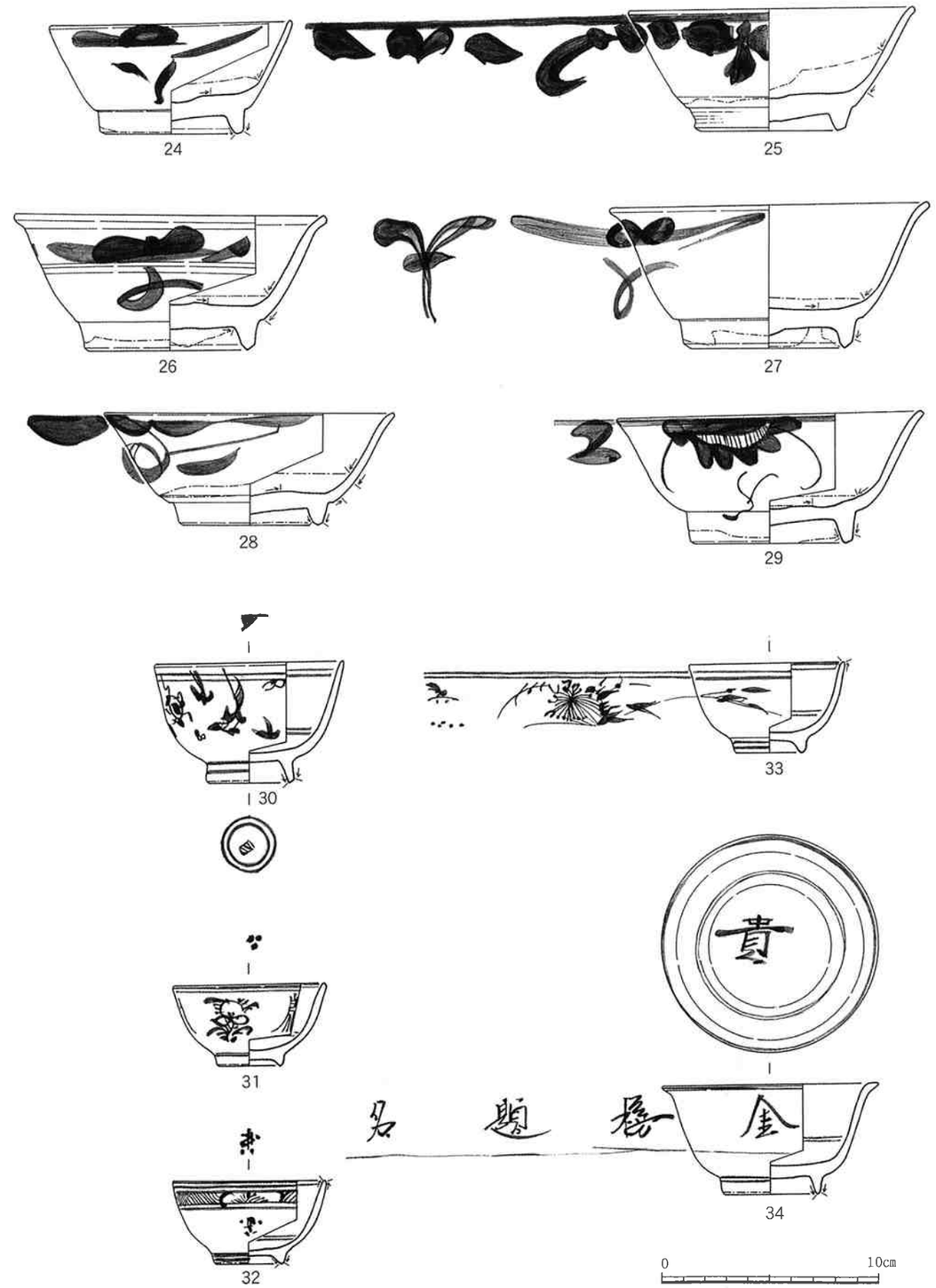



第28図　染付３　碗

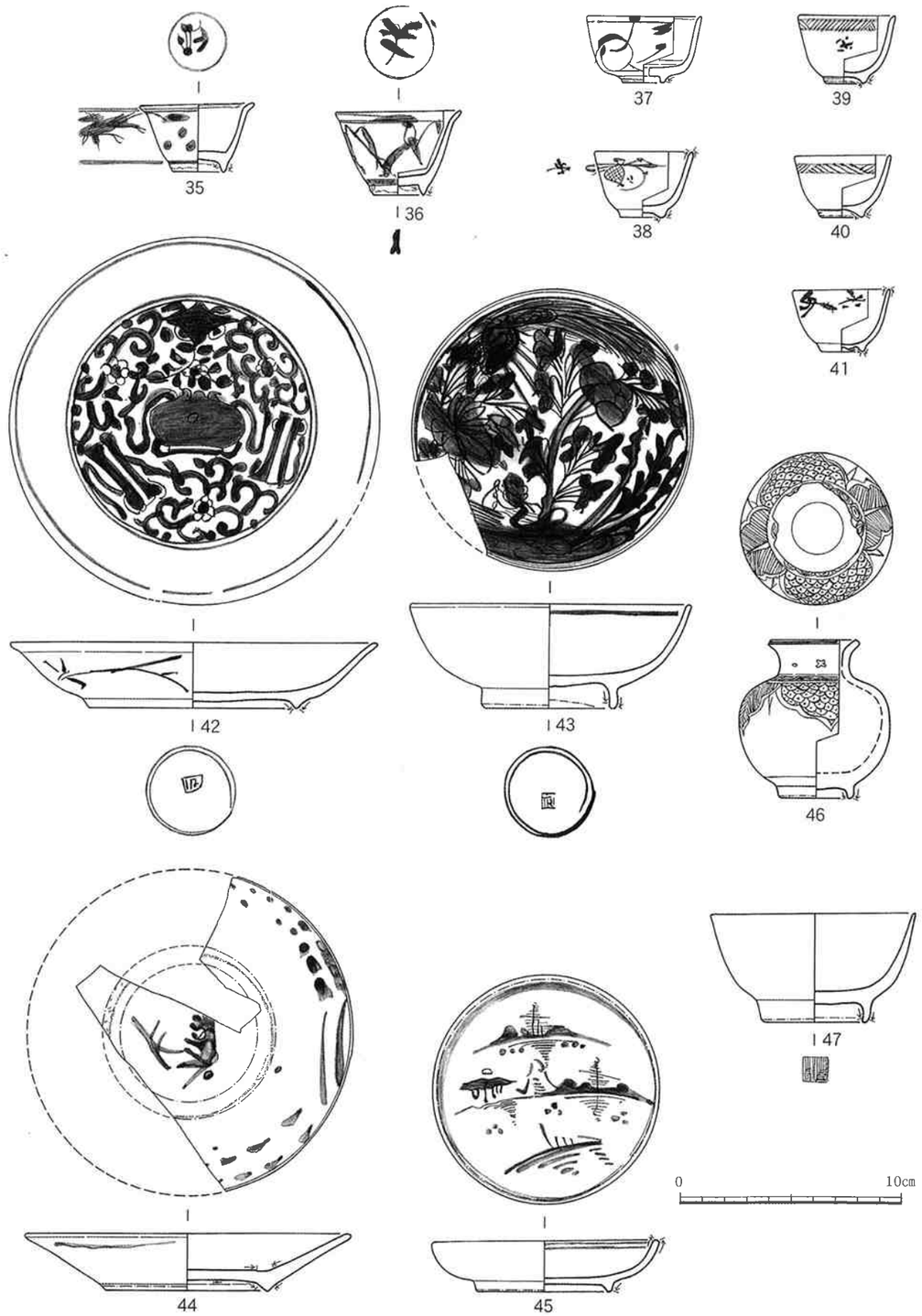



第29図　染付４　碗






第30図　染付５　碗(24～29)、小碗(30～34)




第31図　染付６　小杯(35～41)、皿(42～45)、壺(46)、青磁染付(47)



## 第６節　褐釉磁器

第32図１～４で、外面に褐色釉を施すものである。小杯のみが出土した。１・２の大きいタイプと３・４の小さいタイプがあり、前者がほとんどである。１・２のタイプは口縁が外反し、内底面に山水文を描く。３・４のタイプは無文で、４は型形成である。

## 第７節　瑠璃釉

第32図５～８である。型成形で外面に瑠璃釉を施す。口径と器高の比で分類が可能と思われ、口径が器高に比して大きい低平なタイプがほとんどである。高台の形成はルーズで籾殻が付着する資料が多く見られ、碁笥底状をなすタイプが１点ある。

## 第８節　中国産陶器

第32図９で灯明皿である。薄手の作りで口唇部の張り出しは小さい。低平な器形で内面に褐色釉を施す。口唇部に煤の付着はみられない。

第40表　瑠璃釉出土状況

| 器種＼出土地 | | 1号墓 | 2号墓 | 6号墓 | 7号墓 | 10号墓 | 11号墓 | 14号墓 | 15号墓 | 25号墓 | 26号墓 | 30号墓 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 小杯 | 完形 | 3 | 2 | 1 | 3 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 3 | 1 | 20 |

第41表　褐釉磁器・瑠璃釉・中国産陶器観察一覧

単位:cm

| 図番号 | | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 観察事項 | 出土地 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第32図・図版23 | 1 | 褐釉磁器 | 小杯 | 9.0 | 4.9 | 4.7 | 染付。口縁は外反。外面に褐色釉を施し、内面、外底面に絵付け。内面には山水文、外底面は不明の文様。 | 27号墓内No.26 |
| | 2 | | | 7.0 | 3.9 | 3.8 | 染付。口縁は弱く外反。高台を斜めに削る。外面に褐色釉、内面に山水文、外底面に不明の文様。 | 10号墓内 |
| | 3 | | | 4.8 | 2.7 | 2.3 | 口縁は外反。外面に褐色釉を施す。 | 27号墓No.5 |
| | 4 | | | 4.5 | 2.6 | 2.4 | 型成形。口縁は直口。口禿で外底面も褐色釉がかかる。 | 1号墓 |
| | 5 | 瑠璃釉 | 小杯 | 4.3 | 2.5 | 1.8 | 型成形。器高は高め。口唇、畳付以外は総釉。外面は淡い瑠璃釉。 | 1号墓 |
| | 6 | | | 4.4 | 2.0 | 2.2 | 型成形。低平な器形。口唇、畳付以外は総釉。外面はくすんだ瑠璃釉。 | 11号墓土坑 |
| | 7 | | | 3.6 | 1.6 | 1.8 | 型成形。低平な器形。口唇、畳付以外は総釉。かなり淡い瑠璃釉。畳付に籾殻が付着。 | 1号墓 |
| | 8 | | | 3.7 | 2.4 | 1.7 | 型成形。底部以外は総釉。碁笥底。外面に瑠璃釉。 | 30号墓 |
| | 9 | 陶器 | 皿 | 9.7 | 2.0 | 4.4 | 灯明皿。内面に淡い褐色釉を施す。内外ともに轆轤痕が明瞭。外底は糸切り後にケズリ？ | 1号墓 |

注　「No.」は取り上げ番号。

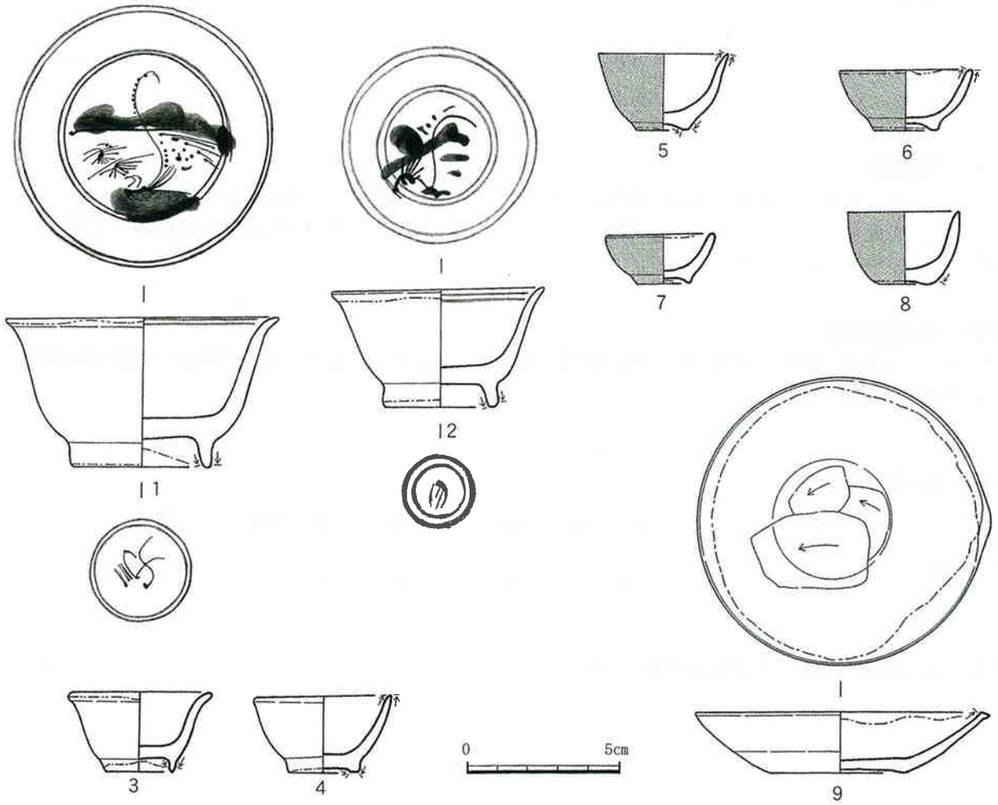
## 第９節　色絵

第33図で、いずれも中国産の色絵で、福建・広東もしくは徳化窯で生産されたものと思われる。碗、皿、小杯が確認できる。詳細は観察表に記した。

碗は１～３で、いずれも高台径が広く、口径が大きいのに対して器高が低いタイプである。

皿は４～７である。４～６は口径が12.0～15.0cmで、７は口径が8.0cmの小皿である。

小杯は８～10である。８・９は型成形で絵付けは外面に草花文、10は８・９より器高の高いタイプで内面に梅花文を描く。




第32図　褐釉磁器(1～4)、瑠璃釉(5～8)、中国産陶器(9)

第42表　色絵観察一覧

単位:cm

| 図番号 | | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 観察事項 | 出土地 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第33図・図版23 | 1 | 碗 | 12.8 | 6.4 | 7.4 | 口縁は外反し端反状に形成。低平な器形で高台は大きく高い。高台は斜めに削る。畳付以外は総釉で、灰白色の釉を施す。素地は灰白色。絵付けは朱色を主体に、口縁部に菊花や漢文の区画文、胴下部に蓮弁状文を描く。 | 1号墓＋2号墓周辺＋2号墓石積み |
| | 2 | | 12.2 | 6.3 | 6.3 | 口縁は弱く外反し、高台は広く高い。畳付以外は総釉で、全体的に細かな貫入がみられる。外面に丸文、花文を連続的に描く。 | 1号墓 |
| | 3 | | 11.4 | 5.0 | 5.9 | 直口口縁をなす。畳付は無釉、内底面は蛇の目釉剥ぎする。釉、素地ともに灰白色で、素地には黒色細粒を含む。外面に丸文、花文を連続的に描く。 | 19号墓周辺＋20号墓周辺 |
| | 4 | 皿 | 15.5 | 3.4 | 8.9 | 口縁は弱く外反し、畳付以外は総釉。内面は口縁に格子と花文の区画文、底面は花文を描く。 | 1号墓 |
| | 5 | | 15.3 | 3.1 | 8.8 | 口縁は弱く外反し、畳付以外は総釉。内面は底面に寿字の丸文、その周囲に格子の丸文と花文を描く。 | 1号墓 |
| | 6 | | 12.8 | 2.8 | 6.8 | 直口口縁をなす。釉、素地とも暗い灰白色で、素地は粗い。畳付は無釉で内底は蛇の目釉剥ぎか。内面は口縁に格子と不明の文様の区画文、内底にも描くが不明。 | 19号墓周辺 |
| | 7 | | 8.0 | 1.9 | 5.8 | 弱く外反する小皿。畳付と高台内の一部は無釉。外底面に籾殻付着で「王」？の浮文字。内面は崩れた寿字の丸文に、周辺は不明の文様が確認できる。 | 32号墓 |
| | 8 | 小杯 | 4.3 | 2.6 | 1.8 | 型成形。全面に釉を施す。畳付は砂？が付着する。外面に緑、朱色で草花文？を描く。 | 10号墓内一括 |
| | 9 | | 4.0 | 2.2 | 1.8 | 型成形。畳付以外は総釉。外面に緑色で草花文を描く。 | 15号墓内 |
| | 10 | | 4.5 | 3.4 | 1.9 | 器高が高いタイプ。畳付以外は総釉で、素地は白色。内面には青色で梅花文を描く。 | 32号墓 |

注　「＋」は接合の意。

第33図　色絵　碗(1～3)、皿(4～7)、小杯(8～10)

## 第10節　褐釉陶器

中国産とタイ産が得られた。量的には少なく、確認できる器種は壺のみである。タイ産は３点のみ（１点は底部で未図化）で、他はすべて中国産である。

隣接する島仲村跡遺跡では遺物包含層から得られた褐釉陶器のうちタイ産はわずか３％程であった。与那原遺跡、慶田崎遺跡でもタイ産はほとんどみられないようであるから、与那国島における褐釉陶器のあり方を示すものと考えられよう。また、これら３遺跡では褐釉陶器の出土量が卓越するが、本古墓群では沖縄産陶器および近世の中国・本土産陶磁器が圧倒的である。そのため、本古墓群が形成された時期に与那国では陶磁器に占める褐釉陶器の量が減少したと考えてよいだろう。

### １．中国産褐釉陶器

第34図１～４である。破片は比較的多いが、図化可能な資料は少ない。

１は側面観が算盤珠形をなす四耳壺の完形品である。カンジン原古墓群（その他の墓）で出土例がある。カンジン原例に比して胴最大径の位置が高い。

２・３は口縁部である。２は肥厚部を「フ」の字状に形成するタイプ。３は「T」字状に形成し、外側は鈎状を呈するタイプである。

４は底部である。わずかに上げ底をなす。

### ２．タイ産褐釉陶器

第34図５・６である。上述のとおり出土数は少ない。

５は壺の口縁部である。口縁肥厚部を丸く形成するタイプである。

６は四耳壺の完形品で、これまで確認されているタイプのものと大過ない。10号墓内と同墓前庭部採集の資料を接合したもので、本来は納骨器に転用していたものを移転に当たって廃棄したと思われる。未図化の底部は６と同様のタイプと思われる。

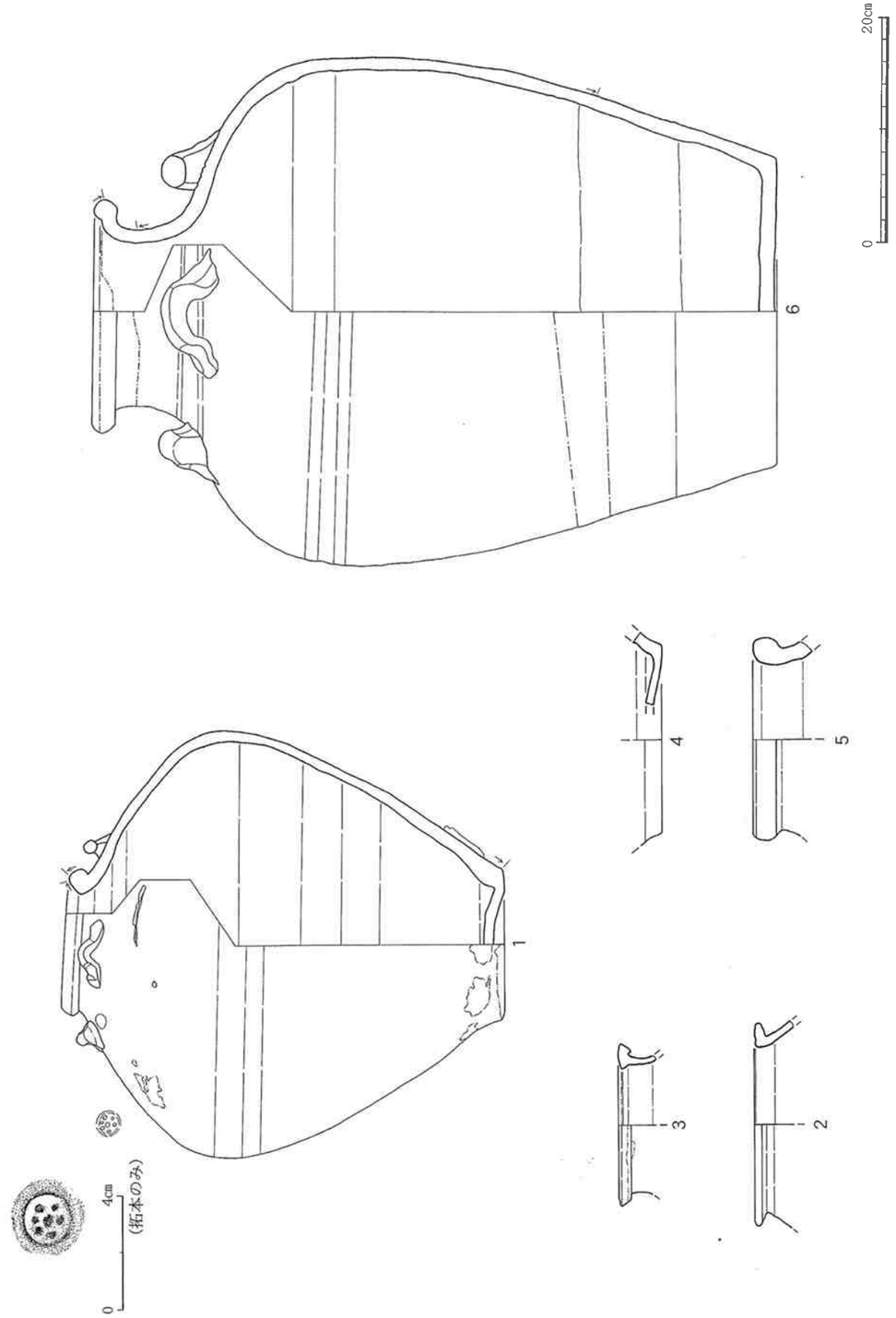
第43表　褐釉陶器観察一覧

単位:cm

| 図番号 | | 種別 | 口径 | 器高 | 底径 | 観察事項 | 出土地 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第34図・図版24 | 1 | 中国 | 13.2 | 39.7 | 13.6 | 四耳壺。側面観は算盤珠形である。外面に褐色の釉を施し、底部は露胎。口縁部、腰部は重ね焼きで釉が剥がれる。肩部にスタンプ。口縁肥厚部は丸く形成し、底部は上げ底。 | 1号墓+2号墓周辺+7号墓内 |
| | 2 | | 18.0 | — | — | 口縁肥厚部を「フ」の字状に形成。口縁上面をくぼませる。類例から肩部で開く器形の壺と思われる。褐色の釉を施し、素地は灰白色、褐色の鉱物粒を含む。 | 24号墓周辺 |
| | 3 | | 14.4 | — | — | 口縁肥厚部を「T」字状に形成、外側は鈎状を呈する。類例から肩部で開く壺か。暗褐色の釉を施し、素地はにぶい黄褐色。 | 16号墓 |
| | 4 | | — | — | 16.8 | 底部。やや上げ底をなす。釉はほとんど剥落、素地は灰白色～黄橙色。 | 6号墓内 |
| | 5 | タイ | 18.0 | — | — | 口縁肥厚部を丸く形成する。頸部は長く伸びないタイプの壺か。釉はほとんど剥落、素地は暗赤褐色で、白色・褐色の鉱物粒を多く含む。 | 7号墓周辺 |
| | 6 | | 21.0 | 61.2 | 27.5 | 四耳壺。口縁部を丸く形成し、内側をくぼませ凹線が巡る。頸部に1条及び3条の圏線が巡る。外面は暗オリーブ灰色～黒色の釉を施す。 | 10号墓内+同前庭部 |

注　「+」は接合の意。






第34図　中国産褐釉陶器（1～4）、タイ産褐釉陶器（5・6）

第44表　中国産褐釉陶器出土状況

| 出土地＼器種 | | 壺 | | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 完形 | 口 | 胴 | 底 | |
| 1号墓＋2号墓周辺＋7号墓 | | 1 | | | | 1 |
| 6号墓 | 内 | | | | 1 | 1 |
| 7号墓 | 内 | | | 3 | | 3 |
| | 石積み | | 1 | 2 | | 3 |
| 11号墓 | 内 | | | 2 | | 2 |
| 16号墓 | 内 | | 1 | | | 1 |
| | 覆土 | | | 1 | | 1 |
| 24号墓 | 石積み | | | 5 | | 5 |
| 地区西側 | | | 1 | 20 | 1 | 22 |
| 合　計 | | 1 | 3 | 33 | 2 | 39 |

注　「＋」は接合の意。

## 第11節　本土産青磁

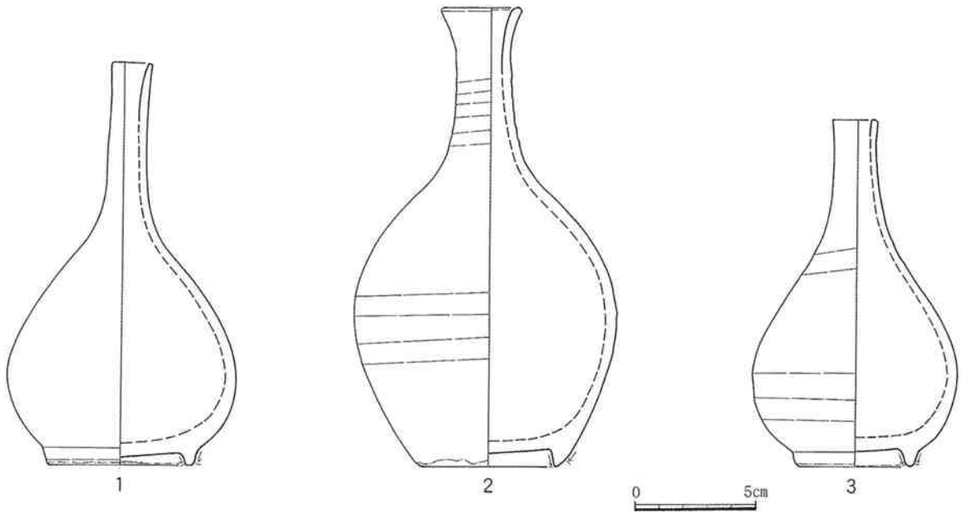
瓶が２点得られ第35図１に1点示した。鶴首の瓶で頸は細長く、胴最大径の位置は低く下ぶくれを呈する。淡い青緑色の釉を畳付以外に総釉。高台は斜めに削り面取りする。17世紀末（1690年代）～18世紀前半の所産。口径1.7cm、器高16.4cm、底径6.0cmで、１号墓出土。

## 第12節　本土産白磁

第35図２・３である。瓶のみが出土した。

２は口縁が弱く外反するタイプで、底部は碁笥底をなす。畳付以外は濁った感じのする灰白色の釉を施し、素地は灰白色。頸部は鉋痕が明瞭である。17世紀後半～18世紀前半の所産。口径3.3cm、器高18.7cm、底径6.0cmで、１号墓出土。西表島上村遺跡（インガー）からの採集例があり、墓に伴うものとする（沖縄県教委1991）。

３は口縁を打ち欠いて研磨を施す。畳付以外は総釉で白濁した釉を施し、全体的に細かな貫入がみられる。高台は斜めに削る。わずかに鉋削りが確認できる。17世紀後半の所産である。底径4.9cmで、残存の器高は14.1cm。６号墓出土。




第35図　本土産青磁(1)、本土産白磁(2･3)



## 第13節　本土産染付

本土産染付は瓶がほとんどを占め、碗、皿などが伴う。以下、概要を記し、詳細は観察表に示した。

碗

第36図１～７は碗である。外面に草花文などを描くタイプが多い。高台がやや内傾し、腰が丸く張り直口口縁を呈する１～６のタイプと、高台が高く僅かに開き、腰があまり張らずに大きく開く直口口縁を呈する７のようなタイプがある。４のみは内底面を蛇の目釉剥ぎする。第37図13は、小碗である。

皿

第37図８～12は皿である。８は初期伊万里1650年代の所産である。

小坏

第37図14は小杯である。１点のみの出土で、外面に芭蕉文を施すことから日本的なものへと移る時期のタイプのようである。

猪口

第38図15～17は蕎麦猪口である。16・17は、肥前・有田窯、1660～1670年代のタイプで、底部を碁笥底状に成形し外底面に変形字を銘款する。同様な資料が東大構内遺跡で２例確認され器形は似るが、東大資料は外底面に「宣徳年製」銘が入る。本資料はやや太ぶりで、松ボックリが加えられる。

油壺

第38図18～21は油壺である。器形は体部の最大系が肩部にくる18のタイプ、腰部にくる19・20のタイプ、胴部中央にくる21のタイプなどがある。

瓶

第38図22～第39図は瓶で、全て肥前系である。総数で58点出土し、本土産染付全器種のうち50％を占める。特に27号墓からは９点出土している。大まかな器形は胴部が張り頸部が伸び口縁が外反する。文様は網目文を主体にいくつかみられる。ここでは文様構成により分類した。また、肩部の圏線から上を上位文様帯、肩部と底部の圏線間を下位文様帯とする。分類は次のとおりである。また、県内出土の肥前系瓶は13.0～14.0cm前後であるが、それ以上の大型瓶がみられる。

Ⅰ類：上位に鋸歯文、下位に網目文を施す。（第38図22～24）
Ⅱ類：上位に簡略化した鋸歯文、下位に網目文を施す。（第38図25）
Ⅲ類：Ⅱ類の文様構成で底部が碁笥底をなす。（第39図26）
Ⅳ類：上位に雲文？下位に網目文を施す。（第39図27）
Ⅴ類：上位に鋸歯文、下位に植物や動物文を施す。（第39図28）
Ⅵ類：上位に芭蕉文、下位に植物や動物文を施す。（第39図29）
Ⅶ類：上位は無文で、下位に植物文を施す。（第39図・31）
Ⅷ類：上位に鋸歯文、下位に簡略化した網目文と丸文を施す。（第39図32）
Ⅸ類：上位に芭蕉文を施し、下位は無文。（第39図33）

第45表　本土産染付出土状況

| 出土地＼器種・分類 | | 碗 | | | | 小杯 | 蕎麦猪口 | 皿 | 瓶 | | | | | | | | | | | | | | 油壺 | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | a | | | b | c | d | e | | | f | | g | h | i | | | | |
| | | 完形 | 口 | 胴 | 底 | 完形 | 完形 | 完形 | 完形 | 口 | 底 | 完形 | 底 | 完形 | 完形 | 底 | 完形 | 底 | 完形 | 完形 | 底 | 完形 | 完形 | 胴 | 底 | |
| 1号墓 | 内 | 1 | | | | | 1 | 3 | 3 | | 1 | | | | 1 | 1 | 1 | | 1 | | | 1 | 1 | | 1 | 16 |
| 6号墓 | 内 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 7号墓 | 内 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 2 |
| | 石積み | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | 2 |
| 10号墓 | 内 | 4 | | | | 1 | 1 | 1 | 2 | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | 11 |
| 11号墓 | 内 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 16号墓 | 覆土 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 前庭覆土 | | 2 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 4 |
| 地区北側 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 24号墓 | 石積み | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 27号墓 | 内 | | | | | | | 3 | 6 | | 1 | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | 12 |
| 地区西側 | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| 30号墓 | 内 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 33号墓 | 内 | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| 不明 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 合　計 | | 7 | 2 | 2 | 1 | 1 | 4 | 8 | 13 | 1 | 3 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 58 |

## 第46表a　本土産染付観察一覧

単位:cm

| 図番号 | | 器種 | 部位 | 口径 | 器高 | 底径 | 観察事項 | 産地 | 出土地 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第36図・図版25 | 1 | 碗 | 完形 | 10.1 | 5.7 | 4.2 | 外体面に折枝梅文。腰部に1条と高台側面に2条の圏線。外底面に銘款。淡青灰色の釉。畳付は釉剥で砂が付着する。 | 波佐見 | 10号墓内No.2 |
| | 2 | | 完形 | 9.9 | 5.5 | 3.9 | 外体面に折枝梅文と草花文。腰部に1条、高台側面に2条、外底面に1条の圏線。外底面に銘款。淡青白色の釉。畳付は釉剥で砂が付着する。器面がザラつく。 | 波佐見 | 7号墓内一括 |
| | 3 | | 完形 | 11.0 | 5.9 | 4.0 | 外体面に折枝梅文？。腰部に1条、高台側面に2条、外底面に1条の圏線。淡青白色の釉で、見込を蛇目状に釉剥する。見込の露胎部に円形に砂が付着する。畳付は釉剥。胎土は白色微粒子。 | 波佐見か | 30号墓 |
| | 4 | | 完形 | 11.1 | 5.4 | 4.2 | 外体面に折枝梅文。腰部に1条、高台側面に2条の圏線。白灰色の釉で、見込は蛇目状に釉剥。畳付は釉剥し砂が付着する。目立たないが貫入がみうけられる。胎土は白色微粒子。 | 波佐見系 | 10号墓内No.1 |
| | 5 | | 完形 | 10.0 | 5.4 | 3.8 | 外面口縁直下と腰部に1条、高台脇に2条の圏線。文様は表現が不明な連続文。乳白色の釉で畳付は釉剥。貫入が目立つ。胎土は白色微粒子。 | 肥前系 | 1号墓 |
| | 6 | | 完形 | 11.1 | 6.1 | 4.0 | 外面口縁部から腰部まで簡略化された網目文。腰部に1条、高台脇に2条、外底面に1条の圏線。灰白色の釉で畳付は釉剥し、砂が付着する。目立たない貫入が僅かにみられる。 | | 10号墓内No.3 |
| | 7 | | 完形 | 13.7 | 7.1 | 5.4 | 外面口縁直下に2条、高台脇に1条の圏線。外体面は簡略化された龍と宝珠が2対。内面口縁直下に１条、見込に2条の圏線。見込に簡略化された荒磯文。灰白色の釉で畳付は釉剥。 | 肥前 | 10墓号内一括 |
| 第37図・図版25 | 8 | 皿 | 口～底 | 18.8 | 3.1 | 8.6 | 外面腰部に1条、高台脇に2条、外底面に1条の圏線。見込に2条の圏線。内体面に雁が飛ぶ山水画。内底面に牡丹と葉。白灰色の釉で畳付は釉剥。目立たない貫入がみうけられる。胎土は白色微粒子。 | 有田 | 1号墓 |
| | 9 | | 完形 | 14.4 | 3.1 | 7.9 | 内体面に菊唐草文？見込に2条の圏線。見込中央にはコンニャク印判。灰白色の釉で、見込は蛇目状に釉剥。露胎部分に砂が僅かに付着する。畳付も釉剥で砂が付着する。胎土は白色微粒子。 | | 1号墓 |
| | 10 | | 完形 | 13.0 | 3.2 | 7.8 | 外面腰部から高台脇に3条、外底面に1条の圏線。外体面は表現不明の文様。外底面に銘款。見込は2条の圏線。内体面は表現不明の文様が3対。見込中央にコンニャク印判。淡青灰色の釉で畳付は釉剥し、砂が付着する。胎土は白色微粒子。 | | 27号墓No.43 |
| | 11 | | 口～底 | 12.6 | 3.7 | 4.3 | 内体面に格子文？。見込に2条の圏線。淡青白色の釉で、見込は蛇目状に釉剥する。畳付は釉剥し、砂が付着する。目立たない貫入がある。胎土は白灰色の細粒子。 | | 10号墓内一括 |
| | 12 | | 口～底 | 11.7 | 3.1 | 3.9 | 内体面に表現不明な文様。畳付は面取りされる。灰白濁色の釉で、見込は蛇目状に釉剥。露胎部分に粒子の細かい砂が全体的に付着する。畳付から外底面は露胎。胎土は白色微粒子。 | | 27号墓No.52 |
| | 13 | 小碗 | 完形 | 9.4 | 5.4 | 4.0 | 外面口縁直下、腰部、高台脇に1条の圏線。外体部に草花文。淡青灰色の釉で畳付は露胎。細かい貫入が目立つ。胎土は白色微粒子。 | 有田 | 10号墓内一括 |
| | 14 | 小杯 | 完形 | 3.8 | 2.8 | 1.6 | 外面に渦文と芭蕉文。腰部と高台脇に1条の圏線。外底面には「大明」と銘款。淡青白色の釉で畳付は釉剥し、砂が付着する。胎土は白色微粒子。 | | 10号墓内一括 |
| 第38図・図版26 | 15 | 蕎麦猪口 | 完形 | 9.6 | 5.4 | 4.1 | 外面口縁直下に1条、底部に2条の圏線。口縁直下に糸瓜文？。外底面に変形字。白灰色の釉で畳付は釉剥。貫入が目立つ。胎土は白色微粒子。 | 有田 | 24号墓周辺 |
| | 16 | | 完形 | 9.7 | 5.5 | 4.0 | 外面口縁直下に1条、底部に2条の圏線。外体面に松文。外底面に変形字。淡青白色の釉で畳付は釉剥。僅かに貫入がみられる。 | 有田 | 1号墓 |
| | 17 | | 完形 | 9.6 | 5.3 | 4.2 | 外面口縁直下に1条、底部に2条の圏線。外体面に松文。外底面に変形字。淡青白色の釉で畳付は釉剥。 | 有田 | 24号墓周辺 |

注　「No.」は取り上げ番号。

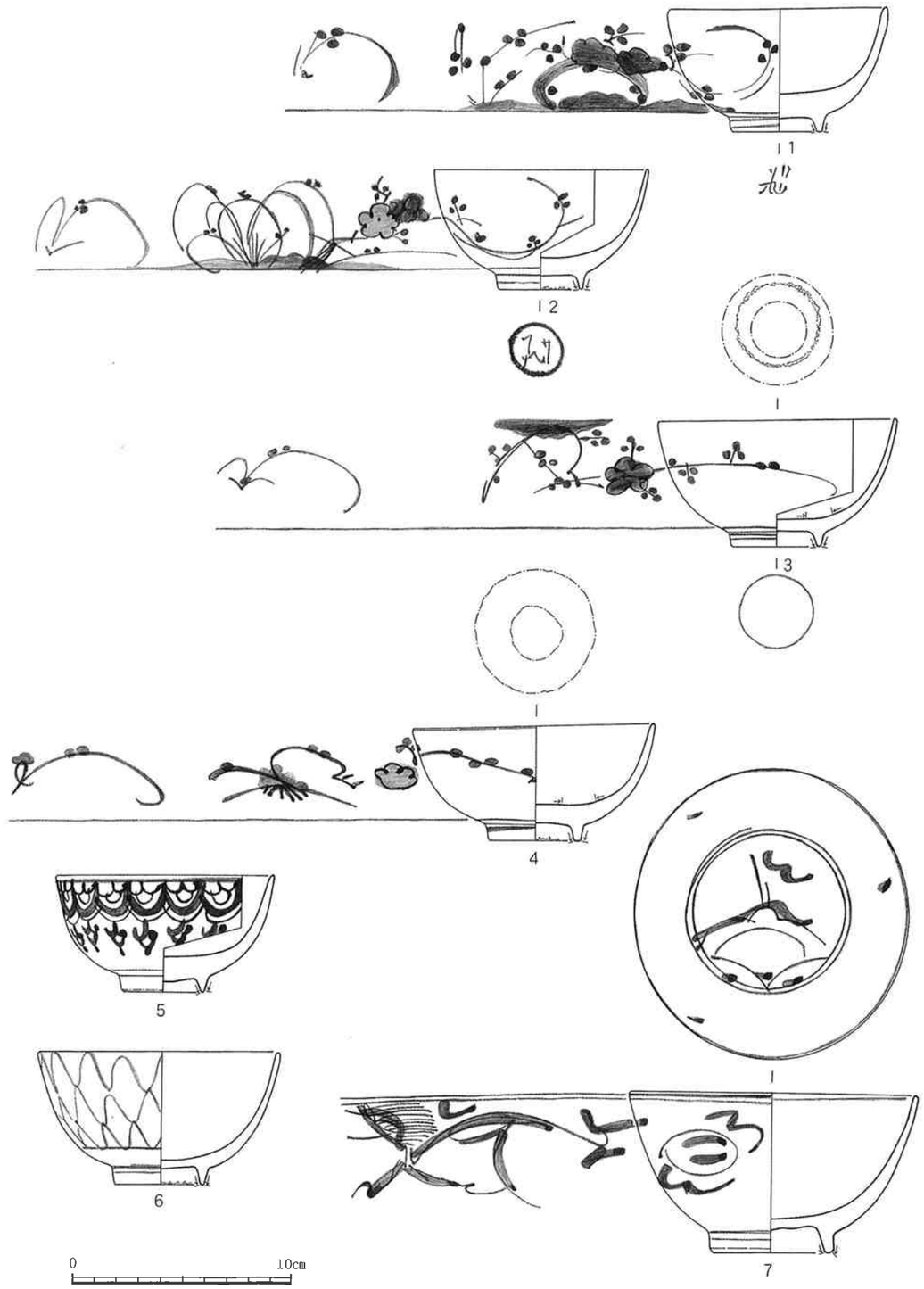


## 第46表b　本土産染付観察一覧

単位:cm

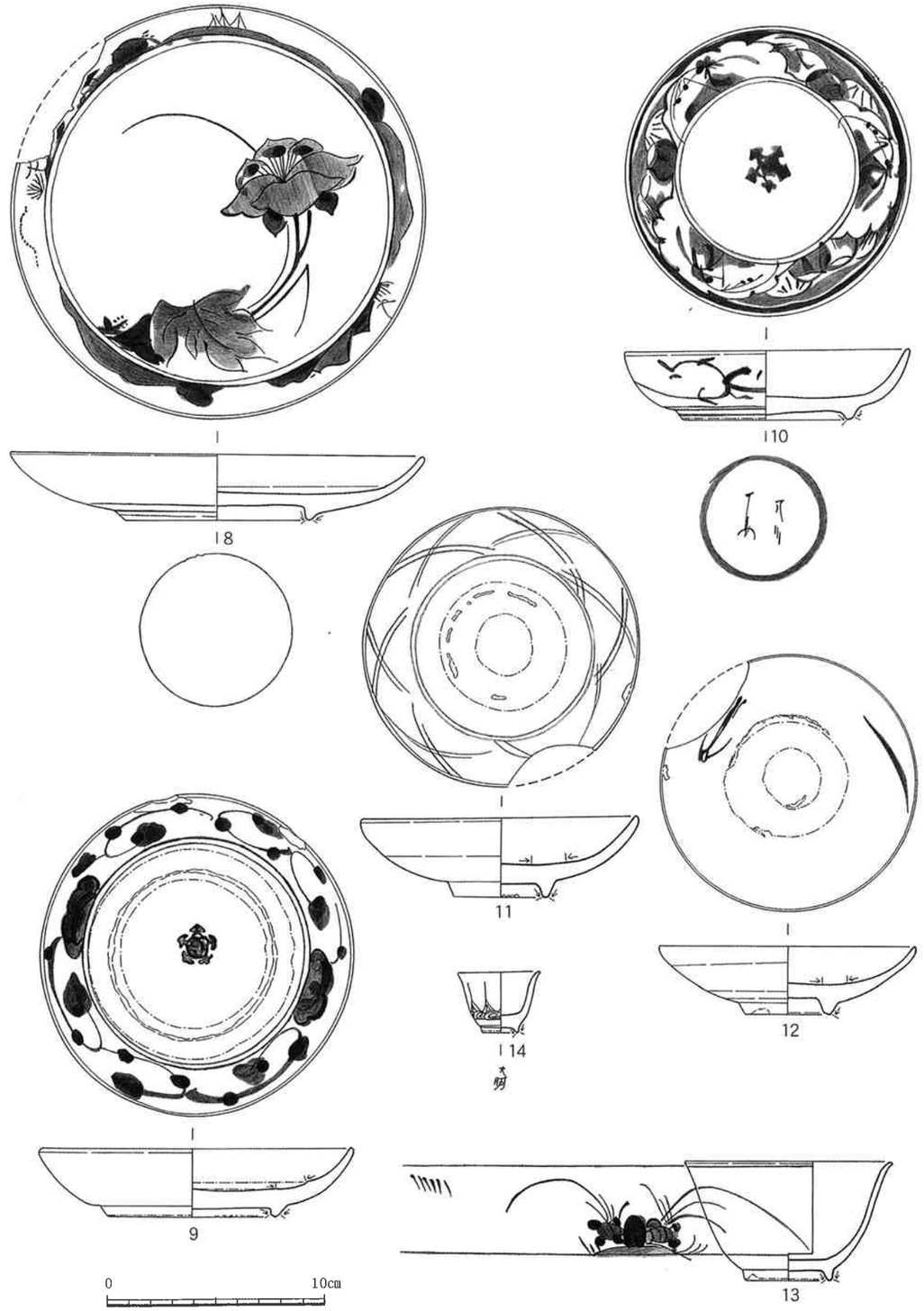
| 図番号 | | 器種 | 部位 | 口径 | 器高 | 底径 | 観察事項 | 産地 | 出土地 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第38図・図版26 | 18 | 油壺 | 胴 | － | － | － | 外面頸部脇に2条、最大径の肩部に1条の圏線。肩部の圏線の上に表現が不明な文様。体部に草文？淡青灰色の釉。胎土は灰白色で微粒子。 | | ・16号墓前庭覆土 |
| | 19 | | 完形 | 3.2 | 12.0 | 5.5 | 外面頸部直下に2条、高台側面に1条の圏線。頸部直下に圏線直下に蔓草文とその対面に蝶。淡青灰色の釉で畳付は釉剥。高台から胴部中央まで貫入がはいる。 | | 1号墓 |
| | 20 | | 完形 | － | － | 6.4 | 外面頸部直下に2条、やや離れて1条、腰部、高台脇に1条の圏線。体部は梅に鶯の文様。淡青灰色の釉で畳付は釉剥。胎土は白色微粒子。 | | 7号墓内一括 |
| | 21 | | 頸～底 | － | － | 4.3 | 外体部は折枝梅文。緑灰色の釉。胎土は灰白色微粒子。 | | 1号墓 |
| | 22 | 瓶 | 完形 | 3.6 | 15.0 | 4.9 | 頸部直下に2条、やや離れて1条、腰部に1条、高台脇に2条の圏線。上位文様帯は鋸歯文。下位文様帯の網目文は2段。淡青白色の釉で畳付は釉剥。胎土は白色微粒子。 | 肥前系 | 33号墓 |
| | 23 | | 頸～底 | － | － | 6.8 | 大型のタイプである。頸部直下に2条、やや離れて1条、腰部に1条、高台脇に２条の圏線。上位文様帯は鋸歯文、下位文様帯の網目文は3段。淡青灰色の釉で畳付は釉剥。胎土は白色微粒子。 | 肥前系 | 27号墓内No.28 |
| | 24 | | 頸～底 | － | － | 4.7 | 大型のタイプである。頸部直下に2条、やや離れて1条、腰部に1条、高台脇に2条の圏線。上位文様帯は鋸歯文、下位文様帯の網目文は4段。白灰色の釉で畳付は釉剥。胎土は白色微粒子。 | 肥前系 | 1号墓 |
| | 25 | | 完形 | 3.9 | 17.6 | 5.5 | 頸部直下に2条、やや離れて1条、腰部、高台脇に1条の圏線。上位文様帯は簡略化された鋸歯文、下位文様帯の網目文は2段。白灰色の釉で畳付は釉剥。 | 肥前系 | 27号墓内No.65 |
| 第39図・図版26 | 26 | 瓶 | 肩～底 | － | － | 5.3 | 大型のタイプである。頸部直下に2条、やや離れて1条、腰部に1条の圏線。上位文様帯は簡略化された鋸歯文、下位文様帯の網目文は3段。淡青灰色の釉で畳付は癒剥。胎土は白灰色微粒子。 | 肥前系 | 6号墓 |
| | 27 | | 完形 | 3.9 | 18.1 | 6.0 | 頸部直下に2条、やや離れて1条、腰部、高台脇に1条の圏線。上位文様帯は雲文？下位文様帯は2段の網目文。淡青灰色の釉。畳付は釉剥で砂が付着する。胎土は白色微粒子。 | 肥前系 | 27号墓No.69 |
| | 28 | | 完形 | 3.4 | 14.3 | 4.9 | 頸部直下に2条、腰部に1条、高台側面に2条の圏線。上位文様帯は鋸歯文、下位文様帯は菊と対面に2匹の蝶の文様。淡青白色の釉。畳付は釉剥し、砂が付着する。胎土は白色微粒子。 | 肥前系 | 1号墓 |
| | 29 | | 完形 | 3.8 | 17.0 | 5.5 | 頸部直下に2条、腰部、高台側面に1条の圏線。上位文様帯は芭蕉文、下位文様帯は菊文と対面にかなり簡略化された雀？淡青白色の釉。畳付は釉剥し、砂が付着する。高台から胴部中央は貫入がみられる。胎土は白色微粒子。 | 肥前系 | 1号墓 |
| | 30 | | 完形 | 3.6 | 16.9 | 5.4 | 頸部直下に3条、腰部、高台側面に1条の圏線。上位文様帯は無文、下位文様帯は花唐草文。淡青白色の釉で畳付は釉剥。 | 肥前系 | 10号墓内一括 |
| | 31 | | 完形 | 3.9 | 16.5 | 5.0 | 頸部直下に2条、やや離れて1条、腰部、高台脇に1条の圏線。上位文様帯は無文、下位文様帯は竹文。淡青白色の釉。畳付は釉剥し、砂が付着する。胎土は白色微粒子。 | 肥前系 | 1号墓 |
| | 32 | | 頸～底 | － | － | 4.8 | 頸部直下に２条、やや離れて1条、腰部に1条、高台脇に２条の圏線。上位文様帯は鋸歯文、下位文様帯は丸文の中に草を描いたもの、簡略化された網目文がそれぞれ2つずつ。淡青灰色の釉。畳付は釉剥し砂が付着する。胎土は白色微粒子。 | 肥前系 | 10号墓内No.11 |
| | 33 | | 完形 | 3.0 | 12.6 | 4.7 | 頸部直下に2条、高台側面に1条の圏線。上位文様帯は芭蕉文、下位文様帯は無文。淡青灰色の釉。畳付は釉剥し、砂が付着する。 | 肥前系 | 1号墓 |

注　「No.」は取り上げ番号。

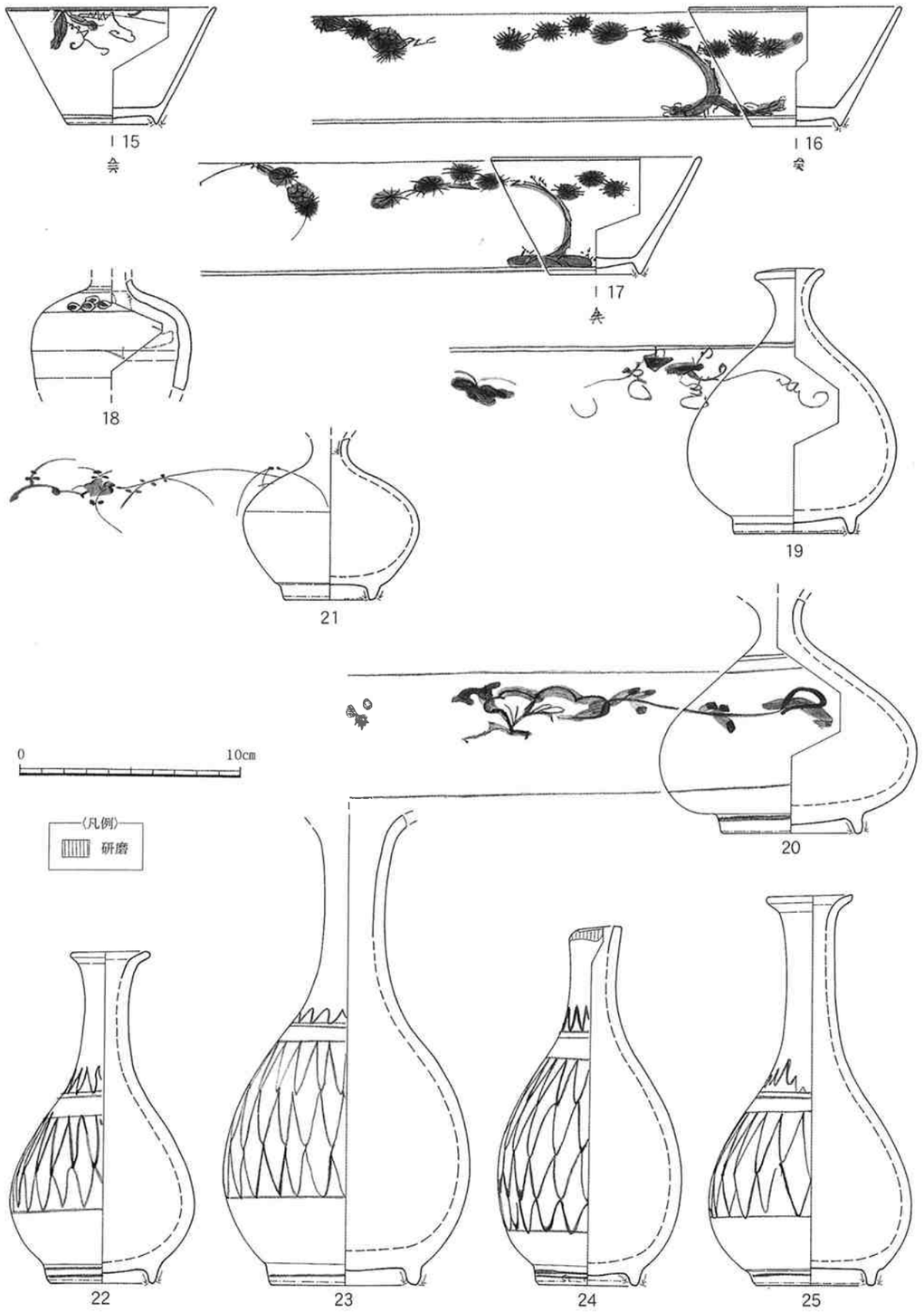



第36図　本土産染付１　碗



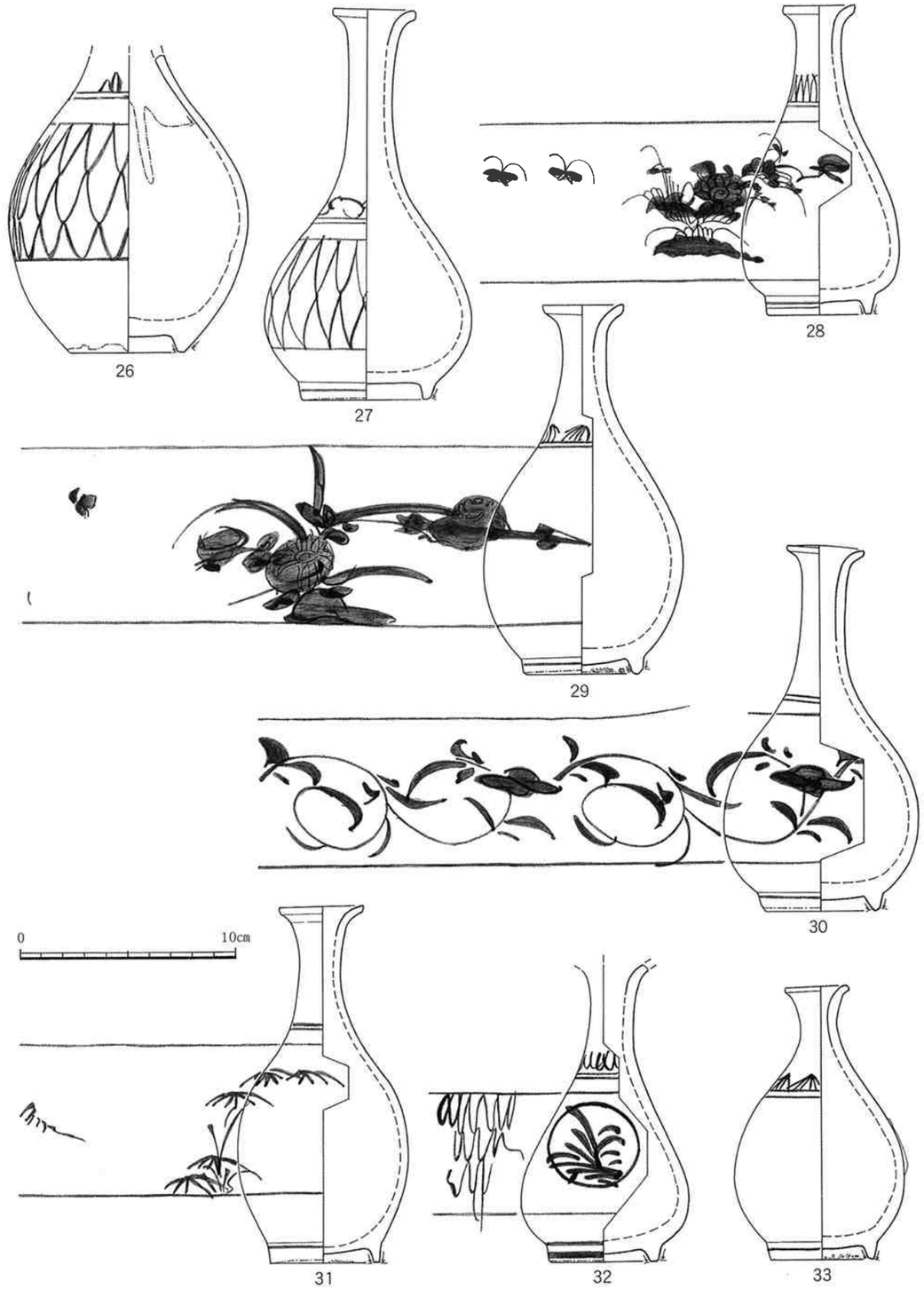



第37図　本土産染付２　皿(8～12)、小碗(13)、小杯(14)




第38図　本土産染付３　蕎麦猪口(15～17)、油壺(18～21)、瓶(22～25)






第39図　本土産染付４　瓶

## 第14節　本土産色絵

第40図である。碗、瓶、油壺が出土した。

１は碗である。外面に菊花流水文を施す。半球形の器形で高台は小さい。畳付以外は総釉。絵付けはほとんど剥落するが緑、朱色がわずかに残る。17世紀末（1690年代）～18世紀前半の所産。口径8.8cm、器高4.6cm、底径3.1cmで、25号墓内出土。

２は瓶で口縁は強く外反し平坦に形成する。畳付以外は総釉。絵付けは緑、青、朱色が残り、頸部に鋸歯文、胴部に藤？を描く。17世紀半ばの所産。口径4.0cm、器高13.0cm、底径4.6cmで、10号墓内出土。

３・４は油壺である。いずれも器形は似るが３がやや下ぶくれの器形で、４がわずかに頸部が長い。また、いずれも畳付以外は総釉で、４は白濁した釉を施し全体に貫入がみられる。絵付けはいずれも緑、朱色で蔓唐草文を描く。どちらも17世紀後半の所産で、３は口径3.1cm、器高8.7cm、底径5.6cmで、27号墓内№27出土。４は底径4.7cmで、６号墓内出土。

## 第15節　本土産陶器

本土産陶器は総数19点出土した。器種は碗・皿・壺・急須が確認され、壺を除きいずれも完形に近い状態で出土した。

碗

第41図１～７である。１は高台から丸みをもって立ち上がり胴部下半から口縁にかけて真っ直ぐ逆ハの字状に大きく開く器形である。釉は灰釉で全面に施釉した後、畳付を釉剥ぎする。素地は白色で微粒子。畳付に砂目が残る。18世紀以降の所産。完形（一部欠損）。口径14.4cm、器高7.2cm、底径5.6cm。７号墓内一括として出土。

２は高台から丸みをもって立ち上がり胴部下半から口縁にかけて逆ハの字状に開く器形である。内面は灰色の灰釉、外面は緑灰釉で高台付近まで施釉される。素地は灰白色で微粒子。完形（一部欠損）。南九州の所産と考えられる。口径11.8cm、器高6.8cm、底径4.4cm。27号墓№53出土。

３は筒型碗で、高台から胴部中央まで逆ハの字状に大きく開き、屈曲して外反器形を呈し口縁部にいたる。淡黄色の灰釉を内面から高台付近まで施釉する。内底に目跡が３つ残る。外面には褐色の花文が２つ、白色の花文が１つ描かれている。17世紀前半の所産で肥前内野山。完形。口径11.0cm、器高5.5cm、底径4.1cm。１号墓出土。

４は筒型碗で高台から丸みをもって立ち上がり、垂直に口縁部までいたる器形である。全面に白化粧をした後、透明釉を施釉する。内外面に貫入が目立つ。素地は白色の微粒子。17世紀後半から18世紀前半の所産で肥前内野山。半分を欠損するが図上復元が可能である。口径10.6cm、器高5.4cm、底径6.0cm。23号墓内出土。

５は筒型碗で高台からシャープに逆ハの字状に開き屈曲して垂直に立ち上がり口縁部にいたる器形である。釉は灰白色の灰釉で内面から外面の垂直部分まで施釉する。素地は灰白色の微粒子。完形（一部欠損）。口径7.3cm、器高4.9cm、底径3.5cm。18世紀後半から19世紀前半の所産である。24号墓周辺出土。

６は高台から丸みをもって立ち上がり胴部下半から口縁にかけて真っ直ぐ逆ハの字状に大きく開く器形である。内底は山水文が描かれる。釉は灰釉で全面に施釉した後、畳付を釉剥ぎする。17世紀後半～18世紀前半の所産で肥前京焼風。完形。口径12.6cm、器高5.9cm、底径4.3cm。27号墓№62出土。

７は高台から丸みをもって口縁部に至る器形である。内底は山水文が描かれる。内底及び畳付に目跡が３つ残る。灰釉を内底から高台付近まで施釉する。素地は橙色で微粒子。18世紀前半の所産で、肥前京焼風。完形（一部欠損）。口径13.0cm、器高5.0cm、底径5.0cm。27号墓内出土。

皿

第41図８・９である。８は浅い皿である。灰黄色の灰釉を内面及び外面高台付近まで施釉するが、内面は見込を蛇の目状に掻き取る。素地はにぶい黄色の微粒子。17世紀後半から18世紀前半の所産で肥前内野山。完形（一部欠損）。口径12.3cm、器高3.1cm、底径4.9cm。26号墓№60出土。

９は浅い皿である。器形は８と類似するが、高台脇を幅広く削り段をつけている。内面は緑灰釉を施し、蛇の目状に掻き取る。外面は薄い灰釉を高台脇まで施釉する。完形（一部欠損）17世紀後半から18世紀前半の所産で肥前内野山。口径11.7cm、器高3.4cm、底径4.0cm。16号墓出土。

壺

第42図10・11である。10は壺の口縁部である。頸部がほぼ垂直に立ち上がり肩部が強く張る器形である。外面に暗オリーブ灰色の釉薬を施す。蓋がセットになっていたとみられ、頸部脇は釉薬が掻き取られている。素地は灰色の細粒子。口径6.6cm。肥前か。10号墓周辺出土。

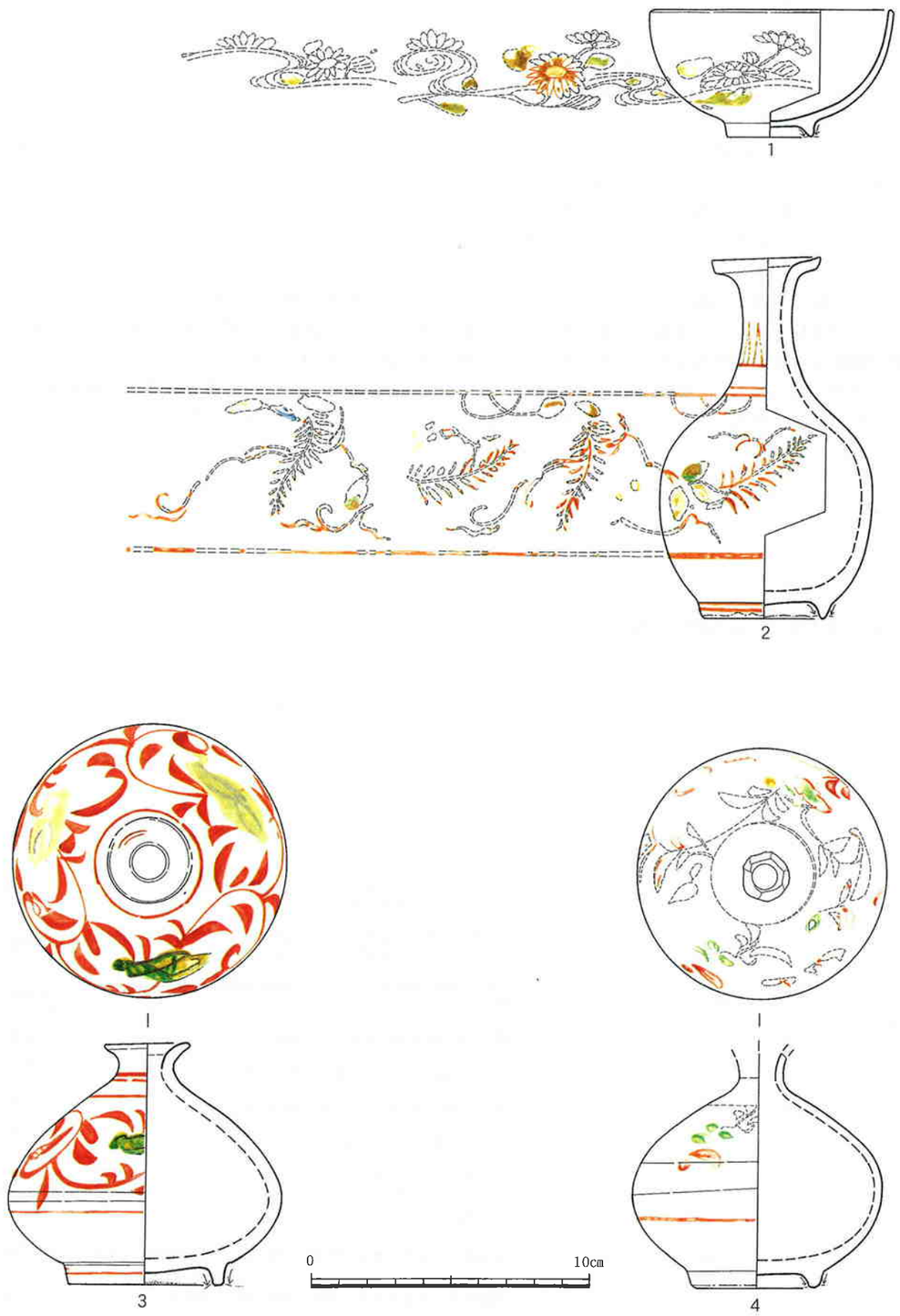
11は壺形（？）の底部である。10の口縁部とは別個体である。内面は轆轤成形痕が明瞭に残り、内底は２次的な火を受けた痕跡が残る。外面に暗オリーブ灰色の釉薬を底部付近まで施す。底部付近は貫入が目立つ。素地は灰色の細粒子。九州系か。底径8.4cm。10号墓周辺出土。

急須

第42図12～15である。12・13は蓋と本体のセットである。12は蓋で外面は灰白色（釉薬が厚く残るところはオリーブ灰色）の釉を施す。13は胴部下半が、くの字状に強く張る器形を呈しており、底部は３脚の三角錐状の足が付いている。内面及び底部付近まで灰白色（釉薬が厚く残るところはオリーブ灰色）の釉を施す。素地は乳白色の素粒子。13は完形に近いが注口の先端が欠損する。18世紀後半から19世紀前半の所産で薩摩か。12の蓋は口径8.1cm、器高3.3cm、底径6.1cm。13は口径7.8cm、器高8.3cm、底径6.2cm。30号墓出土。

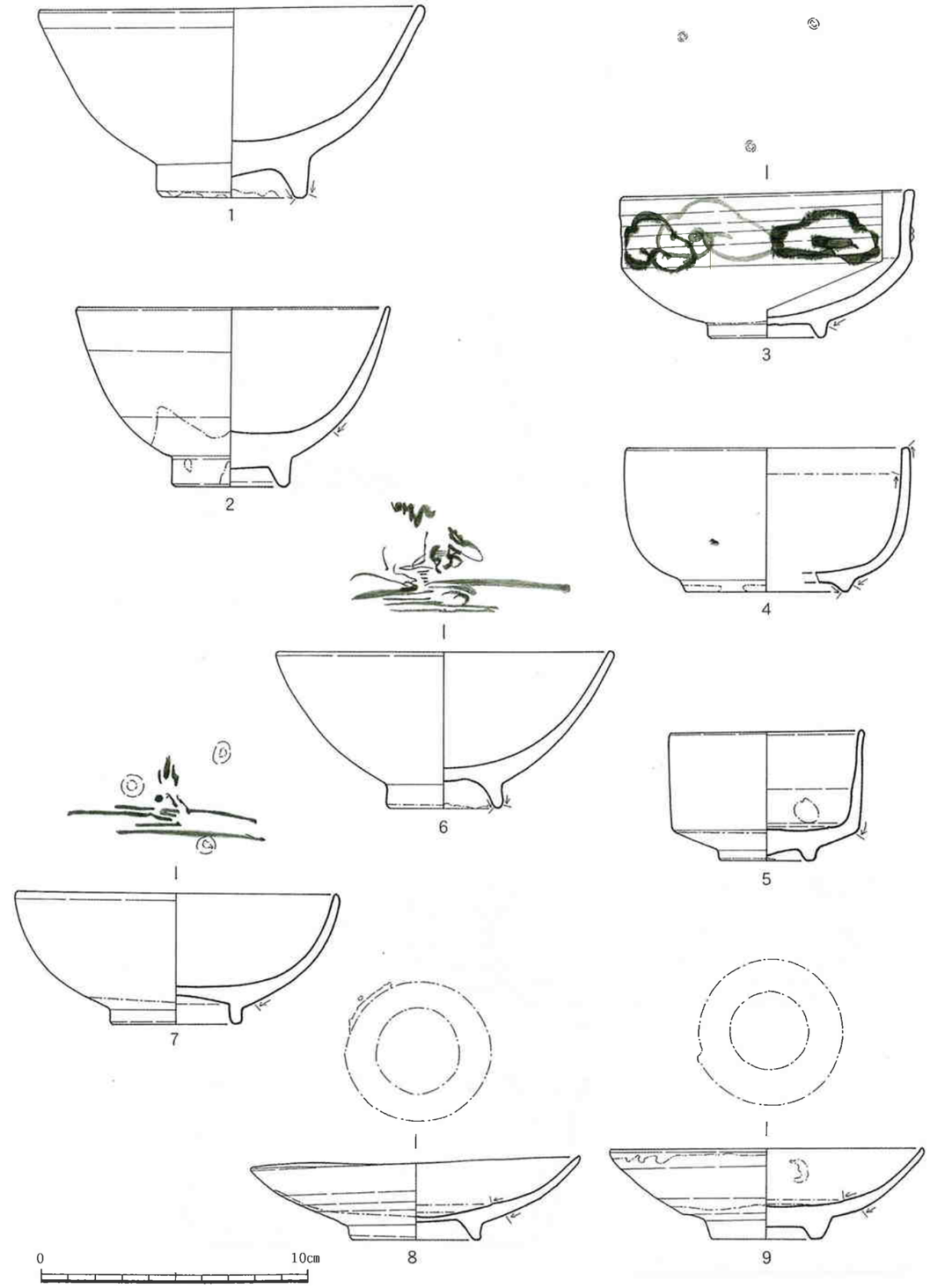
14は薄手の急須でいわゆる万古焼である。底部から丸みをおびて立ち上がり、胴部中央から口縁部にかけて僅かに外反する、扁平な器形である。底部は若干上底状を呈する。素地は精製された朱砂泥。完形。口径5.0cm、器高4.9cm、底径4.0cm。32号墓出土。

15は薄手の急須でいわゆる万古焼である。胴部下半が最も張り緩やかに外反しながら口縁部にいたる。底部は若干上底状を呈する。素地は精製された朱砂泥で、14より朱色が強い。把手が欠損する。口径5.2cm、器高6.6cm、底径5.4cm。32号墓出土。

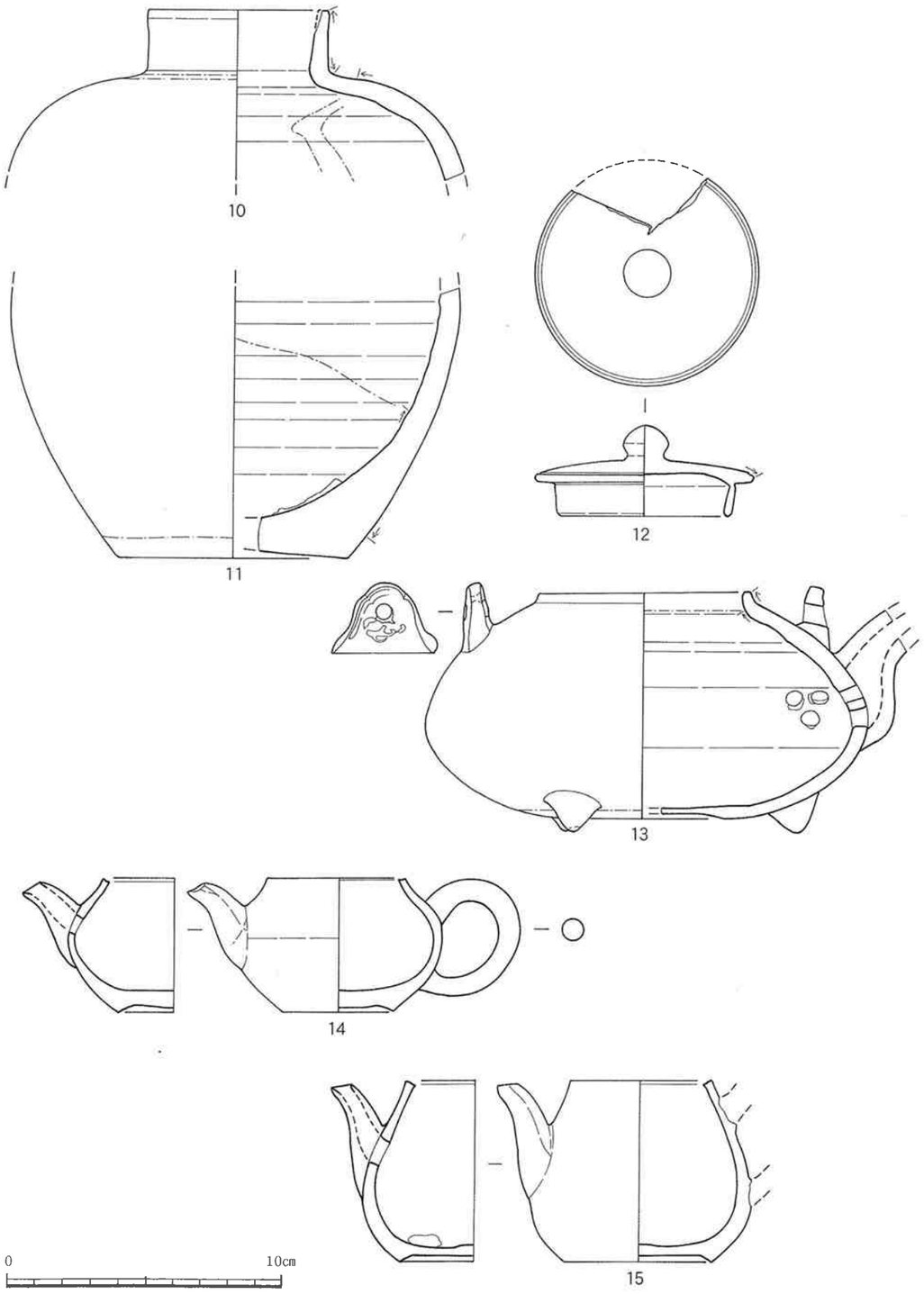



第40図　本土産色絵　碗(1)、瓶(2)、油壺(3・4)






第41図　本土産陶器１　碗(1～7)、皿(8・9)




第42図　本土産陶器２　壺(10・11)、急須(12～15)



## 第16節　本土産近代磁器

印判染付、クロム青磁などの近現代に属する本土産磁器を一括した。多くは墓周辺からの採集であるため、墓室内から得られた資料の写真を掲載し、詳細は観察表に記した。器種は碗が全体の約４割近くを占め、その他に小碗や小杯、皿などがある。今回、得られた資料は『喜友名貝塚・喜友名グスク』の報告に類例がみられる（沖縄県教委1999）。

図版27の１～４は型紙刷りの碗である。今回得られたものはいずれも飯茶碗で「端反形」、「丸形」、「平形」の３種があり、全体的にみると端反形が多い。ほとんどが印判染付であるが、わずかに第２次大戦中の統制経済下に生産された碗（濃緑色の釉を施す）がある。

７は小碗で、平低な器形である。１点のみを示したが、碗に次いで多い。多くが墓周辺から採集されており、このことから考えると墓に茶などを供えるために用いたものであろうか。クロム青磁。

11～13は皿で、碗や小碗に比べると数は少ない。内面に三友文を描く稜花皿や色絵皿がある。

８～10は小杯で、クロム青磁、白磁などがある。数は多くなく、中国産の白磁は小杯が多い点で異なる。器形は腰部が丸みを帯びるタイプと逆「ハ」の字に直口するタイプがみられる。

14は急須で数は少ない。器種不明で外底面に「岐745」の陰刻を記したものがあり、これも統制経済下に生産された製品である。また、香炉の外底面に墨書（「カ」？）を記したものがあった。

第47表　本土産近代磁器観察一覧　　単位:cm

| 図番号 | | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 観察事項 | 出土地 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図版27 | 1 | 碗 | 13.9 | 6.2 | 4.8 | 端反形。型紙刷り。外面の胴上位に大柄な花文、下位に不明の文様。内面は口縁に不明の帯文を巡らせ、内底面に不明の文様。 | 30号墓内 |
| | 2 | | 10.1 | 6.0 | 4.0 | 端反形。型紙刷り。外面に大柄な菊花文？、内面は口縁に瓔珞文を巡らせ、内底面に三友文。 | 31号墓内 |
| | 3 | | 11.5 | 6.2 | 4.5 | 丸形。型紙刷り。外面は胴部に密に地文を施し、「福」、「寿」を書く。内面は口縁部に胴部と同じ構成の帯文を巡らせ、内底面に三友文。 | 9号墓内 |
| | 4 | | 11.0 | 4.7 | 4.0 | かなり低平な丸形。型紙刷り。外面に細かな菊花文？、内面は圏線のみで、蛇の目釉剥ぎ。 | 1号墓内 |
| | 5 | | 10.8 | 5.2 | 3.7 | 丸形で、口唇を玉縁状にする。外面に竹文。内面は口縁に雑な波状文を巡らせ、内底面に不明の文様。 | 8号墓内 |
| | 6 | | 10.5 | 5.9 | 4.0 | 丸形。外面に様式化した遠山？、内面は圏線、内底面に不明の文様。 | 8号墓内 |
| | 7 | 小碗 | 8.5 | 3.9 | 2.9 | 薄手で低平な小碗。内外ともに圏線。 | 32号墓内 |
| | 8 | 小杯 | 7.7 | 3.7 | 3.1 | クロム青磁。外面に飛び鉋。高台内は抉る。 | 3号墓内 |
| | 9 | | 7.4 | 3.0 | 2.7 | 染付。高台に波状文、外底面に幾何学文。 | 20号墓内 |
| | 10 | | 6.9 | 2.6 | 2.6 | 内面に錆釉。外底面は露胎。 | 9号墓内 |
| | 11 | 皿 | 12.9 | 3.6 | 7.7 | 上面観がわずかに波状をなす。型紙刷り。外面に花唐草文を巡らせ、外底面は露胎。内面は点描の地文に松竹梅の窓絵。内底面に三友文。 | 9号墓内 |
| | 12 | | 10.6 | 2.2 | 6.1 | 型紙刷り。外面は無文。内面は点描の地文に幾何学的な桜花文。 | 8号墓内 |
| | 13 | | 11.0 | 2.3 | 6.0 | 型紙刷り。外面は無文。内面は点描の地文に桜花文。 | 20号墓内 |
| | 14 | 急須 | 6.5 | 6.3 | 6.3 | 丸みを帯びた器形。外面は口縁に渦文。胴部に瑞祥様の文様、胴下位に崩れたラマ式蓮弁文？。把手、注口先端にも文様。外底面は露胎。 | 32号墓内 |

第48表　本土産近代磁器出土状況

| 出土地＼器種 | 碗 完形 | 碗 口 | 碗 胴 | 碗 底 | 小碗 完形 | 小碗 口 | 小碗 胴 | 小碗 底 | Ⅲ 完形 | Ⅲ 口 | Ⅲ 底 | 小杯 完形 | 小杯 底 | 蓋 完形 | 燭台 完形 | 香炉 完形 | 急須 完形 | 急須 口 | 擂鉢 口 | 花生 完形 | 花生 底 | 徳利 完形 | 徳利 胴 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1号墓 内 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| 3号墓 内 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 |
| 7号墓 内 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 7号墓 石積み | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 8号墓 内 | 2 | | | | | | | | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | | | 4 |
| 9号墓 内 | 2 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 4 |
| 11号墓 内 | 2 | 2 | | | | 1 | 1 | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 8 |
| 12号墓 内 | | | | | | | | 2 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 3 |
| 14号墓 内 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 16号墓 覆土 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| 17号墓 内 | 2 | 2 | | 1 | 2 | | 1 | 2 | | | | 3 | | | 1 | | 1 | | | 1 | 1 | | | 14 |
| 18号墓 内 | 2 | | | | 2 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 8 |
| 20号墓 内 | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | 3 |
| 22号墓 内 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 22号墓 石積み | 1 | 4 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6 |
| 23号墓 内 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | 2 | | | | 5 |
| 地区北側 内 | 12 | 14 | 3 | 3 | 12 | 3 | 3 | 5 | | | | 4 | 1 | 1 | | 1 | 1 | 1 | | | | 1 | 1 | 68 |
| 24号墓 石積み | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | | | 2 |
| 25号墓 内 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 地区西側 内 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 28号墓 周辺 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 29号墓 内 | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 2 |
| 30号墓 内 | 2 | | | 1 | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| 30号墓 石積み | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 5 |
| 31号墓 内 | 2 | | 1 | ,1 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| 32号墓 内 | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | 5 |
| 合計 | 31 | 25 | 7 | 8 | 20 | 5 | 5 | 10 | 8 | 3 | 1 | 13 | 2 | 1 | 1 | 2 | 4 | 1 | 1 | 3 | 1 | 1 | 1 | 154 |



## 第17節　沖縄産施釉陶器

白色系統の素地[注1)]に灰釉などの釉薬を施した「上焼」と称する一群である。碗を中心に、皿、瓶、急須などがあり、供膳具が多くみられる。墓に伴う例が多い。以下、概要と分類概念を記し、詳細は観察表に記した。

碗は第43図で、灰釉碗と称するタイプがほとんどを占める。器形、施釉方法により次のとおり分類した。

Ⅰ類：内外にフイガキーで灰釉などを施す。高台から口縁部まで直線的。

Ⅱ類：施釉はⅠ類に準ずるが、腰部は丸みを帯びる。

Ⅲ類：施釉はⅠ・Ⅱ類に準ずるが、内底面に鉄釉で丸文を施す。

Ⅳ類：飴釉を施し、内底面は蛇の目釉剥ぎする。

Ⅴ類：白化粧を施し、内底面は蛇の目釉剥ぎする。

Ⅵ類：Ⅴ類に準じ、外面に呉須で絵付けする。

Ⅶ類：外面を鉄釉、内面を白化粧で掛け分ける。

Ⅷ類：赤絵。

小碗、小杯は第44図14～18である。碗に比べ量的に少ないため分類は行っていない。

皿は第44図19～23で、量的に少ない。器形、施釉方法で次のとおり分類した。

Ⅰ類：口縁が弱く外反し、白化粧を施す。無文をａ、有文をｂとした。

Ⅱ類：口縁を鍔状に形成し、灰釉を施す。無文をａ、有文をｂとした。

Ⅲ類：上面観が波状を呈する。

瓶は碗に次いで多く得られた。瓶子や嘉瓶などと呼ばれるものである。器形などで次のとおり分類した。

Ａ群：徳利や鶴首などと称する一群（第45図24～29）

Ⅰ類：胴部が張り、頸部が長い。　Ⅱ類：Ⅰ類よりも頸が短い。　Ⅲ類：最も頸が短い。

Ⅳ類：胴部が細いもの。　Ⅴ類：その他。

Ｂ群：胴部のふくらみが２ヶ所ある、嘉瓶と称する一群。（第45図30～33）

Ⅰ類：上下のふくらみがほぼ同一。　Ⅱ類：上部に比べ下部のふくらみが大きい。

Ⅲ類：下部のふくらみが大きい。　Ⅳ類：上下ともに角張る。

Ｃ類：胴下部がふくらむ、渡名喜瓶と称する一群。（第46図34～37）

Ⅰ類：胴下部が丸みを帯び、上部は筒形をなす。　Ⅱ類：Ⅰ類に準じ、上部の立ち上がりは弓なり。

Ⅲ類：胴下部・上部の両方に丸みを帯びる。　Ⅳ類：胴下部が逆台形で、上部が角張る。

Ｄ群：瓶子と称する一群。（第46図38～41）

Ⅰ類：底部がスカート状になる。　Ⅱ類：Ⅰ類の底部が矮小化したもの。

Ｅ群：瓢箪形の一群。（第46図42・43）

油壺は第46図44～47、第47図48・49で、器形により次のとおり分類した。

Ⅰ類：最大径は肩部で肩の張りが強い。　Ⅱ類：Ⅰ類に準ずるが、肩は丸みを帯びる。

Ⅲ類：全体的に平たく、頸部が長い。　Ⅳ類：Ⅲ類に準ずるが、頸部が短い。

急須は第47図50～53で、肩部が丸いタイプ（Ⅰ類）、肩部が角張るタイプ（Ⅱ類）に分けられ、前者が多い。いずれもボタン状の足がつく。蓋が身に伴う資料はない。同図53は大型急須で１点のみ得られた。

酒器は第47図54～58である。急須と同様に肩部が丸いタイプ（Ⅰ類）、肩部が角張るタイプ（Ⅱ類）がある。底部は、高台をつくるタイプなどがみられる。

第47図59は蓋物の身である。60は蓋で、鍋に伴うものと思われる。61は袴腰の香炉で、角状の足がつく。

碗・瓶には墨書を施した例が複数みられる。第43図２は「阿ら満可り壱敷／｛佐久本屋｝／與那國嶋さたら屋ノ／こやまさ（殿ヵ）／｛(亀ヵ）仲本尓屋｝」[注2)]の文字と記号を記した例である。第43図３～６などは記号や文字？を記した例で、与那国島で「家判（ダハン）」と呼ばれていたものと考えられる。

＜注事項＞

注１）次節の無釉陶器と同じ褐色系統の素地を持つものも便宜的に施釉陶器に含めた。

注２）／は改行、（　）内はわずかに判読もしくは想定される文字、｛　｝内は薄い文字である。

## 第49表a　沖縄産施釉陶器観察一覧

単位：cm

| 図番号 | | 器種 | 分類 | 口径 | 器高 | 底径 | 観察事項 | 出土地 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第43図・図版28 | 1 | 碗 | Ⅰ | 13.7 | 6.6 | 6.8 | 釉色は暗褐色、素地は褐色。内底面に砂目。底部から直に立ち上がる器形である。 | 11号墓内 |
| | 2 | | | 14.0 | 6.7 | 7.3 | 釉色はオリーブ灰色、素地は明黄褐色。内底面に「阿ら満可り壱敷／｛佐久本屋｝／與那國嶋さたら屋ノ／こやまさ（殿ヵ）／｛（亀ヵ）仲本尓屋｝」と外底面に矢印状の墨書、滲んだ墨の痕。底部から直に立ち上がる。 | 11号墓内一括＋11号墓土坑 |
| | 3 | | | 13.9 | 6.3 | 7.2 | 釉色はオリーブ灰色、素地はにぶい黄褐色。外底面に「又十」？の墨書。底部から直に立ち上がる。 | 11号墓内 |
| | 4 | | | 14.1 | 6.5 | 7.7 | 釉色は暗オリーブ灰色、素地は橙色。高台内面を丸くなぞり「十」に二点をうった墨書。底部から直に立ち上がる。 | 6号墓内 |
| | 5 | | | 14.0 | 6.8 | 6.7 | 釉色は灰オリーブ色、素地は灰白色。外面に溶着あり。外底面に「三」？を二つ墨書。底部から直に立ち上がる。 | 15号墓内一括 |
| | 6 | | | 13.1 | 6.4 | 7.4 | 釉色は灰色、素地は橙色。外底面に点を三つ（∴）うった墨書。底部から直に立ち上がる。 | 11号墓内一括 |
| | 7 | | Ⅱ | 13.6 | 5.9 | 6.6 | 釉色は灰オリーブ色、素地は淡黄色。わずかに腰部がふくらむ。 | 27号墓内№3 |
| | 8 | | Ⅲ | 13.9 | 6.7 | 7.7 | 釉色は灰白色、素地は淡黄色。内面に鉄釉で丸文。内底面にわずかに溶着が残る。外底面に墨の滲んだ痕。腰部がわずかにふくらむ。 | 6号墓内 |
| | 9 | | Ⅳ | 12.6 | 6.3 | 6.1 | 釉色はオリーブ黒色、素地は淡黄色。内底面を蛇の目釉剥ぎ。腰部がわずかにふくらむ。 | 8号墓内 |
| | 10 | | Ⅴ | 13.5 | 6.2 | 6.2 | 白化粧、透明釉に内底面を蛇の目釉剥ぎ。素地は灰黄色。腰部がふくらみ、口縁は弱く外反。 | 32号墓内 |
| | 11 | | Ⅵ | 13.0 | 6.5 | 6.3 | 白化粧、透明釉に蛇の目釉剥ぎ。素地はにぶい黄色。外面に呉須で大柄な花文を描く。腰部がふくらみ口縁は外反。 | 32号墓内 |
| | 12 | | Ⅶ | 12.2 | 6.1 | 5.8 | 外面は褐色の釉、内面は白化粧、透明釉で蛇の目釉剥ぎ。素地は灰白色。丸みを帯びた器形。 | 2号墓石積み |
| | 13 | | Ⅷ | 12.1 | 5.6 | 5.9 | 釉色は灰オリーブ色、素地は灰白色。赤絵で波状文などを描く。口縁が弱く外反。 | 1号墓内 |
| 第44図・図版29 | 14 | 小碗 | ― | 8.1 | 4.2 | 3.9 | 白化粧、透明釉の後に蛇の目釉剥ぎ。素地は灰白色。口縁は直口。内底面に溶着痕。 | 16号墓周辺 |
| | 15 | | ― | 8.8 | 4.7 | 3.9 | 外面は黒褐色の釉、内面は白化粧、透明釉で蛇の目釉剥ぎ。素地は灰白色。口縁は外反でわずかに欠く。 | 28号墓周辺 |
| | 16 | | ― | 8.4 | 4.3 | 4.0 | 角杯。白化粧、透明釉で蛇の目釉剥ぎ。素地はにぶい黄色。 | 17号墓内 |
| | 17 | 小杯 | ― | 3.3 | 2.0 | 1.7 | 極小の杯。灰白色の釉を施し、外底は露胎。素地は灰白色。口縁を一部欠く。 | 32号墓内 |
| | 18 | | ― | 4.7 | 3.1 | 2.2 | 灰白色の釉を施し、外底は露胎。素地は灰白色。外面に白、赤で波状文。 | 1号墓内 |
| | 19 | Ⅲ | Ⅰa | 14.2 | 4.2 | 6.7 | 白化粧、透明釉に蛇の目釉剥ぎで溶着痕が残る。素地は灰白色。口縁はわずかに外反。 | 1号墓内 |
| | 20 | | Ⅰb | 17.3 | 5.1 | 7.9 | 白化粧、透明釉に蛇の目釉剥ぎ、溶着痕が明瞭。素地は灰白色。内面に呉須で格子文など。口縁は外反。 | 9号墓内 |
| | 21 | | Ⅱa | 13.5 | 3.7 | 6.4 | オリーブ灰色の釉を施し、素地は淡黄色。内底面にアルミナが付着。口縁は鍔状を呈する。口縁をわずかに欠く。 | 15号墓内 |
| | 22 | | Ⅱb | 13.8 | 3.4 | 6.4 | 灰オリーブ色の釉を施し、素地は灰白色。内面に＃状の文様。内底面にアルミナが付着。口縁を鍔状に形成し一部欠く。 | 11号墓内一括 |
| | 23 | | Ⅲ | 14.3 | 4.6 | 7.2 | 外面にオリーブ黒色の釉、内面を白化粧、透明釉で蛇の目釉剥ぎ。 | 8号墓内 |
| 第45図・図版29 | 24 | 瓶 | ＡⅠ | 3.1 | 17.8 | 5.8 | オリーブ灰色の釉を施し、底部は露胎。素地は灰白色。頸部が長く伸び、胴部は丸み。頸部に蛇柄の文様。口縁をわずかに欠く。 | 26号墓内 |
| | 25 | | | ― | (17.4) | 7.5 | 白化粧に透明釉。素地は赤灰色。口縁は欠失（破損は検出時）。前者に比べて道の最大径が下半にくる。高台脇に溶着痕が巡る。 | 32号墓内 |
| | 26 | | ＡⅡ | ― | (15.3) | 5.1 | 釉色は灰オリーブ色で底部は露胎。素地は灰白色。飛び鉋、縦位・斜位の沈線。口縁は欠失するが本類に含められよう。ややスマートな器形。 | 6号墓内 |
| | 27 | | ＡⅢ | 6.0 | 19.6 | 7.1 | 本群の中では大型。釉色は黒色、素地は浅黄橙色。畳付を研磨する。胴部が張り、強く外反する。口縁を一部欠く。 | 1号墓内 |
| | 28 | | ＡⅣ | 2.8 | 13.1 | 5.6 | 釉色は暗褐色、素地は浅黄橙色。頸部が長いのに対して胴は細身で短い。口縁を半分ほど欠く。 | 8・9号墓周辺 |
| | 29 | | ＡⅤ | 2.4 | 12.6 | 5.0 | 釉色は褐色、素地はにぶい褐色。やや頸部が伸びる。褐色の釉を施す。薄手で軽い。 | 32号墓内 |
| | 30 | | ＢⅠ | 4.6 | 20.2 | 7.0 | 釉色は暗褐色、素地は灰白色。ふくらみは強くくびれを形成。 | 12号墓内 |
| | 31 | | ＢⅡ | 4.0 | 20.3 | 7.0 | 釉色は黒褐色、素地は浅黄橙色。なで肩で、下半のふくらみは弱い。外底面に不明の墨書。 | 11号墓内一括 |
| | 32 | | ＢⅢ | 3.2 | 16.9 | 7.0 | 釉色は暗褐色、素地は灰白色。かなりなで肩でくびれは不明瞭。圏線を巡らせる。口縁を３分の２ほど欠く。 | 3号墓内 |
| | 33 | | ＢⅣ | 3.5 | 17.6 | 6.5 | 釉色は灰色、素地は灰白色。上・下半ともに角張る。圏線を巡らせる。口縁をわずかに欠く。 | 11号墓内一括 |

注　「№」は取り上げ番号、「＋」は接合の意。計測値の（　）は破損の値である。

第50表　沖縄産施釉陶器出土状況

|器種||碗||||||||||||||||||||
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
|分類||I類||II類||III類|IV類|V類|||VI類||||VII類|||VIII類||不明||
|出土地||完形|底|完形|底|完形|完形|完形|口|胴|完形|口|胴|底|完形|口|胴|完形|底|口|胴|
|1号墓|内|6||1||||1|||2|||||||1||||
|1号墓+2号墓||||||||1||||||||||||||
|2号墓|内|1|1|||||1|||1|||||||||||
||石積み||||||||||||||1|||||||
|3号墓|内||||||||2|1||||||||||||
|5号墓|内||||||||||2|||||||||||
|6号墓|内|9||2|2|1||||||||||||||2||
|7号墓|内|||1||||||||||||||||||
||焼骨域|||||||||||||||||||||
|8号墓|内||||||1||||2|||||||||||
|9号墓|内|||||||||||||||||||||
|10号墓|内|||||||||||||||||||||
||前庭|||||||1||||||||||||||
|11号墓|内|16||2|1|1|1||||||1|1|||1|||5|1|
||集骨|||||||||||||||||||||
|12号墓|内|||||||||||||2|1|||||||
|13号墓|内|2||||||||||||||||||||
|14号墓|前庭|||||||||||||1||||||||
|15号墓|内|6||2||||||||||||||||||
|16号墓|内|||||||||||||||||||||
||覆土|||1|||||||||||||||1|1||
||前庭|||||||||||||||||||||
|17号墓|内||||||||||1||||1|1|1|||||
|18号墓|内|||||||||||||2||1||||||
|20号墓|内|||||||||||||||||||||
||前庭||||||||||1|||||||||||
|22号墓|石積み|||||||||||||||||||1||
|23号墓|内|||1||||||||||||||||||
|地区北側|||1||||||||1|||2|1|1|1||1|||
|26号墓|内|4|1|2||||||||||||||||2||
|27号墓|内|||1||||||||||||||||||
|28号墓|内|1||||||||||1||||||||4||
||周辺|||||||||||||||||||||
|29号墓|内||||||||||1|||||||||||
|30号墓|内|2||1||||||||||||||||||
||前庭|||||||||||||||||||||
||周辺|||||||||||||||||||||
|31号墓|内||||||||||1|||||||||||
|32号墓|内|||||||1|||2|||||||||||
|33号墓|内|1|||||1|||||||||||||||
||周辺|||||||||||||||||||||
|不明||1|1||||||||||||1|2||||||
|合計||49|4|14|3|2|3|5|2|1|14|1|1|8|5|5|3|1|2|15|1|

|器種||小碗|||小杯|皿|||||||
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
|分類||||||I類||||II類||III類|
||||||||a||b||a|b||
|出土地||完形|口|底|完形|完形|口|完形|口|完形|完形|完形|
|1号墓|内||||1|1|||||||
|1号墓+2号墓||||||||||||||
|2号墓|内||||||||||||
||石積み||||||||||||
|3号墓|内||||||||||||
|5号墓|内||||||||||||
|6号墓|内||||||||||||
|7号墓|内||||||||||||
||焼骨域||||||||||||
|8号墓|内|||||||||||1|
|9号墓|内|||||||1|||||
|10号墓|内||||||||||||
||前庭||||||||||||
|11号墓|内|1||||||||1||
||集骨||||||||||||
|12号墓|内||||||||||||
|13号墓|内||||||||||||
|14号墓|前庭||||||||||||
|15号墓|内|||||||||1|||
|16号墓|内||||||||||||
||覆土||||||||||||
||前庭||||||||||||
|17号墓|内|1|||||||||||
|18号墓|内||||||||||||
|20号墓|内||||||||||||
||前庭||||||||||||
|22号墓|石積み||||||||||||
|23号墓|内||||||||||||
|地区北側|||2|1|2||||||||
|26号墓|内||||||||||2||
|27号墓|内||||||||||||
|28号墓|内|1|1|1||||||||
||周辺|1|||||1|||||
|29号墓|内||||||||1||||
|30号墓|内|||||1|||||||
||前庭||||||||||||
||周辺|||1|||||||||
|31号墓|内||||||||||||
|32号墓|内||||1|1||1|||||
|33号墓|内||||||||||||
||周辺||||||||||||
|不明|||2|2||||||||
|合計||6|4|6|2|3|1|2|1|1|3|1|

|器種||瓶||||||||||||||||||||||||||
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
|分類||A群|||||||||B群||||C群||||||D群|||||||E群|
|||I類||II類||III類|IV類||V類|不明|I類|II類|III類|IV類|I類|II類||III類|IV類||I類||||II類||不明||
|出土地||完形|底|完形|底|完形|完形|底|底|底|完形|完形|底|完形|完形|完形|底|完形|完形|底|完形|口|胴|底|完形|底|完形|完形|
|1号墓|内|1||1|1|1||1|||1|1||||2|||2|1||||||1||1|
|1号墓+2号墓||||||||||||||||||||||||||||||
|2号墓|内||||||||||||||||||||||||||||
||石積み||||||||||||||||||||||||||||
|3号墓|内||||||||||||1||||||||||||||||
|5号墓|内||||||||||||||||||||||||||||
|6号墓|内||1||1||||||||||||||||||1|1||||
|7号墓|内||||||||||||||||||||||1|1||||
||焼骨域|||||||||1||||||||||||1||||||
|8号墓|内||||||||||||||||||||||||||||
|9号墓|内||||||||||||||||||||||||||||
|10号墓|内|||||||||||||||||||||1||1|||1||
||前庭||||||||||||||||||||||||||||
|11号墓|内|4||||||||3||1||1|1||1|2||||||||||1|
||集骨|||||||||1||||||||||1||||||||
|12号墓|内||||||||||1||||||||||||||||||
|13号墓|内||||||||||||||||||||||||||||
|14号墓|前庭||||||||||||||||||||||||||||
|15号墓|内|||||||||||2|1||||||||||||||||
|16号墓|内||1||||||||||||||||||||||||||
||覆土||||||||||||||||||||||||||||
||前庭||||||||||||||||||||||||||||
|17号墓|内||||1|||||||||||||||||||1|1|||
|18号墓|内||||||||||||||||||||||||||||
|20号墓|内|||||||||||||||||||1||||||||
||前庭||||||||||||||||||||||||||||
|22号墓|石積み||||||||||||||||||||||||||||
|23号墓|内||||||||||||||||||||||||||||
|地区北側||||1|||1||1||||1||1|||||1|||||||||
|26号墓|内|3||||||||||||||||||||||||||
|27号墓|内||||||||||||||||||||4||1|1||||
|28号墓|内||||||||||||||||||||||||||||
||周辺||||||||||||||||||||||||||||
|29号墓|内||||||||||||||||||||||||||||
|30号墓|内|1|||||||||1|||||||||2|||1||||
||前庭||||||||||||||||||||1|||||||
||周辺||||||||||||||||||||||||||||
|31号墓|内||||||||||||||||||||||||||||
|32号墓|内||1|3|1||||1||||||||||2||||||||||
|33号墓|内||||||||||||||||1||||||||||||
||周辺||||||||||||||||||||||||||||
|不明||||||||1|||||||||||||1|1|||1||||
|合計||9|3|5|4|1|2|1|2|5|2|5|3|1|2|2|2|2|5|4|8|2|3|6|1|2|1|2|

|器種||油壺|||||||油瓶|||急須|||||||蓋|酒器|||蓋物|蓋|香炉|器種不明|||合計|
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
|分類||I類||II類||III類||IV類||||I類||II類|大型|不明|||||I類||II類||||||||
|出土地||完形|底|完形|底|完形|底|完形|完形|蓋|底|完形|底|完形|完形|注口|胴|底||完形|底|完形|完形|完形|完形|口|胴|底||
|1号墓|内|2|2|1||||2|||||||||||||1|1|1|||||||37|
|1号墓+2号墓||||||||||||||||||||||||||||||1|
|2号墓|内||||||||||||||||||||||||||||4|
||石積み||||||||||||||||||||||||||||1|
|3号墓|内||||||||||||||||||||||||||||4|
|5号墓|内||||||||||||||||||||||||||||2|
|6号墓|内|1||1||||1||||||||||||||1|||||||24|
|7号墓|内||||||||||||1||||||||||||||||4|
||焼骨域||||||||||||||||||||||||||||2|
|8号墓|内|1||||1||||||2|||||||1||||||||||9|
|9号墓|内||||||||||||||||||||||||||||1|
|10号墓|内||||||||||||||||||||||||||||3|
||前庭||||||||||||||||||||||||||||1|
|11号墓|内|1||1|1||||||||||||2|1||1||4||||1|3||61|
||集骨|||||||||||||||||||||||||1|||3|
|12号墓|内||||||||1|1||1|||||||||||||||||7|
|13号墓|内||||||||||||||||||||||||||||2|
|14号墓|前庭||||||||||||||||||||||||||||1|
|15号墓|内||||||||||||||||||||||||||||12|
|16号墓|内||||||||||||||||||||||||||||1|
||覆土||||||||||||||||||||||||||1||4|
||前庭|||||||||||||||||1|||||||||||1|
|17号墓|内||||||||||||||||1|1|||||||||||10|
|18号墓|内||||||||||||||||||||||||||||3|
|20号墓|内||||||||||||||||||||||||||||1|
||前庭||||||||||||||||||||||||||||1|
|22号墓|石積み|||||||||||||||||1|||||||||1||3|
|23号墓|内|||||||||||||||||2|||||||||||3|
|地区北側|||1|2|2|||||||1|1||2|||5|1|2||||||||1|1||38|
|26号墓|内|1||1|1||||||||||||||||||||||||17|
|27号墓|内||||1|||||||||||1|||||||||||||9|
|28号墓|内||||||1|||||||||||1|||||||||||11|
||周辺||||||||||||||||||||||||||||2|
|29号墓|内||||||||||||||||||||||||||||2|
|30号墓|内|||||||||||||||||1|1|||||||||1|1|13|
||前庭||||||||||||||||||||||||||||1|
||周辺|||||||||||||||||1|||||||||||2|
|31号墓|内||||||||||||||||||||||||||||1|
|32号墓|内|||||||||||1|||||1|||||||1||1||||18|
|33号墓|内||||||||||||||||||||||||||1||4|
||周辺|1||||||||||||||||||||||||1|||||2|
|不明||||||1|||||||||||5|||||||||||19|
|合計||7|3|6|5|2|1|3|1|1|1|5|1|2|1|1|21|3|3|2|1|6|1|1|1|3|8|1|345|

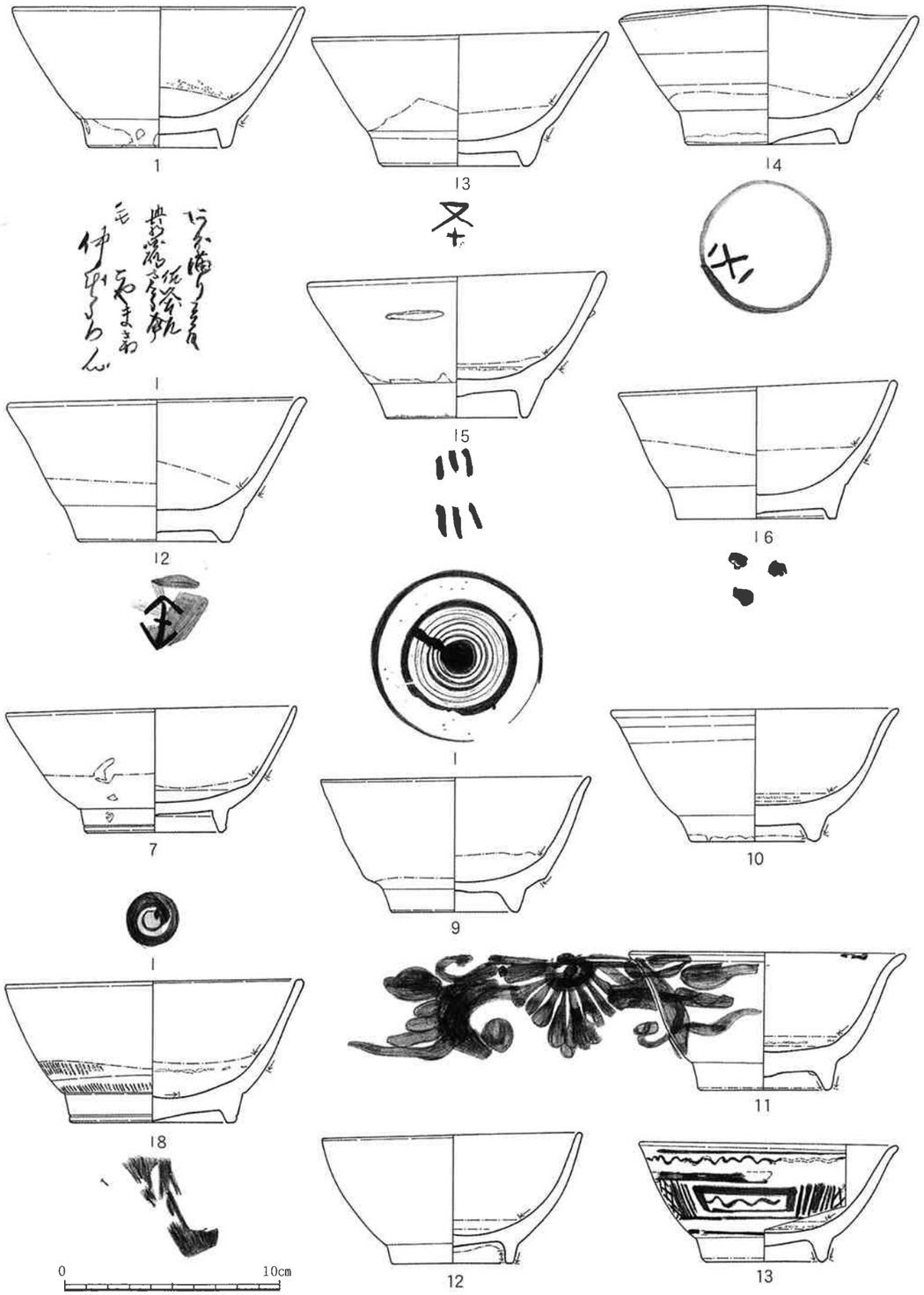
注 「+」は接合の意。

## 第49表b　沖縄産施釉陶器観察一覧

単位：cm

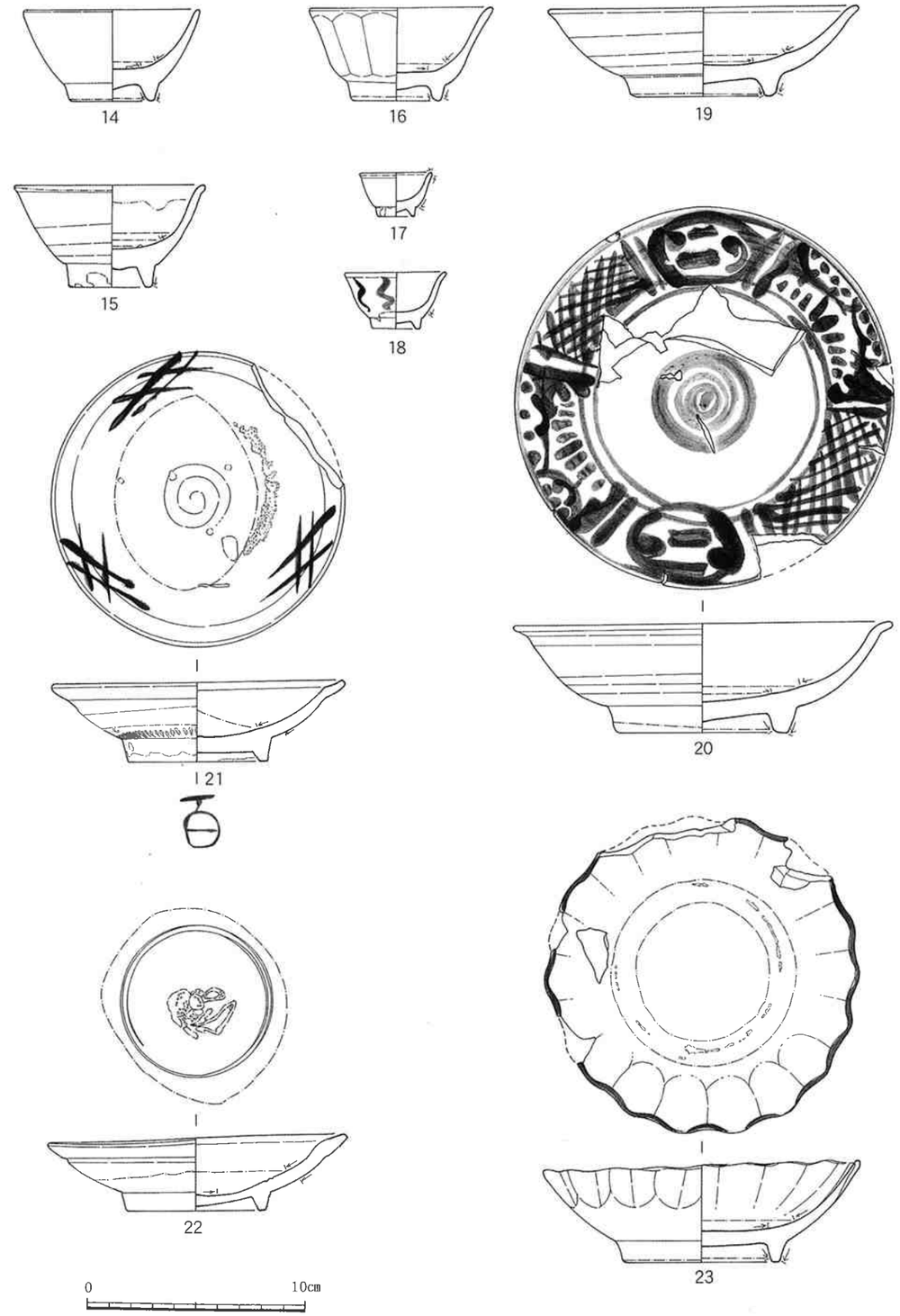
| 図番号 | | 器種 | 分類 | 口径 | 器高 | 底径 | 観察事項 | 出土地 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第46図・図版30 | 34 | 瓶 | CⅠ | 3.3 | 12.6 | 5.7 | 釉色は上位が黒褐色、下位が灰白色。素地は浅黄橙色。高台内にアルミナ付着。胴下半を深めに削る。 | 11号墓内一括 |
| | 35 | | CⅡ | 2.6 | 14.1 | 5.6 | 釉色は上位は暗オリーブ色、下位は灰オリーブ色。胴部に暗オリーブ色の釉を流し掛け。素地は灰白色。上位に細かな飛び鉋。 | 1号墓内 |
| | 36 | | CⅢ | 3.5 | 12.2 | 4.9 | 釉色は上位は灰オリーブ色、下位は黒褐色。胴部に黒褐色の釉を流し掛け。素地は浅黄橙色。上位に細かな飛び鉋。 | 11号墓内一括 |
| | 37 | | CⅣ | 3.4 | 16.5 | 5.6 | 釉色は暗褐色、素地はにぶい黄橙色。やや怒り肩で下半の角は強い。 | 32号墓内 |
| | 38 | | DⅠ | 5.1 | 21.1 | 8.7 | 釉色はオリーブ灰色、素地は灰白色。高台内の轆轤痕は明瞭で点を三つ（∴）と不明の墨書。 | 30号墓前庭 |
| | 39 | | | － | (16.5) | 6.1 | 釉色は明オリーブ灰色で、胴部に口縁、胴部にオリーブ黒色の釉を流し掛け。高台を研磨する。口縁はすべて欠く。 | 6号墓内 |
| | 40 | | DⅡ | 7.0 | 16.0 | 7.4 | 釉色はオリーブ黒色、素地は浅黄橙色。怒り肩で龍耳状の把手がつく。 | 17号墓内 |
| | 41 | | D？ | 4.2 | 13.8 | 4.7 | 底部を研磨する。残存する厚みから考えるとD群に含めてよいだろう。釉色はにぶい黄褐色、素地は浅黄橙色。口縁を半分ほど欠く。 | 10号墓内No.9 |
| | 42 | | E | 3.6 | 20.5 | 8.2 | やや下ぶくれの器形。釉色はオリーブ黒色、素地は橙色。底面は剥落するが、一部に研磨痕がみられる。 | 11号墓内 |
| | 43 | | | 2.3 | 15.2 | 5.9 | ふくらみが強い。オリーブ黒色の釉を流し掛け。素地は赤褐色で無釉陶器と同じ。外底面に「七」の線刻。口縁をわずかに欠く。 | 1号墓内 |
| | 44 | 油壺 | Ⅰ | 3.8 | 7.1 | 4.2 | 小型の油壺。釉色は黒褐色、素地は灰白色。肩部の張りはやや弱い。口縁をわずかに欠く。 | 33号墓周辺 |
| | 45 | | Ⅱ | － | (6.2) | 3.3 | 全体的に丸い小型の油壺。釉色は灰色で、灰オリーブ色の釉を流し掛け。素地は灰白色。口縁はすべて欠き研磨する。底部は碁笥底。 | 26号墓内 |
| | 46 | | | － | (9.5) | 5.2 | 釉色は黒色、素地は暗赤褐色。中型でやや平たい。口縁はすべて欠き、わずかに研磨がみられる。 | 27号墓No.59 |
| | 47 | | | 5.9 | 11.3 | 6.7 | やや大型。釉色は黒色、素地は灰白色。口縁は強く外反する。畳付などにアルミナ付着。口縁をわずかに欠く。 | 1号墓内 |
| 第47図・図版30 | 48 | 油壺 | Ⅲ | 3.1 | 6.4 | 6.7 | 釉色はオリーブ黒色（ただし風化）、素地は灰白色。きわめて平低。口縁を一部欠く。 | 6号墓内 |
| | 49 | | Ⅳ | 1.8 | 6.0 | 3.8 | 釉色は灰白色、素地はにぶい赤褐色。かなりなで肩。 | 1号墓内 |
| | 50 | 急須 | － | 5.0 | 2.8 | 4.9 | 急須の蓋。白化粧に透明釉。素地は灰白色。丸文、襷文を彫り呉須を塗る。 | 8・9号墓周辺 |
| | 51 | | Ⅰ | 5.4 | 7.9 | 7.2 | 白化粧に透明釉、外底面は露胎。素地は灰白色。襷文などを彫り呉須で塗る。やや低平な器形。三足で角状の脚を貼付する。 | 8号墓内＋8・9号墓周辺 |
| | 52 | | Ⅱ | 6.4 | 7.2 | 6.3 | 白化粧に透明釉。外底面は露胎で成形時の指痕が残る。素地は灰白色。上面に花文を彫り呉須を塗る。三足で角状の脚を貼付する。外底面に煤が付着し直接火にかけたと思われる。 | 8・9号墓周辺 |
| | 53 | | － | 9.0 | 14.3 | 7.3 | 大型急須。釉色は外面は黒褐色、内面は極赤褐色、素地はにぶい褐色で赤色粗粒を多く含む。内面は轆轤痕が明瞭で、底部付近は極めて薄手。注口の一部が削られたようになっている。 | 27号墓No.14 |
| | 54 | 酒器 | Ⅰ | 2.8 | 6.3 | 6.0 | 釉色はオリーブ黒色、素地は浅黄橙色。注口は根本から欠失する。底部は碁笥底。 | 11号墓内一括 |
| | 55 | | | 3.8 | 7.6 | 11.1 | 釉色は暗オリーブ色、素地は灰白色。外面に飛び鉋。底部は碁笥底状を呈する。口縁を４分３のほどを欠き、注口先端を欠く。 | 1号墓内 |
| | 56 | | Ⅱ | 3.9 | 9.7 | 6.4 | 釉色は黒褐色、素地は灰白色。肩部の張りはやや弱い。注口先端を欠く。 | 11号墓内一括 |
| | 57 | | | 3.6 | 9.1 | 6.0 | 釉色は極暗赤褐色で肩部に黒色の釉を流し掛け。素地は灰白色。肩部の張りは前者より強く、器高が高い。底部は碁笥底状。注口は真っ直ぐに立ち上がり、先端を欠く。口縁をわずかに欠く。 | 11号墓内一括 |
| | 58 | | | 3.4 | 7.4 | 5.0 | 側面観は逆台形をなす。底部はベタ底。黒褐色の釉を流し掛けし、疱瘡状を呈する。素地は赤褐色。 | 1号墓内 |
| | 59 | 蓋物 | － | 9.0 | 6.3 | 5.2 | 蓋物の身。筒形の器形で、外面に格子文などを彫り、呉須を塗る。口唇は露胎。 | 32号墓内 |
| | 60 | 蓋 | － | 13.8 | 4.6 | 6.5 | 鍋の蓋か。釉色は暗褐色、素地は黒色。 | 33号墓周辺 |
| | 61 | 香炉 | － | 9.2 | 6.1 | 4.7 | 小型の袴腰香炉。釉色は灰オリーブ色、素地は灰白色。三足で角状の脚。 | 32号墓内 |

注　「No.」は取り上げ番号、「＋」は接合の意。計測値の（　）は破損の値である。

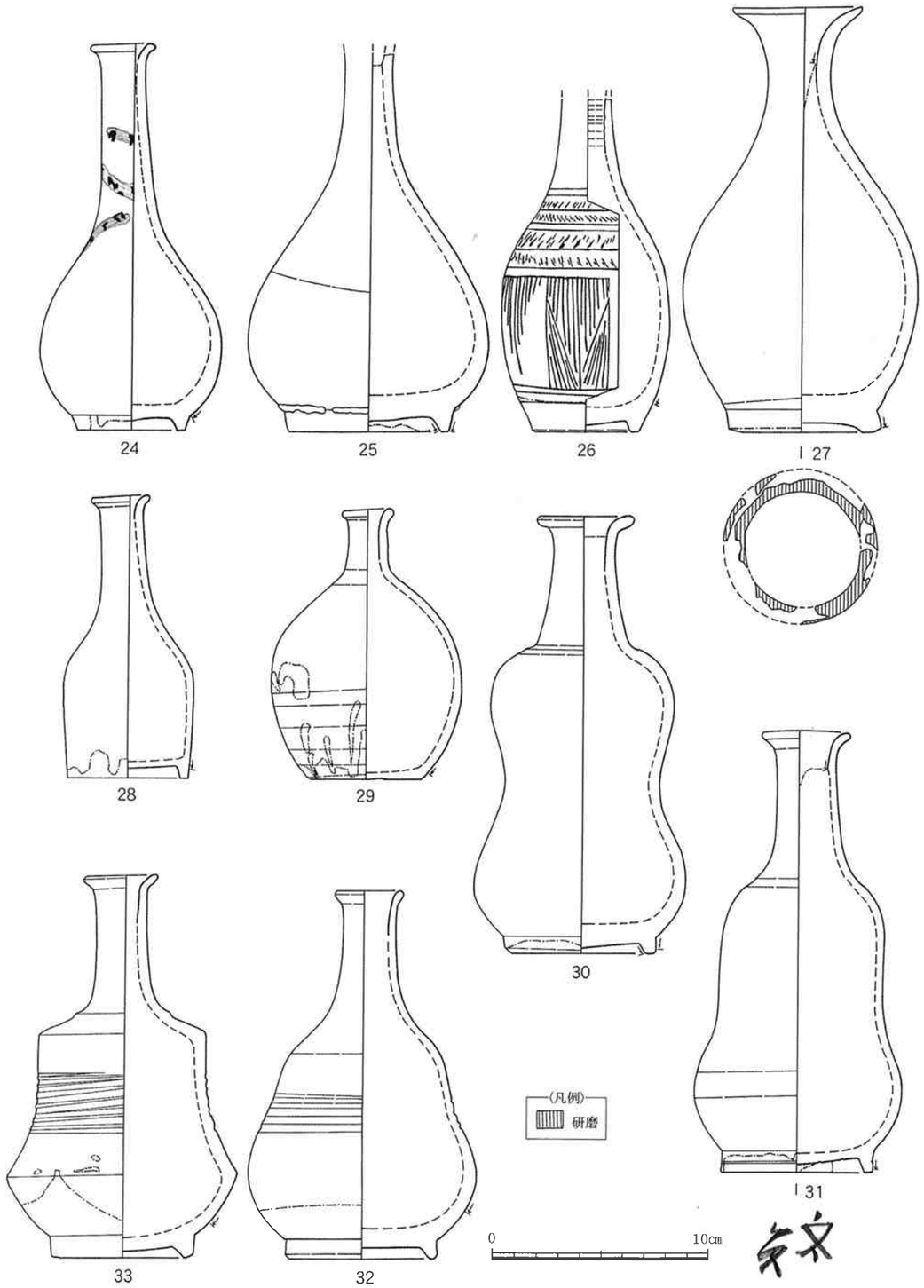



第43図　沖縄産施釉陶器１　碗



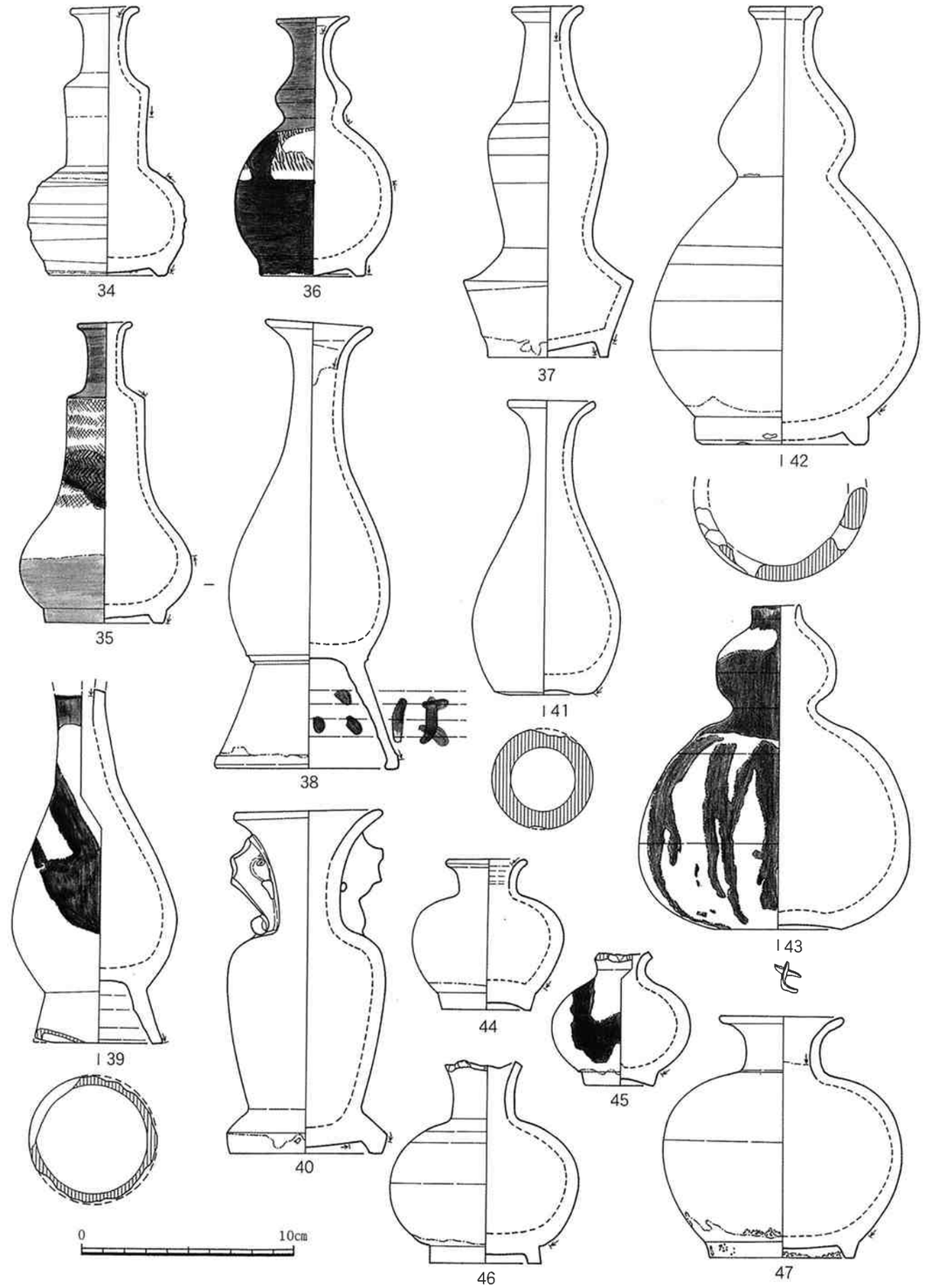



第44図　沖縄産施釉陶器２　小碗(14～16)、小杯(17･18)、皿(19～23)

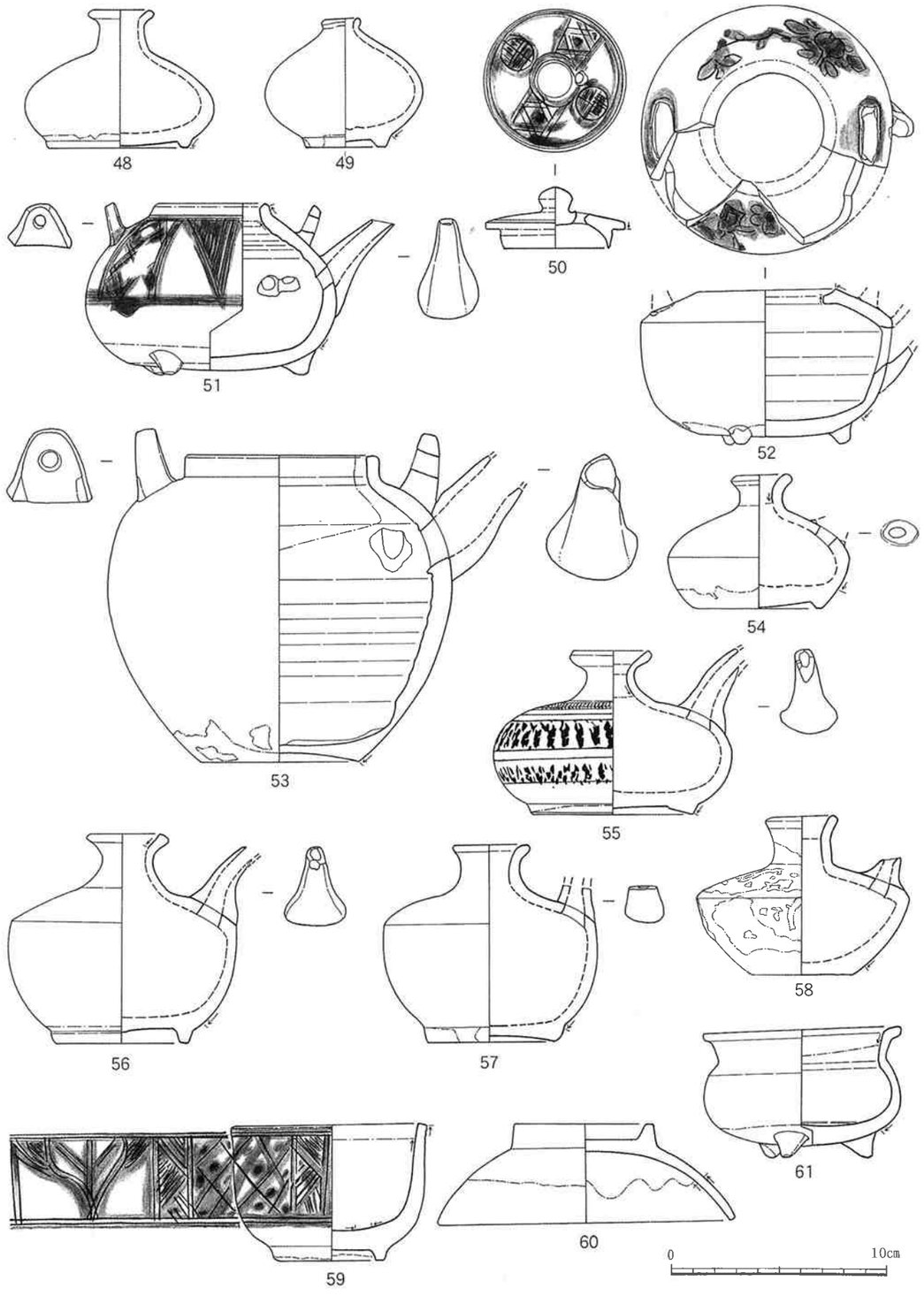



第45図　沖縄産施釉陶器３　瓶






第46図　沖縄産施釉陶器４　瓶(34～43)、油壺(44～47)




第47図　沖縄産施釉陶器５　油壺(48・49)、急須(50～53)、酒器(54～58)、蓋物(59)、蓋(60)、香炉(61)



## 第18節　沖縄産無釉陶器

褐色系統の素地の焼き締め陶器で「荒焼」と称する一群である。基本的に釉薬を施さないが、泥釉やマンガン釉を施す場合がある。無釉陶器には八重山焼を含んでいると思われるが、明確に沖縄本島のものと分けることができなかったため沖縄産陶器として一括した。

大型の壺を主体として得られ、貯蔵具が多い。納骨器の節でも記したが、大型壺は納骨器もしくは水溜めの容器として用いたと思われる。以下、概要と分類概念を記し、詳細は観察表に記した。

壺は第48～50図で、40cm前後のものを大型壺、20～30cm前後のものを小型壺とした。分類は『ヤッチのガマ・カンジン原古墓群』に従い、新たなタイプは追加した。また、分類には図示できないものを含んでいる。

耳の形態　　Ⅰ類：四耳壺　　Ⅱ類：三耳壺　　Ⅲ類：耳をもたない
胴の最大径位置　a：肩部の張りが強い　　b：肩部の張りが弱い　　c：胴が張る
口縁部の形状　　あ：口縁部がやや肥厚する　　い：口縁部を折り曲げて肥厚　　う：玉縁状をなす
え：口縁を直角に折り曲げる　お：その他

甕は第24図３・第48図10である。第24図３は11号墓で転用器として用いられたもので、口径に比べて底径はかなり小さい。第48図10は口縁部のみの資料で、口縁ですぼまる器形をなす。

鉢は第48図９・第49図19である。19は小型の鉢で、23号墓の墓口前から出土し香炉に用いたと思われる。９は口縁下に波状文を巡らせる大型の鉢である。擂鉢は口縁部片、胴部片が各１点得られ、口縁部片を図示した。

皿は第50図28・29の２点のみで、いずれも低平で厚手のタイプである。

瓶は第49図16～18、第50図23・24で、施釉陶器のＡ・Ｄ・Ｅ群に属するタイプである。第49図20は花生で、島内のウガンで類例を確認した。第49図21は20と同形の資料と思われるが頸部より上を欠失し、香炉に転用したと思われる。

急須は第50図30の１点のみである。筒状の取っ手で、注口と直交するように付けている。蓋は第50図34・35である。35は第47図53の大型急須の近くから出土しており組み合わせて使用した可能性も考えられる。

火取は第50図31～33で筒形の器形で底部にボタン状の脚を３つ貼付する。口縁は直口するタイプ、内彎するタイプに分けられる。島内のウガンで火取を香炉に用いており、これも香炉と思われる。

第51表ａ　沖縄産無釉陶器観察一覧　　単位:cm

| 図番号 | | 器種 | 分類 | 口径 | 器高 | 底径 | 観察事項 | 出土地 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第48図・図版31 | 1 | 壺 | Ⅱaう | 16.5 | 70.9 | 22.9 | もっとも大型の壺。素地は暗赤色。肩部に大きな耳を貼り付け2条の圏線。「○に一」？の判。外面には細かな条線が残る。 | 29号墓 |
| | 2 | | Ⅱbう | 17.7 | 60.0 | 22.0 | 耳の残り方から三耳と思われる。素地は暗赤色で白色粒を含む。自然釉。口縁部にサンゴ痕。肩部に圏線2条と「十六」？の判。 | 24号墓 |
| | 3 | | Ⅱbい | 17.8 | 58.7 | 22.2 | 素地は暗赤褐色で白色粒を含む。口縁は折り返すように形成。肩部に圏線2条と「六」の判。 | 30号墓前庭 |
| | 4 | | Ⅱcあ | 11.4 | 48.2 | 15.2 | 砲弾型の器形。肩部に圏線2条と「五」？の判。 | 29号墓 |
| | 5 | | Ⅲbえ | 12.3 | 32.5 | 13.1 | 素地は赤褐色。肩部に圏線2条と「十六」の判 | 2号墓前庭 |
| | 6 | | Ⅲbお | 12.2 | 45.6 | 20.1 | 胴の張りが大きい。素地は明赤色。肩部から口縁部にかけて泥釉を施す。肩部に圏線1条と「二」の判。 | 8・9号墓周辺 |
| | 7 | | Ⅲcあ | 12.6 | 41.5 | 19.7 | 器形は前者よりも胴の最大径が低い。素地は明赤色。外面に泥釉を施す。肩部に3条および1条の圏線、圏線間に「ホ」？の判。 | 8・9号墓周辺 |
| | 8 | | Ⅲcあ | 16.1 | 31.2 | 16.6 | 口縁が直に立ち上がる器形。素地は暗赤色で白色粒を含む。肩部に2条の圏線と突対条で間にボタン状の浮文。腰部に1条の太い圏線。胴部には沈線で草文？を施す。 | 30号墓 |
| | 9 | 鉢 | － | 48.0 | 24.7 | 22.8 | 素地は赤褐色。口縁をＬ字状に形成し、肩部に櫛描きの波状文と圏線1条。 | 地区北側 |
| | 10 | 甕 | － | 36.6 | － | － | 大型の甕。素地は赤褐色。口縁は方形肥厚で2条の圏線。頸部には3条と2条の圏線で圏線間に波状文。またボタン状の貼付文を施す。 | 31号墓 |

注　「No.」は取り上げ番号、「＋」は接合の意。

## 第51表b　沖縄産無釉陶器観察一覧

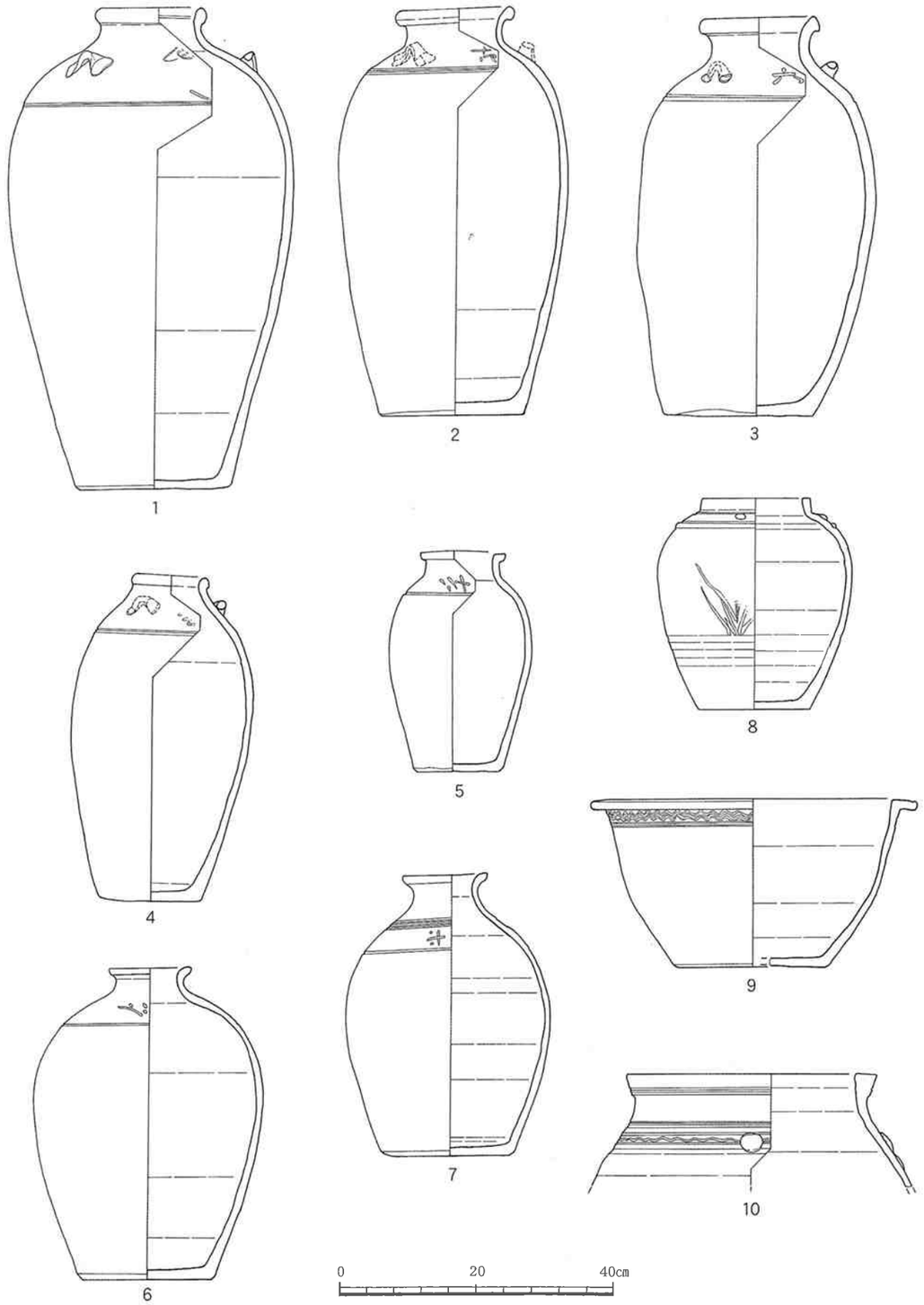
単位:cm

| 図番号 | | 器種 | 分類 | 口径 | 器高 | 底径 | 観察事項 | 出土地 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第49図・図版32 | 11 | 壺 | Ⅲaえ | 14.2 | 26.0 | 14.2 | 素地は赤褐色で白色粒を含む。寸胴な器形で、口縁は鋤先状に形成し口唇上面をわずかにくぼませる。内外とも形成痕が明瞭。肩部に不明の判。 | 11号墓土坑 |
| | 12 | 壺 | Ⅲbあ | 10.4 | 21.3 | 10.5 | 素地は暗赤色。口縁を弱く玉縁状にする。内外ともに轆轤痕が残る。肩部に弱い圏線1条と不明の判。 | 7号墓内＋7号墓周辺 |
| | 13 | 壺 | Ⅲaお | － | － | 10.3 | 素地は暗赤褐色。かなり低平な器形。内外ともに轆轤痕。外面に不明の判。外面は糸切り。 | 26号墓 |
| | 14 | 壺 | Ⅲcえ | 11.3 | 22.8 | 8.4 | 素地は暗赤色。内面は轆轤痕が明瞭で内外とも焼きぶくれがみられる。 | 10号墓周辺 |
| | 15 | 壺 | Ⅲcあ | 9.1 | 15.7 | 8.0 | かなり厚手で稚拙なつくり。外面に薄い刷毛目状調整がみられる。肩部に「○」字状の判。 | 1号墓 |
| | 16 | 瓶 | － | 7.1 | 22.1 | 8.9 | 大型の徳利。口縁は大きくラッパ状に開き、肩部はなで肩。肩部に圏線１条。 | 11号墓土坑 |
| | 17 | 瓶 | － | 6.4 | 24.9 | 11.0 | 大型の徳利で前者より胴が張る。素地は赤褐色。肩部に5条と1条の圏線。圏線間に「三」と「:」の判。 | 14号墓＋14号墓周辺 |
| | 18 | 瓶 | － | 2.7 | 14.6 | 8.1 | 瓢箪形の徳利。下部のふくらみが大きい。 | 27号墓 |
| | 19 | 鉢 | － | 16.6 | 10.4 | 11.3 | 素地は明赤褐色。口縁をＬ字状に形成。全体的に丸みを帯びる。外底は削り出しで高台をつくる。 | 23号墓 |
| | 20 | 花生 | － | 10.1 | 17.5 | 7.4 | 素地は明赤褐色。口縁が大きくラッパ状に開き、頸部は太く、胴部は小さい器形。腰部は削りがあり、全体的に轆轤痕が残る。肩部には圏線2条。底部はベタ底で「二」の判。 | 1号墓 |
| | 21 | 花生 | － | － | － | 7.5 | 素地は明赤褐色。胴部のみが残るが前者と同様な器形と思われる。香炉として使用したものか。底部はベタ底で「二」の判。 | 10号墓内一括 |
| 第50図・図版33 | 22 | 擂鉢 | － | 28.0 | － | － | 素地は明赤褐色。Ｌ字状の口縁のみ残る。わずかに条線がみられる。口縁上面に圏線1条。 | 30号墓内 |
| | 23 | 瓶 | － | － | － | － | 瓶子のスカート状高台がはずれたものか。素地は暗赤褐色。本来は自然釉が発色していたと思われるがほとんど剥落。口縁は打ち欠いている。外底面に「二」字状の判。 | 10号墓内 |
| | 24 | 瓶 | － | － | － | 5.7 | 素地は明赤褐色。肩部に圏線1条。腰部に不明の沈線文、判か。外底面に不明の墨書？ | 10号墓内No.12 |
| | 25 | 油壺 | － | － | － | 5.2 | 素地は暗赤褐色。丸みを帯びた器形。 | 11号墓内一括 |
| | 26 | 油壺 | － | － | － | 6.2 | 素地は暗赤褐色。器形は前者よりも胴の最大径が低い。口縁は欠失し研磨を施す。外底に不明の判と「摩文仁」の略字。 | 1号墓 |
| | 27 | 壺？ | － | － | － | 6.4 | 壺か。素地は暗赤褐色。内外ともに轆轤痕。 | 11号墓 |
| | 28 | 皿 | － | 12.4 | 3.5 | 6.0 | 厚手の皿。素地は暗青灰色。底部はベタ底。 | 11号墓内一括 |
| | 29 | 皿 | － | 11.9 | 3.5 | 5.1 | 厚手の皿。素地はにぶい橙色。底部は丸みを帯びる。重ね焼きの痕が残る。 | 1号墓 |
| | 30 | 急須 | － | 6.2 | 10.4 | 5.6 | 素地は明赤褐色。 | 27号墓No.58 |
| | 31 | 火取 | － | 11.3 | 7.2 | 8.7 | 口縁は直口。底部にはボタン状の脚を３つ。 | 11号墓土坑 |
| | 32 | 火取 | － | 9.8 | 7.3 | 8.0 | 素地は赤褐色。口縁は内側に張り出すように形成。外底にボタン状の脚を3つと「二八」の判。 | 25･27号墓周辺 |
| | 33 | 火取 | － | 10.0 | 9.3 | 10.2 | 素地は暗青灰色。外面は自然釉が発色。口縁を内湾させる。底面にボタン状の脚。 | 10号墓内一括 |
| | 34 | 蓋 | － | 12.4 | － | 9.3 | 低平な蓋。素地は明赤褐色。 | 7号墓石積み内 |
| | 35 | 蓋 | － | 9.7 | 4.7 | 7.5 | 前者よりも高い器形。ボタン状の撮み。 | 27号墓No.18 |

注「No.」は取り上げ番号、「＋」は接合の意。

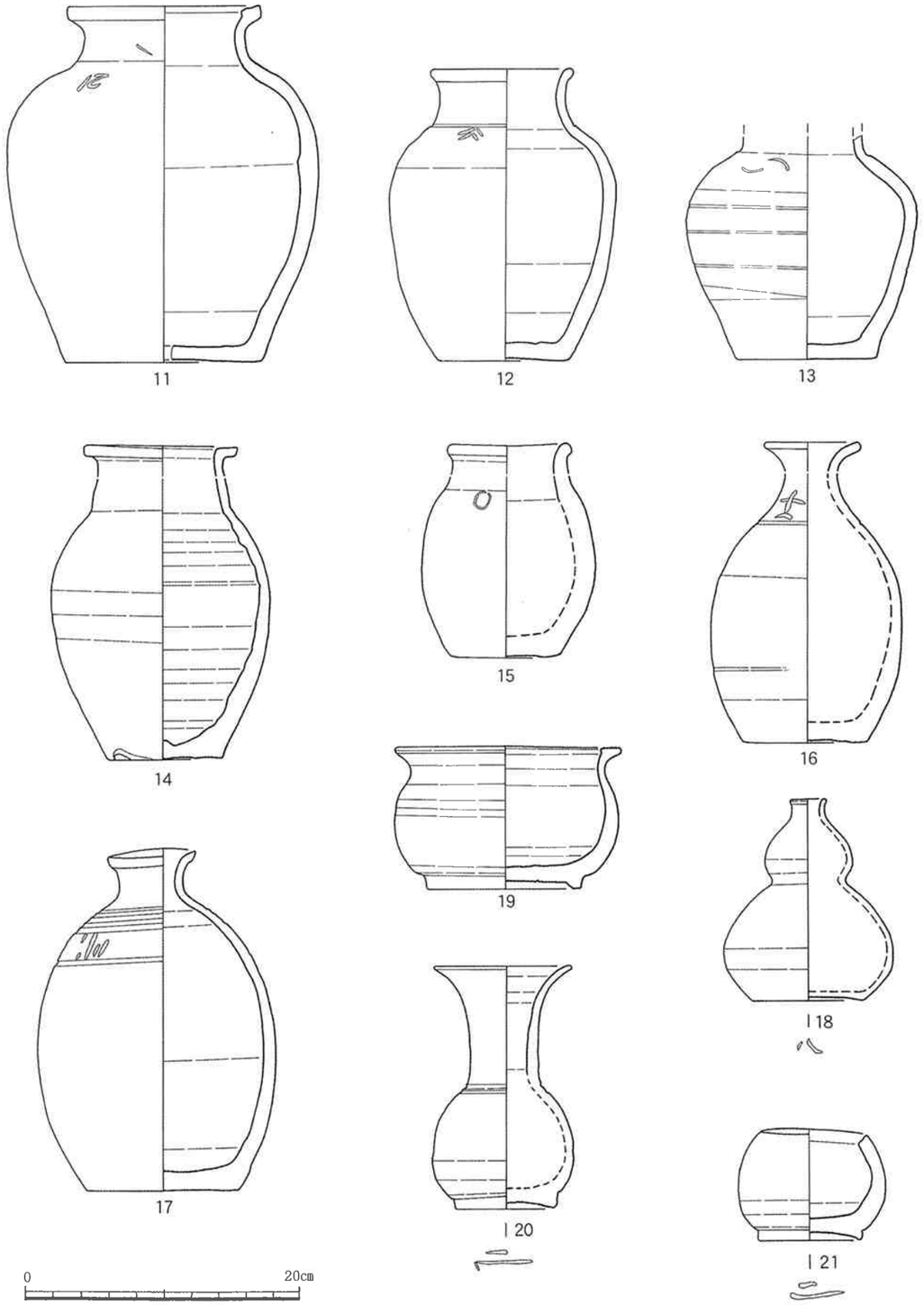


## 第52表　沖縄産無釉陶器出土状況

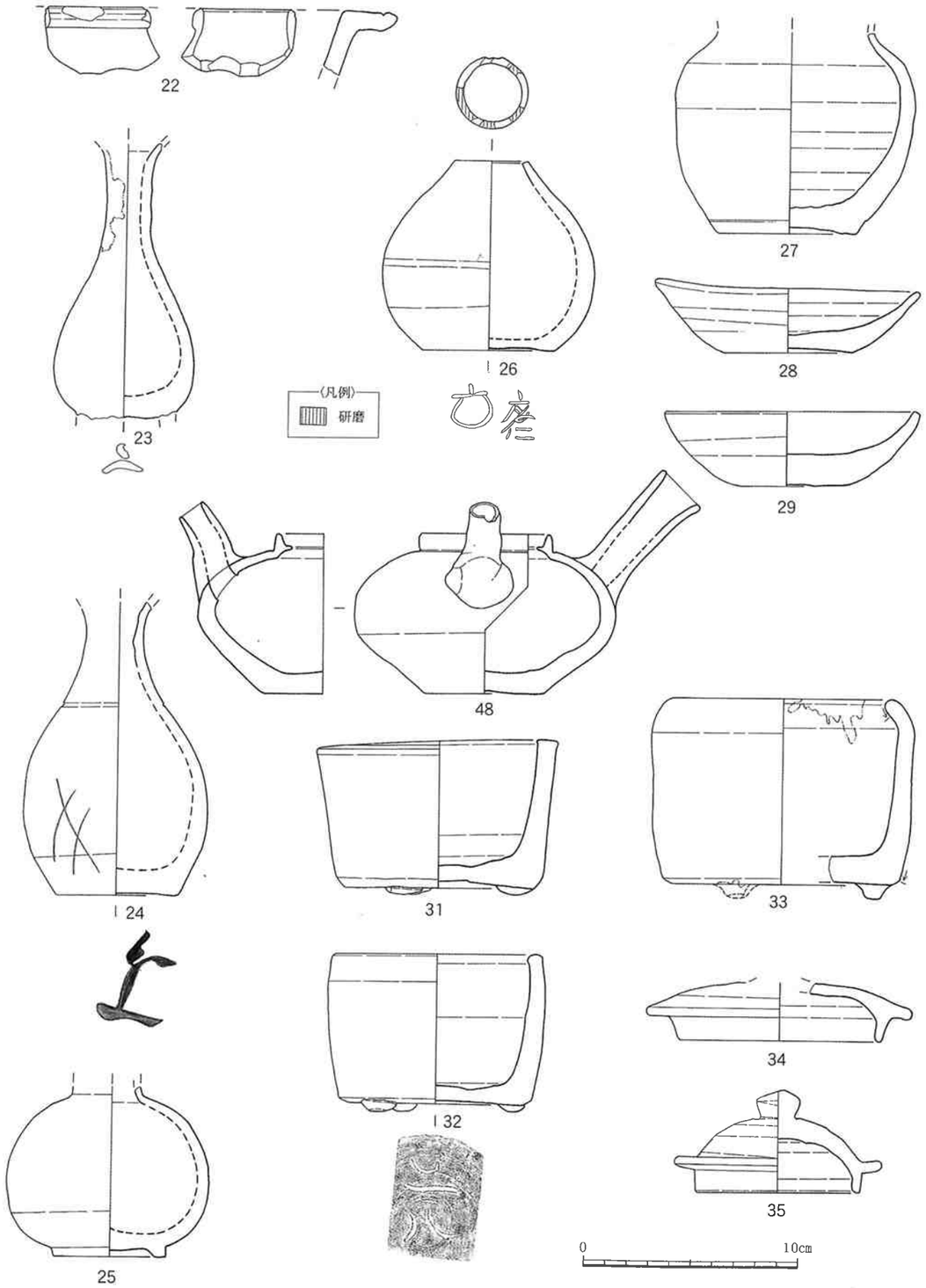



第48図　沖縄産無釉陶器１　壺(1～8)、鉢(9)、甕(10)






第49図　沖縄産無釉陶器２　壺(11～15)、瓶(16･17･18)、鉢(19)、花生(20･21)




第50図　沖縄産無釉陶器３　擂鉢(22)、瓶(23・24)、油壺(25・26)、壺？(27)、皿(28・29)、急須(30)、火取(31～33)、蓋(34・35)



## 第19節　土器

パナリ焼と八重山式土器が得られた。

パナリ焼は壺と火取が得られた。泥質の胎土で白色粗粒を多く含む。詳細は観察表に記した。壺は第51図１・２で、いずれも小型の壺で器形は似るが、２は口縁をわずかに肥厚させる。火取は３～５で、香炉に用いたと思われる。器形は底部から弱く逆「ハ」の字に開くタイプと直に立ち上がるタイプがある。

八重山式土器は胴部片が２点得られた。いずれも砂泥質の胎土でわずかに微細鉱物粒を含む。２号墓周辺からの採集。図・写真は省略した。

### 第53表　土器出土状況

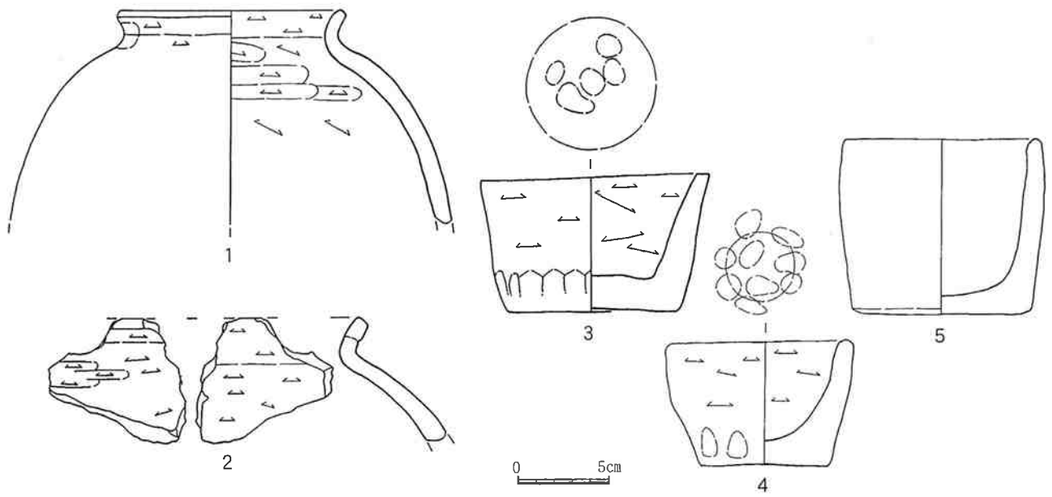
| 器種・分類 ＼ 出土地 | | | | 1号墓 | 1号墓＋ | 7号墓 | 10号墓 | | | 16号墓 | | | 18号墓 | 地区 | 24号墓 | 25号墓 | | 27号墓 | | | 地区 | 29号墓 | 30号墓 | 不明 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 内 | 7号墓 | 内 | 内 | 石積み | 前庭 | 覆土 | 前庭 | 前庭覆土 | 内 | 北側 | 内 | 内 | 石積み | 内 | 厨子 | 石積み | 西側 | 石積み | 内 | | |
| 壺 | あ | ア | 完形 | | | | 1 | | | | | | | 1 | | | | | 5 | | | | 3 | | 10 |
| | | | 口 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | | 底 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| | | イ | 完形 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | 1 | | | | 2 |
| | い | | 完形 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 不明 | | 口 | | | 1 | | | 1 | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | 4 |
| | | | 胴 | | | 3 | | 1 | 4 | | 8 | | 2 | 3 | | 3 | 1 | 6 | | 4 | 2 | 1 | | 1 | 39 |
| | | | 底 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 鉢形 | | | 底 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| 火取 | | | 完形 | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 2 |
| | | | 底 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 合計 | | | | 1 | 1 | 4 | 1 | 1 | 5 | 1 | 8 | 2 | 3 | 5 | 1 | 3 | 1 | 6 | 6 | 4 | 3 | 1 | 5 | 1 | 63 |

注　「＋」は接合の意。

### 第54表　土器観察一覧

単位:cm

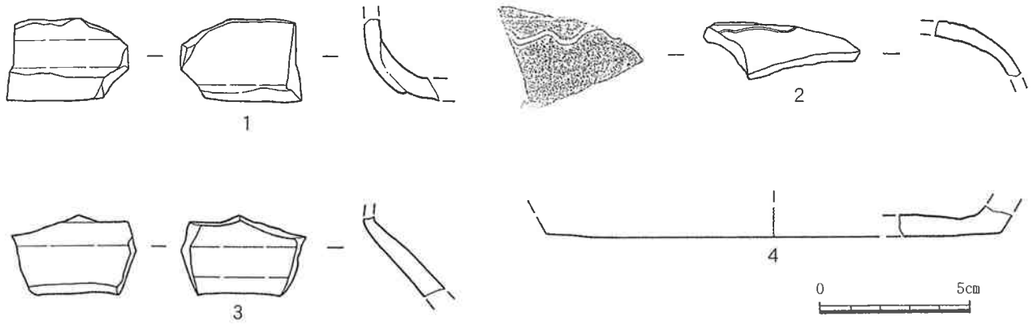
| 図番号 | | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 観察事項 | 出土地 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第51図・図版34 | 1 | 壺 | 12.0 | － | － | 小型壺。丸みを帯びた器形であると思われる。口縁は弱く外反。内外ともにナデ。泥質の胎土で混和材に白色粗粒を多く含む。器色は赤褐色。 | 16号墓前庭覆土 |
| | 2 | | － | － | － | 器形、胎土、混和材とも前者に似るが口縁を玉縁状にする。器色は橙色。 | 7号墓内 |
| | 3 | 火取 | 12.5 | 7.4 | 9.3 | 逆「ハ」の字に開く器形。外面は胴上位はナデ、下位はケズリ、内面はナデ。口唇は平坦。泥質の胎土で混和材に白色粗粒を多く含む。器色はにぶい赤褐色。 | 24号墓内 |
| | 4 | | 10.1 | 6.8 | 7.0 | 前者よりも開く器形。内外ともナデ。手捏ね形成か。泥質の胎土で混和材に白色粗粒を多く含む。器色は明赤褐色。 | 1号墓内 |
| | 5 | | － | 9.5 | 9.8 | 底部から直に立ち上がる筒形の器形。器面は剥落し調整は不明。泥質の胎土で混和材に白色粗粒を多く含む。器色は明赤褐色。 | 16号墓前庭覆土 |




第51図　土器　壺(1・2)、火取(3～5)

## 第20節　類須恵器

細片が４点得られた。第52図１は壺の頸部片で内面に叩き痕がわずかに認められる。18号墓周辺から採集。２・３は壺の肩部片で、２は波状文を施す。２は７号墓石積み内から出土、３は14号墓周辺から採集。４は底部片で底径15.0cm、14号墓周辺から採集。すべて地区北側からの出土・採集である。




第52図　類須恵器

## 第21節　瓦

細片が27点得られた。地区北側から８点、地区西側から12点、地区南側から７点で、墓の石積みに伴う資料を含む。種別は判然としないが、丸瓦、平瓦を含むと思われる。写真等は省略した。与那国島で瓦を用いるようになったのは19世紀末以降で、明治末から昭和初期までは島内で独自に瓦を焼いている（宮良2000）。

## 第22節　石器・石製品

石器・石製品は敲石２点、敲石兼磨石、石皿各１点、砥石３点の７点である。詳細は観察表に記した。

第53図１・２は敲石である。１は円形で１面に敲打痕がある。２は歪な楕円形で敲打痕は目立たない。墓室覆土からの出土で、本来は人骨に伴うものでない可能性がある。３は楕円形をなす敲石兼磨石である。１面に磨り痕とわずかな敲打痕が確認できる。４は石皿片で１面が弓なりに窪む。

同図５～７は砥石である。５は長方形の砥石で一部破損する。１面に溝状の研ぎ痕が残り錐などを研いだと思われる。与那原遺跡（与那国町教委1988）に類例がある。６は破損した礫を用い２面に研ぎ痕が残る。７は側面観が「D」字状をなし１面を研ぎ面にする。

第55表　石器・石製品観察一覧

単位:cm/g

| 図番号 | | 種別 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重 | 観察事項 | 出土地 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第53図・図版34 | 1 | 敲石 | 8.9 | 8.4 | － | 307 | 円形の敲石。破損した円礫を用いる。1面を使用し、敲打で深めに窪む。砂岩。 | 22号墓室覆土 |
| | 2 | | 9.2 | 6.3 | 4.5 | 395 | 方形に近い。1面を使用するが敲打は弱く目立たない。砂岩。 | 24号墓 |
| | 3 | 磨石兼敲石 | 8.7 | － | 3.8 | 320 | 分銅形。敲打、磨りを同じ面で行うが弱く目立たない。砂岩。 | 24号墓石積み内 |
| | 4 | 石皿 | － | － | 5.5 | 619 | 石皿の破損品。1面を使用し、弓なりに窪む。砂岩。 | 22号墓石積み内 |
| | 5 | 砥石 | 17.5 | 11.7 | 6.3 | 2,265 | 長方形の砥石（破損品）。1面を使用し、溝状の使用痕が10条ほどが深く残る。砂岩。 | 7号墓石積み内 |
| | 6 | | － | － | 4.7 | 645 | 角礫を利用した砥石。2面を使用し、1面は平坦、もう1面は若干反る。2面とも平滑になる。砂岩。 | 30号墓石積み内 |
| | 7 | | － | 9.6 | 5.5 | 731 | 側面観が「D」字をなす。1面のみを使用し、かなり平滑。砂岩。 | 25～27号墓周辺 |

第53図　石器（1～4）、石製品（5～7）

## 第23節　貝製品・骨製品

貝製品はタカラガイ・イモガイ製品とボタン、骨製品はハブラシと札状製品である。詳細は観察表に記した。

第54図１～６はタカラガイ・イモガイ製品で、１～４はタカラガイとイモガイの背面に穿孔した有孔製品、５・６はタカラガイの背面を打ち欠いたもの（背面除去タカラガイ）である。前者はヤッチのガマ、那覇市ナーチュー毛古墓群（那覇市教委2000）、後者は波照間島庸原第一墓（仲間1998）に類例がある。また、後者は打割のみで加工を施さず、27号墓などは墓室内にサンゴジャリを敷いており自然のものが混入したとも考えられる。ボタンは第54図７・８で２点出土した（後者はプラスチック）。いずれも人骨に伴う。

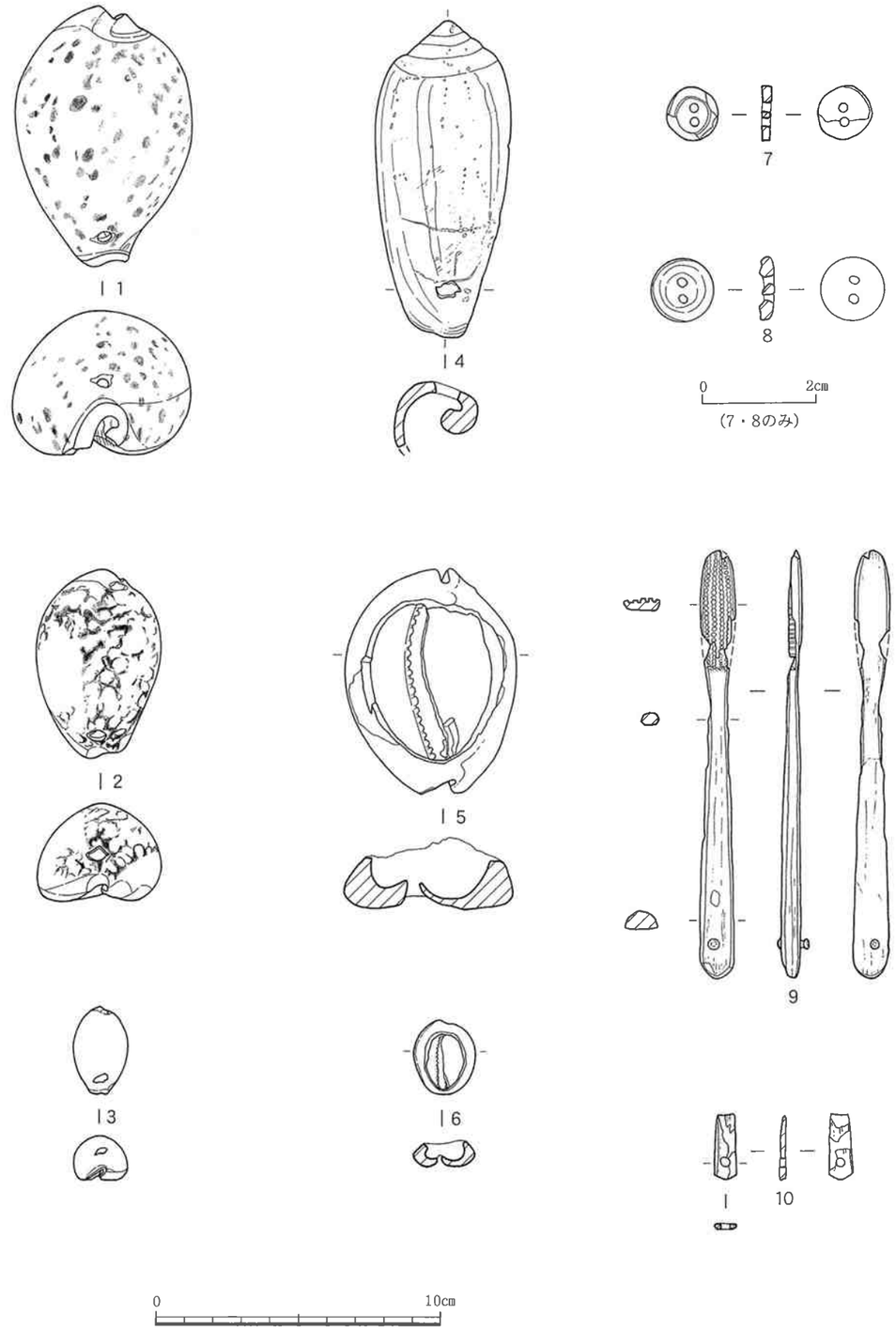
第54図９はハブラシでこれまで得られている資料に準ずる。10は有孔の札状製品で、一端が破損する。小型の製品で円孔を穿つ。

### 第56表　石器・石製品観察一覧

単位：cm

| 図番号 | | 種別 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 重さ (g) | 観察事項 | 出土地 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第54図・図版34 | 1 | 有孔製品 | 9.1 | 6.2 | 105.3 | 打割による穿孔。外からの穿孔か。ホシダカラを使用。 | 7号墓 |
| | 2 | | 6.4 | 4.3 | 34.7 | 打割と擦り切りによる穿孔。ハチジョウダカラを使用。 | 7号墓焼骨域 |
| | 3 | | 3.0 | 1.9 | 2.5 | 擦り切りによる穿孔。クチムラサキダカラを使用。 | 11号墓土坑 |
| | 4 | | 11.0 | 4.8 | 97.2 | 擦り切りによる穿孔。アンボイナの死貝を使用。 | 24号墓 |
| | 5 | 背面除去タカラガイ | 7.9 | 6.0 | 74.9 | 背面を打ち欠く。研磨はみられない。ハチジョウダカラを使用。 | 31号墓 |
| | 6 | | 2.6 | 2.2 | 3.7 | 背面を打ち欠く。研磨はみられない。ハナマルユキを使用。 | 27号墓内 |
| | 7 | ボタン | 1.0 | 0.2 | 0.3 | 貝の真珠層を用いたボタン。表面はわずかに風化。円孔を2つ設ける。人骨に共伴。 | 21号墓内 |
| | 8 | | 1.2 | 0.3 | 0.4 | 乳白色のプラスチック製ボタン。形状は前者に準ずる。人骨に共伴。 | 20号墓内 |
| | 9 | 歯ブラシ | 14.9 | 1.3 | 7.3 | 表面は風化が著しい。頭部に円形の植毛孔3列が並ぶ。柄の断面系は半円で、先端に円孔を設けプラスチック製の留め具を入れる。人骨に共伴。 | 22号墓内 |
| | 10 | 札状製品 | 2.3 | 0.8 | 0.2 | 円孔を設けた札状製品である。全体的に風化するが研磨の痕が残る。1端は角の弱い三角形で、逆の1端は破損する。 | 10号墓内 |



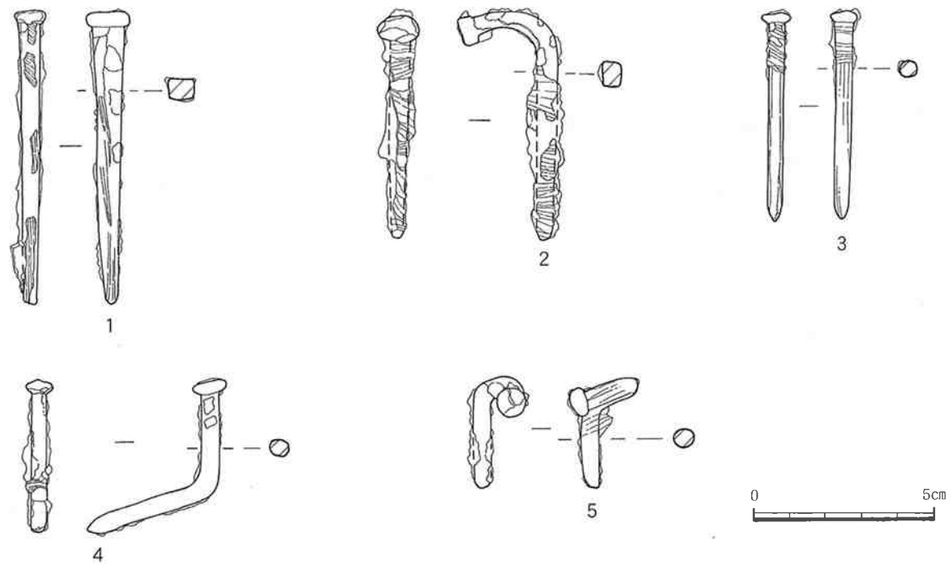



第54図　貝製品(1～6)、ボタン(7・8)、骨製品(9・10)

## 第24節　釘

釘は全てが鉄製で、16号墓内から２個体、20号墓から52個体、21号墓から67個体、22号墓から112個体出土している。先端及びほぼ全体に木質が付着しているため、木棺などの木材構造物に使用されていたことは間違いないであろう。20号墓から出土した釘は観察可能なもの全てが断面長方形または正方形であるが、21･22号墓から出土した釘は断面円形の丸釘である。特徴的な5点を第55図に図示した。

１は20号墓から出土した角釘で、全長8.1cm・最大厚0.6センチである。２も20号墓から出土した角釘で、頭部が曲がる。先端から5.0cmの厚さで木質が横方向に残る。全長6.3cm、最大厚0.7cm。３は21号墓から出土した丸釘で、頭部から約1.0cmまで横方向、そこから先端までは縦方向で木質が残るため、板材の組み合わせ部に使用したのだろう。全長5.8cm、最大厚0.4cm。４は22号墓から出土した丸釘で、先端から4.0cm程曲がる。頭部から2.0cmまで横方向に木質が残る。全長4.2cm、最大厚0.4cm。５も22号墓から出土した丸釘で、上部半分をU字に曲げる。下部に横方向で木質が残る。全長3.0cm、最大厚0.5cmである。




第55図　釘

## 第25節　簪

簪は総数58点が得られた。頭部が花型（Ⅰ類）を呈する男性用の本簪が30点、匙型（Ⅲ類）を呈する女性用の本簪が14点、耳かき型（Ⅱ類）を呈する副簪が14点である。材質はほとんどが真鍮製で、アルミ製の可能性のものが１点である。特徴的な６点を図示した。

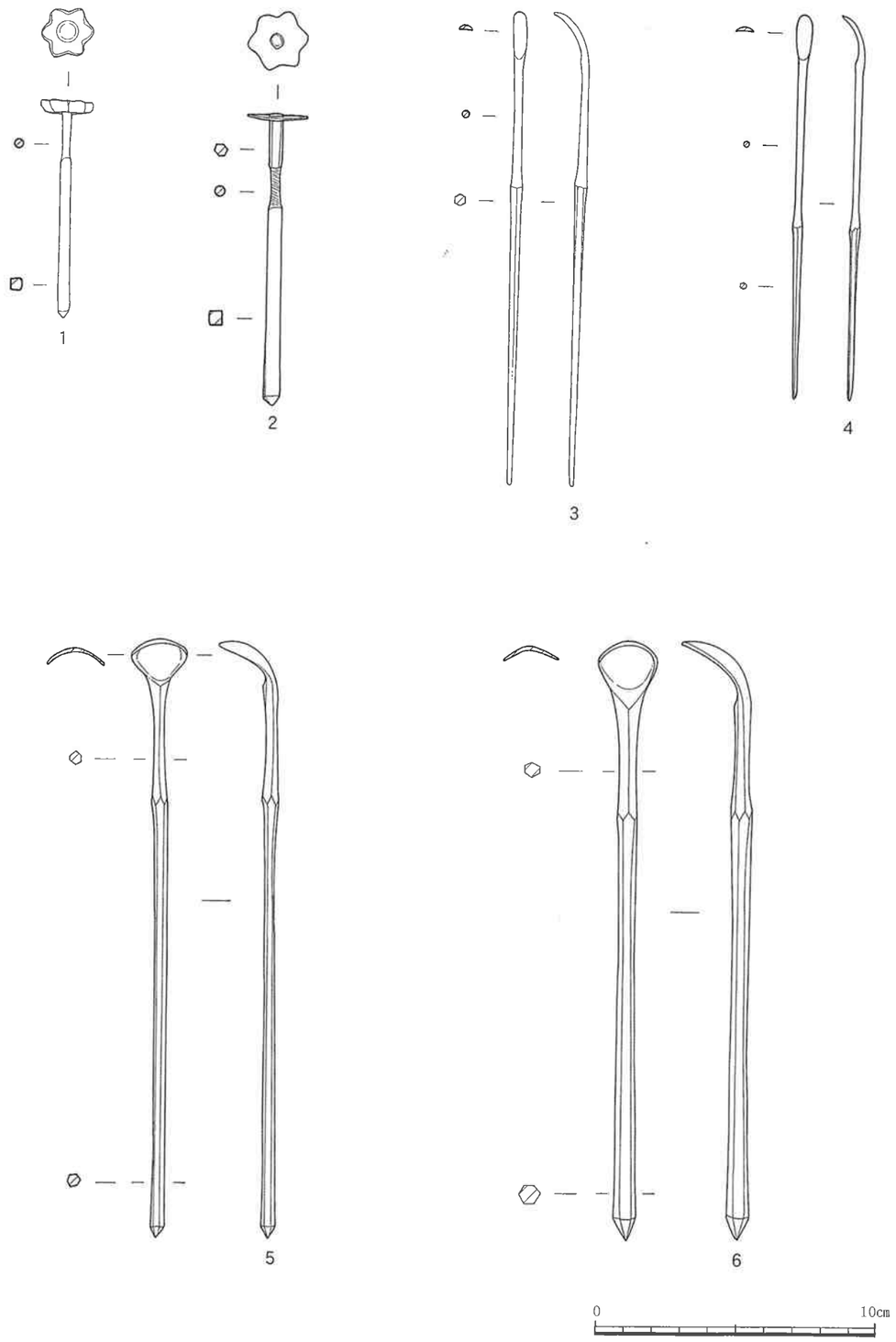
１は真鍮製で、１号墓から出土した。カブは花型で、花弁は６枚。竿の断面は四角形で先端部は四角錐をなす。２も同じく花型で真鍮製である。カブ・首・ムディ・竿からなり、ムディは螺旋状にねじりが加えられている。首の断面は六角形、ムディは円形、竿は１と同じ形状である。３・４は耳かき型の副差で、ともに首の断面は円形、竿の断面は六角形である。５・６は匙型を呈する。首・竿の断面は六角形。５は匙型の他の資料よりも厚みがあり、ほぼ倍の太さがある。３～６ともに真鍮製。



第57表　簪計測一覧

単位：cm/g

| 通し番号 | 分類 | 形状 | 全長 | 重さ | 花 | | カブ | | | 首 | | ムディ | | 竿 | | 出土地 | 図版番号 挿図番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 径 | 厚み | 長さ | 径 (a) | 径 (b) | 長さ | 幅 | 長さ | 幅 | 長さ | 幅 | | |
| 1 | | 完形 | 7.8 | 11.3 | 1.8 | 0.4 | － | － | － | 2.0 | 0.3 | － | － | 5.8 | 0.4 | 1号墓 | 第56図･図版35 1 |
| 2 | | 〃 | 10.4 | 16.4 | 2.1 | 0.2 | － | － | － | 3.2 | 0.5 | 1.4 | 0.4 | 7.1 | 0.4 | 13号墓 | 第56図･図版35 2 |
| 3 | | 〃 | 7.7 | 14.4 | 1.8 | 0.5 | － | － | － | 2.1 | 0.4 | 1.0 | 0.3 | 5.5 | 0.5 | 10号墓内 | |
| 4 | | 破損 | 8.1 | 10.7 | 1.6 | 0.2 | － | － | － | 2.4 | 0.3 | 0.9 | 0.3 | 5.7 | 0.4 | 6号墓内 | |
| 5 | | 〃 | 10.1 | 8.2 | 2.1 | 0.2 | － | － | － | 2.8 | 0.3 | 1.5 | 0.2 | 7.1 | 0.4 | 11号墓集骨 | |
| 6 | | 〃 | 9.6 | 8.6 | － | － | － | － | － | 0.2 | 0.3 | 1.3 | 0.3 | 7.6 | 0.4 | 不明 | |
| 7 | | 〃 | 8.9 | 9.5 | 2.2 | 0.1 | － | － | － | 1.8 | 0.3 | 1.2 | 0.3 | 7.1 | 0.4 | 28号墓内 | |
| 8 | | 〃 | 8.9 | 11.4 | 1.8 | 0.2 | － | － | － | 2.3 | 0.3 | 1.0 | 0.3 | 6.4 | 0.4 | 11号墓集骨 | |
| 9 | | 〃 | 6.9 | 9.6 | 1.6 | 0.2 | － | － | － | 1.7 | 0.4 | 0.8 | 0.3 | 5.2 | 0.4 | 7号墓一括 | |
| 10 | | 〃 | 10.0 | 9.4 | 2.2 | 0.2 | － | － | － | 3.1 | 0.3 | 1.6 | 0.3 | 6.9 | 0.4 | 11号墓集骨 | |
| 11 | | 〃 | 9.5 | 11.7 | 2.1 | 1.0 | － | － | － | 2.5 | 0.4 | 1.3 | 0.3 | 7.3 | 0.4 | 30号墓内 | |
| 12 | | 〃 | 9.2 | 16.0 | 2.0 | 0.1 | － | － | － | 2.1 | 0.4 | 1.3 | 0.3 | 7.1 | 0.6 | 27号墓厨子3 | |
| 13 | | 〃 | 10.9 | 15.7 | 2.3 | 0.2 | － | － | － | 3.0 | 0.4 | 1.4 | 0.4 | 8.0 | 0.5 | 2号墓内 | |
| 14 | | 〃 | 11.0 | 12.1 | 2.2 | 0.2 | － | － | － | 3.2 | 0.4 | 1.7 | 0.3 | 7.8 | 0.4 | 11号墓集骨 | |
| 15 | Ⅰ類 | 〃 | 10.9 | 10.4 | 2.2 | 0.2 | － | － | － | 2.9 | 0.4 | 1.6 | 0.3 | 8.1 | 0.4 | 11号墓集骨 | |
| 16 | | 〃 | 7.9 | 6.8 | 1.3 | 0.4 | － | － | － | 2.1 | 0.3 | 1.0 | 0.3 | 5.7 | 0.4 | 30号墓 | |
| 17 | | 〃 | 10.4 | 7.4 | 2.1 | 0.1 | － | － | － | 2.6 | 0.3 | 1.0 | 0.3 | 7.9 | 0.3 | 11号墓集骨 | |
| 18 | | 〃 | 7.0 | 3.8 | － | － | － | － | － | － | － | 0.6 | 0.2 | 6.4 | 0.3 | 11号墓集骨 | |
| 19 | | 〃 | 7.5 | 6.1 | － | － | － | － | － | 1.1 | 0.3 | 0.9 | 0.2 | 5.5 | 0.4 | 27号墓厨子6内 | |
| 20 | | 〃 | － | 1.2 | 2.2 | 0.2 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | 11号墓内 | |
| 21 | | 〃 | － | 0.9 | 2.3 | 0.1 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | 15号墓 | |
| 22 | | 〃 | － | 2.6 | 2.4 | 0.4 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | 11号墓土坑 | |
| 23 | | 〃 | － | 2.7 | 2.3 | 0.4 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | 11号墓 | |
| 24 | | 〃 | － | 2.1 | 2.3 | 0.5 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | 13号墓 | |
| 25 | | 〃 | － | 2.7 | 2.4 | 0.5 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | 27号墓厨子2 | |
| 26 | | 〃 | － | 2.1 | 2.0 | 0.4 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | 10号墓内 | |
| 27 | | 〃 | － | 3.6 | 2.5 | 0.3 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | 15号墓 | |
| 28 | | 〃 | － | 2.3 | 2.2 | 0.3 | － | － | － | - | － | － | － | － | － | 30号墓 | |
| 29 | | 〃 | － | 3.4 | 2.6 | 0.4 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | 2号墓内 | |
| 30 | | 〃 | － | 4.7 | 2.6 | 0.5 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | 11号墓集骨 | |
| 31 | | 完形 | 16.8 | 9.0 | - | － | 1.7 | 0.5 | 1.7 | － | － | － | － | 15.1 | 0.4 | 30号墓 | 第56図･図版35 3 |
| 32 | | 〃 | 13.7 | 4.9 | － | － | 1.7 | 0.5 | 1.5 | － | － | － | － | 6.1 | 0.3 | 7号墓 | 第56図･図版35 4 |
| 33 | | 破損 | 11.7 | 3.8 | － | － | － | 0.4 | - | － | － | － | － | 10.9 | 0.3 | 30号墓 | |
| 34 | | 完形 | 16.7 | 6.5 | － | － | 1.6 | 0.5 | 1.5 | － | － | － | － | 15.1 | 0.3 | 11号墓集骨 | |
| 35 | | 〃 | 16.0 | 6.0 | － | － | 1.4 | 0.6 | 1.3 | － | － | － | － | 14.6 | 0.3 | 11号墓集骨 | |
| 36 | | 破損 | 14.3 | 5.3 | － | － | － | 0.6 | - | － | － | － | － | 12.4 | 0.3 | 24号墓内 | |
| 37 | Ⅱ類 | 〃 | 13.8 | 3.9 | － | － | － | 0.4 | - | － | － | － | － | 12.8 | 0.3 | 1号墓 | |
| 38 | | 完形 | 13.3 | 4.5 | － | － | 1.3 | 0.6 | 1.3 | － | － | － | － | 11.8 | 0.3 | 11号墓内 | |
| 39 | | 〃 | 12.2 | 3.2 | － | － | 1.4 | 0.4 | 1.4 | － | － | － | － | 10.9 | 0.3 | 11号墓集骨 | |
| 40 | | 〃 | 17.9 | 9.8 | － | － | 1.7 | 0.5 | 1.6 | － | － | － | － | 15.8 | 3.7 | 13号墓 | |
| 41 | | 〃 | 17.9 | 7.7 | － | － | 1.7 | 0.5 | 1.6 | － | － | － | － | 16.3 | 0.3 | 11号墓集骨 | |
| 42 | | 〃 | 15.9 | 5.2 | － | － | 1.6 | 0.5 | 1.5 | － | － | － | － | 14.4 | 0.3 | 11号墓集骨 | |
| 43 | | 〃 | 14.0 | 5.4 | － | － | 1.9 | 0.6 | 1.8 | － | － | － | － | 12.0 | 0.2 | 11号墓集骨 | |
| 44 | | 〃 | 14.4 | 5.9 | － | － | 1.5 | 0.5 | 1.5 | － | － | － | － | 13.0 | 0.3 | 6号墓内 | |
| 45 | | 〃 | 21.3 | 27.0 | － | － | 2.2 | 2.1 | 1.1 | － | － | － | － | 18.9 | 0.8 | 3号墓内 | 第56図･図版35 5 |
| 46 | | 〃 | 21.3 | 47.8 | － | － | 2.4 | 2.0 | 1.6 | － | － | － | － | 19.7 | 0.5 | 11号墓集骨 | 第56図･図版35 6 |
| 47 | | 〃 | 23.3 | 27.0 | － | － | 2.2 | 2.0 | 1.1 | － | － | － | － | 22.2 | 0.4 | 25号墓内 | |
| 48 | | 〃 | 20.5 | 24.9 | － | － | 2.7 | 2.2 | 1.7 | － | － | － | － | 18.4 | 0.5 | 1号墓 | |
| 49 | | 〃 | 21.7 | 23.7 | － | － | 2.3 | 1.9 | 1.6 | － | － | － | － | 20.1 | 0.4 | 30号墓 | |
| 50 | | 〃 | 19.9 | 30.2 | － | － | 3.2 | － | 2.5 | － | － | － | － | 17.3 | 0.5 | 28号墓内 | |
| 51 | Ⅲ類 | 〃 | 19.6 | 25.1 | － | － | 2.6 | 2.0 | 1.7 | － | － | － | － | 17.8 | 0.5 | 26号墓 | |
| 52 | | 〃 | 15.2 | 13.1 | － | － | 2.1 | 1.5 | 1.6 | － | － | － | － | 13.6 | 0.4 | 11号墓集骨 | |
| 53 | | 〃 | 16.1 | 10.9 | － | － | 2.4 | 1.6 | 2.4 | － | － | － | － | 13.8 | 0.4 | 11号墓土坑 | |
| 54 | | 破損 | 18.3 | 22.6 | － | － | 2.7 | － | 1.9 | － | － | － | － | 16.3 | 0.6 | 28号墓内 | |
| 55 | | 完形 | 17.5 | 9.8 | － | － | 1.5 | 1.0 | 1.2 | － | － | － | － | 16.2 | 0.4 | 32号墓 | |
| 56 | | 〃 | 17.9 | 21.9 | － | － | 2.2 | 1.7 | 1.6 | － | － | － | － | 16.2 | 0.5 | 7号墓 | |
| 57 | | 〃 | 20.2 | 23.4 | － | － | 2.2 | 1.7 | 1.3 | － | － | － | － | 18.8 | 0.5 | 7号墓 | |
| 58 | | 〃 | 20.0 | 24.1 | － | － | 2.4 | 1.9 | 1.7 | － | － | － | － | 18.2 | 0.5 | 26号墓 | |




第56図　簪



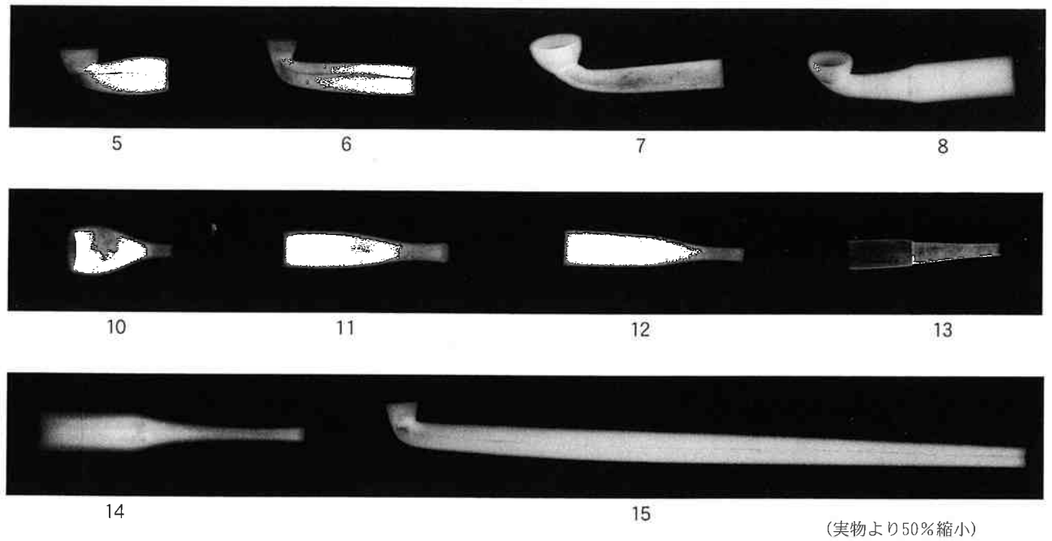
## 第26節　煙管

煙管はほとんどが完形品で、良好な状態で出土している。陶製が15点、金属製64点の総数79点である。特徴的な資料を第57図に示し、材質や観察状況を第59表にあらわす。なお、陶製煙管の断面図を作成するにあたっては、エックス線透過写真（撮影装置：SOFTEX製 M－150W特）を参考にした。

### 煙管入れ

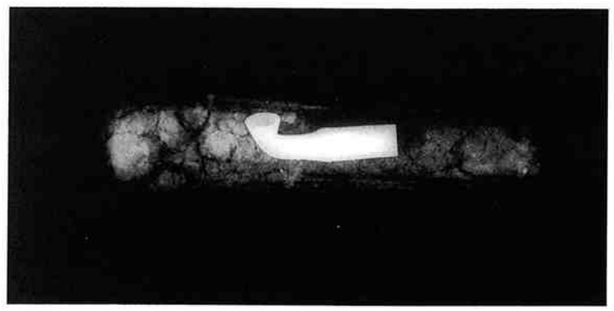
煙管入れは22号墓より１点出土している（図版36）。埋蔵中の劣化によって変形や破損はしているものの、外形を良く残しており、内部に金属製の雁首が完形で残存していた（エックス線透過撮影により判明）（図版38）。人工の合成素材を２重に張り巡らせるような構造である。吸口が残存していないことを考慮すると、煙管を完全に容器に収めるタイプではなく、差し込んで吸口を露出させるものであろうか。内部に残る煙管は、胴部で稜を有する。残存長14.7cm、幅2.8cm、煙管挿入のままで厚さ1.9cm。

煙管入れは外形をかたちづくる素材のほとんどが剥がれ落ち、内部も腐食によって土となっているため、手で持ち上げただけで崩壊が進む状況であった。そのため表面の土砂をクリーニングしたのちに強化処理（パラロイドB－72〈Rohm&Hass社〉を使用）を行い、良好な状態での保管に努めた。




（実物より50％縮小）

図版37　煙管（Ｘ線透過）



（実物より50％縮小）

図版38　煙管入れ（Ｘ線透過）

## 第58表　煙管出土状況

| 分類 | | 出土地 | 1号墓 内 | 2号墓 内 | 3号墓 内 | 6号墓 内 | 7号墓 内 | 7号墓 焼骨域 | 10号墓 内 | 10号墓 集骨域 | 14号墓 内 | 15号墓 内 | 16号墓 内 | 16号墓 覆土 | 16号墓 前庭 | 17号墓 内 | 20号墓 内 | 21号墓 内 | 22号墓 内 | 地区北側 | 24号墓 内 | 25号墓 内 | 26号墓 内 | 27号墓 内 | 27号墓 埋土 | 28号墓 内 | 30号墓 内 | 33号墓 内 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 陶製 | 雁首 | 完 | | | | | 2 | 1 | | | | | 2 | 3 | | | | | | | | | 1 | 2 | | | 2 | | 13 |
| | | 破 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 吸口 | 完 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 金属製 | 雁首 | 完 | | 5 | | 2 | 2 | | 2 | 3 | 1 | | 1 | 1 | 1 | | | | | | 1 | 1 | | 2 | | | 1 | | 23 |
| | | 破 | | | | | | | | 1 | | 3 | | | | | 1 | | | 1 | | | 1 | 1 | | 1 | 1 | | 10 |
| | 吸口 | 完 | 3 | 1 | 1 | 1 | | | 1 | 5 | | 1 | | | | 1 | | | 1 | | 1 | | | 1 | 1 | | 5 | 1 | 24 |
| | | 破 | 1 | 1 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | | | 2 | | | | | 6 |
| | 一体型 | 完 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| 合計 | | | 4 | 7 | 1 | 3 | 5 | 2 | 3 | 9 | 1 | 5 | 3 | 4 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 3 | 1 | 2 | 8 | 1 | 1 | 9 | 1 | 79 |

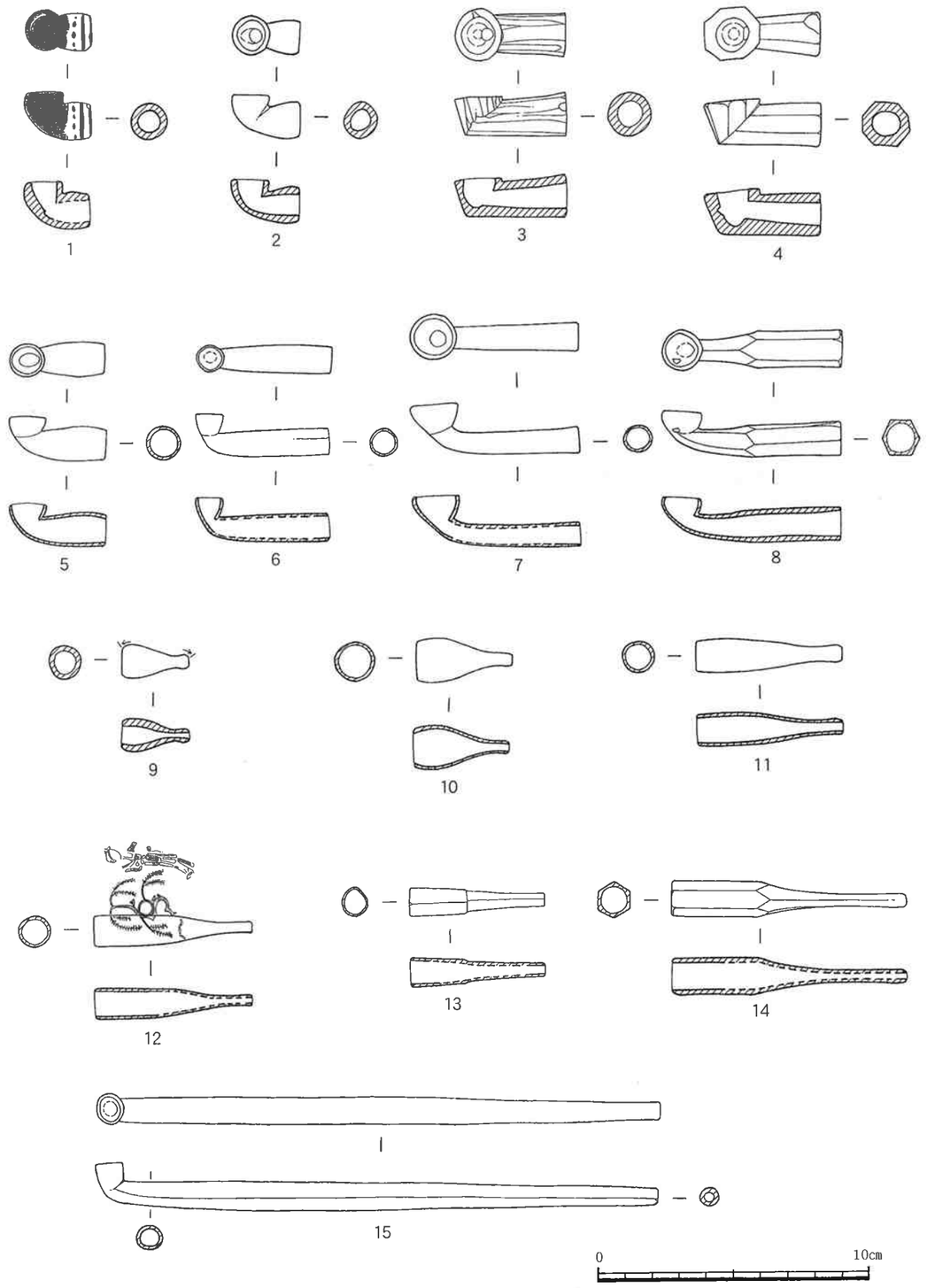
## 第59表　煙管観察一覧

単位：cm/g

| 図番号 | | 材質 | 部位 | 火皿径 | 羅宇接続部径 | 吸い口径 | 全長 | 重量 | 特徴 | 出土地 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第57図・図版36 | 1 | 陶製 | 雁首 | 1.0<br>1.5 | 0.85<br>1.35 | － | 2.5 | 4.2 | 施釉。緑釉をほどこし、小口付近で素地に直接、朱色で1条のラインと点線の絵付けを施す。 | 26号墓 |
| | 2 | | 首 | 1.1<br>1.45 | 0.8<br>1.3 | － | 2.5 | 3.6 | 施釉。緑釉を全面に施す。 | 7号墓内一括 |
| | 3 | | 首 | 1.4<br>1.9 | 0.9<br>1.6 | － | 4.15 | 9.1 | 無釉。不規則的に面取りを施す。 | 16号墓 |
| | 4 | | 首 | 1.25<br>1.9 | 1.0<br>1.75 | － | 4.35 | 11.6 | 無釉。八面に面取りを施す。 | 30号墓 |
| | 5 | | 吸口 | － | 0.2<br>0.35 | 0.85<br>1.2 | 2.5 | 2.1 | 施釉。全面に緑釉を施す。 | 7号墓 |
| | 6 | 真鍮製 | 雁首 | 1.0<br>1.2 | 1.1<br>1.3 | － | 3.6 | 7.1 | 胴部で最大径を測る。 | 25号墓 |
| | 7 | 銅製？ | 雁首 | 8.5<br>1.0 | 0.9<br>1.0 | － | 4.95 | 7.9 | 鍍銀を施す。銀は全面に良好に残る。全長に比して火皿が小さい。内部に羅宇残存。 | 7号墓 |
| | 8 | 真鍮製？ | 雁首 | 1.2<br>1.5 | 1.0<br>1.4 | － | 6.65 | 21.4 | 火皿は円形であるが、小口から火皿に接するまでは六面に面取りを施す。鍍銀か？ | 11号墓集骨 |
| | 9 | 不明金属製 | 雁首 | 1.35<br>1.7 | 0.85<br>1.05 | － | 6.2 | 10.7 | 火皿の径が比較的大きい。 | 7号墓内一括 |
| | 10 | 不明金属製 | 吸口 | － | 0.2<br>0.35 | 1.25<br>1.5 | 3.6 | 8.1 | 胴部で最大径を測る。 | 33号墓 |
| | 11 | 不明金属製 | 吸口 | － | 0.3<br>0.45 | 0.95<br>1.15 | 5.4 | 3.3 | 胴部はほぼストレート。 | 6号墓 |
| | 12 | 不明金属製 | 吸口 | － | 0.2<br>0.4 | 1.0<br>1.2 | 5.85 | 12.2 | 銅または真鍮の地金に枝垂柳と不明文様を彫りによって施す。文様部分によく銀が残っているため、鍍銀ではなく銀象嵌か？ | 17号墓 |
| | 13 | 不明金属製 | 吸口 | － | 0.3<br>0.45 | 0.85<br>0.95 | 5 | 24.2 | 胴部に段を有する。 | 30号墓 |
| | 14 | 真鍮製 | 吸口 | － | 0.2<br>0.35 | 1.0<br>1.2 | 8.7 | 10.8 | 小口の断面は六角形を呈する。 | 11号墓集骨 |
| | 15 | 不明金属製 | 一体 | 0.9<br>1.1 | － | 0.35<br>0.7 | 20.85 | 48.4 | 火皿に接する箇所から吸口まではほぼストレートである。 | 21号墓 |

注　火皿径・羅宇接続部径・吸い口径は、上段：外径、下段：内径。






第57図　煙管

## 第27節　銭貨

銭貨は５点全てが完形品として、良好な状態で出土している。景徳元宝１点と寛永通宝４点である。詳細を第60表に示す。

第60表　銭貨観察一覧

| 図番号 | | 銭文 | 銭種 | 残存状況 | 背文字 | 初鋳年 | 書体 | 外縁外径(mm) 縦 | 外縁外径(mm) 横 | 孔径(mm) 縦 | 孔径(mm) 横 | 厚み(mm) | 重さ(g) | 備考 | 採集墓 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図版39 | 1 | 景□元寶 | 景徳元寶 | 完形 | － | 1004年 | 真書 | 23.8 | 23.8 | 5.7 | 5.6 | 1.3 | 2.7 | 摩滅している。 | 7号墓内 |
| | 2 | 寛永通寶 | 寛永通寶 | 完形 | － | 1636年 | 楷書 | 24.3 | 24.1 | 5.8 | 5.7 | 1.1 | 2.6 | 古寛永。穴が開く。 | 7号墓内 |
| | 3 | 寛永通寶 | 寛永通寶 | 完形 | － | 1697年 | 楷書 | 24.3 | 24.4 | 6.4 | 6.3 | 1 | 2.9 | 新寛永。 | 24号墓内 |
| | 4 | 寛永通寶 | 寛永通寶 | 完形 | － | 1698年 | 楷書 | 24.7 | 24.5 | 5.9 | 5.6 | 1.3 | 3.3 | 新寛永。 | 7号墓内 |
| | 5 | 寛永通寶 | 寛永通寶 | 完形 | ? | 1699年 | 楷書 | 24.5 | 24.5 | 6 | 6.2 | 1.3 | 3.7 | 新寛永。背文字は不明。 | 24号墓内 |

(実物より50％縮小)

図版40　銭貨（Ｘ線透過）

## 第28節　金属製品

総数44点が得られた。内訳はやかん５点（うち2点は蓋付き）、やかんの蓋３点、鉄鍋の口縁部２点および底部片と思われるものが１点、鏡、毛抜き、調度品の金具、龍角散の文字を持つ蓋がそれぞれ１点、足袋留め金具（小鉤）12点、用途不明17点となっている。そのうち７点を第58図に示した。個々の観察結果は第61表に示した通りである。

金属製品のうち、墓室内より出土したのはやかんの蓋３点（７号墓焼骨域・10号墓・16号墓覆土）、やかん（１号墓）、鏡（22号墓）、毛抜き（24号墓）、調度品の金具（27号墓）、小鉤（20号墓）で、その他にも７・21・22号墓内から合わせて12点の不明金属片が出土している。

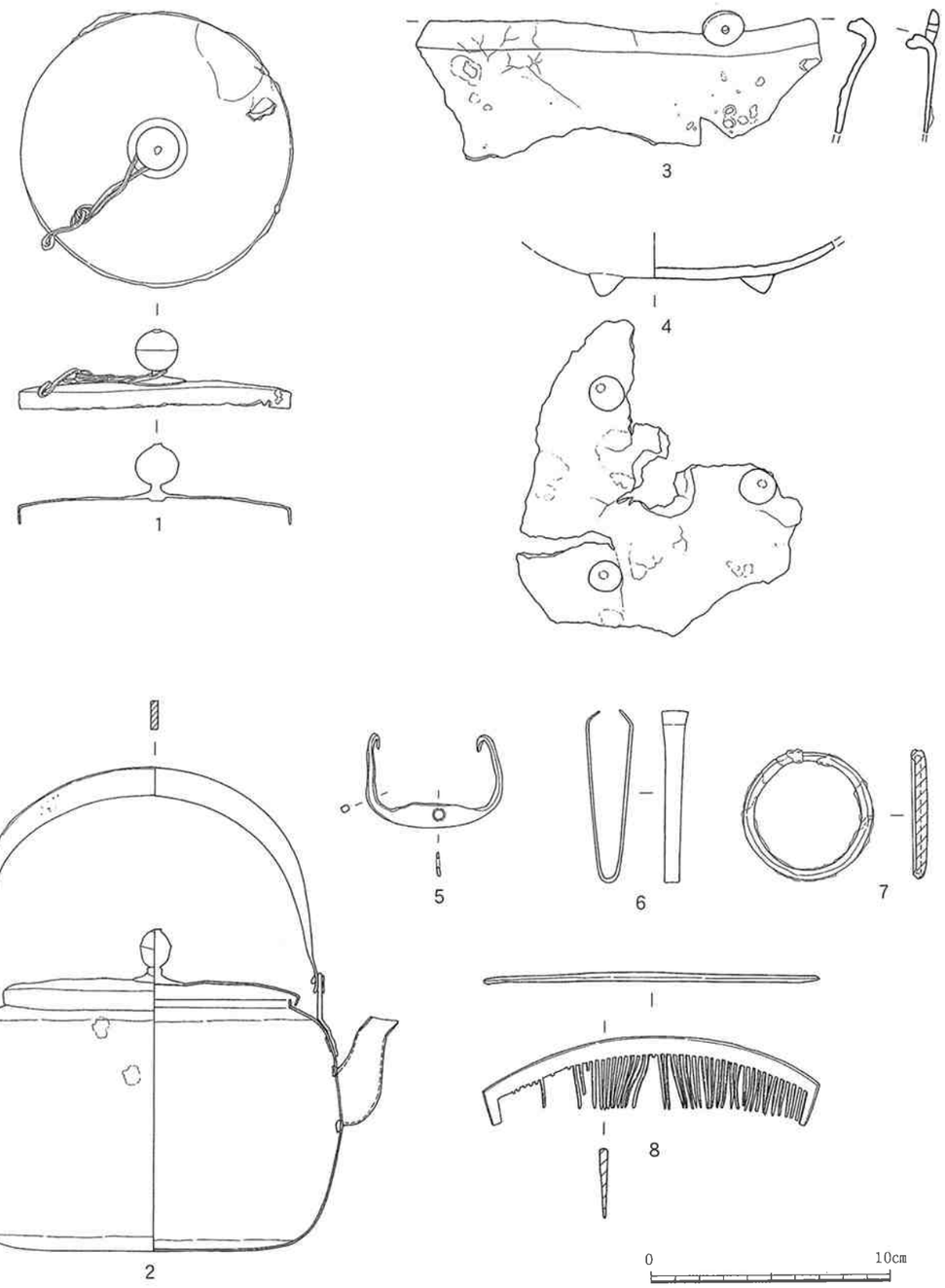
第61表　金属製品観察一覧

| 図番号 | | 種類 | 完・破 | 観察事項 | 素材 | 出土地 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第58図・図版39 | 1 | ヤカンの蓋 | 完 | わずかに変形し、一部破損も見られるが保存状態は良好。縁の部分にわずかに錆が付着している。直径1.8cmの撮みは上下合わせものになっており、その付け根には幅約2mmの鎖が6cm程度残存する。直径11.5cm、厚さ0.1cm。重量51.9g。 | 銅？ | 7号墓焼骨域 |
| | 2 | ヤカン | 完 | 一部に変形や破損が見られるが、ほぼ完形品で保存状態は良好。把手の連結部分で、片方のみ修理した箇所が認められる。蓋部分径約12.4cm、本体部分径約16.5cm、高さ10.5cm。重量375g。 | 銅？ | 1号墓内 |
| | 3 | 鍋 | 破 | 鉄製鍋の口縁部片。わずかに変形し、口唇部を中心にひび割れが生じている。縁には把手を付けるための耳が付いており、口縁部内側部分には蓋をのせるためと思われる段差が認められる。口唇部分は内湾する。最大厚は6.5mm、薄い部分では2mm。重量134.1g。 | 鉄 | 25･27号墓周辺 |
| | 4 | 鍋(底部) | 破 | 底部は丸底で、底面部に突起状の支脚が3つ付いている。煤などの付着は見られない。厚さは3～5mm。支脚の付け根部分の直径は1.5cm。重量165.4g。 | 鉄 | 25･27号墓周辺 |
| | 5 | 調度品の金具 | 完 | 引手金具と思われる。変形しているものの、完形で保存状態は良好。持ち手部分の中央には直径4mmの孔が穿たれている。最大厚は2.9mm、最も薄い部分では1.2mmである。重量9.2g。 | 不明 | 27号墓内 |
| | 6 | 毛抜き | 完 | 側面形は撥形を呈する。全長7.4cm、先端部分の幅は1.2cm、厚さは2mm。重量9g。 | 不明 | 24号墓内 |
| | 7 | 鏡 | 完 | 小形の鏡と思われる。縁および裏全面は鉄製である。表面内側はガラスと思われるが、内部は虹色に光沢を帯びた白色に変化している。直径5.4cm、ガラス部分径4.6cm、縁厚0.5cm、重量18.7g。 | 鉄ガラス | 22号墓内 |



## 第29節　櫛

第58図8に示したもので、22号墓内埋葬人骨の頭部右側より出土している。櫛の表面にはひび割れが無数にはしっており、歯は大部分が変形し、所々折れている。材質はプラスチックと思われる。長さ14.1cm、最大幅3.1cm、最大厚0.4cm、重量は7.1ｇ。




第58図　金属製品(1～7)、櫛(8)

## 第30節　玉

総数26点の玉類が出土した。そのうち代表的なもの10点を第59図に示した。出土した玉はすべて丸玉に属すると思われ、これらの断面形状は白形が多く、他に球形のもの、楕円形を呈するものがある。材質をみると、水晶と思われるものが１点出土しているほかはすべてガラス製である。出土地点の内訳は、１号墓内が６点、７号墓内が１点、16号墓前庭部分より４点、30号墓内が15点となっている。

第59図1に示したものは、水晶と思われる材質のもので、今回出土した玉の中では最大である。無色透明で、両端の孔周辺が中心に向かうようにして斜めに削られている。内部には多数のひび割れが観察できる。類似のものが今帰仁城跡および那覇市のナーチュー毛古墓群で出土している。

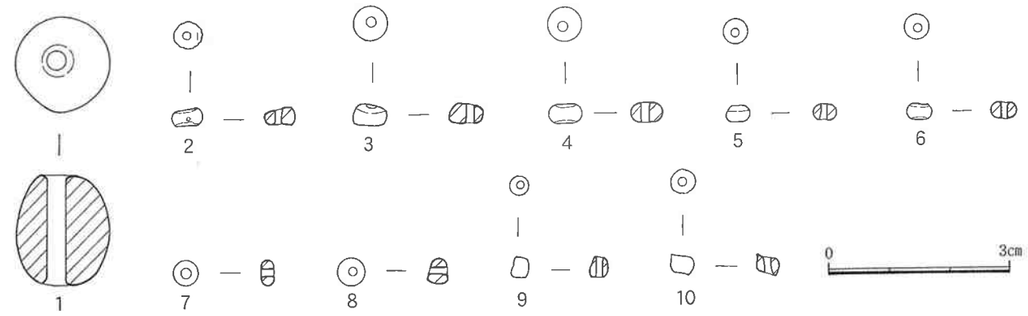
本遺跡より出土した玉は外径５㎜前後のものが殆どで、同図２～10がそれにあたる。色調は緑色、青緑色を中心に青色、茶色、オリーブ色、灰白色、黒色などがある。また、どれも表面に螺旋状の筋、あるいは横位の条線がみられることから巻きつけ技法によって製作されたものと思われる。

掲載した資料を含め、出土した玉類についての観察結果は第62表に示した通りである。

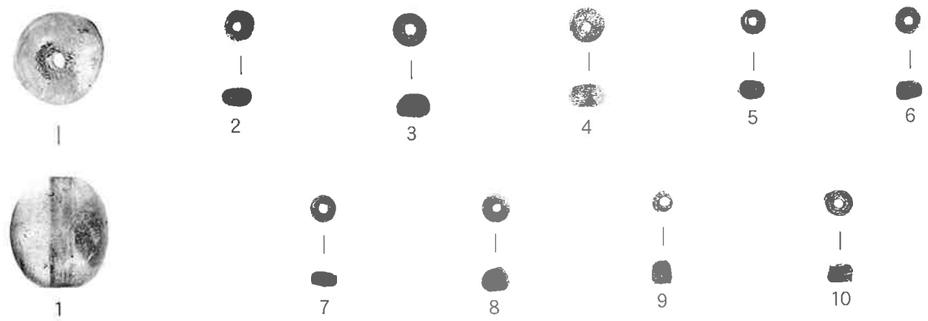
第62表　玉観察一覧

| No. | 形状 | 材質 | 色調 | 法量(単位:mm/g) | | | | 完破 | 観察事項 | 出土地 | 図番号 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 直径 | 孔径 | 高さ | 重量 | | | | | |
| 1 | 楕円形 | 水晶？ | 無色透明 | 15.1 | 3.08 | 17.56 | 5.9 | 完 | 内部に多数のひび割れが観察できる。 | 7号墓周辺 | 第59図・図版41 | 1 |
| 2 | 臼形 | ガラス | 黒色 | 4.94 | 1.05 | 2.92 | 0.1 | 完 | 表面の風化が著しい。 | 1号墓内 | | 2 |
| 3 | 臼形 | ガラス | オリーブ色 | 5.5 | 1.06 | 3.77 | 0.2 | 完 | 表面に螺旋状の筋が観察できる。 | 1号墓内 | | 3 |
| 4 | 臼形 | ガラス | 灰白色 | 5.6 | 1.08 | 3.6 | 0.2 | 完 | 表面に螺旋状の筋が観察できる。<br>内部には気泡が見られる。 | 16号墓前庭 | | 4 |
| 5 | 臼形 | ガラス | 茶色 | 4.16 | 1.22 | 3.04 | 0.1 | 完 | 保存状態が良好。<br>表面に僅かに横位の条線が見られる。 | 16号墓前庭 | | 5 |
| 6 | 臼形 | ガラス | 緑色 | 4.33 | 0.96 | 2.82 | 0.1 | 完 | 孔周辺が平坦に仕上げられている。<br>表面には螺旋状の筋が観察できる。 | 30号墓内 | | 6 |
| 7 | 臼形 | ガラス | 青緑色 | 4.29 | 1.32 | 2.21 | 0.1 | 完 | 全体的に平たく仕上げられている。<br>僅かに風化し螺旋状の筋が見られる。 | 30号墓内 | | 7 |
| 8 | 球形 | ガラス | 淡緑色 | 4.52 | 1.02 | 3.36 | 0.2 | 完 | 表面は僅かに風化し、内部には気泡が多数観察できる。 | 30号墓内 | | 8 |
| 9 | 臼形(変形) | ガラス | 青緑色 | 3.32 | 1.12 | 3.6 | 0.1 | 完 | 縦長でやや変形。 | 30号墓内 | | 9 |
| 10 | 球形(変形) | ガラス | 青色 | 4.12 | 1.43 | 2.93 | 0.1 | 完 | 巻きつけによる筋が明瞭で、両端部に裁断痕が残る。 | 1号墓内 | | 10 |
| 11 | 臼形 | ガラス | 青色 | 4.65 | 1.47 | 2.49 | 0.1 | 完 | 表面の風化が進み巻きつけによる筋が明瞭。<br>両端部に裁断痕が残る。 | 1号墓内 | － | － |
| 12 | 臼形 | ガラス | 緑色 | 5.01 | 1.21 | 3.41 | 0.2 | 完 | 表面は風化しアバタ状。<br>横位の条線が観察できる。 | 1号墓内 | － | － |
| 13 | 臼形 | ガラス | 緑色 | 4.84 | 1.18 | 2.97 | 0.2 | 完 | 表面は風化し白色が優勢。<br>螺旋状の筋が観察できる。 | 1号墓内 | － | － |
| 14 | 臼形 | ガラス | 緑色 | 4.46 | 1.66 | 2.83 | 0.1 | 破 | 風化が著しく巻きつけによる筋が明瞭。<br>両端部に裁断痕が残る。 | 16号墓前庭 | － | － |
| 15 | 臼形 | ガラス | 水色 | － | － | － | 0.2 | 破 | 内部は透明で表面は磨りガラス状。<br>表面には螺旋状の筋が見られる。 | 16号墓前庭 | － | － |
| 16 | 球形 | ガラス | 緑色緑 | 4.49 | 1.14 | 3.48 | 0.2 | 完 | 表面が若干風化し、僅かに螺旋状の<br>筋が観察できる。 | 30号墓内 | － | － |
| 17 | 球形 | ガラス | 緑色 | 4.55 | 1.3 | 3.03 | 0.2 | 完 | 表面は若干風化し、横位の条線が観察できる。 | 30号墓内 | － | － |
| 18 | 臼形 | ガラス | 薄緑色 | 4.49 | 1.18 | 2.84 | 0.1 | 完 | 一端の孔周辺が平坦に仕上げられている。<br>表面は若干風化している。 | 30号墓内 | － | － |
| 19 | 臼形 | ガラス | 青緑色 | 4.4 | 1.13 | 2.62 | 0.1 | 完 | 表面は比較的滑らかで、内部には気泡が観察できる。 | 30号墓内 | － | － |
| 20 | 臼形 | ガラス | 青緑色 | 4.07 | 1.46 | 2.57 | 0.1 | 完 | 表面が風化し螺旋状の筋が見られる。<br>内部には気泡あり。 | 30号墓内 | － | － |
| 21 | 臼形 | ガラス | 青緑色 | 4.1 | 1.23 | 2.11 | 0.1 | 完 | 両端部が平坦に仕上げられている。<br>孔は大きい。内部に気泡が見られる。 | 30号墓内 | － | － |
| 22 | 臼形 | ガラス | 青緑色 | 4.38 | 1.08 | 2.3 | 0.1 | 完 | 両端部が平坦。表面が若干風化し横位の条線が観察できる。 | 30号墓内 | － | － |
| 23 | 臼形 | ガラス | 青緑色 | 4.1 | 1.34 | 2.43 | 0.1 | 完 | 内部に多数の気泡が観察できる。 | 30号墓内 | － | － |
| 24 | 臼形 | ガラス | 青緑色 | 3.58 | 1.36 | 2.25 | 0.1 | 完 | 風化が著しくアバタ状。巻きつけによる筋が明瞭、直径に比べ孔径の割合が大きい。 | 30号墓内 | － | － |
| 25 | 臼形 | ガラス | 淡緑色 | 4.57 | 1.31 | 2.83 | 0.1 | 完 | 内部に多数の気泡あり。 | 30号墓内 | － | － |
| 26 | 球形 | ガラス | 淡緑色 | 4.39 | 1.09 | 4.15 | 0.2 | 破 | 一方に裁断痕あり。僅かに横位の条線が見られ、内部には気泡が観察できる。 | 30号墓内 | － | － |






第59図　玉




図版41　玉

## 第31節　ガラス瓶

本遺跡出土のガラス製品は総数48点で、形態はすべて瓶である。そのうち、用途の判別できるものとしてビール瓶、ワイン瓶、清涼飲料水の瓶のほか、化粧品、染料剤、薬品、殺虫剤の瓶などがある。これらは製品自体に書かれた文字から、あるいは他遺跡出土の類似資料が存在することなどからその用途が判明したものである。以下、上記の順に記述する。掲載した資料を含め、出土したガラス製品の観察結果は第63表の通りである。

### a　ビール瓶

現代における小型および中型のビール瓶とほぼ同様の形態・大きさである。底面は円形で、肩部がなで肩のものといかり肩の２種類がある。いかり肩のものは頚部にやや膨らみをもつ。口縁部の形態からすべて王冠栓であったと考えられる。肩部に「キリンビール」、「オリオンビール」、「サクラビール」、「TRADE MARK」などの浮き文字が、また底部付近にも「キリンビール登録商標」、「大日本麥酒株式會社」、「DAINIPPON BREWERY COLTD」などの浮き文字が見られる。図版42-1は小型のもので、肩部に「キリンビール」の浮き文字をもつ。20号墓内において埋葬人骨とともに出土した。なお、この瓶についてキリンビール株式会社に問い合わせをした結果、瓶に残っているロゴマークなどの諸特徴から、昭和９年～昭和14年にかけて製造されたもののひとつであることが判明している。

### b　ワイン瓶

やや小型のワイン瓶である。底部は円形で、底面はキックと呼ばれる円錐状の上げ底になっている。肩部はいかり肩で、口縁部の形態からコルク栓であったと思われる。２本のうち、一方には胴上部付近と口縁部にかけて、それぞれ横と縦方向に接合痕が見られる（図版42-2）。さらに、底面には「２」の浮き文字がみられる。また外面は真珠様の光沢を帯びた白色部分が目立ち、内部も石灰がこびりついている為不透明になっている。同様の製品が那覇市のナーチュー毛古墓群で出土している。

c　清涼飲料水の瓶

清涼飲料水の瓶は、銘のあるもの、ラムネ瓶、底面部に文字を持つものなど14点である。記銘は「臺湾清涼飲料水統制組合」（図版42-3）、「有馬鑛泉」、「大日本麥酒株式會社」、「日本麥酒鑛泉株式會社」の他、底面部に「三ツ矢」(図版42-4)、「A4‥」の浮き文字を持つものもある。肩部はなで肩のものとややいかり肩のものがある。ラムネ瓶としたものは、口縁部分の側面に二ヶ所、対応するように丸い窪みが確認できる。口縁部の形態は、ラムネ瓶を除いてほぼ同じで、王冠栓である。

d　化粧瓶

小型の化粧瓶が２点出土している。ひとつは香油の瓶で、肩部に「サハラ香油」という浮き文字、また底面には「４」の数字が確認できる（図版42-5）。頚部は短く、胴部は円柱状で底面は円形である。外面は無色透明であるが、内面は真珠様の光沢をもつ白色で覆われ、所々はげ落ちているのが観察できる。口唇部が僅かに欠損している。もう一方は化粧水の瓶で、胴部の断面が方形、頚部が円形を呈する無色透明の小型の瓶である。正面には「ホーカー液」、対応する面には「堀越」の浮き文字、また底面には「ロ」の文字が見られる（図版42-6）。この「ホーカー液」は大正10年頃に沖縄に多く入ってきたようである。それぞれ同類資料が、喜友名グスクおよび首里城跡で出土している。

e　染料剤の瓶

底面形および胴部の断面形は八角を持つ長方形状、頚部は円形を呈する小型の瓶である（図版42-7）。側面に「志らが赤毛染ナイス」、また底面には「TM」の浮き文字が見られる。色調は青色で、表面全体が真珠様の光沢を有し、白色部分が目立つ。

f　薬品の瓶

薬品の瓶と思われるものは８点出土している。そのうち目盛りの付いているものが２点、肩部に「NO DEPOSIT★NO RETURN NOT TO BE REFILLED」の浮き文字をもつものが１点で、他の瓶には文字などは見られない。形態は、浮き文字をもつものは頚部が長く、ややいかり肩でビール瓶のような形を呈する。他は、大きさは異なるがすべて頚部が短く、胴部は円柱状で底面は円形である。口縁形態からコルク栓、王冠栓、ネジ式の３種が考えられ、コルク栓が主体である。（図版42-8）はやや大きめの薬品瓶、９は目盛り付きのものでいずれもコルク栓である。なお、浮き文字をもつ薬瓶の類似資料が喜友名グスクで出土している。

g　殺虫剤の瓶

側面の「エキライオン」、「殺虫薬水液氣來強力殺虫液人畜無害」の浮き文字から殺虫剤の瓶と判断した（図版42-10）。頚部が長くなで肩で、底面は円形である。口唇部は欠損しているが、その下部には液だれ防止用と思われる凸帯がある。

h　その他

（図版42-11）は頚部の長いもので、頚の内部は口唇部から約１cm下の辺りでさらに細くなっている。形態などから調味料の瓶ではないかと思われるが側面に文字などは見られない。

（図版42-12）は広口の小型瓶である。頚部が短く胴部は円形である。側面に「ZENKOREN」の浮き文字と桜の花を模したようなマークが浮き彫りされている。

用途不明の14点のうち上記を除いた12点は、口縁部の形態や大きさなどから、ビール瓶あるいは清涼飲料水の瓶に類すると思われるが、それらを示すような文字等が見られないことからその他に含めた。ほとんどが王冠栓であるが、コルク栓と思われるものもある。色調は緑色が主体となっている。



第63表a　ガラス瓶観察一覧

単位:cm

| 通し番号 | 種類 | 口径 | 高さ | 底径 | 色調 | 出土地 | 観察事項 | 図版番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | a | 2.5 | 24.7 | 5.9 | 茶 | 20号墓内 | 「キリンビール」「登録〇商標」底面に「13」。 | 図版42　1 |
| 2 | b | 2.6 | 25.2 | 6.1 | 茶(不透明) | 1号墓内 | ワイン瓶。底部はキック状で、胴上部、頚部に接合痕がみられる。底面に「2」。頚部に膨らみあり。 | 図版42　2 |
| 3 | c | 2.6 | 23.6 | 6.2 | 薄緑 | 19号墓内 | 「臺湾清涼飲料水統制組合」 接合痕あり。ガラス内部に気泡がある。 | 図版42　3 |
| 4 | c | 2.6 | 24 | 6.6 | 緑 | 14号墓内 | 頚部下に凸帯。底面に「三ツ矢」の浮き文字とロゴマークあり。 | 図版42　4 |
| 5 | d | 2 | 5.9 | 3.8 | 無色透明 | 17号墓周辺 | 「サハラ香油」底面に「4」の浮き文字。接合痕あり。口唇部が僅かに欠損。 | 図版42　5 |
| 6 | d | 2.1 | 9.5 | 2.6 | 無色透明 | 11号墓内一括 | 「ホーカー液」「堀越」底面に「ロ」の浮き文字。胴・底面は方形。 | 図版42　6 |
| 7 | e | 1.45 | 7.3 | 2.85 | 青(不透明) | 30号墓石積み | 「志らが赤毛染ナイス」底面には「TM」の浮き文字。胴部・底面形は長方形。 | 図版42　7 |
| 8 | f | 2.6 | 20 | 7.2 | 青緑 | 21号墓前庭 | コルク栓。ガラス内部に気泡あり。 | 図版42　8 |
| 9 | f | 1.95 | 12.5 | 5.5 | 無色透明 | 22号墓内 | コルク栓。目盛付きの薬瓶。表面は真珠様の光沢をもつ。 | 図版42　9 |
| 10 | g | 2.3 | 23.1 | 6.2 | 茶 | 14号墓周辺 | 「エキライオン」「LIONSPRAY」「殺虫薬水液氣來強力殺虫液人畜無害底面に「7」口唇部が欠損。 | 図版42　10 |
| 11 | h | 3 | 11.4 | 4.7 | 茶 | 21号墓周辺 | 「ZENKOREN」と桜を模したロゴマーク。広口の瓶。接合痕あり。 | 図版42　11 |
| 12 | h | 2.3 | 19.8 | 4.3 | 薄緑 | 21号墓内 | 頚部の長いやや小型の瓶。 | 図版42　12 |
| 13 | a | 2.5 | 28.7 | 7.2 | 茶 | 25・27号墓周辺 | 「キリンビール」「登録〇商標」底面に「T23」。 | － |
| 14 | a | 2.6 | 28.7 | 7.2 | 茶 | 7号墓周辺 | 「ORION〇BEER」底部付近に「633ml」の浮き文字。 | － |
| 15 | a | 2.5 | 28.6 | 7.7 | 茶 | 12号墓周辺 | 「TRADE MARK」「DAINIPPON BREWERY COLTD」。 | － |
| 16 | a | 2.5 | 23.3 | 6.5 | 茶(不透明) | 14号墓周辺 | 「サクラビール」「Sakura Beer(筆記体)」。底面は僅かにキック状。頚部に膨らみあり。 | － |
| 17 | a | 2.6 | 23.2 | 6.6 | 茶 | 18号墓周辺 | 「大日本麥酒株式會社醸造　登録〇商標」。底面は僅かにキック状。頚部に膨らみあり。 | － |
| 18 | b | 2.6 | 23.5 | 6.4 | 茶 | 12号墓周辺 | ワイン瓶。文字などは見られない。気泡あり。 | － |
| 19 | c | 2.6 | 23.6 | 6.2 | 青緑 | 12号墓周辺 | 「臺湾清涼飲料水統制組合」　底部に「7」の浮き文字。接合痕あり。 | － |
| 20 | c | 2.6 | 24.2 | 6.4 | 緑 | 16号墓周辺 | 「TRADE〇MARK」「登録〇商標」「ARIMA MINERAL WATER」「有馬鑛泉」　接合痕あり。 | － |
| 21 | c | 2.6 | 23 | 6.4 | 緑 | 20号墓周辺 | 「大日本麥酒株式會社製造」。接合痕および気泡あり。胴部に「DNB」を組み合わせたロゴマークあり。 | － |
| 22 | c | 2.6 | 22.6 | 6.4 | 無色透明 | 15号墓周辺 | 「大日本麥酒株式會社製造」底面に「10★12」。接合痕および気泡が見られる。胴部にロゴマーク。 | － |
| 23 | c | 2.5 | 22.6 | 6.4 | 無色透明 | 6号墓周辺 | 「大日本麥酒株式會社製造」底面に「10★6」。接合痕および気泡が見られる。胴部にロゴマーク。 | － |
| 24 | c | 2.55 | 24.6 | 6.5 | 緑 | 20号墓周辺 | 「日本麥酒鑛泉株式會社登録〇商標」、底面に「6」の浮き文字。接合痕あり。 | － |
| 25 | c | 2.6 | 23.6 | 5.4 | 無色透明 | 14号墓前庭 | 「日本麥酒鑛泉株式會社登録〇商標」、底面に「24」の浮き文字。接合痕あり。 | － |
| 26 | c | 2.6 | 24.1 | 6.4 | 緑 | 22号墓周辺 | 接合痕が顕著。底面に「A4:」の浮き文字。 | － |
| 27 | c | 2.3 | 28 | 7.5 | 水色 | 22号墓周辺 | ラムネ瓶。底部はやや上げ底。口唇部が僅かに欠損。気泡あり。 | － |
| 28 | c | 2.6 | 24 | 6.6 | 緑 | 17号墓周辺 | 頚部下に凸帯。底面に「三ツ矢」の浮き文字とロゴマークあり。 | － |
| 29 | c | 2.3 | 22.9 | 5.2 | 無色透明 | 21号墓周辺 | 王冠栓。底面に「①6」の浮き文字。接合痕あり。 | － |

注　観察事項欄の〇部分は、ロゴマークあるいは不明としたものである。

### 第63表b　ガラス瓶観察一覧

単位:cm

| 通し番号 | 種類 | 口径 | 高さ | 底径 | 色調 | 出土地 | 観察事項 | 図版番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 30 | c | 2.1 | 22.6 | 5.2 | 無色透明 | 19号墓周辺 | 王冠栓。底面に「A2」の浮き文字。接合痕あり。 | — |
| 31 | f | 2.6 | 19.5 | 7.2 | 水色 | 22号墓周辺 | コルク栓。気泡が多数見られる。形態が僅かに歪んでいる。 | — |
| 32 | f | 2.7 | 19.2 | 6.7 | 水色 | 31号墓周辺 | コルク栓。口唇部が逆くの字状に肥厚している。接合部分が僅かに歪んでいる。 | — |
| 33 | f | 2.3 | 7.7 | 3.5 | 無色 | 17号墓周辺 | 小型の薬瓶。コルク栓。外面は磨りガラス状で、内面は真珠様の白色で覆われている。 | — |
| 34 | f | 1.4 | 5.4 | 2.2 | 無色透明 | 17号墓周辺 | 小型の薬瓶。コルク栓。僅かに接合痕が観察できる。 | — |
| 35 | f | 2.35 | 16.4 | 6 | 茶 | 21号墓周辺 | 目盛り付きの薬瓶。ネジ式の為の溝がある。底面に「7③NT」の浮き文字。僅かに接合痕が観察できる。 | — |
| 36 | f | 2.5 | 20.2 | 5.3 | 無色 | 16号墓周辺 | 王冠栓。頚部の長い試薬瓶。内部は真珠様の白色を呈する。「NO DEPOSIT★NO RETURN NOT TO BE REFILLED」底面に「130A4○5」の浮き文字。 | — |
| 37 | h | 2 | 24.2 | 5.7 | 緑 | 17号墓周辺 | コルク栓？なで肩で重量感のある瓶。 | — |
| 38 | h | 2 | 24.9 | 5.7 | 緑 | 18号墓周辺 | コルク栓？なで肩。 | — |
| 39 | h | 2.3 | 23.1 | 5.7 | 緑 | 12号墓周辺 | 王冠栓。頚部に膨らみがあり、底部がやや上げ底になっている。接合痕あり。 | — |
| 40 | h | 2.5 | 23.2 | 5.5 | 緑 | 9号墓周辺 | 王冠栓。頚部が僅かに歪む。気泡を多く含む。 | — |
| 41 | h | 2.4 | 23.2 | 5.5 | 緑 | 18号墓周辺 | 王冠栓。気泡あり。 | — |
| 42 | h | 2.4 | 23.5 | 5.9 | 緑 | 17号墓周辺 | 王冠栓。気泡あり。 | — |
| 43 | h | 2.2 | 23.8 | 6.5 | 緑 | 12号墓周辺 | 王冠栓。気泡あり。 | — |
| 44 | h | 2.2 | 23.8 | 5.9 | 緑 | 9号墓周辺 | 王冠栓。 | — |
| 45 | h | 2.2 | 23.5 | 5.9 | 緑 | 14号墓内 | 王冠栓。 | — |
| 46 | h | 2.1 | 23.2 | 6 | 薄緑 | 18号墓内 | 王冠栓。底部がやや上げ底状。 | — |
| 47 | h | 1.8 | 22.8 | 5.8 | 濃緑 | 14号墓前庭 | 王冠栓。 | — |
| 48 | h | 1.7 | 23.1 | 5.9 | 濃緑 | 21号墓周辺 | 王冠栓。 | — |

注　観察事項欄の○部分は、ロゴマークあるいは不明としたものである。

## 第32節　自然遺物

### 1　脊椎動物遺体

脊椎動物遺体は墓内や納骨器内からネズミ、ヘビなどの小型動物遺体が得られた。また、22号墓周辺からウシの肩甲骨片を1点採集した。これらは本来墓に伴うものではなく後世の混入と考えられるため、集計表、写真は省略した。

### 2　貝類動物遺体

貝類遺体は巻貝が第64表、二枚貝が第65表のとおり出土した。

巻貝が卓越し、二枚貝は極めて少ない。特にタカラガイ科が半数を占め、30号墓から多く出土している。タカラガイには背面を取り除いた資料があり、何らかの儀礼に用いられた可能性があるため、貝製品の中でも扱った（ただし、背面除去以外には加工痕はみられない）。

24・27・30号墓は墓室内にサンゴ砂利を敷いており、貝はそれと同時に持ち込まれたものと考えられる。27号墓では納骨器内からもタカラガイが得られていることから、意図的に持ち込んだ可能性が考えられる。



### 第64表　貝類出土状況(巻貝)

| 綱名 | 科名 | 貝種名 | 生息地 | 2号墓 内 完形 | 2号墓 内 殻頂 | 2号墓 内 破片 | 7号墓 内 完形 | 7号墓 内 殻頂 | 7号墓 内 破片 | 10号墓 内 完形 | 10号墓 内 殻頂 | 10号墓 内 破片 | 11号墓 内 完形 | 11号墓 内 殻頂 | 11号墓 内 破片 | 14号墓 内 完形 | 14号墓 内 殻頂 | 14号墓 内 破片 | 地区北側 完形 | 地区北側 殻頂 | 地区北側 破片 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 腹足綱 | ニシキウズガイ科 | ギンタカハマ | Ⅰ-4-a | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | サザエ科 | ヤコウガイ | Ⅰ-4-a | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ヤコウガイの蓋 | Ⅰ-4-a | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | | チョウセンサザエ | Ⅰ-3-a | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | チョウセンサザエの蓋 | Ⅰ-3-a | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | |
| | アマオブネガイ科 | イシダタミアマオブネ | Ⅰ-0-a | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ニシキアマオブネ | Ⅰ-1-c | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | トウガタカワニナ科 | ヨシカワニナ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | タマキビ科 | コンペイトウガイ | Ⅰ-0-a | 2 | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | |
| | ソデボラ科 | ソデボラ科不明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | タカラガイ科 | ムラクモダカラ | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | |
| | | ヤクシマダカラガイ | Ⅰ-2-a | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ホシダカラ | Ⅰ-2-c | | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | |
| | | ホシキヌタ | Ⅰ-2-a | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | コモンダカラ | Ⅰ-2-a | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ハナマルユキ | Ⅰ-3-a | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| | | タカラガイ科不明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | フトコロガイ科 | マルフトコロ | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | イモガイ科 | コマダライモ | Ⅰ-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | イモガイ科不明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | 4 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 2 | 1 | 0 |

| 綱名 | 科名 | 貝種名 | 生息地 | 24号墓 内 完形 | 24号墓 内 殻頂 | 24号墓 内 破片 | 27号墓 内 完形 | 27号墓 内 殻頂 | 27号墓 内 破片 | 27号墓 厨子内 完形 | 27号墓 厨子内 殻頂 | 27号墓 厨子内 破片 | 地区西側 完形 | 地区西側 殻頂 | 地区西側 破片 | 30号墓 内 完形 | 30号墓 内 殻頂 | 30号墓 内 破片 | 30号墓 石積み 完形 | 30号墓 石積み 殻頂 | 30号墓 石積み 破片 | 合計 完形 | 合計 殻頂 | 合計 破片 | 個体数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 腹足綱 | ニシキウズガイ科 | ギンタカハマ | Ⅰ-4-a | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 0 | 0 | 1 | 1 |
| | サザエ科 | ヤコウガイ | Ⅰ-4-a | | | 3 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | 0 | 0 | 4 | 1 |
| | | ヤコウガイの蓋 | Ⅰ-4-a | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 1 | 0 | 1 |
| | | チョウセンサザエ | Ⅰ-3-a | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | 0 | 0 | 1 | 1 |
| | | チョウセンサザエの蓋 | Ⅰ-3-a | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | 1 | 1 | 1 | 2 |
| | アマオブネガイ科 | イシダタミアマオブネ | Ⅰ-0-a | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 0 | 0 | 1 |
| | | ニシキアマオブネ | Ⅰ-1-c | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | 1 | 0 | 2 |
| | トウガタカワニナ科 | ヨシカワニナ | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | 1 | 1 | 0 | 2 |
| | タマキビ科 | コンペイトウガイ | Ⅰ-0-a | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | 0 | 0 | 4 |
| | ソデボラ科 | ソデボラ科不明 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 1 | 1 |
| | タカラガイ科 | ムラクモダカラ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 0 | 1 | 1 |
| | | ヤクシマダカラガイ | Ⅰ-2-a | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | 0 | 0 | 2 | 1 |
| | | ホシダカラ | Ⅰ-2-c | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 0 | 1 | 2 |
| | | ホシキヌタ | Ⅰ-2-a | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 1 | 1 |
| | | コモンダカラ | Ⅰ-2-a | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | 1 | 0 | 1 | 1 |
| | | ハナマルユキ | Ⅰ-3-a | | 2 | 8 | 1 | | 3 | | | 4 | | 1 | | 6 | 11 | 12 | 4 | 7 | | 12 | 21 | 27 | 33 |
| | | タカラガイ科不明 | | | | | | | 3 | | | 1 | | | | | | | | | | 0 | 0 | 4 | 1 |
| | フトコロガイ科 | マルフトコロ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 0 | 0 | 1 |
| | イモガイ科 | コマダライモ | Ⅰ-2 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | 0 | 0 | 1 |
| | | イモガイ科不明 | | | 1 | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 0 | 2 | 1 | 2 |
| 合計 | | | | 0 | 4 | 12 | 1 | 0 | 8 | 0 | 1 | 6 | 0 | 1 | 1 | 10 | 13 | 16 | 5 | 7 | 0 | 26 | 27 | 46 | 60 |

注　完形と殻頂を合計し個体数とした。但し、破片でのみ出土した貝種については、最少個体数「1」とした。

### 第65表　貝類出土状況　(二枚貝)

| 綱名 | 科名 | 貝種名 | 生息地 | 16号墓 内 完形 L | 16号墓 内 完形 R | 16号墓 内 殻頂 L | 16号墓 内 殻頂 R | 16号墓 内 破片 | 27号墓 内 完形 L | 27号墓 内 完形 R | 27号墓 内 殻頂 L | 27号墓 内 殻頂 R | 27号墓 内 破片 | 30号墓 内 完形 L | 30号墓 内 完形 R | 30号墓 内 殻頂 L | 30号墓 内 殻頂 R | 30号墓 内 破片 | 合計 完形 L | 合計 完形 R | 合計 殻頂 L | 合計 殻頂 R | 合計 破片 | 個体数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 二枚貝綱 | フネガイ科 | フネガイ | Ⅰ-2-a | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| | シャコガイ科 | ヒレシャコガイ | Ⅰ-2-c | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | シジミ科 | シレナシジミ | Ⅲ-0-c | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 合計 | | | | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 3 |

注　右殻、左殻のそれぞれの完形と殻頂を合計し多い方を個体数とした。

### 〈貝の生息地の分類〉

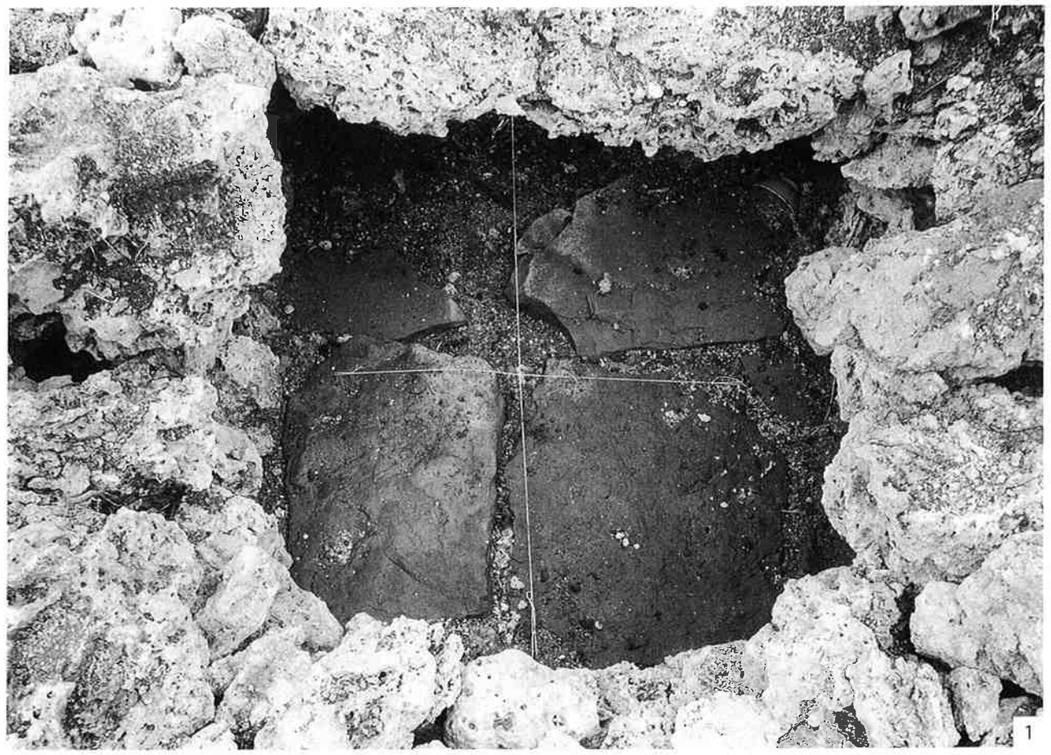
| 外洋～内湾 | 水深 | 底質 |
|---|---|---|
| Ⅰ:外洋・サンゴ礁域 | 0:潮間帯上部<br>（Ⅰではノッチ、Ⅲではマングローブ） | a:岩盤 |
| Ⅱ:内湾・転石地域 | 1:潮間帯中・下部<br>2:亜潮間帯上縁部（Ⅰではイノー） | b:転石 |
| Ⅲ:河口干潟・マングローブ域 | 3:干潮（Ⅰにのみ適用）<br>4:礁斜面およびその下部 | c:岩礫底、砂泥底、砂底 |

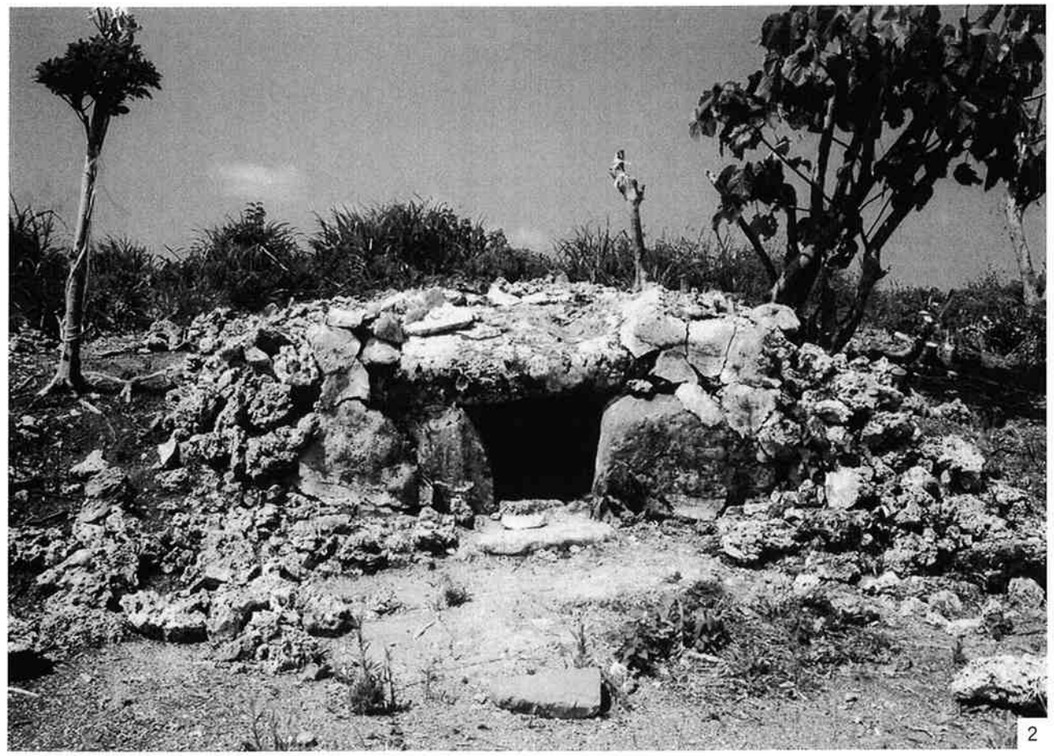
# 図　　版

図版１　墓検出状況１　１．２号墓正面(遠景)　２．２号墓墓室内床面敷石

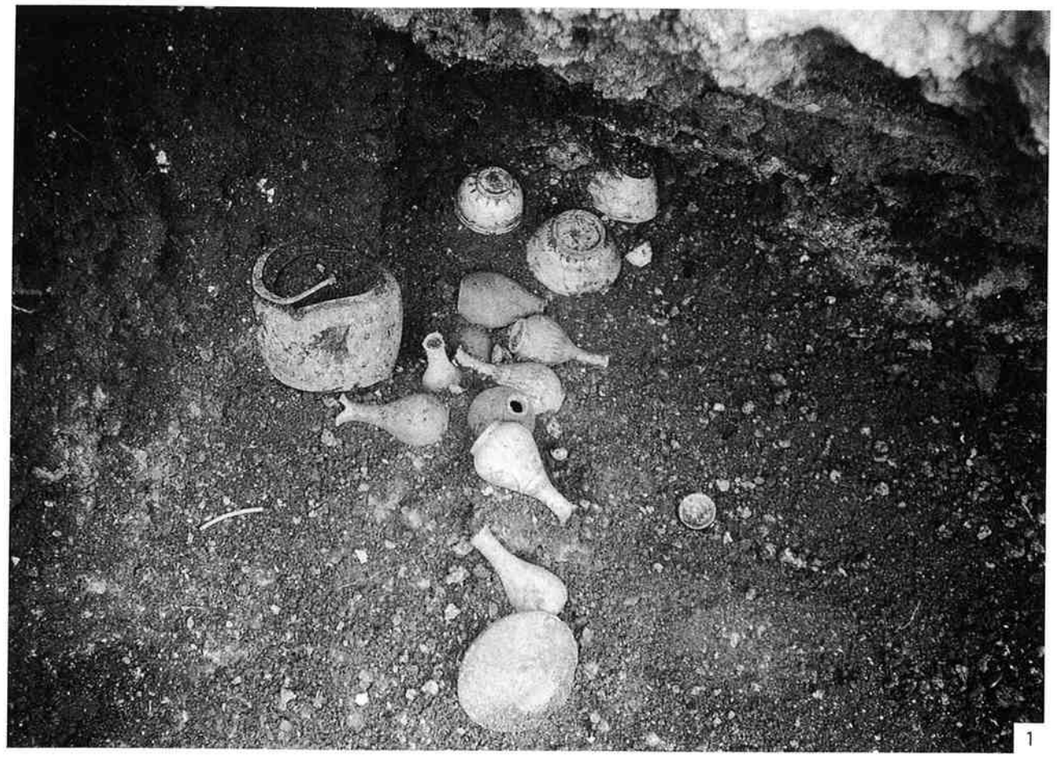
図版２　墓検出状況２　１．５号墓正面　２．８（右側）・９（左側）号墓正面







図版３　墓検出状況３　１．８号墓床面　２．10号墓正面

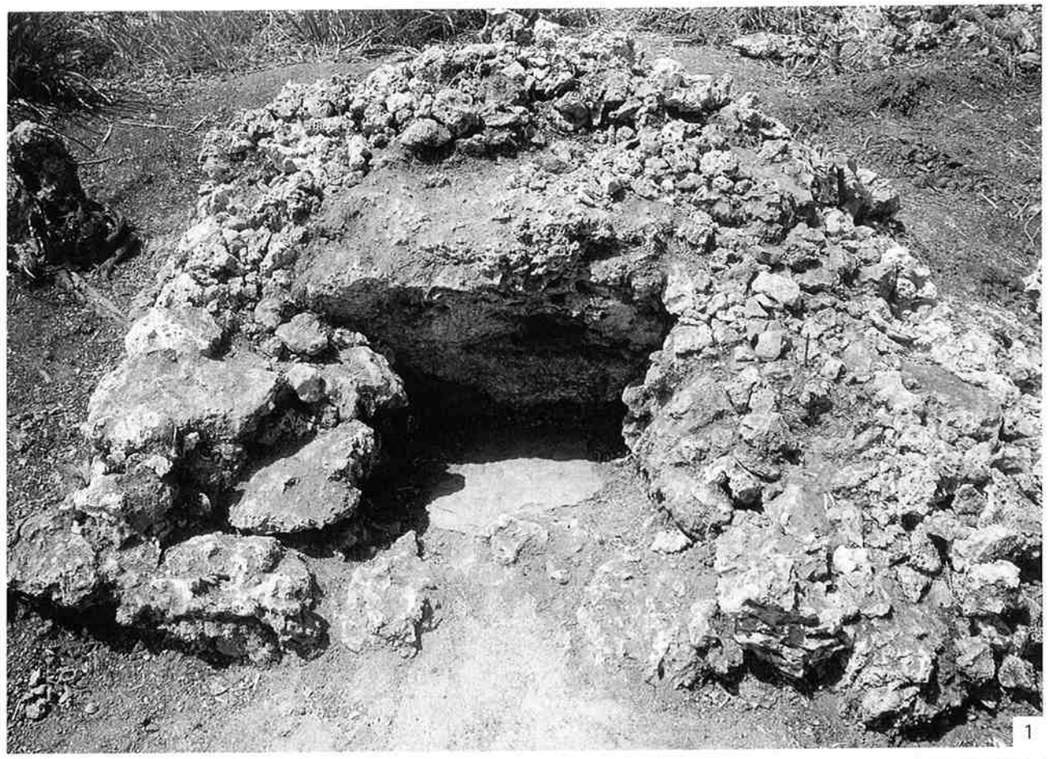


図版４　墓検出状況４　１.10号墓室内の遺物　２.11号墓陶片敷き

図版５　墓検出状況５　１.14号墓石留め石積み検出状況　２.16号墓上面

図版６　墓検出状況６　１.16号墓墓室検出状況　２.16号墓墓室内

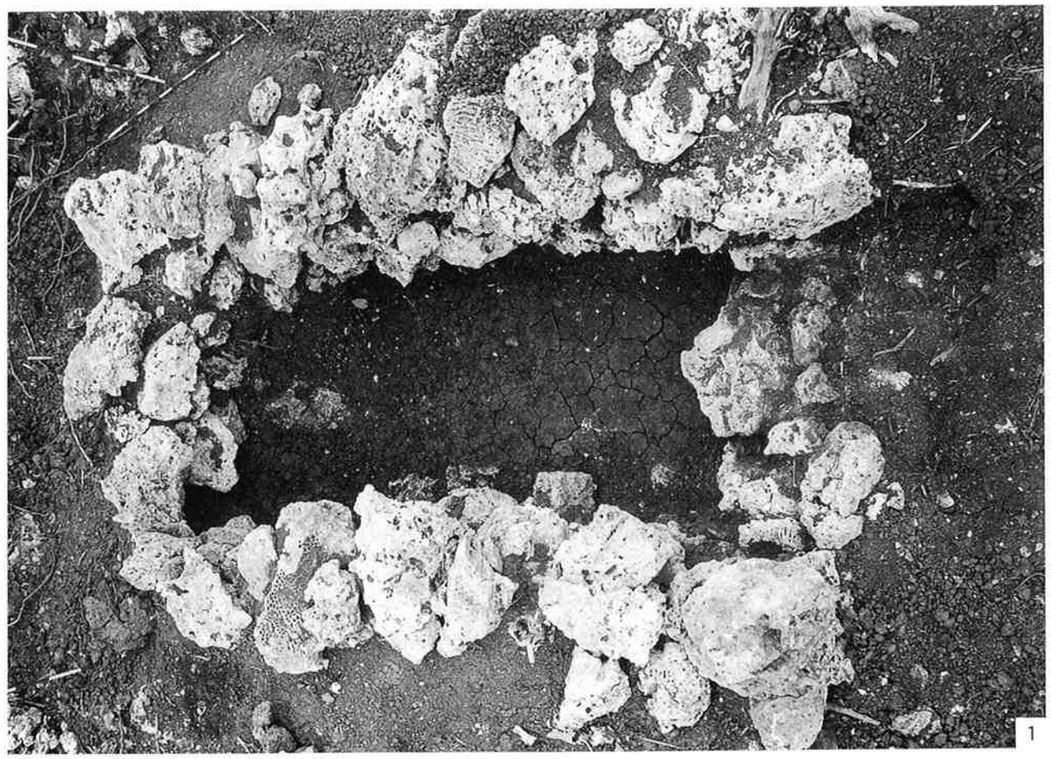




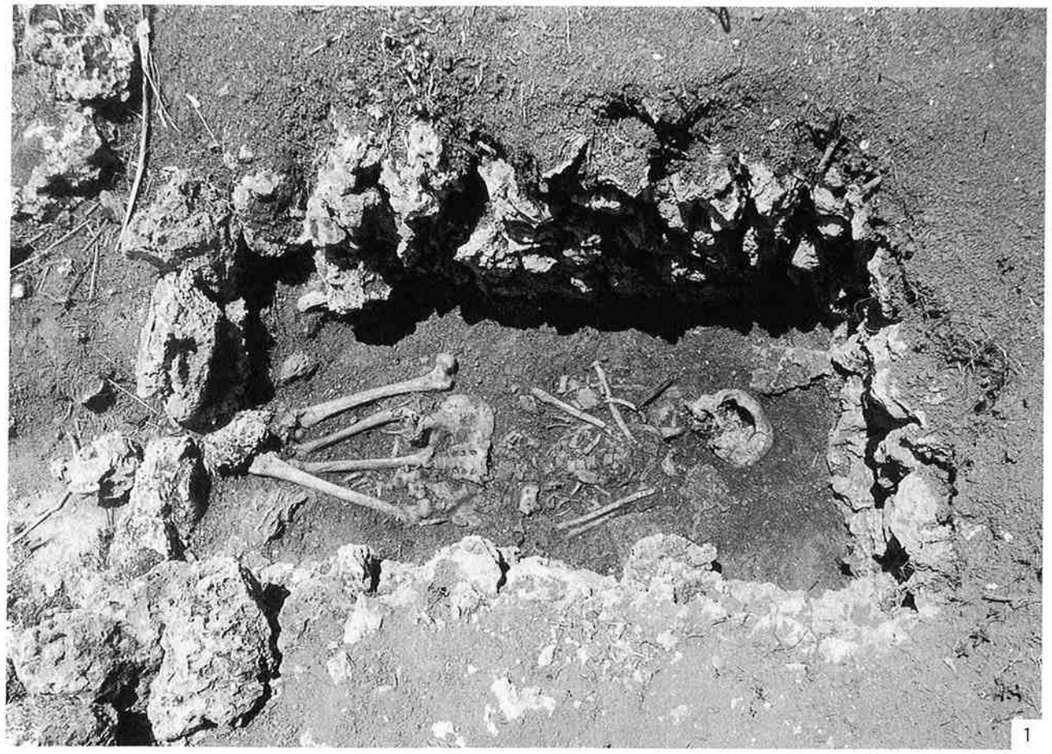
図版７　墓検出状況７　１.18号墓正面　２.19号墓正面

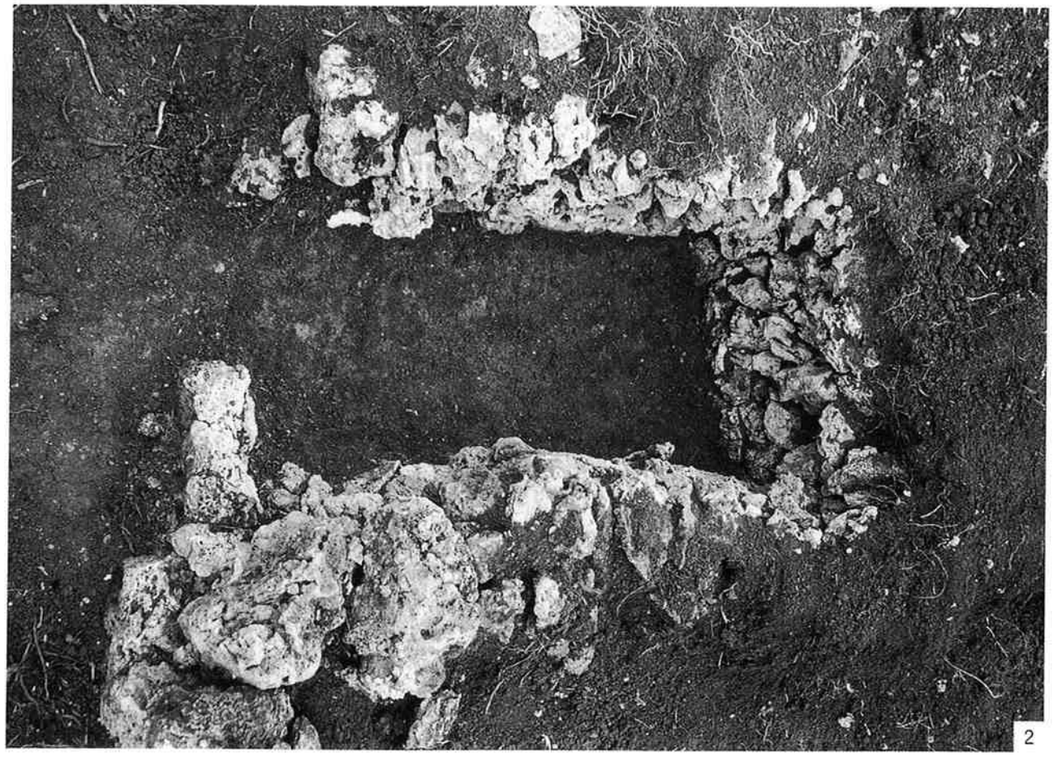
図版８　墓検出状況８　１.20号墓上面　２.20号墓人骨検出状況



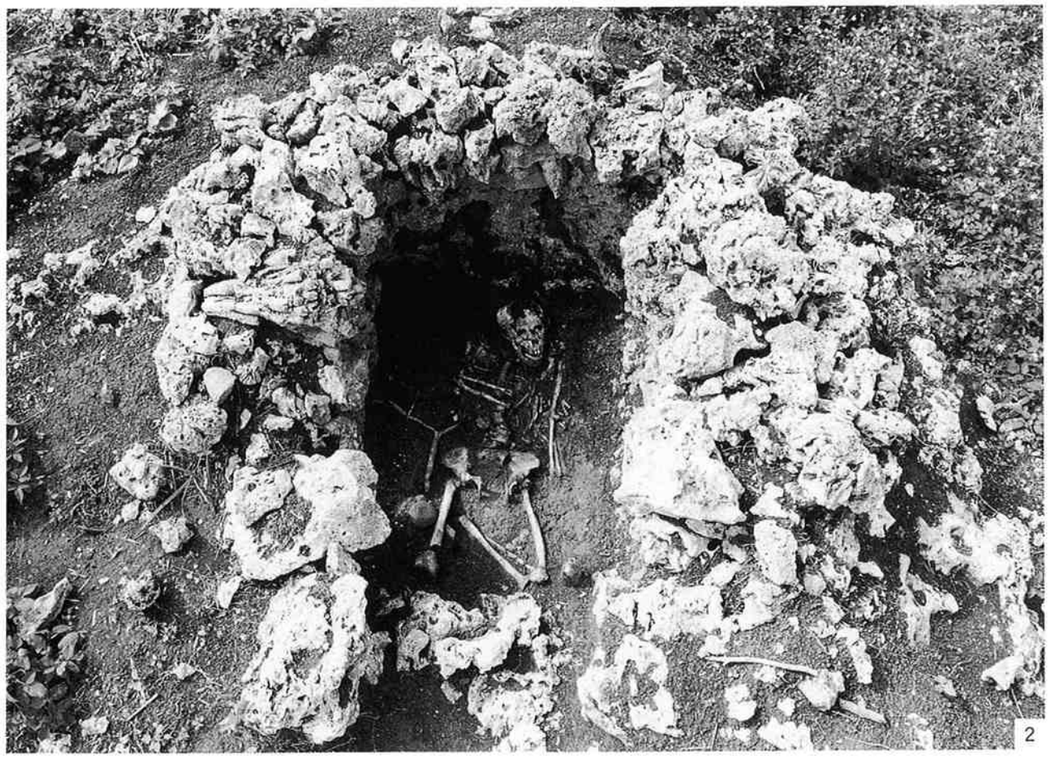


図版９　墓検出状況９　１.20号墓人骨取り上げ後　２.21号墓上面

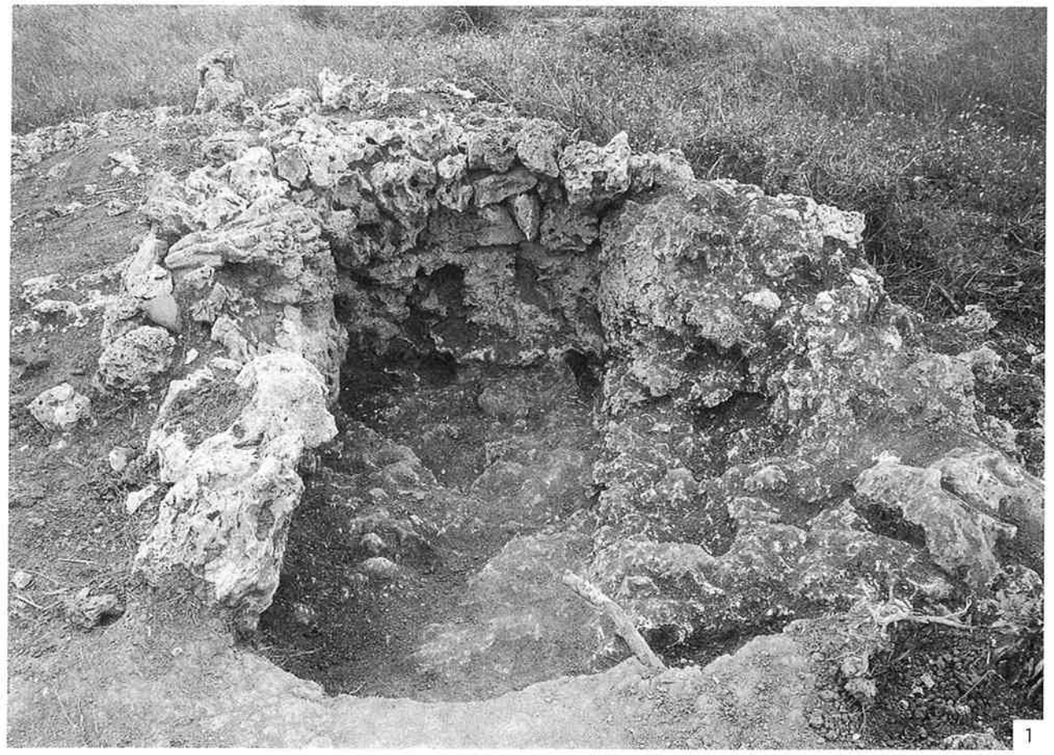




図版10　墓検出状況10　1.21号墓人骨検出状況　2.21号墓人骨取り上げ後

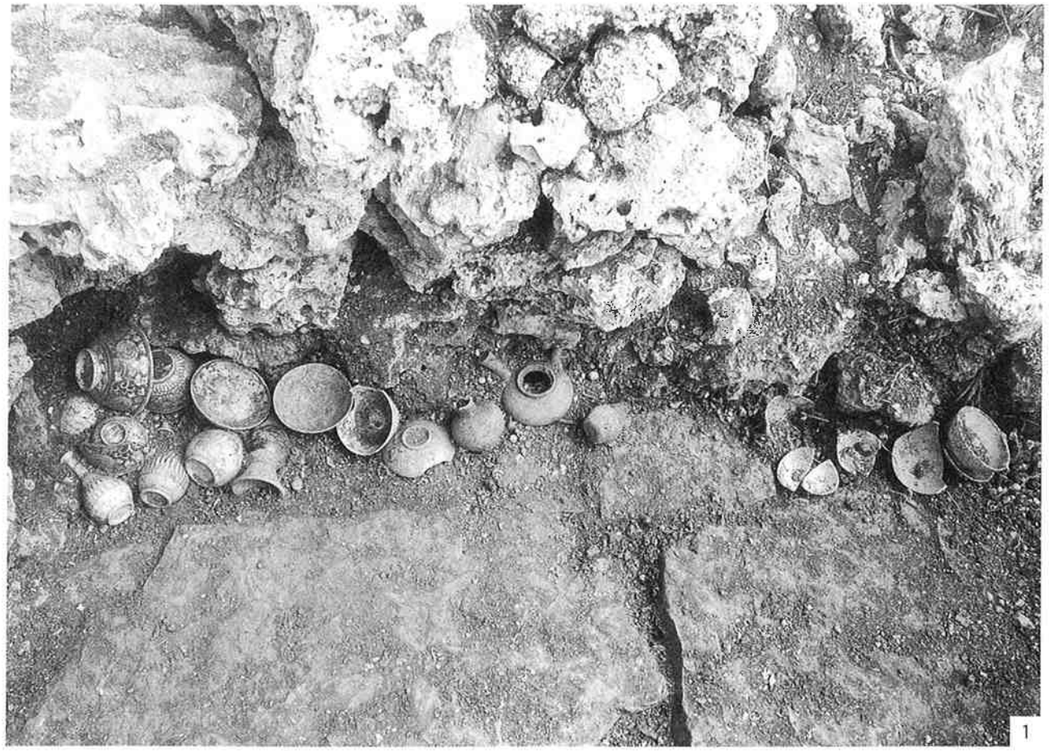


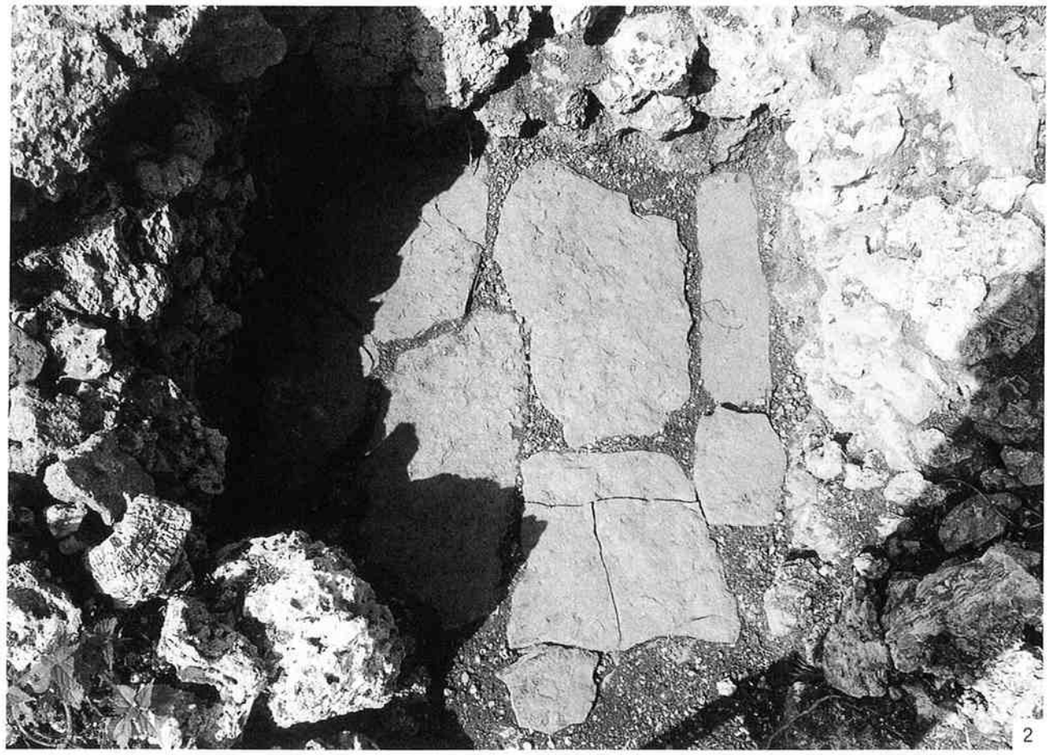
図版11　墓検出状況11　1.22号墓上面　2.22号墓人骨検出状況



図版12　墓検出状況12　1．22号墓人骨取り上げ後　2．24号墓正面

図版13　墓検出状況13　1．25(左側)・27(右側)号墓正面　2．27号墓納骨器・遺物検出状況

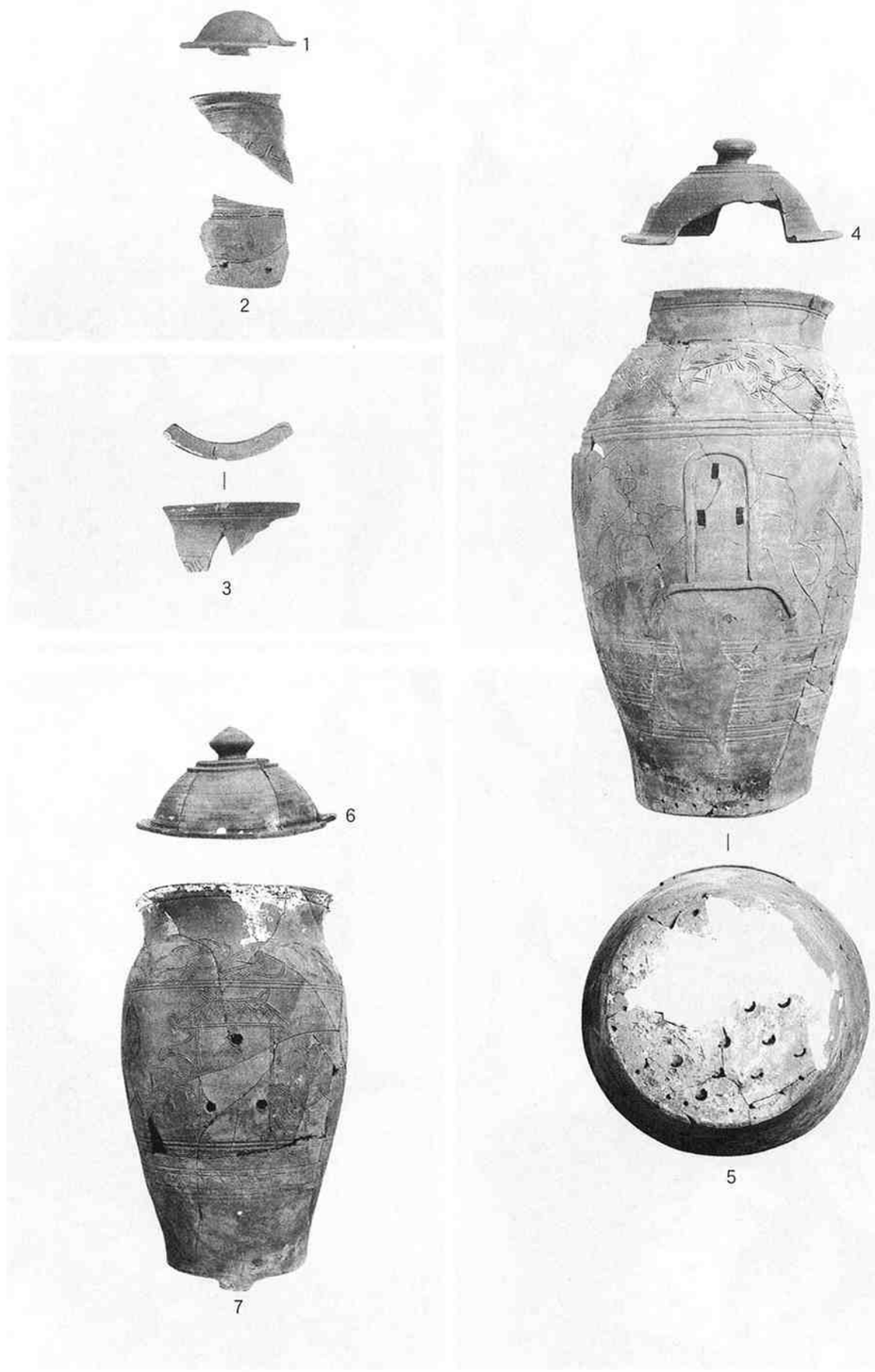




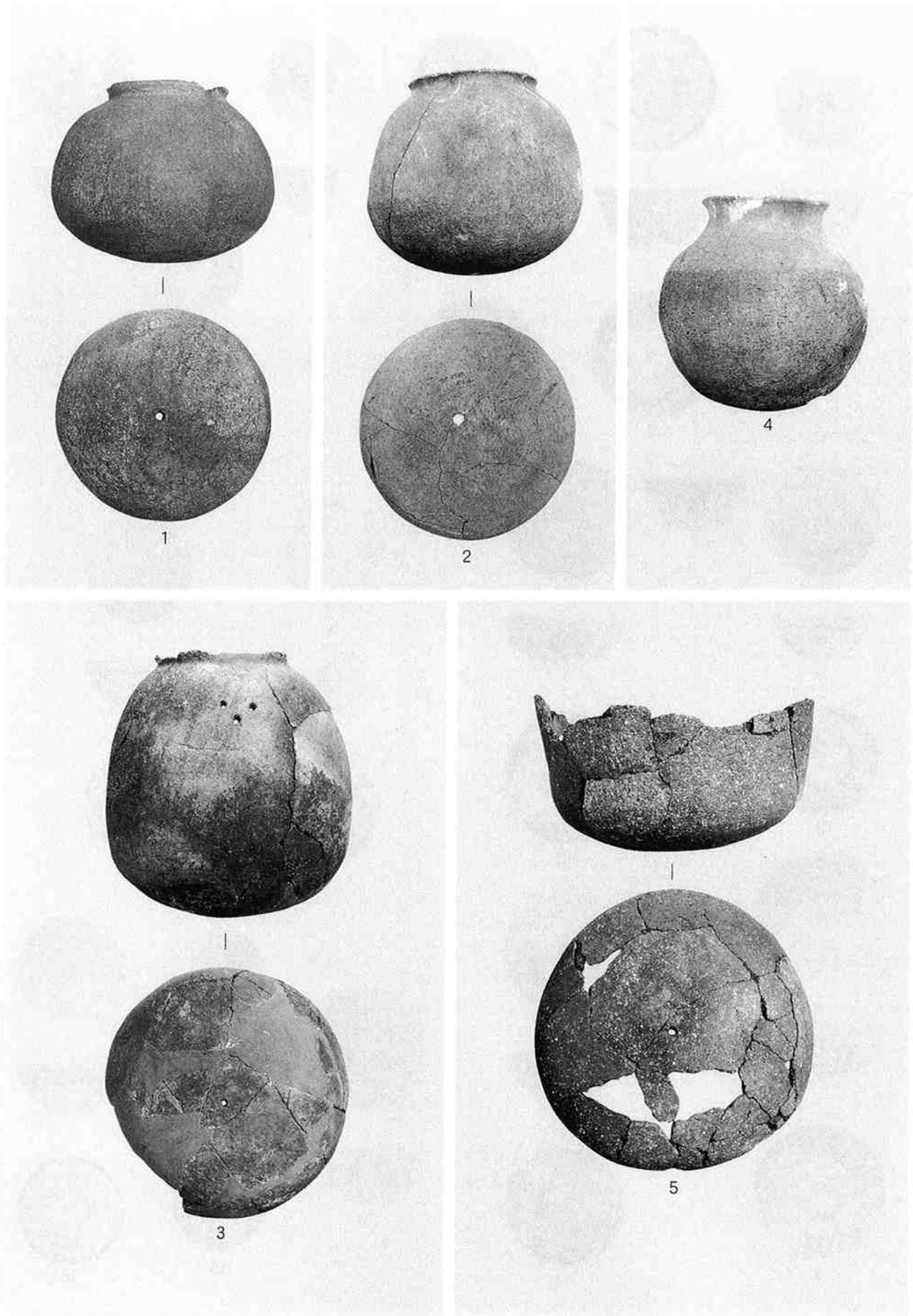
図版14　墓検出状況14　1．27号墓遺物出土状況　2．27号墓床面

図版15　墓検出状況15　1．28号墓上面　2．30号墓正面

図版16　墓検出状況16　1．30号墓遺物出土状況　2．30号墓床面

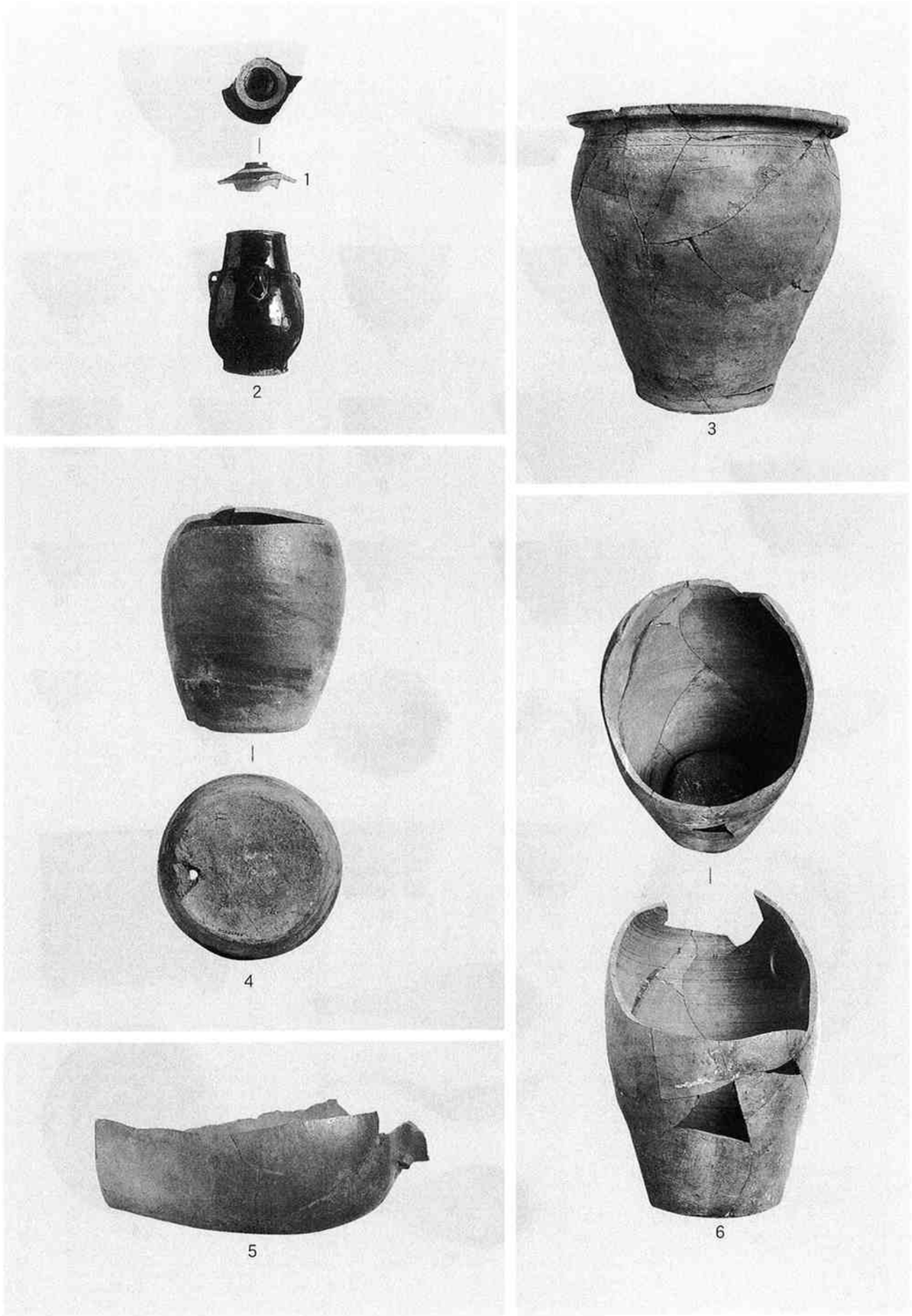


図版17　納骨器(専用器)

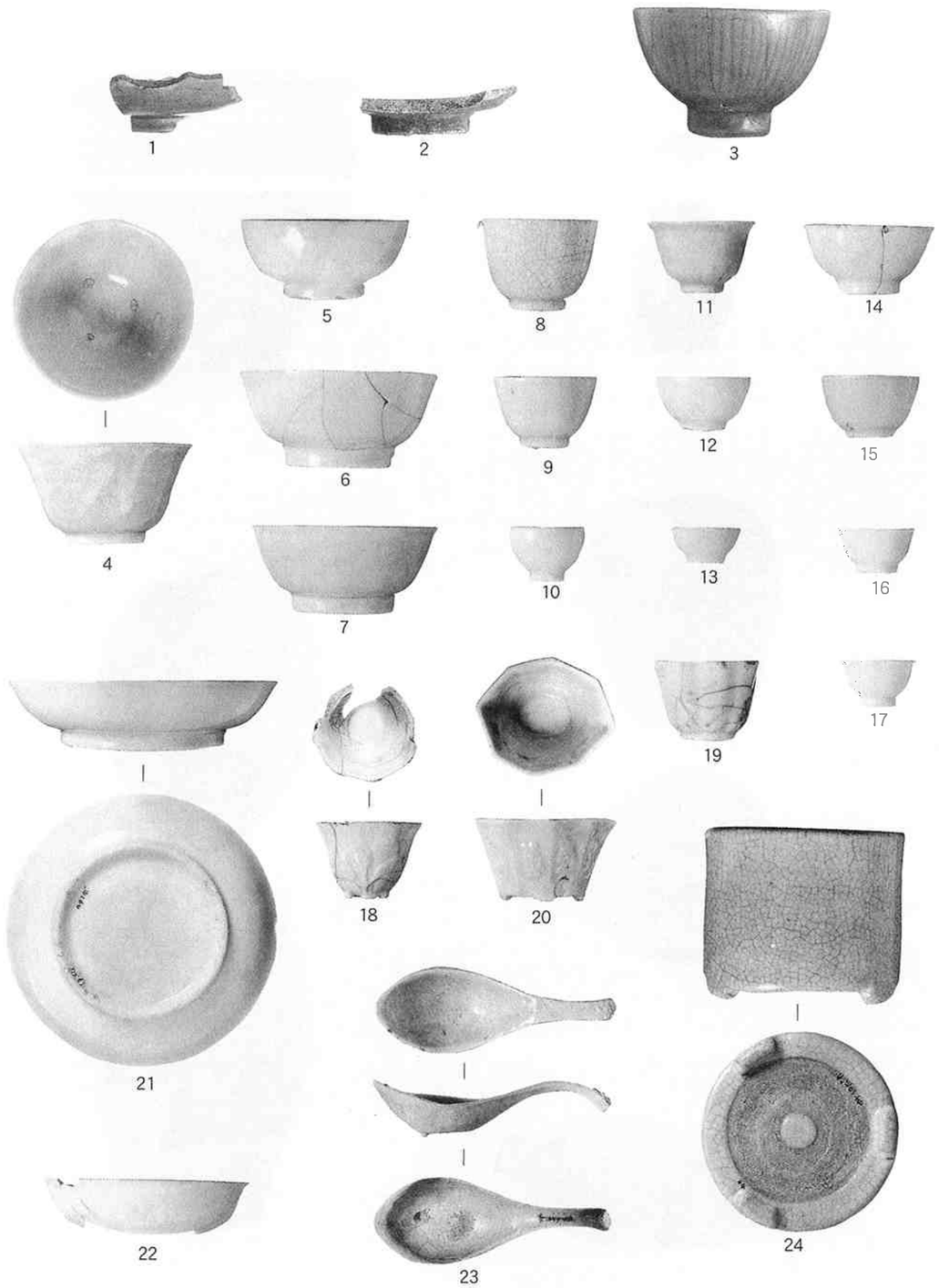



図版18　納骨器(土器)



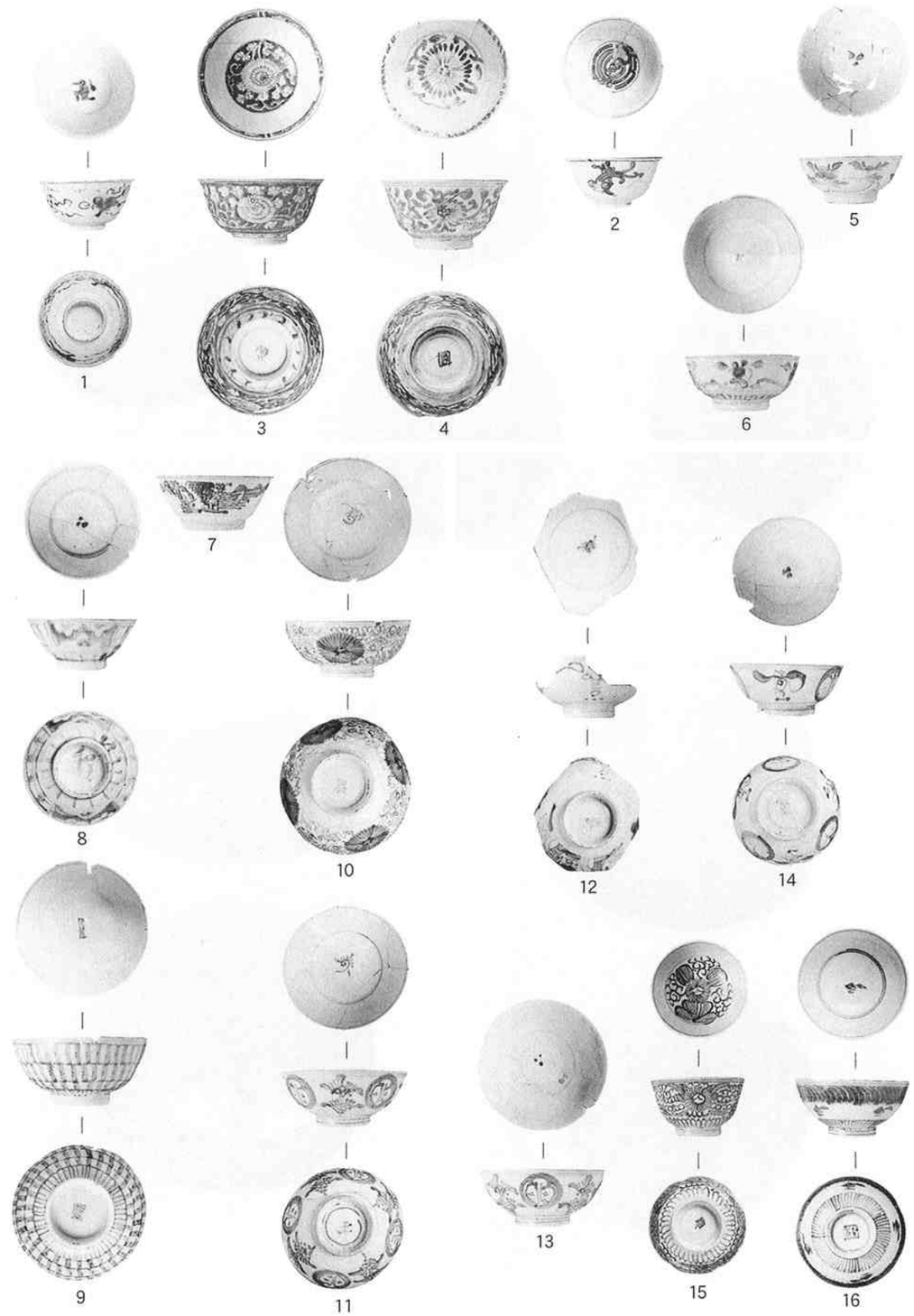



図版19　納骨器(転用器)

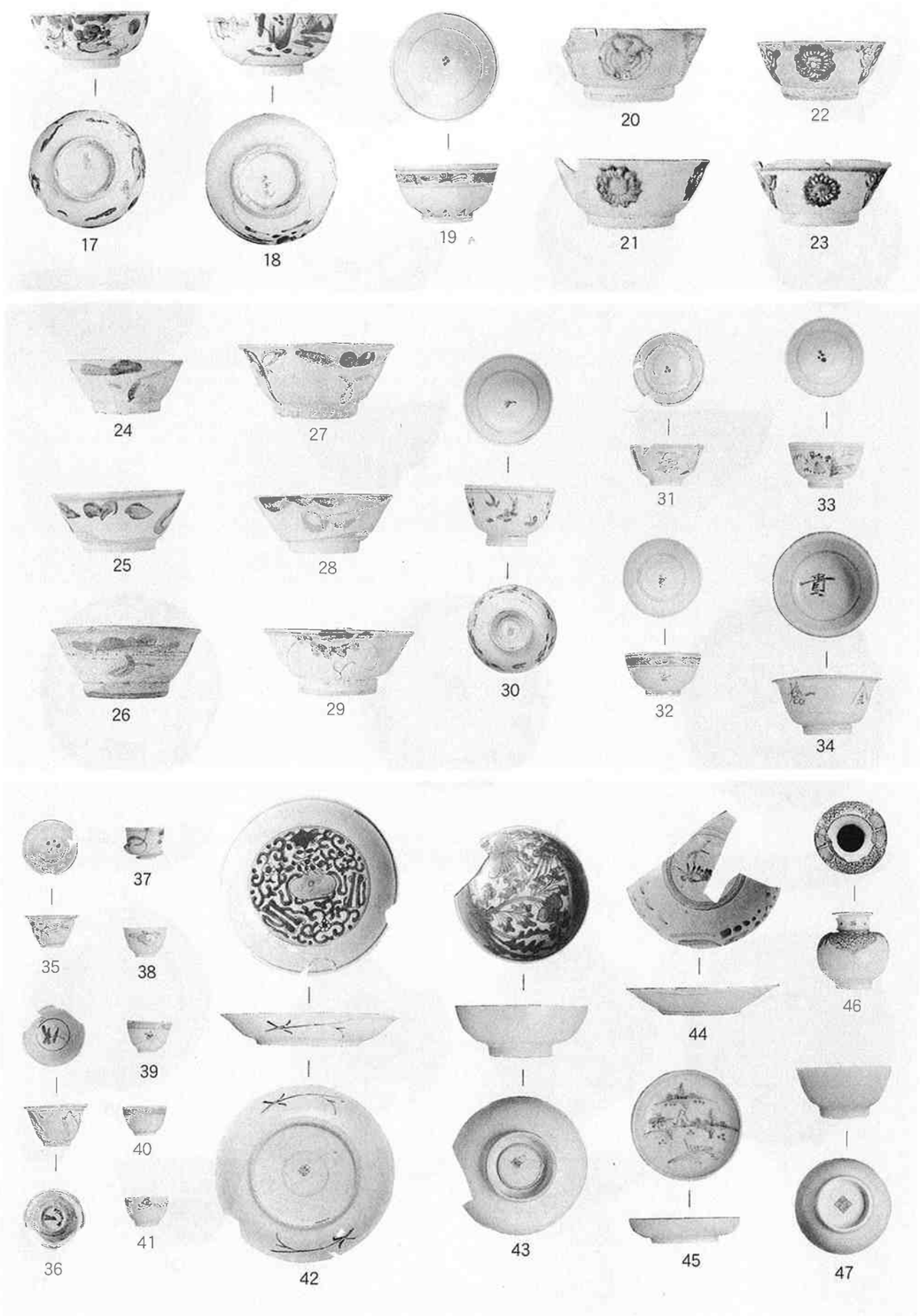



図版20　上:青磁　下:白磁



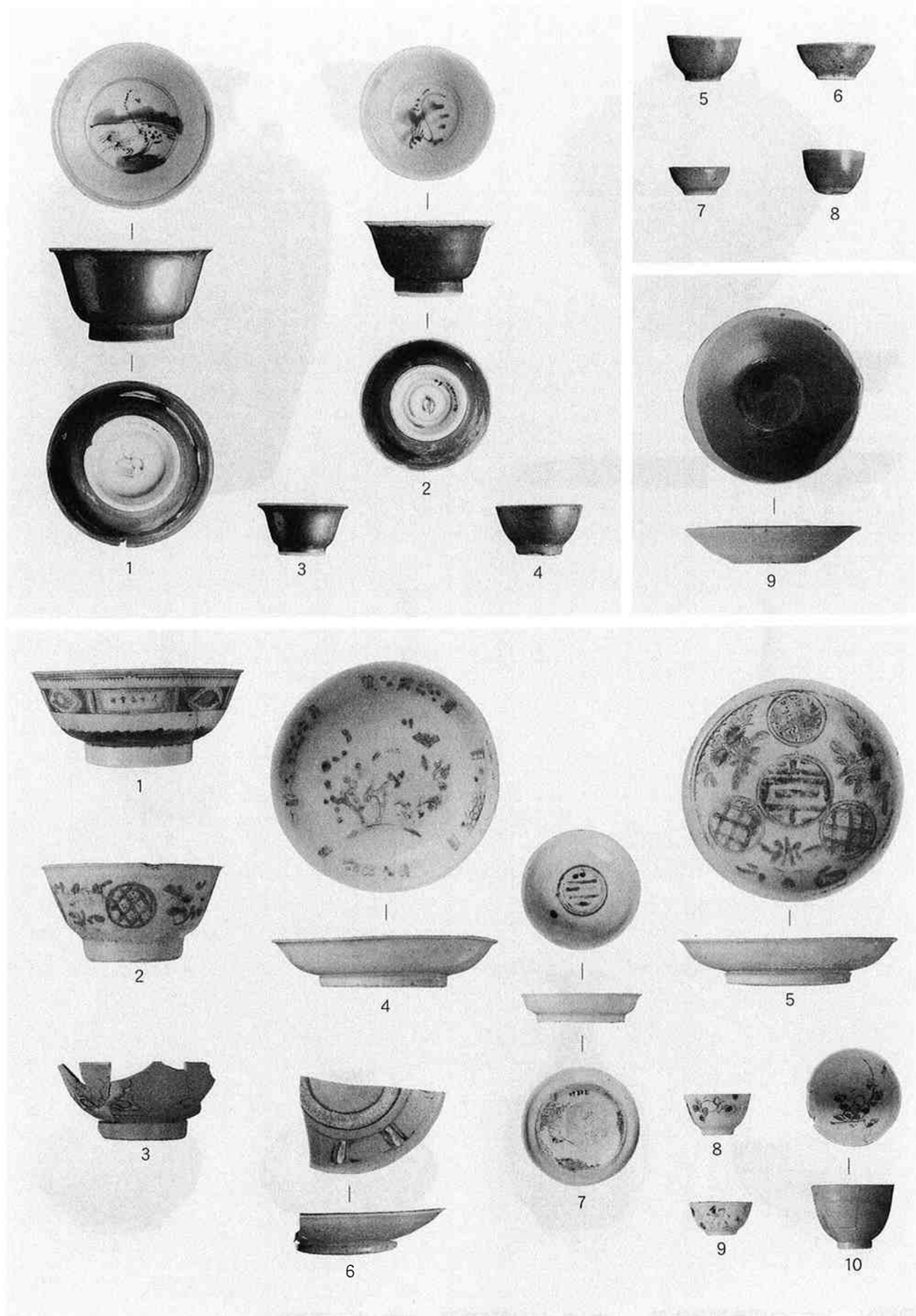



図版21　上:染付1　下左:染付2　下右:染付3

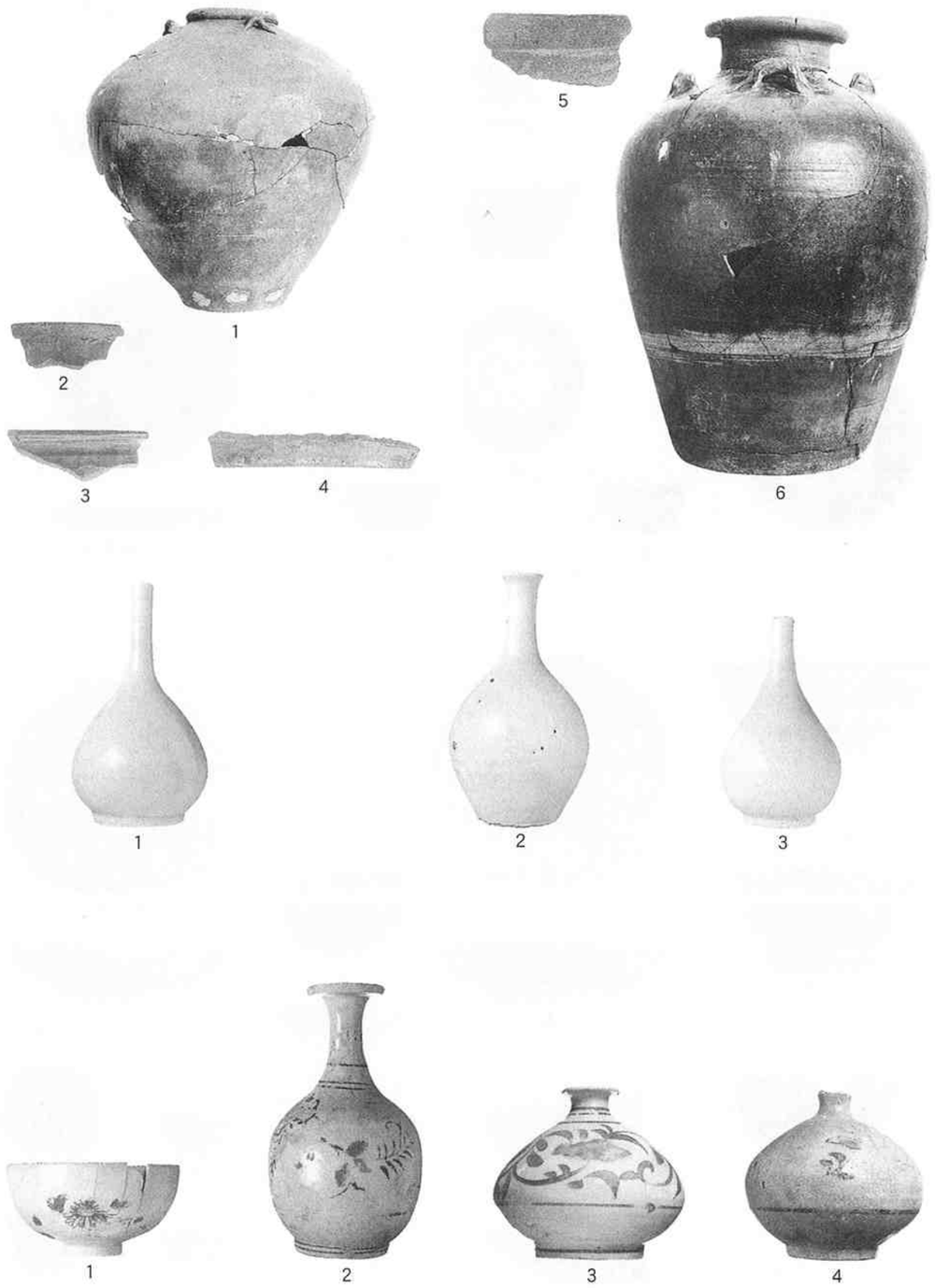



図版22　上:染付４　中:染付５　下:染付６・青磁染付



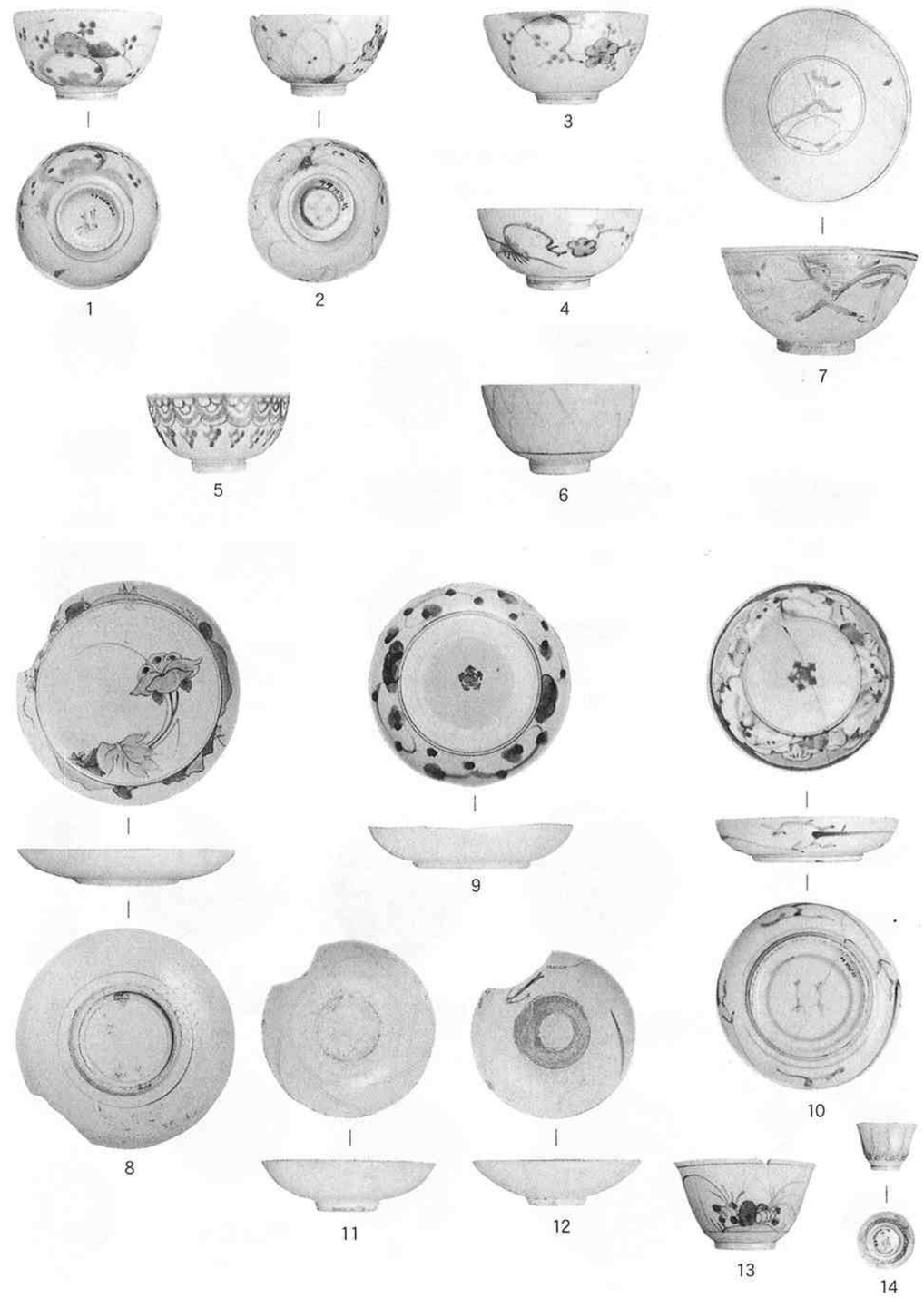



図版23　上左:褐釉磁器　上右:瑠璃釉　上右下:中国産陶器　下:色絵

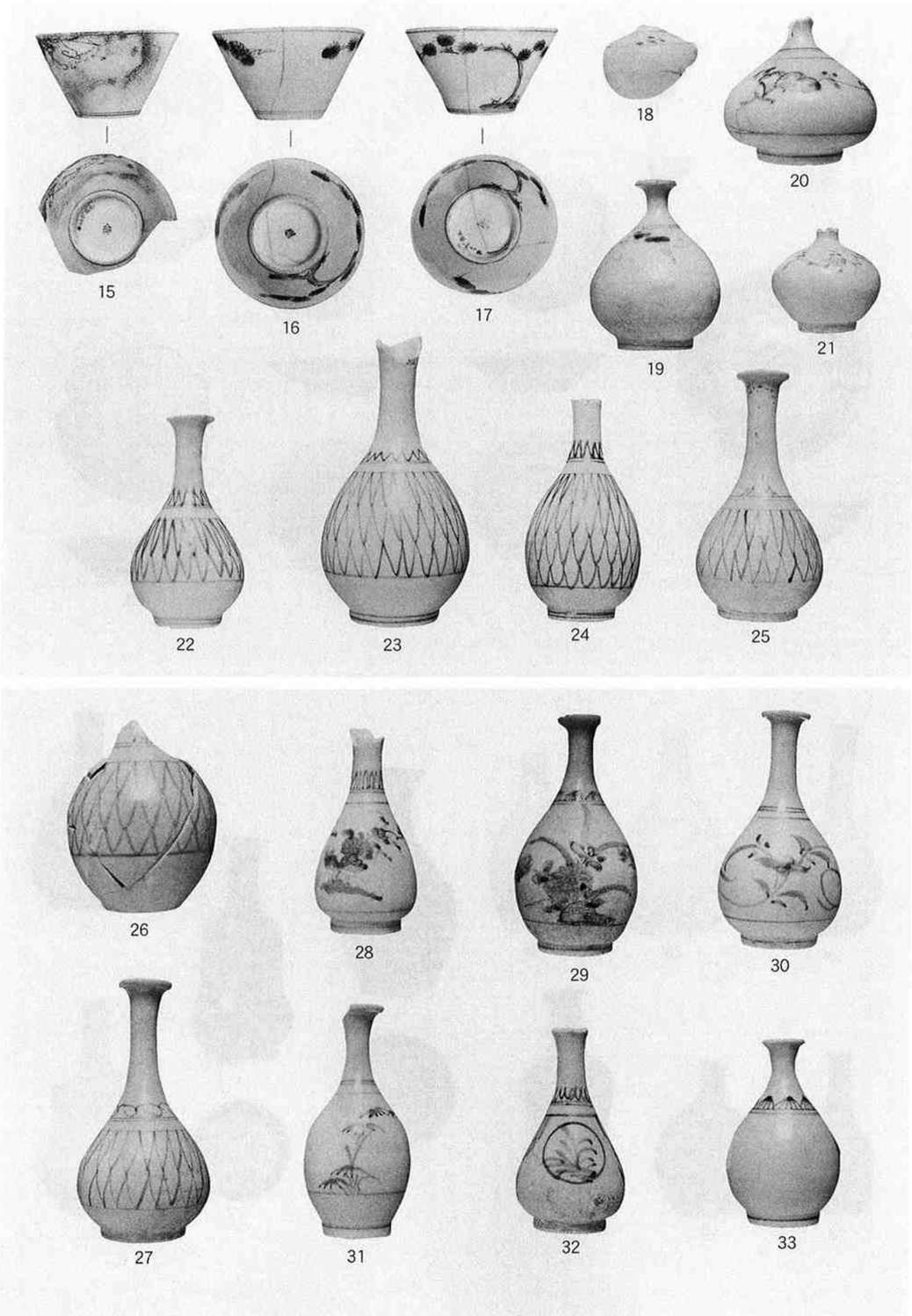



図版24　上左:中国産褐釉陶器　上右:タイ産褐釉陶器　中左:本土産青磁
中右:本土産白磁　下:本土産色絵



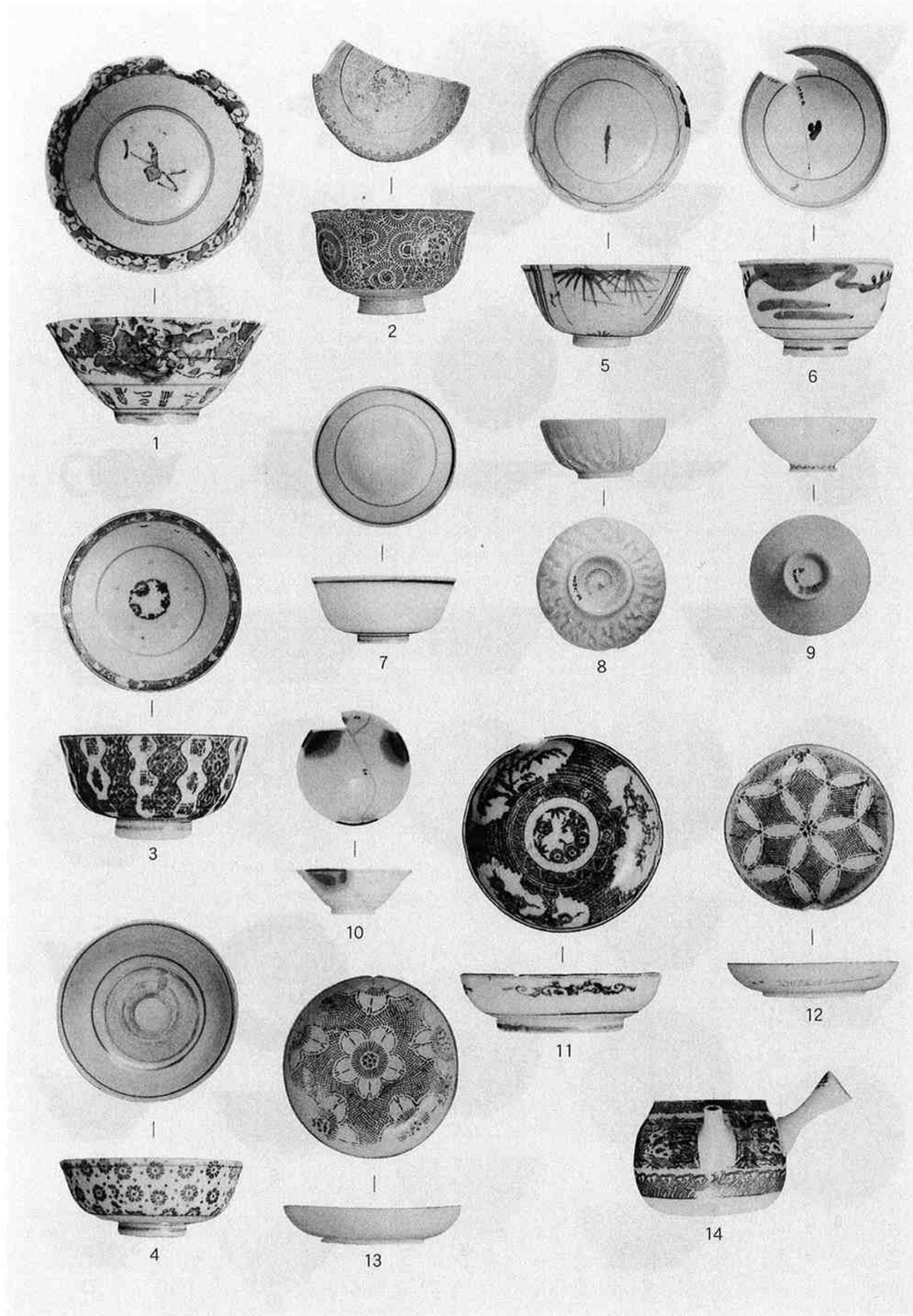



図版25　上:本土産染付1　下:本土産染付2

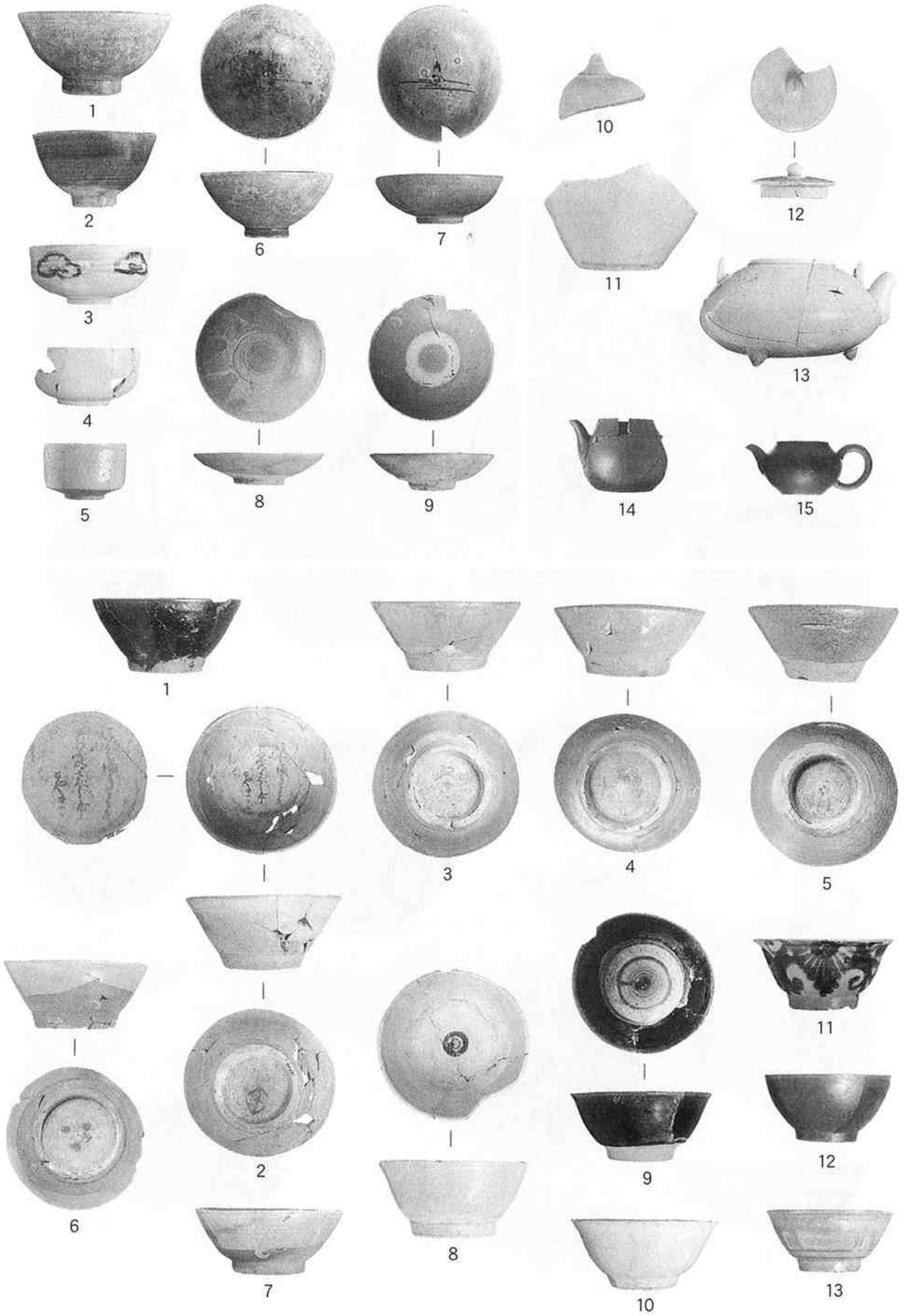



図版26　上:本土産染付３　下:本土産染付４



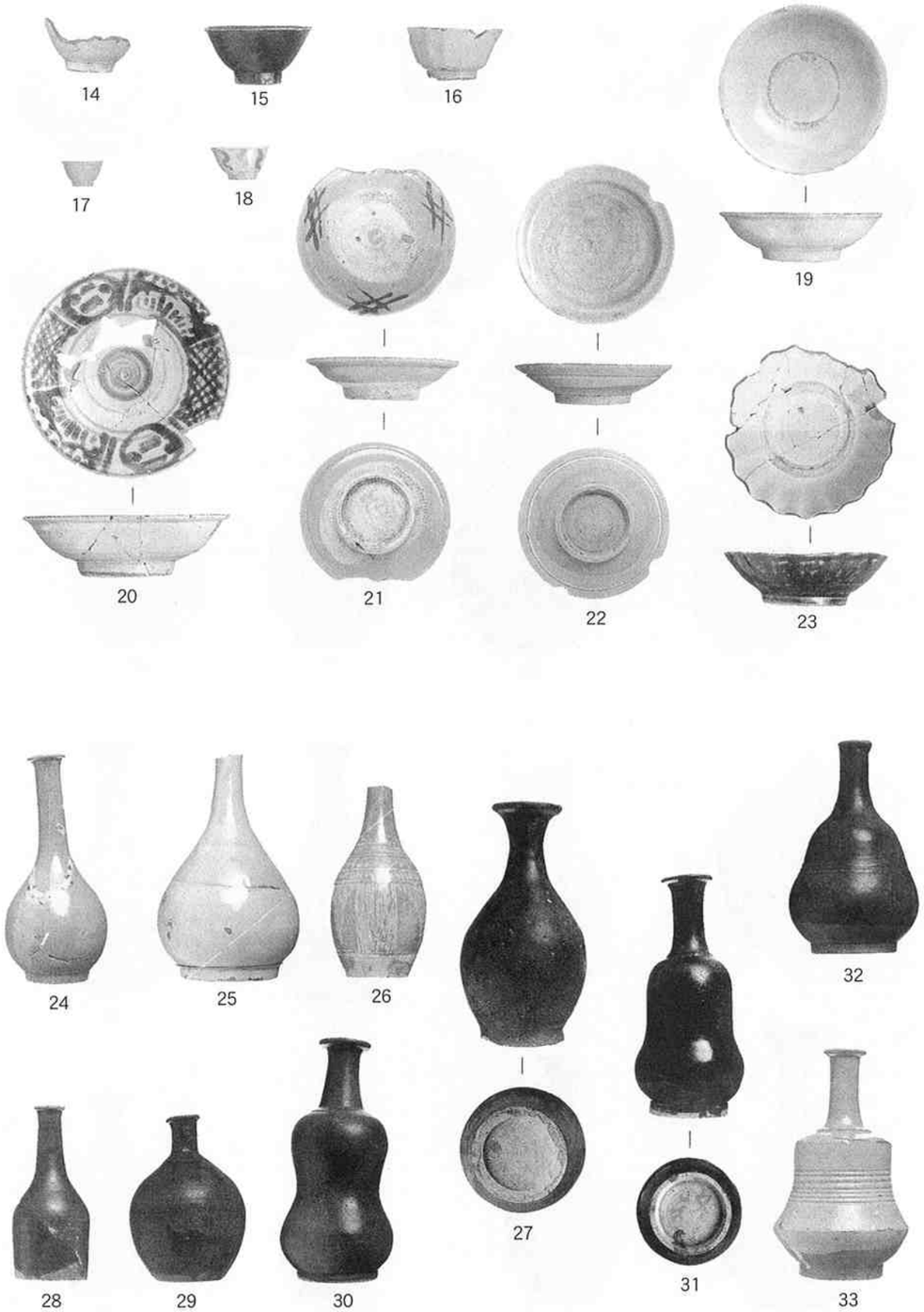



図版27　本土産近代磁器

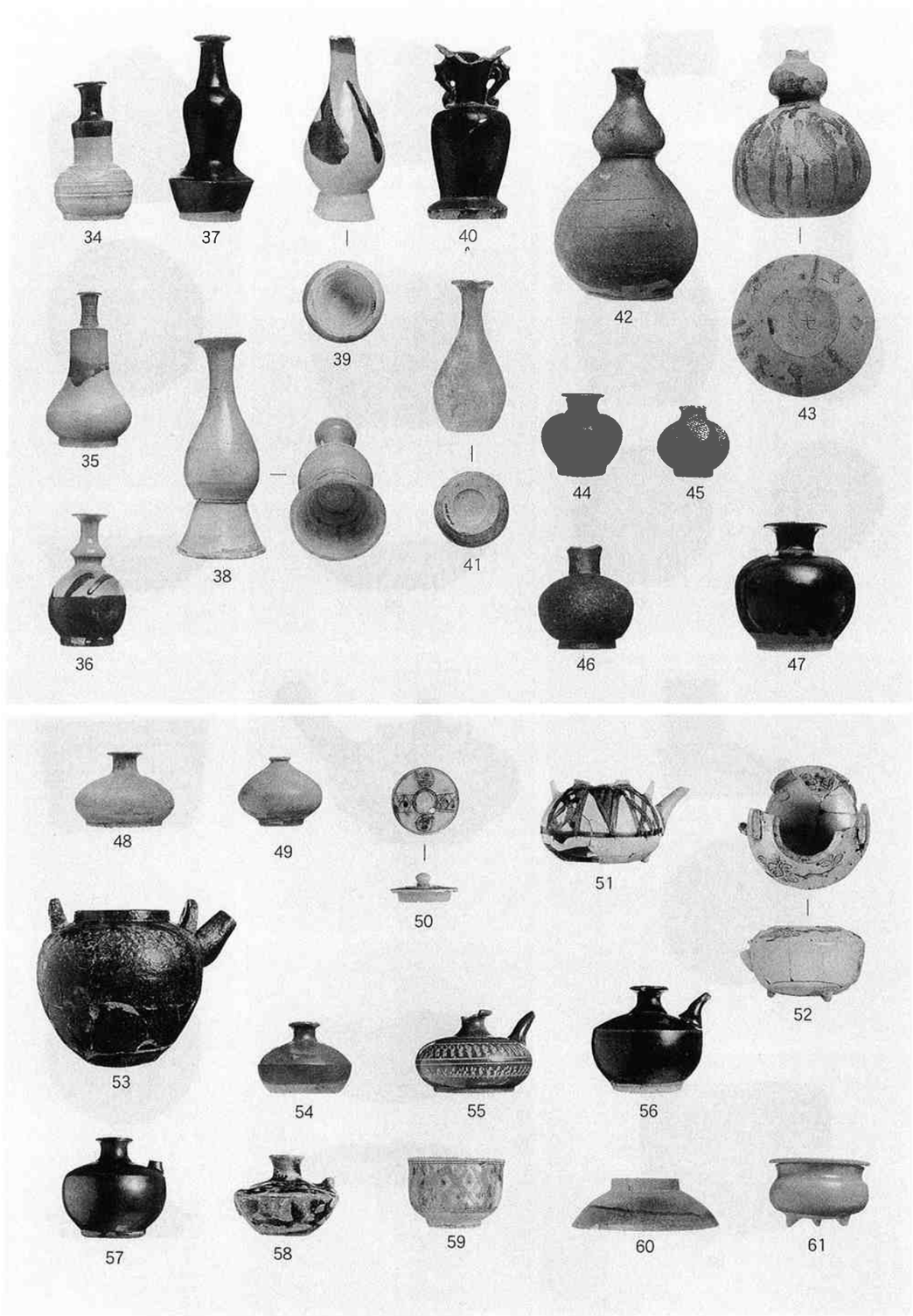


図版28　上左:本土産陶器１　上右:本土産陶器２　下:沖縄産施釉陶器１



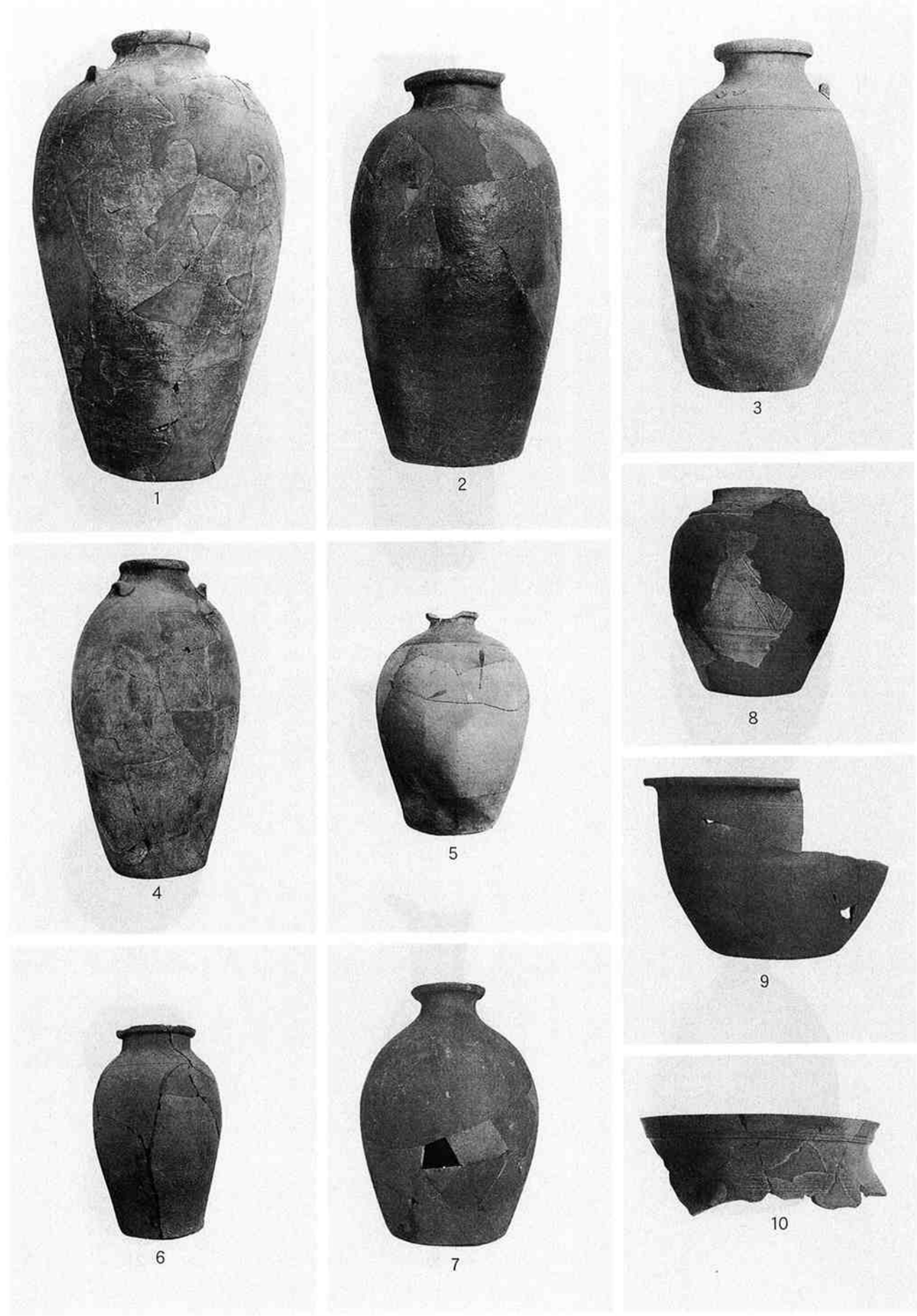


図版29　上:沖縄産施釉陶器２　下:沖縄産施釉陶器３

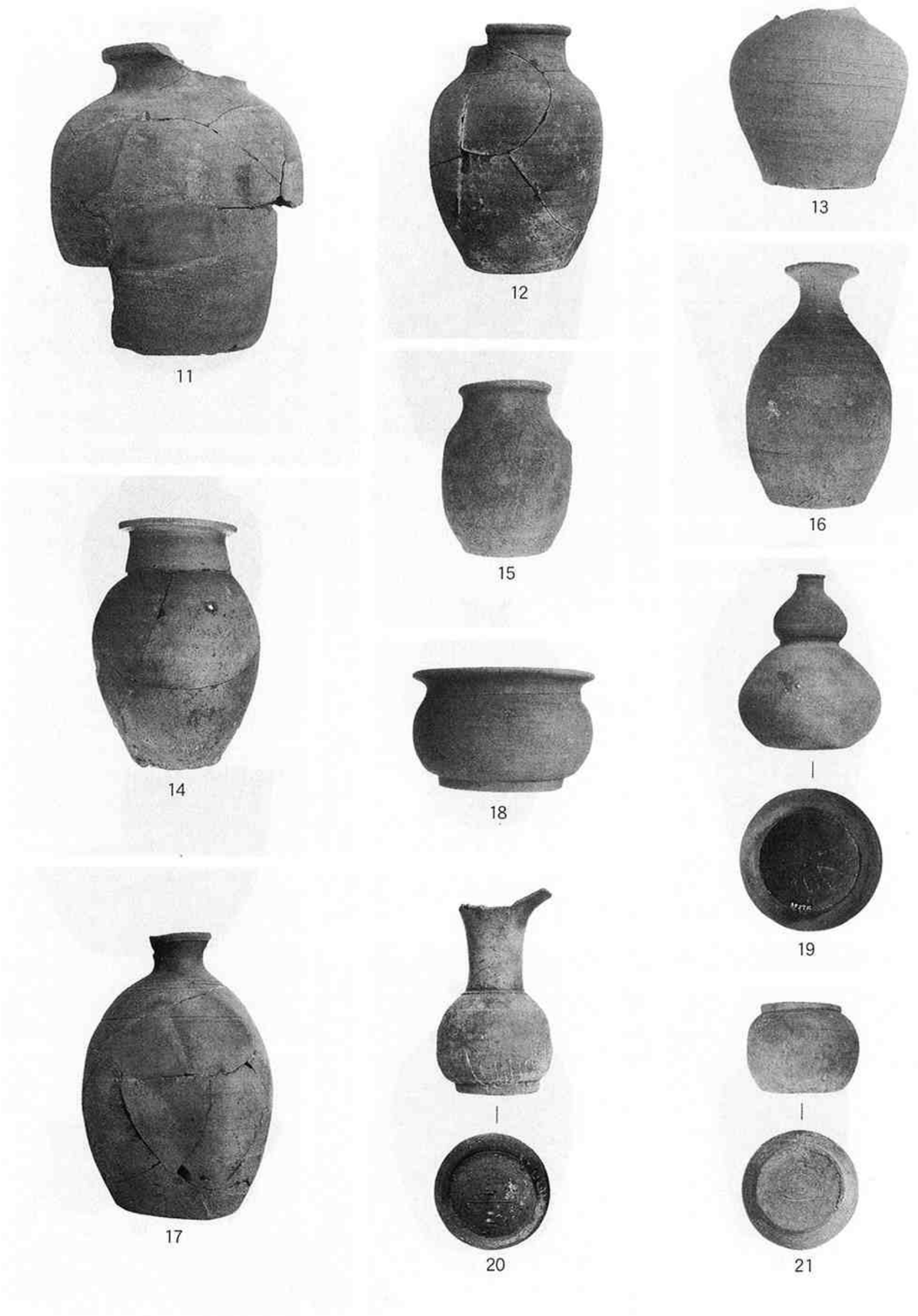



図版30　上:沖縄産施釉陶器４　下:沖縄産施釉陶器５



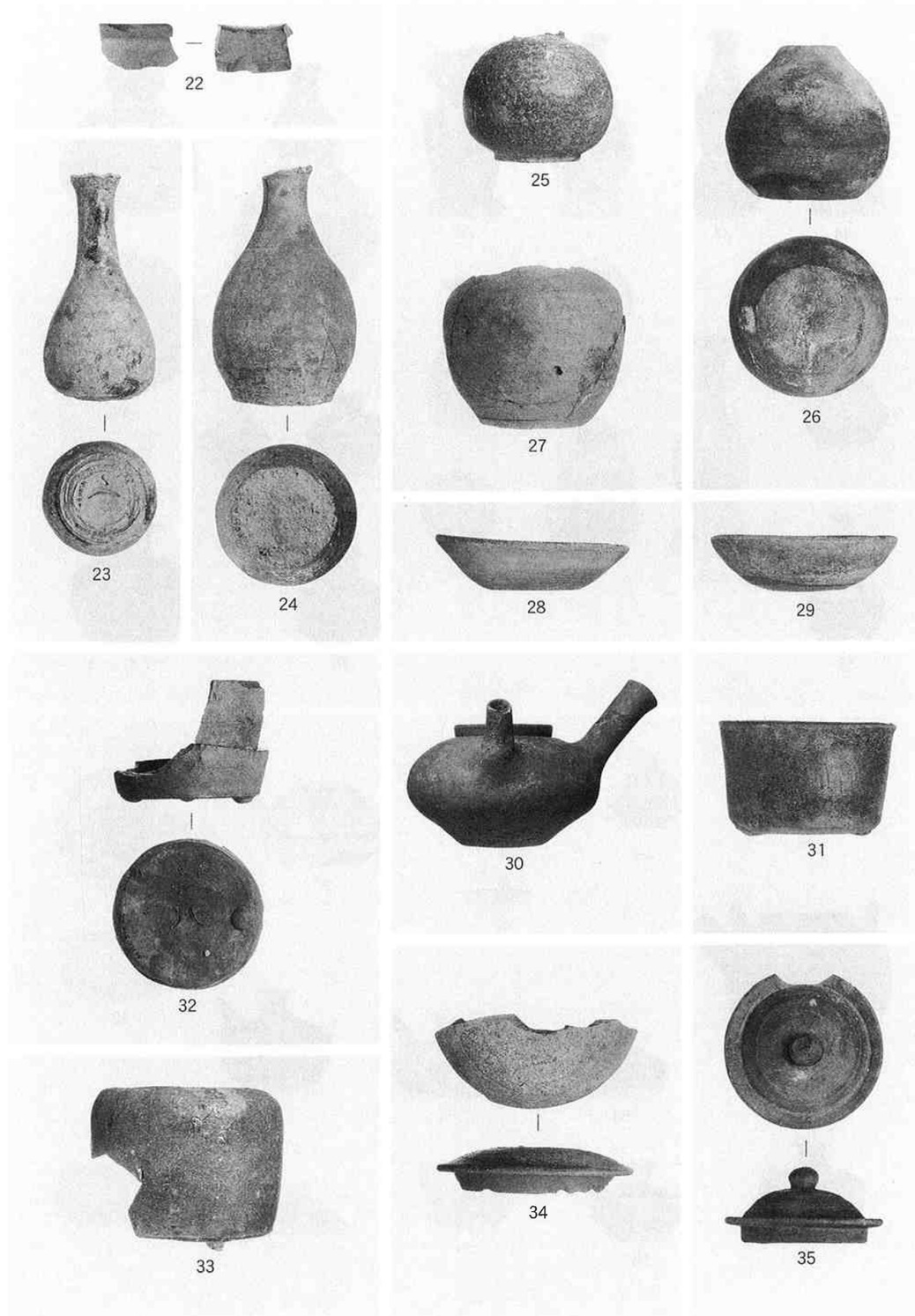



図版31　沖縄産無釉陶器１

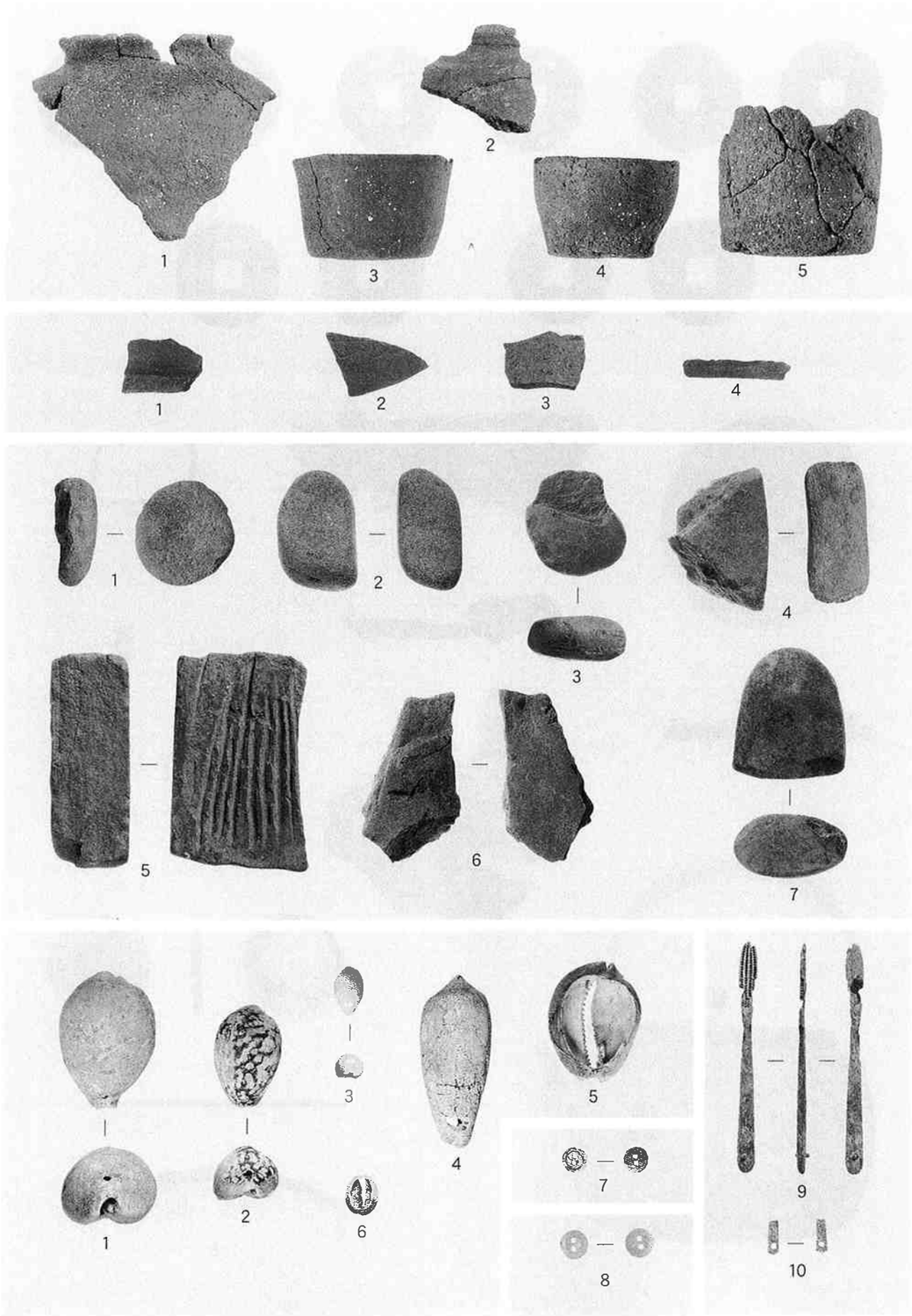



図版32　沖縄産無釉陶器２



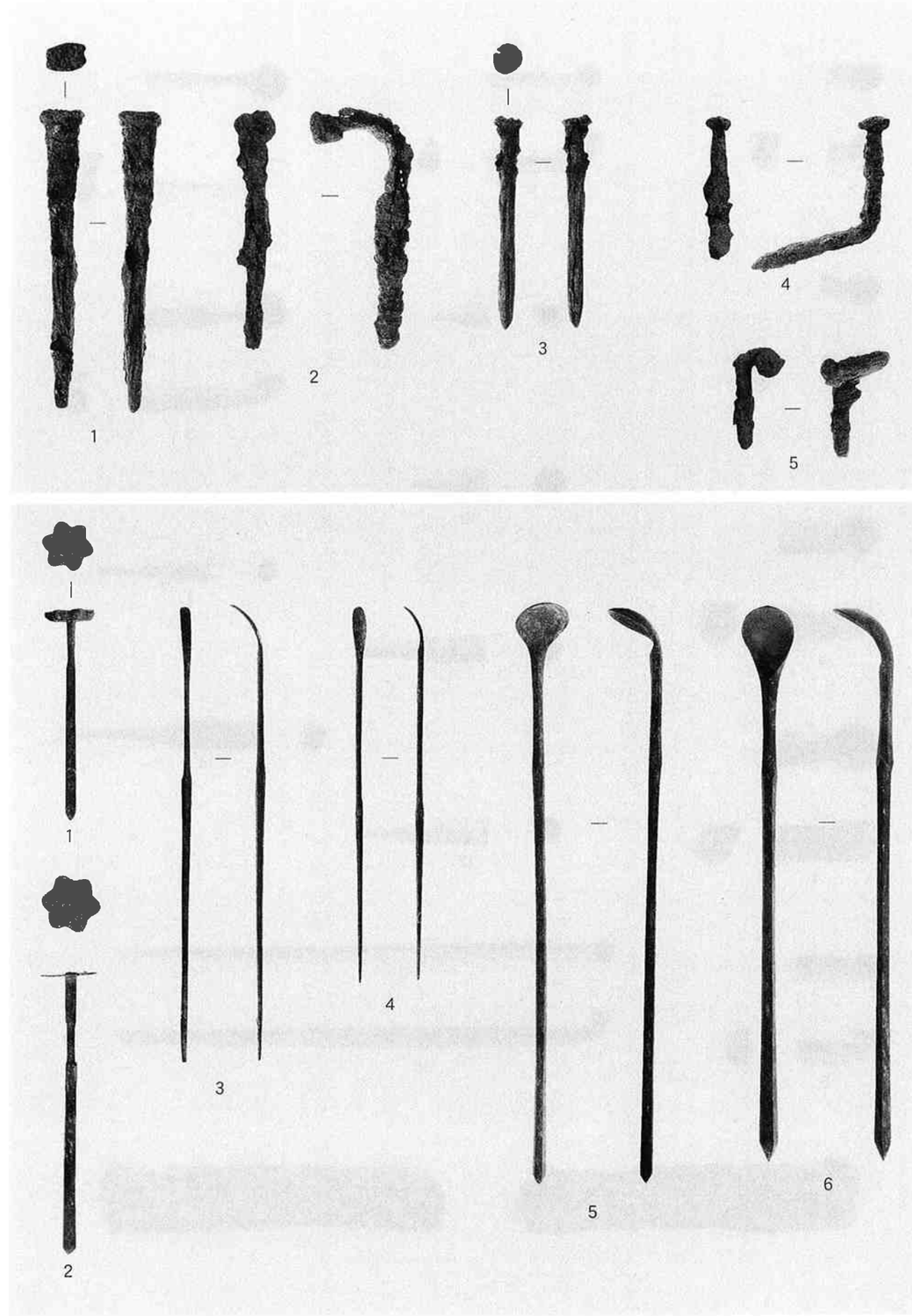



図版33・沖縄産無釉陶器３

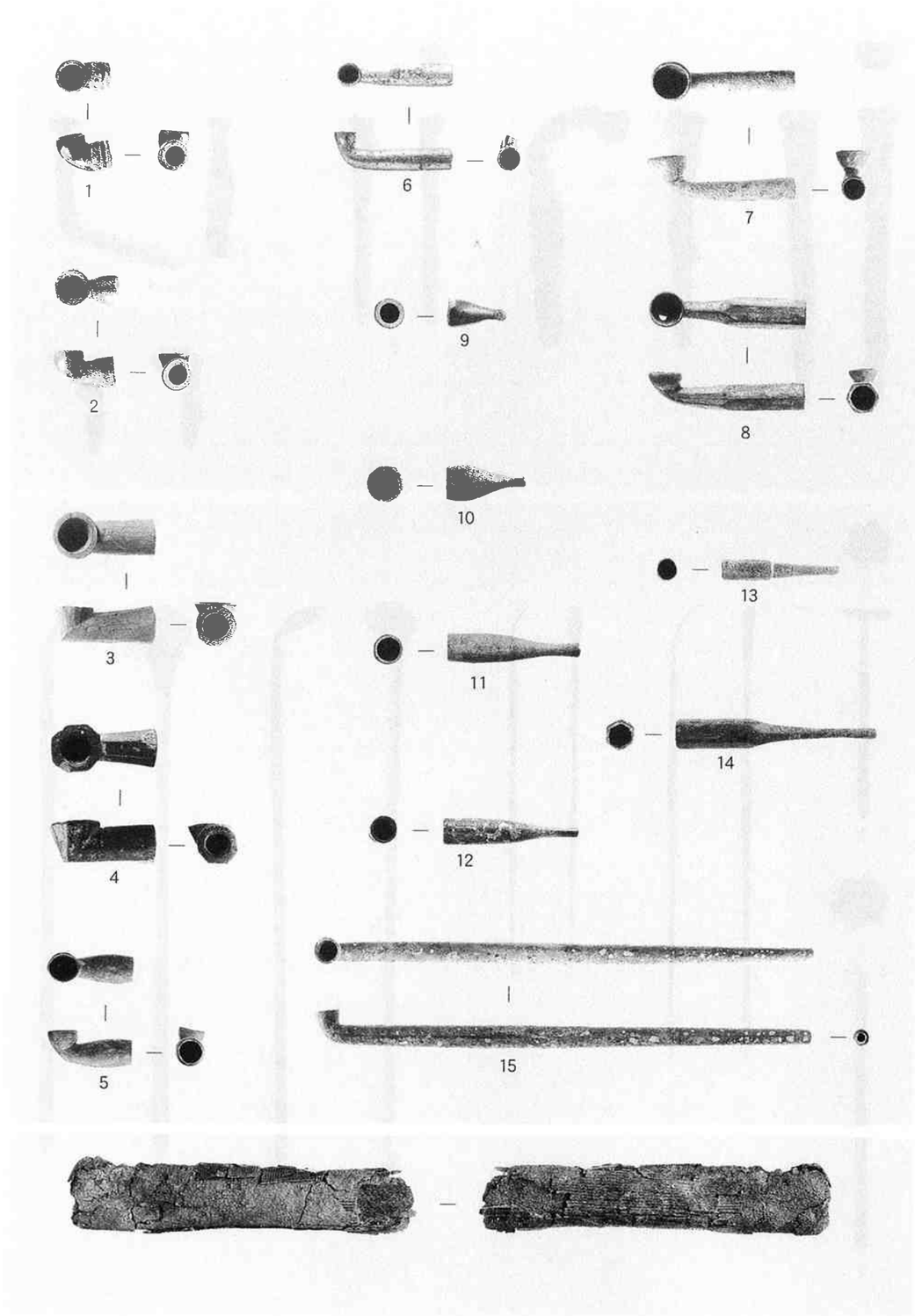


図版34　上:土器　上下:類須恵器　中:石器・石製品　下:貝製品・骨製品



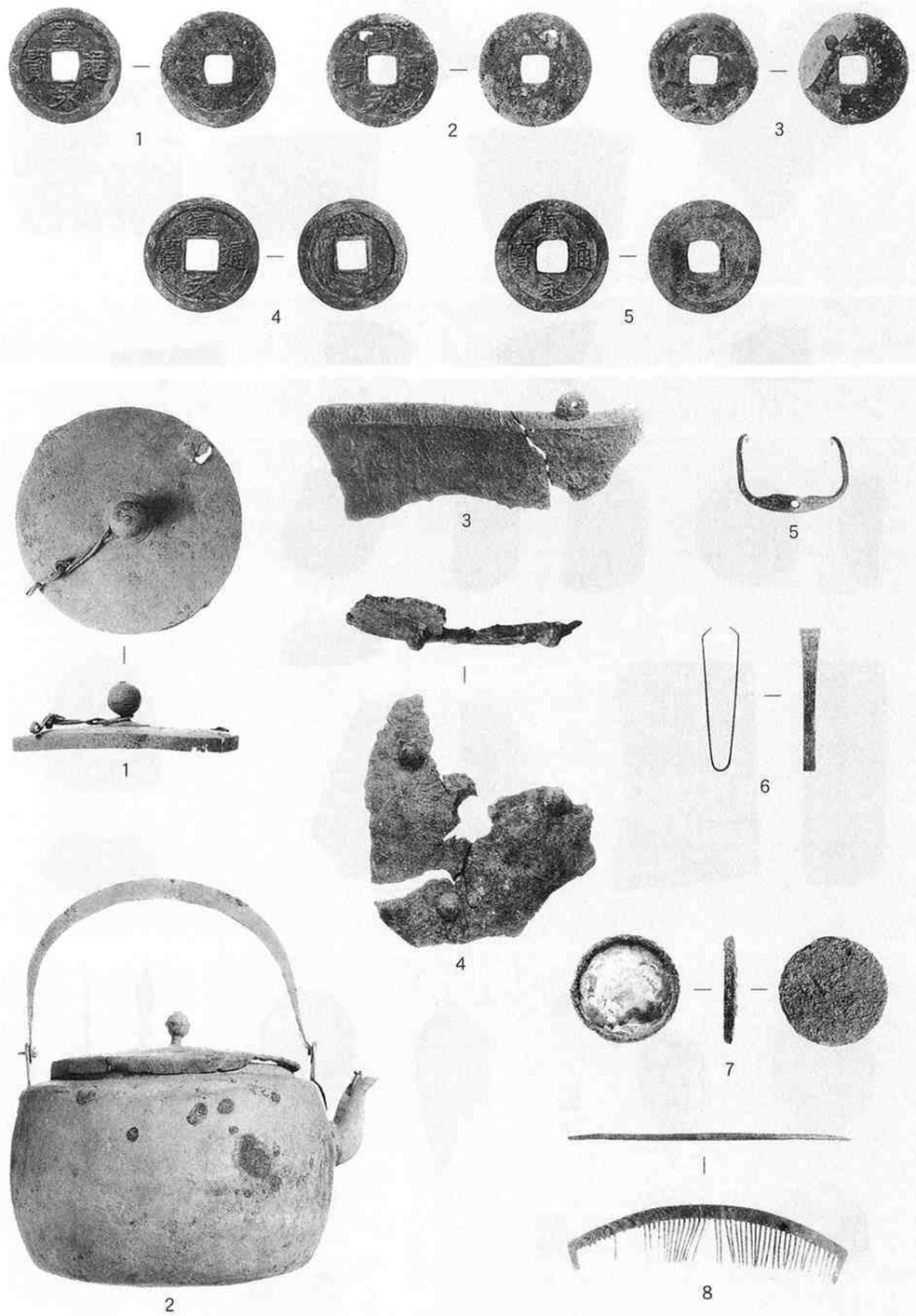


図版35　上:釘　下:簪

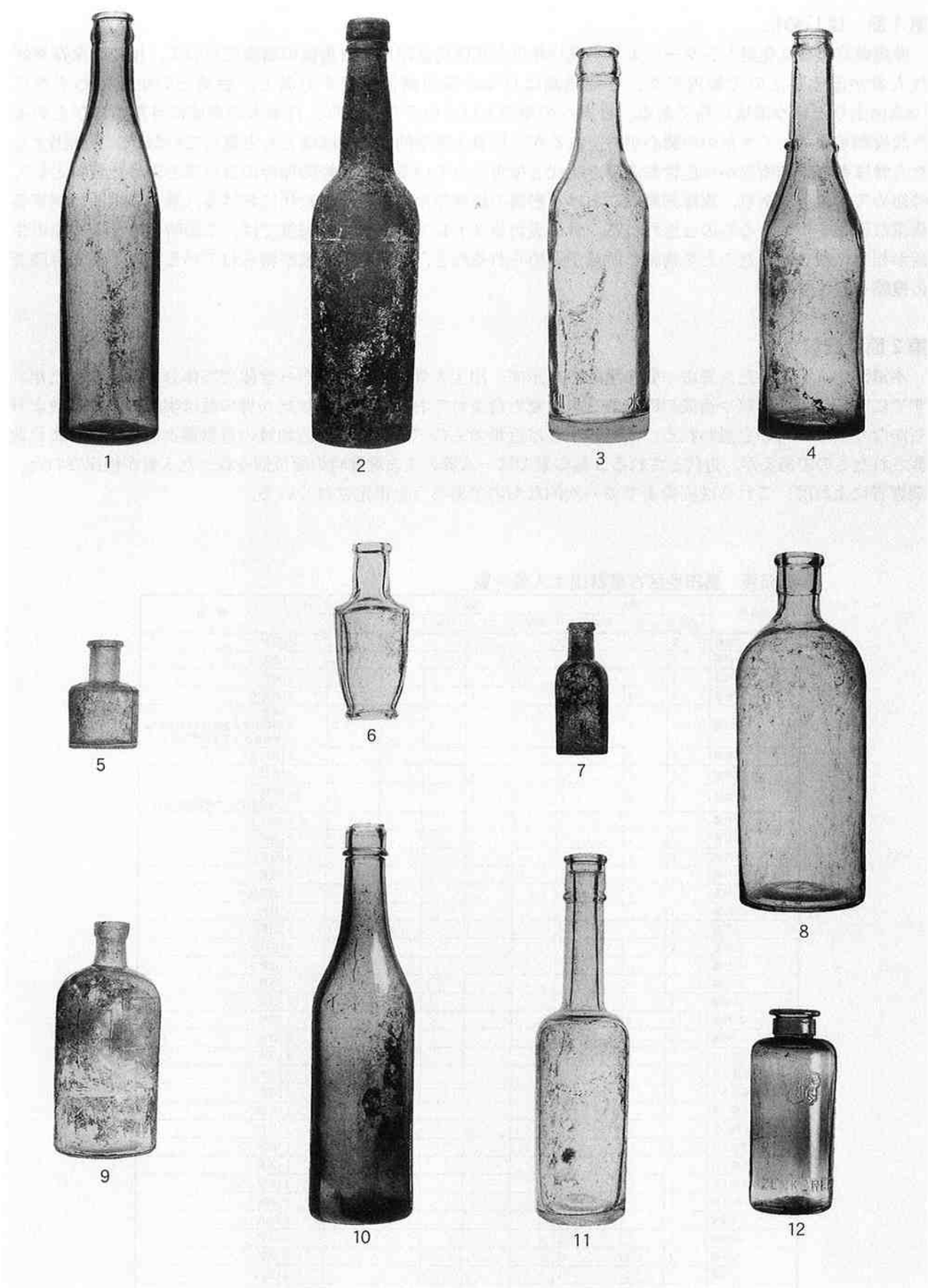


図版36　上:煙管　下:煙管入れ



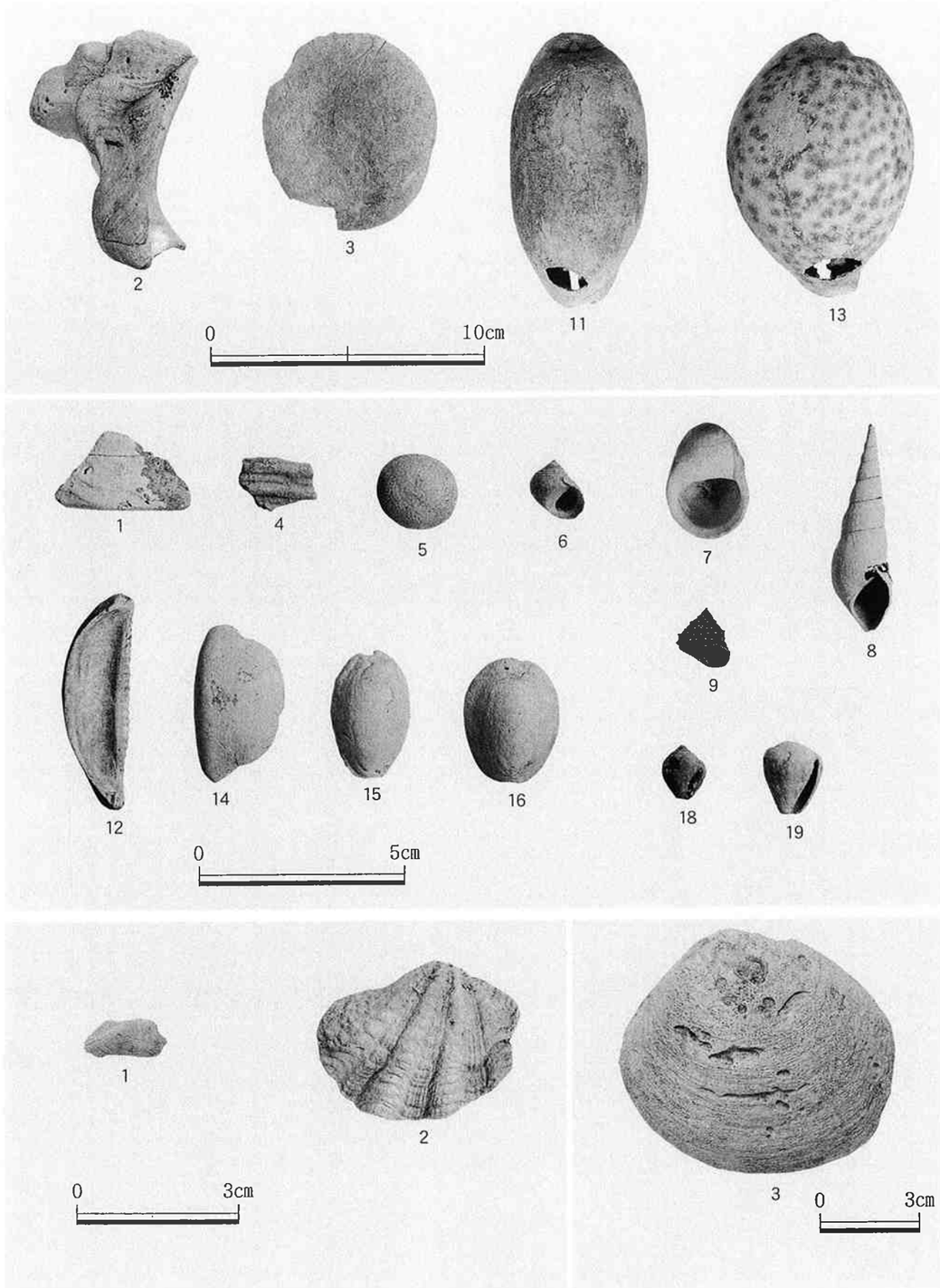


図版39　上:銭貨　下:金属製品　櫛




図版42　ガラス瓶






図版43　上:巻　貝　1.ギンタカハマ　2.ヤコウガイ　3.ヤコウガイの蓋　4.チョウセンサザエ
5.チョウセンサザエの蓋　6.イシダタミアマオブネ　7.ニシキアマオブネ
8.ヨシカワニ　9.コンペイトウガイ　11.ムラクモダカラ　12.ヤクシマダカラガイ
13.ホシダカラ　14.ホシキヌタ　15.コモンダカラ　16.ハナマルユキ　18.マルフトコロ　19.コマダライモ
下:二枚貝　1.フネガイ　2.ヒレシャコガイ　3.シレナシジミ

# 第５章　人骨

## 第１節　はじめに

沖縄県立埋蔵文化財センターによる平成14年度与那国島嘉田地区古墓群の調査において、比較的保存良好な人骨が出土したので報告する。与那国島は日本の最西端に位置する島で、台湾との距離はわずかに100km余りという国境の島である。日本への南の入口という立地から、日本人の形成に与那国島がどのような役割を果たしてきたのか関心が持たれるが、形質人類学的な研究はほとんど進んでいない。今回出土した人骨は考古学的所見から近世および近現代と推定されているが、比較的保存の良いまとまった資料としては初めての資料であり、琉球列島内における形質の地域差や、近世から近代における八重山の生活に関する貴重な情報を提供するものと思われる。骨に表れるストレスマーカーの調査では、この時代の与那国島の生活が相当に厳しかったことを物語る所見が認められるなど、興味深い結果が得られている。以下に人骨調査の概略を報告する。

## 第２節　資料

本遺跡から出土した人骨の一覧を第66表に示す。出土人骨は33基の墓から全体で85体分が確認されたが、すでに移転した後の墓や造成の際に壊された墓も含まれており、検出された人骨の数は実際の被葬者数よりもかなり少ないものと思われる。人骨の主体は近世のもの（67体）で、他地域の近世墓と同様に洗骨され改葬されたものであるが、近代とされる３基の墓では一次葬のまま埋葬時の原位置を保った人骨が検出された。調査者によれば、これらは洗骨までの一次的なものであろうと推定されている。

第66表　嘉田地区古墓群出土人骨一覧

| 墓番号 | 成人 | | | 未成人 | | | | その他 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 男性 | 女性 | 性別不明 | 若年 | 小児 | 幼児 | 乳児 | 焼骨 | | |
| 2号墓 | 3 | 2 | 1 | | | | | | 6 | 近世 |
| 3号墓 | 1 | | | | | | | | 1 | 近世 |
| 4号墓 | 1 | | | | | | | | 1 | 近世？ |
| 6号墓 | 3 | 3 | 1 | | 1 | | | | 8 | 近世？ |
| 7号墓 | 1 | 1 | 1 | | 1 | 1 | | 3 | 8 | 近世<br>確認できた焼骨は3体分である。<br>8体分以上の可能性もある。 |
| 8号墓 | 1 | 1 | | | | | | | 2 | 近代？ |
| 10号墓 | 1 | 1 | | | 1 | | | | 3 | 近世 |
| 11号墓 | 4 | 4 | 1 | 1 | 2 | | | | 12 | 近世<br>12体分以上の可能性がある。 |
| 12号墓 | | | | | | | 1 | | 1 | 近代？ |
| 13号墓 | | 1 | 1 | | | | | | 2 | 近世 |
| 15号墓 | 2 | 1 | | | | | | | 3 | 近世 |
| 16号墓 | | | 1 | 1 | | | | | 2 | 近世 |
| 18号墓 | | 1 | | | | | | | 1 | 近現代？ |
| 20号墓 | 1 | | | | | | | | 1 | 近代 |
| 21号墓 | 1 | | | | | | | | 1 | 近代 |
| 22号墓 | 1 | | | | | | | | 1 | 近代 |
| 23号墓 | | | 1 | | | | | | 1 | 近世？ |
| 24号墓 | | | | | | 1 | | | 1 | 近世 |
| 25号墓 | 1 | | | | | | | | 1 | 近世 |
| 26号墓 | 1 | 2 | | | | | | | 3 | 近世 |
| 27号墓 | 2 | 1 | | | | | | | 3 | 近世 |
| 27号墓-1号 | | 1 | | | | | | | 1 | 近世 |
| 27号墓-2号 | 1 | | 1 | | | | | | 2 | 近世 |
| 27号墓-3号 | 1 | | | | | | | | 1 | 近世 |
| 27号墓-4号 | 1 | | | | | | | | 1 | 近世 |
| 27号墓-5号 | | 1 | | | | | | | 1 | 近世 |
| 27号墓-6号 | 1 | | | | | | | | 1 | 近世 |
| 27号墓-7号 | 1 | | | | | | | | 1 | 近世 |
| 27号墓-8･9号 | 1 | | | | | | | | 1 | 近世 |
| 27号墓-10･11号 | 1 | | 1 | | | | | | 2 | 近世 |
| 28号墓 | 2 | | | | | | | | 2 | 近代 |
| 29号墓 | 1 | | 1 | | | | | | 2 | 近代 |
| 30号墓 | 1 | 1 | 1 | | | | | | 3 | 近代 |
| 32号墓 | 1 | 1 | 1 | | | | 1 | | 4 | 近代 |
| 33号墓 | | | 1 | | | | | | 1 | 近世？ |
| 計 | 36 | 20 | 13 | 1 | 6 | 4 | 2 | 3 | 85 | 近世（67）近現代（18） |

## 第３節　調査の方法

人骨鑑定の際に用いた年齢区分はKnussman(1988)[1]を参考に、乳児（出生～１歳）、幼児（１～約６歳）、小児（約６～約14歳）、若年（約14～約20歳）、成年（約20～約40歳）、熟年（約40～約60歳）、老年（約60歳以上）とした。通常の計測はKnussman（1988）[1]に、顔面平坦度はYamaguchi（1973）[2]に従った。また、骨の病変を確認するために、ソフトＸ線撮影装置による撮影を行った。形質の特徴を知るための比較資料としては、沖縄先史時代人[3]、西表島近現代人[4]、ヤッチのガマ近現代人[5]、津雲縄文人[6) 7) 8)]、渡来系とされる金隈弥生人[9]、西南日本現代人[10]を用いた。さらに、嘉田地区集団の人類学的位置付けを行うための比較資料として、上記集団の他に北海道アイヌ[11]、鎌倉中世[12]、台湾平埔[13]、東北中国[14]、朝鮮[15]、フィリピン[16]を加えて分析を行った。

## 第４節　出土人骨の所見

２号墓出土の人骨（男性３体、女性２体、性別不明成人１体）：

保存状態やや不良の人骨が多数出土した。骨の部位を鑑定した結果は、複数体分の骨が含まれていたが、最も数が多かったのは左腓骨の６体分で、その内訳は男性３体、女性1体、性別不明成人２体であった。また、５体分が確認された右距骨の内訳は男性1体、女性２体、性別不明成人２体だった。これらを総合すると、２号墓には男性３体、女性２体、性別不明成人１体、計６体が納められていたと推定される。

３号墓出土の人骨（男性１体）：

骨の保存状態は良好とは言えず、残存する骨の量も少ない。確認できた骨の部位は、後頭骨、左上腕骨片、左尺骨片、左橈骨片、左右大腿骨片、左脛骨片、左右腓骨片など、一体分である。性別は四肢骨が全体的に頑丈でサイズも大きいことから男性と推定される。

４号墓出土の人骨（男性１体）：

骨の保存状態は悪く、残存する骨は左膝蓋骨および左足根骨、左中足骨など一体分である。性別は膝蓋骨および足根骨が全体的に頑丈でサイズも大きいことから男性と推定される。

６号墓出土の人骨（男性３体、女性３体、性別不明成人１体、小児１体）：

骨の保存状態はあまり良好ではないが量的には多く、８体分が確認できた。骨はほとんどが破片であるが、ほぼ全身骨が含まれていた。最も情報量の多かった骨は大腿骨で、成人７体分（男性３体、女性３体、性別不明１体）が検出された。その他、小児骨が１体分含まれていた。成人の椎骨に変形性脊椎症が、脛骨に骨膜炎の痕跡が認められた。

７号墓出土の人骨（男性１体、女性１体、性別不明成人１体、小児１体、幼児１体、焼骨）：

破片状の骨が多数検出された。これらにはほぼ全身骨が含まれている。側頭骨片乳様突起と四肢骨のサイズから成人骨の性別判定を行った結果、男性１体、女性１体、性別不明１体と推定された。また、小児および幼児のほぼ全身骨が各１体分確認できた。

７号墓からはかなり多量の焼けた骨が検出されたが、このような例は嘉田地区古墓群の中では７号墓のみである。

８号墓出土の人骨（男性１体、小児１体）：

保存状態が悪く、骨の量も少ない。男性と思われる肩甲骨片、鎖骨、膝蓋骨が各１片ずつ確認されたほか、小児骨１体分が確認された。

10号墓出土の人骨（男性１体、性別不明成人１体、小児１体）：

10号墓は伝承によりサンアイ・イソバの子孫とされる家の墓で、調査前に移転が行われており、今回検出された人骨は移転時に取り残されたと思われる保存不良の骨小片および歯牙のみである。男性の特徴を示す上腕骨、尺骨、膝蓋骨片が１体分のほか、歯牙は３体分が確認された。歯牙には乳歯（上・下顎の第１乳臼歯）、未萌出の上顎側切歯、犬歯、第１小臼歯、同じく未萌出の下顎第１小臼歯が含まれていたことから小児が葬られていたと考えられる。

11号墓出土の人骨（男性５体、女性３体、性別不明成人１体、若年１体、小児２体）：

比較的保存良好ではあるが、破片状の骨片が多量に出土している。骨片を接合した結果、頭蓋骨８体分（男性３体、女性３体、小児２体分）、上腕骨および大腿骨が11体分（男性４体、女性４体、性別不明成人１体、若年１体、小児２体）が確認された。



また、特記事項として、左上腕骨骨体部（男性）、右尺骨および橈骨遠位部、右大腿骨遠位部（女性）に骨折痕と思われる変形が、また左右大腿骨および脛骨に骨膜炎の痕跡が認められた。脛骨のうち１例は遠位部で腓骨と癒着していた。

12号墓出土の人骨（乳児１体）：

誕生後間もないと思われる乳児骨が１体分検出された。

13号墓出土の人骨（男性１体、小児１体）：

成人女性人骨1体分と幼児の左右大腿骨および脛骨が確認された。女性人骨の保存状態はあまり良くないが、ほぼ全身骨が出土しており、下顎骨の歯の咬耗度から年齢は熟年と推定した。

15号墓出土の人骨（男性２体、女性１体）：

納骨器から、比較的保存良好な全身骨片が３体分出土している。性別は側頭骨片（男性２体、女性１体）、四肢骨（男性２体、女性１体）から推定した。

16号墓出土の人骨（性別不明成人１体、幼児１体）：

保存不良の骨小片と歯牙片が検出された。歯牙には成人の右上顎第２小臼歯1本、幼児のものと思われる未萌出の左上顎第１小臼歯および第１大臼歯が各１本が含まれていた。

18号墓出土の人骨（性別不明成人１体、幼児１体）：

女性と推定される右距骨片を含む保存不良の骨小片と歯牙片が検出された。

20号墓出土の人骨（若年～成年男性１体）：

保存良好な男性人骨１体が一次葬の状態で出土した。頭位は北、両手を胸に置き、膝を曲げた屈葬である。性別は寛骨の特徴から明らかに男性であり、年齢は歯の萌出状態および咬耗度から20歳前後（若年～成年）と推定した。本例には眼窩上壁に鉄欠乏性貧血があったことを示すクリブラ・オルビタリアが認められた。また、右前腕骨遠位部にコーレス骨折の痕跡が、下肢の骨全般に骨膜炎の痕跡が認められた。

21号墓出土の人骨（成年男性１体）：

一次葬の男性人骨１体が出土した。頭位は北、上肢および下肢を曲げた屈葬である。性別は寛骨や頭蓋骨の特徴から男性、年齢は歯の咬耗度から30歳代程度の成年と推定した。本例には20号墓人骨と同様のクリブラ・オルビタリアが、また、多くの歯に成長期における栄養不良や病気によるストレスの痕跡とされるエナメル質減形成が認められた。さらに、右脛骨遠位部に骨折痕が認められた。

22号墓出土の人骨（成年男性１体）：

一次葬の男性人骨１体が出土した。保存状態は良好である。頭位を西にした屈葬である。性別は寛骨や頭蓋骨の特徴から男性、年齢は歯の咬耗度から20歳代と推定される。本例にも20・21号墓人骨と同様のクリブラ・オルビタリアが認められた。また、本例の左頬骨から上顎骨にかけて骨折あるいは刀創と思われる傷の治癒痕が残っている。

23号墓出土の人骨（性別不明成人１体）：

成人の歯が少量検出されたのみで詳細は不明である。

24号墓出土の人骨（幼児１体）：

幼児の頭蓋骨片、四肢骨片が認められた。

25号墓出土の人骨（成人男性１体）：

確認できたものは成人の頭蓋骨片少量、男性と思われる右大腿骨片、成人の歯牙片である。

26号墓出土の人骨（成人男性１体、成人女性２体）：

成人の頭蓋骨片少量（前頭骨と下顎骨２体分）、左右上腕骨３体分（男性１、女性２）、橈骨と尺骨２体分（男性１、女性１）、大腿骨３体分（男性１、女性２）、脛骨１体分（女性）などが検出された。女性の脛骨に洗骨時の刃物によると思われる傷痕が見られた。

27号墓出土の人骨（成人男性10体、成人女性２体、性別不明成人２体）：

墓室内および墓室内に納められた11基の納骨器（土器壺）から人骨が出土している。

1）墓室内：（成人男性２体、成人女性１体）

ほぼ全身骨の破片が３体分出土している。左側頭骨片の特徴から、性別は成男性２体、成女性１体と推定した。

2）納骨器１：（老年女性１体）

成人の全身骨１体分が納められていた。頭蓋骨片および四肢骨片の特徴から性別は女性、下顎骨の歯がほぼ完全に脱落していることから年齢は老年と推定される。

3）納骨器２：（成人男性１体、性別不明成人１体）

ほとんどの骨が小片状になっている。左の側頭骨片が２体分確認できたこと、大腿骨片と脛骨片の特徴が男性と推定されたことから、この土器壺に納められた人骨は成人男性１体と性別不明の成人１体と推定した。

4）納骨器３：（成年男性１体）

ほぼ１体分の全身骨が確認できた。性別は大腿骨片と脛骨片の特徴から男性と推定した。また、採取された歯がほとんど磨り減っていないことから、年齢は成年と推定した。

5）納骨器４：（成人男性１体）

保存状態はそれほど良好ではないが、成人の骨１体分が納められていた。四肢骨の特徴から性別は男性と推定したが、年齢の詳細は不明である。

6）納骨器５：（成年女性１体）

比較的保存良好な成人女性の全身骨が１体分確認された。性別は寛骨片、四肢骨片の特徴から女性、年齢は残存する歯の咬耗度から成年と推定した。

7）納骨器６：（熟年～老年男性１体）

成人男性の全身骨片１体分が確認された。頭蓋骨および四肢骨の特徴から性別は男性、上顎骨歯槽部に生前に歯が脱落した後の骨吸収が認められることから、年齢は熟年～老年と推定した。

8）納骨器７：（老年男性１体）

成人の骨１体分が納められていた。頭骨片および四肢骨の特徴から性別は男性と推定した。また、年齢は下顎の歯が生前すべて失われており、歯槽骨の吸収も著しいことから、老年と推定した。

9）納骨器８・９：（成人男性１体）

保存状態の悪い骨小片が少量出土している。確認できた上腕骨片と大腿骨片の特徴から、性別は男性と推定したが、年齢などの詳細は不明である。

10）納骨器10・11：（成人男性１体、成人女性１体）

保存不良の骨小片が出土している。成人の右尺骨片が２体分あり、その大きさから男性と女性と推定した。

28号墓出土の人骨（成人男性２体）：

成人２体分の骨片が出土した。保存状態は良くない。四肢骨の特徴はすべて男性を示している。右大腿骨が２体分確認できた。本人骨には特記事項として、左橈骨遠位部に骨折の痕跡が、また、脛骨と腓骨に骨膜炎の痕跡が認められた。

29号墓出土の人骨（成人男性１体、性別不明成人１体）：

保存不良の骨小片が出土している。成人の下顎骨片が２体分あり、男性の特徴を示す左側頭骨片があることから、成人男性１体と性別不明成人１体が含まれると推定した。

30号墓出土の人骨（成人男性１体、成人女性１体、性別不明成人１体）：

保存不良の骨小片が少量出土している。左側頭骨片が３体分検出され、その特徴から性別を推定した。詳細は不明である。

32号墓出土の人骨（成人男性１体、成人女性１体、性別不明成人１体、乳児１体）：

保存状態はそれほど良好とは言えないが、比較的多量の骨片が出土している。成人の右側頭骨片が2体分（男性1、性別不明1）、上腕骨、尺骨、橈骨、脛骨が各2体分（男性1、女性1）、大腿骨が３体分（男性１、女性１、性別不明１）検出された。また、ほとんど新生児と思われる乳児骨１体分が確認された。

33号墓出土の人骨（成人１体）：

頭蓋骨小片が１片のみ確認できた。詳細は不明である。

## 第５節　人骨の形質的特徴

頭蓋骨：

頭蓋骨の主要計測値を第67表に、非計測的形質の観察結果を第68表に示す。全体的に骨の保存状態が悪く計測や観察ができた例数は少ないが、これまで報告例のない与那国島の人たちの特徴を知るためには貴重な資料である。頭形は中頭型、上顔示数は幅径が小さく、面長な傾向を示している。眼窩は高径が小さく示数は低眼窩である。



第60図と第61図は、嘉田地区人骨の特徴をより分かり易くするために、男性の計測値を他の集団と比較したものである。比較に使った集団は西表島の近現代人、ヤッチのガマ近現代人、沖縄先史時代人、ヤッチのガマ近現代人、津雲縄文人、渡来系とされる金隈弥生人である。西南日本現代人の計測値を基準にして、基準値からどのくらい違っているかを標準偏差単位（σ）で示している。

まず、第60図の脳頭蓋の結果をみると、沖縄の集団はすべて最大長が負の方向に振れていて、頭の前後方向の長さが短いという共通点をもっていることが分かる。沖縄先史時代人は頭の横幅が大きく、最大幅が正の側に大きく振れていて全体の形は極端に丸い過短頭型である。一方、嘉田地区は西表やヤッチのガマと同様に最大幅が小さくなっており、先史時代人のような特徴はすでに見られない。

第61図の顔面部を比較した結果は、沖縄集団の一般的な特徴である低顔の傾向を示し、上顔高、眼窩高、鼻高など顔の高さを示す計測値が負の側に振れている。例数が少ないので与那国島の一般的な特徴かどうかは分からないが、顔の幅を示す頬骨弓幅が狭く、全体的には面長な顔つきのように思われる。

第67表　頭蓋主要計測値（男性）

| | 嘉田地区頭蓋計測値（男性） | | |
|---|---|---|---|
| | n | mean | s.d. |
| 1 頭蓋最大長 | 5 | 180.2 | 4.15 |
| 5 頭蓋基底長 | 4 | 100.3 | 7.72 |
| 8 頭蓋最大幅 | 5 | 138.4 | 0.55 |
| 9 最小前頭幅 | 5 | 94.4 | 2.07 |
| 17 ﾊﾞｼｵﾝ･ﾌﾞﾚｸﾞﾏ高 | 4 | 135.5 | 4.20 |
| 23 脳頭蓋水平周 | 5 | 514.8 | 3.27 |
| 24 横弧長 | 5 | 316.6 | 6.31 |
| 25 正中矢状弧長 | 5 | 376.2 | 8.38 |
| 40 顔長 | 3 | 101.3 | 6.43 |
| 45 頬骨弓幅 | 2 | 126.0 | |
| 46 中顔幅 | 2 | 96.5 | |
| 48 上顔高 | 3 | 70.0 | 3.61 |
| 51 眼窩幅(左) | 4 | 41.5 | 1.29 |
| 52 眼窩高(左) | 4 | 32.8 | 1.71 |
| 54 鼻幅 | 3 | 25.7 | 1.53 |
| 55 鼻高 | 3 | 51.0 | 4.36 |
| 8/1頭蓋長幅示数 | 5 | 76.8 | 2.05 |
| 17/1頭蓋長高示数 | 4 | 75.5 | 0.59 |
| 17/8頭蓋幅高示数 | 4 | 97.8 | 3.42 |
| 48/45上顔示数K | 2 | 55.9 | 2.69 |
| 48/46上顔示数V | 2 | 73.0 | 2.40 |
| 52/51眼窩示数 | 4 | 78.9 | 3.48 |
| 54/55鼻示数 | 3 | 50.6 | 5.13 |
| 顔面平坦度 | | | |
| 前頭骨弦 | 4 | 95.5 | 2.71 |
| 垂線高 | 4 | 17.5 | 1.13 |
| 平坦度示数 | 4 | 18.3 | 1.04 |
| 鼻骨弦 | 4 | 9.9 | 1.04 |
| 垂線高 | 4 | 2.8 | 0.84 |
| 平坦度示数 | 4 | 28.7 | 9.25 |
| 頬上顎弦 | 2 | 96.2 | |
| 垂線高 | 2 | 21.2 | |
| 平坦度示数 | 2 | 22.0 | |

(mm)

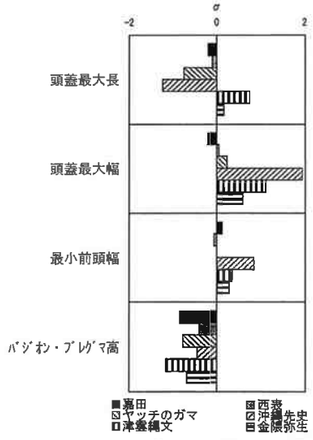
第68表　頭蓋非計測的形質の出現頻度

| 項　目 | n | + | freq |
|---|---|---|---|
| 前頭縫合 | 8 | 0 | 0.000 |
| 眼窩上神経溝 | 13 | 0 | 0.000 |
| 眼窩上孔 | 11 | 4 | 0.364 |
| 副眼窩下孔 | 6 | 0 | 0.000 |
| 二分頬骨 | 4 | 0 | 0.000 |
| 内側口蓋管骨橋 | 6 | 0 | 0.000 |
| ラムダ小骨 | 8 | 0 | 0.000 |
| インカ骨 | 8 | 3 | 0.375 |
| 横後頭縫合(10mm<) | 15 | 4 | 0.267 |
| 矢状洞溝左優位 | 7 | 0 | 0.000 |
| 顎管 | 4 | 3 | 0.750 |
| 舌下神経管骨橋 | 6 | 0 | 0.000 |
| 頚静脈孔骨橋 | 7 | 0 | 0.000 |
| アステリオン小骨 | 12 | 0 | 0.000 |
| 乳突後頭縫合骨 | 10 | 1 | 0.100 |
| 翼棘間骨橋 | 3 | 0 | 0.000 |
| 鼓室骨裂孔 | 13 | 0 | 0.000 |
| 外耳道骨腫 | 14 | 0 | 0.000 |
| 頭頂切痕骨(5mm<) | 12 | 1 | 0.083 |
| 副オトガイ孔 | 6 | 0 | 0.000 |
| 顎舌骨筋神経管骨橋 | 6 | 0 | 0.000 |

(mm)

顔面平坦度も計測できたのは４例のみであるが、全体に平坦な特徴は近現代の沖縄集団と共通している。第62図はDodo et al, (2000)[17] の図に嘉田地区とヤッチのガマの値をプロットしたものである。嘉田地区の鼻骨平坦度示数は他の沖縄集団と同様に平坦な傾向を示しているが、前頭骨平坦度示数は大きい値を示し、他の日本人集団とは離れている。これらが与那国島の一般的な特徴であるかどうかは例数が少ないので、今後の追加資料を待ちたい。

非計測的形質の観察結果では、インカ骨の出現頻度が高いように思われる。非計測的形質は遺伝性が強く家族性に出現することが多いので、嘉田地区のいずれかの家系に特徴的な形質だったのかも知れない。




第60図　脳頭蓋計測値の比較

四肢骨：

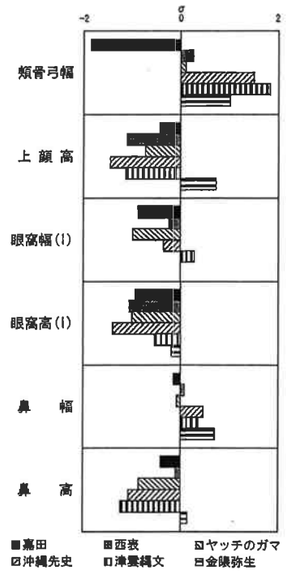
1) 四肢骨計測値

上肢骨計測値を第69、70表に示す。上腕骨はほとんどが骨体部のみであるため、正確に骨体中央の位置を決めることは出来なかったが、上肢の発達程度を知るために推定で計測を行っている。上肢の計測値は全体的にヤッチのガマなどの近現代人の値に近く、先史時代人に比べると華奢である。

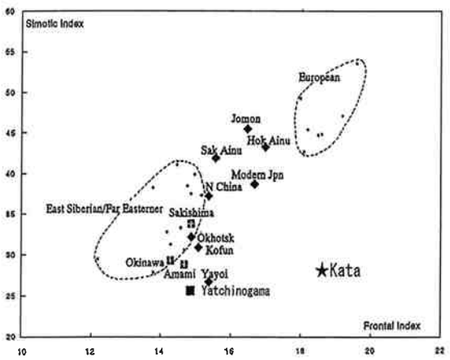
下肢骨の計測値を第71、72表に示す。下肢骨は全体的に頑丈で筋付着部も明瞭である。大腿骨、脛骨ともに骨体部の計測値はヤッチのガマ近現代人および沖縄先史時代人よりも大きく、沖縄集団の中では下肢ががっしりした傾向があるようである。大腿骨には狩猟採集を生業にした縄文人などでみられるとされる柱状傾向（大腿骨後面の粗線が発達して柱を張り付けたようになる）が認められた。しかし、脛骨の扁平性は認められなかった。

四肢骨は生活に関する情報を多く持っている[3]。縄文人における大腿骨の柱状性や脛骨の扁平性は、彼等が野山を駆けめぐって狩猟や採集をしていたことを物語る特徴だと考えられている[18]。沖縄先史時代人の四肢骨断面形態はどちらかというと稲作農耕をしていた渡来系の弥生人のそれに近いが、漁民に多い特徴とされる上肢の発達が顕著である点で弥生人とも違っており、珊瑚礁の海を主たる生業の場とした生活を送っていたことを示しているのではないかと推定されている[3]。

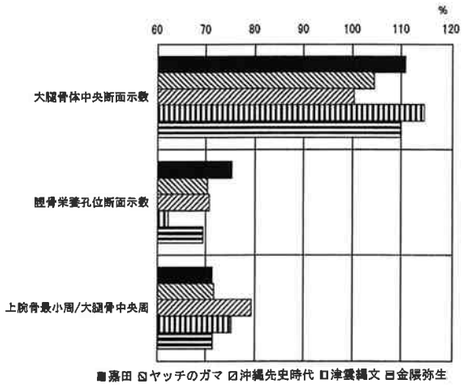
第63図は四肢骨の主要な示数を他の集団と比較したものである。嘉田地区の大腿骨中央断面示数は他の沖縄集団とは違って縄文人の値に近く、柱状傾向を示している。脛骨の扁平性を示す栄養孔位断面示数はすべての沖縄集団が縄文人よりも渡来系弥生人の値に近くなっている。また、相対的な上肢の発達程度を示す示数（上腕骨最小周/大腿骨中央周）は、先史時代人や縄文人では大きく上肢が発達していたことを示しているが、嘉田地区はヤッチのガマ近現代人と同様に下肢が発達していた弥生人に近い値を示している。大腿骨の柱状性は生活の場の違いを反映している可能性があるが、全体としては嘉田地区の人たちはヤッチのガマ近現代人と同様の生活形態だったと思われる。




第61図　顔面頭蓋計測値の比較




第62図　顔面平坦度の比較




第63図　四肢骨主要な示数の比較



第69表　上肢骨計測値(男性)

| 上腕骨 | | n | mean | s.d |
|---|---|---|---|---|
| 1 最大長 | r | 1 | 261.0 | |
| | l | 1 | 258.0 | |
| 2 全長 | r | 1 | 256.0 | |
| | l | 1 | 253.0 | |
| 5 中央最大幅 | r | 5 | 22.6 | 1.14 |
| | l | 7 | 23.6 | 1.40 |
| 6 中央最小幅 | r | 5 | 17.2 | 1.30 |
| | l | 7 | 17.3 | 0.76 |
| 7 最小周 | r | 5 | 61.0 | 3.00 |
| | l | 8 | 61.1 | 2.64 |
| 6/5 体断面示数 | r | 7 | 75.2 | 3.69 |
| | l | 5 | 73.6 | 3.00 |

| 尺骨 | | n | mean | s.d |
|---|---|---|---|---|
| 1 最大長 | r | 1 | 226.0 | |
| | l | 1 | 221.0 | |
| 2 生理長 | r | 1 | 197.0 | |
| | l | 1 | 194.0 | |
| 3 最小周 | r | 1 | 33.0 | |
| | l | 1 | 33.0 | |
| 11 体矢状径 | r | 7 | 13.6 | 1.27 |
| | l | 8 | 13.3 | 1.28 |
| 12 体横径 | r | 7 | 17.0 | 1.15 |
| | l | 8 | 16.3 | 1.04 |
| 3/2 長厚示数 | r | 1 | 16.8 | |
| | l | 1 | 17.0 | |
| 11/12 体断面示数 | r | 7 | 79.9 | 6.20 |
| | l | 8 | 81.7 | 8.25 |

| 橈骨 | | n | mean | s.d |
|---|---|---|---|---|
| 1 最大長 | r | 1 | 208.0 | |
| | l | 1 | 206.0 | |
| 2 生理長 | r | 1 | 199.0 | |
| | l | 1 | 195.0 | |
| 3 最小周 | r | 5 | 39.8 | 2.39 |
| | l | 7 | 40.4 | 3.26 |
| 4 体横径 | r | 6 | 15.7 | 0.82 |
| | l | 8 | 16.0 | 0.53 |
| 5 体矢状径 | r | 6 | 11.7 | 0.82 |
| | l | 8 | 11.9 | 0.83 |
| 5/4 体断面示数 | r | 6 | 74.5 | 3.63 |
| | l | 8 | 74.2 | 4.08 |
| 5a/4a 中央断面示数 | r | 1 | 78.6 | |
| | l | 1 | 78.6 | |

(mm)

第70表　上肢骨計測値(女性)

| 上腕骨 | | n | mean | s.d |
|---|---|---|---|---|
| 5 中央最大幅 | r | 2 | 21.0 | |
| | l | 2 | 20.5 | |
| 6 中央最小幅 | r | 2 | 14.5 | |
| | l | 2 | 14.5 | |
| 7 最小周 | r | 3 | 51.7 | 5.86 |
| | l | 3 | 49.3 | 6.43 |
| 7a 中央周 | r | 1 | 60.0 | |
| | l | 1 | 55.0 | |
| 6/5 体断面示数 | r | 2 | 69.1 | |
| | l | 2 | 70.7 | |

| 尺骨 | | n | mean | s.d |
|---|---|---|---|---|
| 3 最小周 | r | 1 | 39.0 | |
| 11 体矢状径 | r | 2 | 11.5 | |
| | l | 3 | 12.0 | 1.00 |
| 12 体横径 | r | 2 | 16.5 | |
| | l | 3 | 14.7 | 0.58 |
| 11/12 体断面示数 | r | 2 | 69.7 | |
| | l | 3 | 81.9 | 7.46 |

| 橈骨 | | n | mean | s.d |
|---|---|---|---|---|
| 3 最小周 | r | 1 | 32.0 | |
| | l | 1 | 29.0 | |
| 4 体横径 | r | 2 | 12.5 | |
| | l | 2 | 12.0 | |
| 5 体矢状径 | r | 2 | 9.5 | |
| | l | 2 | 9.5 | |
| 5/4 体断面示数 | r | 2 | 75.7 | |
| | l | 2 | 79.4 | |

(mm)

第71表　下肢骨計測値(男性)

| 大腿骨 | | n | mean | s.d |
|---|---|---|---|---|
| 1最大長 | r | 3 | 387.3 | 24.11 |
| | l | 2 | 378.5 | |
| 2垂 | r | 3 | 384.7 | 25.03 |
| | l | 2 | 375.5 | |
| 6体中央矢状径 | r | 12 | 28.5 | 2.20 |
| | l | 11 | 28.0 | 2.00 |
| 7 体中央横径 | r | 12 | 25.8 | 1.22 |
| | l | 11 | 26.2 | 1.47 |
| 8 体中央周径 | r | 12 | 85.7 | 4.14 |
| | l | 11 | 85.3 | 5.12 |
| 9 体上横径 | r | 8 | 29.9 | 1.46 |
| | l | 10 | 30.6 | 1.07 |
| 10 体上矢状径 | r | 8 | 23.8 | 1.39 |
| | l | 10 | 23.8 | 1.87 |
| 8/2 長厚示数 | r | 3 | 21.6 | 0.91 |
| | l | 2 | 22.0 | |
| 6/7 体中央断面示数 | r | 12 | 110.9 | 9.31 |
| | l | 11 | 106.9 | 4.85 |
| 10/9 体上断面示数 | r | 8 | 79.6 | 4.37 |
| | l | 10 | 77.8 | 5.51 |

| 脛骨 | | n | mean | s.d |
|---|---|---|---|---|
| 8a 栄養孔位最大径 | r | 9 | 32.3 | 1.32 |
| | l | 7 | 33.3 | 2.29 |
| 9a 栄養孔位横径 | r | 9 | 24.3 | 2.00 |
| | l | 7 | 23.9 | 1.46 |
| 10a 栄養孔位周 | r | 9 | 89.3 | 4.36 |
| | l | 7 | 90.1 | 5.27 |
| 10b 最小周 | r | 7 | 75.0 | 4.97 |
| | l | 5 | 73.4 | 4.72 |
| 9a/8a 栄養孔位断面示数 | r | 9 | 75.3 | 5.60 |
| | l | 7 | 71.8 | 4.46 |

(mm)

第72表　下肢骨計測値(女性)

| 大腿骨 | | n | mean | s.d |
|---|---|---|---|---|
| 6 体中央矢状径 | r | 6 | 24.0 | 1.79 |
| | l | 5 | 23.8 | 2.17 |
| 7 体中央横径 | r | 6 | 23.7 | 3.01 |
| | l | 5 | 23.4 | 2.51 |
| 8 体中央周径 | r | 6 | 74.8 | 5.38 |
| | l | 5 | 74.0 | 5.96 |
| 9 体上横径 | r | 6 | 29.3 | 1.03 |
| | l | 5 | 29.8 | 1.10 |
| 10 体上矢状径 | r | 6 | 21.3 | 1.51 |
| | l | 5 | 21.2 | 1.48 |
| 6/7 体中央断面示数 | r | 6 | 101.9 | 12.90 |
| | l | 5 | 90.3 | 33.21 |
| 10/9 体上断面示数 | r | 6 | 72.3 | 4.19 |
| | l | 4 | 70.0 | 4.04 |

| 脛骨 | | n | mean | s.d |
|---|---|---|---|---|
| 8a 栄養孔位最大径 | r | 3 | 30.7 | 1.15 |
| | l | 1 | 31.0 | |
| 9a 栄養孔位横径 | r | 3 | 22.0 | 2.65 |
| | l | 1 | 21.0 | |
| 10a 栄養孔位周 | r | 3 | 83.3 | 2.52 |
| | l | 1 | 81.0 | |
| 10b 最小周 | r | 4 | 66.8 | 2.75 |
| | l | 2 | 66.0 | |
| 9a/8a 栄養孔位断面示数 | r | 3 | 72.0 | 11.06 |
| | l | 1 | 67.7 | |

(mm)

第73表　推定身長(男性)

| | |
|---|---|
| 21号墓 | 158.4 |
| 22号墓 | 149.6 |
| 11号墓 | 154.6 |
| 11号墓 | 155.9 |
| 平　均 | 154.6 |

(cm)

2）身長の推定

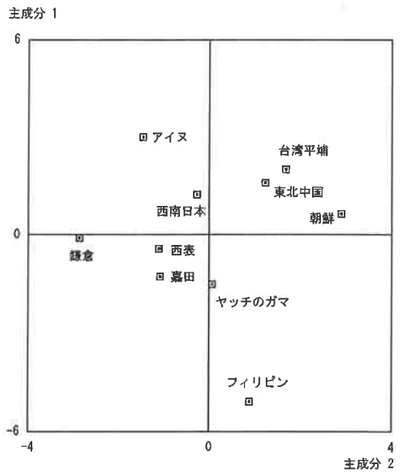
身長の推定が出来たのは男性の４体であるが、ピアソンの式を用いて推定した平均身長は154.6ｃｍとなり、いずれも低身長だった（第73表）。これらはヤッチのガマ近現代人の155.9ｃｍとそれ程の差はなく、また港川人や沖縄先史時代人とも近い値である。嘉田地区も含めて沖縄の集団は各地域、各時代を通して低身長だったようである。

焼骨：

嘉田地区７号墓からは多数の焼けた骨が検出されている。骨が火を受ける場合、およそ二つの原因が考えられる。一つは遺体が火葬された場合、他は一旦骨になった後で、何らかの理由で骨が焼かれる場合である。どちらも骨に含まれるコラーゲンなどの蛋白質が失われているので、骨は硬くなり灰白色を呈している。嘉田地区７号墓出土の骨は火葬骨の特徴である著しい変形や収縮が見られず、ほとんど原形を保っている。これらは７号墓の骨がすでに骨になった状態で焼かれたものであることを示している。骨はほとんど小片であるため詳しい鑑定は出来なかったが、成年男性と熟年女性と思われる下顎骨、また子供の橈骨片も確認されたので、焼けた骨には少なくとも３体分が含まれていると推定される。

形質的位置づけ：

少数例の結果ではあるが、与那国島の近世から近代の人たちの形質が他の地域と比べてどのような特徴をもっていたのか知るために、男性の頭蓋骨計測値14項目（1，5，8，9，17，23，24，25，45，48，51，52，54，55）を用いて周辺集団とともに主成分分析を行った。第１・第２主成分のスコアを散布図にプロットしたものが第64図である。第１主成分には大きさの成分が、第２主成分には頭形と顔のプロポーションを示す成分が抽出されており、散布図の上方はサイズが大きく、左方は脳頭蓋や顔面部の幅が狭くなる傾向を示している。嘉田地区は西表やヤッチのガマの近現代人の近くに位置しており、サイズが小さめで顔の幅もやや狭い傾向を示している。全体としては沖縄の近現代人のグループに属すると考えて大過ないと思われる。




第64図　頭蓋計測値14項目の主成分分析

特記事項：

嘉田地区出土人骨の多くに四肢骨の骨膜炎や骨折の痕跡、鉄欠乏性貧血が原因と考えられている眼窩上壁のクリブラ・オルビタリアなど、生活環境や衛生環境の厳しさを示す痕跡が認められた。個体ごとの観察が困難だったため量的な観察は出来なかったが、いくつかの例についてソフトＸ線による撮影を行った（図版44-46）。撮影は沖縄県立埋蔵文化財センターにおいて、知念隆博氏の協力を得て行った。20号墓人骨の右前腕遠位部にコーレス骨折と思われる骨折痕がみられた（図版45）。また、21号墓男性には脛骨遠位部に骨折痕および骨膜炎の痕跡が認められた（図版45）。さらに22号墓人骨の腰椎には顕著な嘴状骨増殖がみられたが（図版46）、このような嘴状骨増殖は加齢とともに形成されていくものであり、20代から30代と推定される22号墓人骨の年齢にしては変形が著しいように思われる。22号墓人骨には他にも眼窩上壁にクリブラ・オルビタリアがみられ、左頬骨には骨折あるいは刀創の治癒した痕跡（図版46）が認められるなど、その生活は厳しい環境の中での重労働だったことを示唆している。与那国島における生活環境は相当に厳しかったことが推察される。



## 第６節　まとめ

沖縄県立埋蔵文化財センターによる平成14年度与那国島嘉田地区古墓群の調査において、近世および近現代と考えられる人骨が多数出土した。比較的保存の良いまとまった資料としては与那国島では初めての資料である。調査結果を要約すると以下のようになる。

１．確認できた人骨は85体であり、その構成は、男性36体、女性20体、性別不明の成人13体、若年１体、小児６体、幼児３体、乳児２体、焼骨３体分だった。

２．人骨は基本的には洗骨され改葬されたものであるが、20号墓、21号墓、22号墓からは洗骨されずに一次葬のままの人骨がいずれも単体で出土した。

３．７号墓からは火を受けた骨が少なくとも３体分検出された。これらは変形や収縮がほとんど認められないことから骨になった後に何らかの理由で焼かれたものと考えられる。

４．形質については、少数例の結果ではあるが、頭形は中頭型、顔面部は平坦で幅径が小さくやや面長な顔立ちだったようである。

５．四肢骨については、大腿骨に柱状傾向が認められたが、脛骨の扁平性は認められなかった。男性の平均推定身長は154.6ｃｍで低身長である。

６．形質の特徴をみるために頭蓋計測値14項目を用いて主成分分析を行った結果、嘉田地区人骨はサイズが小さく顔幅が狭い傾向を示した。集団の関係では距離的に近い位置にある台湾の平埔とは離れ、ヤッチのガマや西表島の近現代人に近かった。

７．嘉田地区人骨には生活環境の厳しさを示す、下腿の骨膜炎および骨折痕、前腕の骨折痕、クリブラ・オルビタリアなどがみられた。

謝辞

人骨調査の機会を与えていただいた沖縄県立埋蔵文化財センターの皆さま、特に、ソフトＸ線による撮影を担当していただいた知念隆博氏、人骨整理を担当して下さった大村由美子、我那覇悠子両氏に心からの謝意を表します。

参考文献

1）Knussman R. (1988) Martin / Knussman Anthropologie. Band 1, Stuttgart, Gustav Fischer Verlag.
2）Yamaguchi B. (1973) Facial flatness measurements of the Ainu and Japanese crania. Bulletin of the National Science Museum, vol.16, pp.161-171.
3）土肥直美，泉水 奏，瑞慶覧朝盛，譜久嶺忠彦 (2000) 骨からみた沖縄先史時代人の生活．高宮廣衛先生古稀記念論集刊行会編，琉球・東アジアの人と文化（下巻），高宮廣衛先生古稀記念論集刊行会，pp.431-448.
4）TAGAYA, A. and J. IKEDA (1976) A Multivariate analysis of the cranial measurements of the Ryukyu Islanders (male). J. Anthrop. Soc. Nippon 84(3): 204-229.
5）譜久嶺忠彦，土肥直美，石田 肇，瑞慶覧朝盛，泉水 奏，佐宗亜衣子，比嘉貴子（2001） ヤッチのガマ・カンジン原古墓群出土の人骨．「ヤッチのガマ・カンジン原古墓群」沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第６集，沖縄県立埋蔵文化財センター，pp.345-385.
6）清野謙次，宮本博人（1925）津雲貝塚人人骨の人類学的研究 第二部頭蓋骨の研究．人類学雑誌41（3, 4）
7）清野謙次，平井隆（1928a） 津雲貝塚人人骨の人類学的研究 第三部上肢骨の研究．人類学雑誌43（3附），pp.179-301.
8）清野謙次，平井隆（1928b）津雲貝塚人人骨の人類学的研究 第四部下肢骨の研究．人類学雑誌43（4附，5附），pp. 303-390.
9）中橋孝博，土肥直美，永井昌文（1985） 金隈遺跡出土の弥生時代人骨．「史跡 金隈遺跡」福岡市埋蔵文化財調査報告書第123集，福岡市教育委員会，pp. 43-145.
10）原田忠昭 (1954) 西南日本現代人頭骨の人類学的研究．人類学研究1-1.2，pp.1-51.
11）Koganei Y.(1893) Beitrage tur physischen Anthropologie der Aino. Untersuchungen am Skelet. Mitteil. Med. Fac. Univ. Tokio 2(1)
12）鈴木 尚，林 都志夫，田辺義一，佐倉 朔（1956）頭骨の形質．鎌倉材木座発見の中世遺跡とその人骨．岩波書

店，pp. 75-148.
13）阮　徳茂（1960）西螺平埔族頭骨の人類学的研究．人類学研究7（3-4），pp. 243-285.
14）島　五郎（1933）撫順郊外にて得たる支那人頭蓋骨の人類学的研究．人類学雑誌48（8）
15）島　五郎（1934）現代朝鮮人体質人類学補遺，頭蓋骨の部．人類学雑誌49（7）
16）阮　徳茂，張　児雄（1960）Philippin群島Balga族及びその他諸族の頭蓋計測．人類学研究7（3-4），pp. 235-242.
17）Dodo Y, Doi N, Kondo O 2000 Flatness of facial skeletons of Ryukyuans. Anthropol Sci 108 pp.183-198.
18）山口　敏（1982）縄文人骨の特徴．加藤晋平他編　縄文文化の研究 1 縄文人とその環境，雄山閣，pp. 27-54.



## 第74表　頭蓋骨主要計測値

| | 20号墓 | 21号墓 | 22号墓 | 11号-1 | 11号-3 | 嘉田地区頭蓋計測値（男性） | | | 11号-2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ♂ | ♂ | ♂ | ♂ | ♂ | n | mean | s.d. | ♀ |
| 1 頭蓋最大長 | 175 | 181 | 185 | 183 | 177 | 5 | 180.2 | 4.15 | 183 |
| 5 頭蓋基底長 | 91 | 108 | 105 | | 97 | 4 | 100.3 | 7.72 | |
| 8 頭蓋最大幅 | 139 | 138 | 138 | 138 | 139 | 5 | 138.4 | 0.55 | 137 |
| 9 最小前頭幅 | 94 | 94 | 93 | 93 | 98 | 5 | 94.4 | 2.07 | |
| 17 ﾊﾞｼｵﾝ・ﾌﾞﾚｸﾞﾏ高 | 131 | 138 | 140 | | 133 | 4 | 135.5 | 4.20 | |
| 23 脳頭蓋水平周 | 512 | 513 | 516 | 520 | 513 | 5 | 514.8 | 3.27 | |
| 24 横弧長 | 320 | 323 | 312 | 308 | 320 | 5 | 316.6 | 6.31 | |
| 25 正中矢状弧長 | 382 | 364 | 378 | 385 | 372 | 5 | 376.2 | 8.38 | |
| 26 正中前頭弧長 | 135 | 124 | 130 | 129 | 122 | 5 | 128.0 | 5.15 | |
| 27 正中頭頂弧長 | 128 | 131 | 124 | 132 | 130 | 5 | 129.0 | 3.16 | |
| 28 正中後頭弧長 | 119 | 109 | 124 | 124 | 120 | 5 | 119.2 | 6.14 | |
| 29 正中前頭弦長 | 113 | 111 | 114 | 112 | 109 | 5 | 111.8 | 1.92 | |
| 30 正中頭頂弦長 | 114 | 115 | 116 | 120 | 117 | 5 | 116.4 | 2.30 | |
| 31 正中後頭弦長 | 96 | 93 | 102 | 102 | 97 | 5 | 98.0 | 3.94 | |
| 40 顱長 | 94 | 104 | 106 | | | 3 | 101.3 | 6.43 | |
| 45 頬骨弓幅 | 124 | 128 | | | | 2 | 126.0 | | |
| 46 中顔幅 | 94 | 99 | | | | 2 | 96.5 | | |
| 48 上顔高 | 67 | 74 | 69 | | | 3 | 70.0 | 3.61 | |
| 51 眼窩幅（左） | 40 | 42 | | 41 | 43 | 4 | 41.5 | 1.29 | |
| 52 眼窩高（左） | 32 | 35 | | 31 | 33 | 4 | 32.8 | 1.71 | |
| 54 鼻幅 | 24 | 26 | 27 | | | 3 | 25.7 | 1.53 | |
| 55 鼻高 | 49 | 56 | 48 | | | 3 | 51.0 | 4.36 | |
| 8/1 頭蓋長幅示数 | 79.4 | 76.2 | 74.6 | 75.4 | 78.5 | 5 | 76.8 | 2.05 | 74.9 |
| 17/1 頭蓋長高示数 | 74.9 | 76.2 | 75.7 | | 75.1 | 4 | 75.5 | 0.59 | |
| 17/8 頭蓋幅高示数 | 94.2 | 100.0 | 101.4 | | 95.7 | 4 | 97.8 | 3.42 | |
| 48/45 上顔示数K | 54.0 | 57.8 | | | | 2 | 55.9 | 2.69 | |
| 48/46 上顔示数V | 71.3 | 74.7 | | | | 2 | 73.0 | 2.40 | |
| 52/51 眼窩示数 | 80.0 | 83.3 | | 75.6 | 76.7 | 4 | 78.9 | 3.48 | |
| 54/55 鼻示数 | 49.0 | 46.4 | 56.3 | | | 3 | 50.6 | 5.13 | |
| 顔面平坦度 | | | | | | | | | |
| 前頭骨弦 | 93.2 | 95.9 | | 93.8 | 99.2 | 4 | 95.5 | 2.71 | |
| 垂線高 | 15.9 | 18.6 | | 17.6 | 17.7 | 4 | 17.5 | 1.13 | |
| 平坦度示数 | 17.1 | 19.5 | | 18.8 | 17.8 | 4 | 18.3 | 1.04 | |
| 鼻骨弦 | 8.4 | 10.5 | | 10.0 | 10.7 | 4 | 9.9 | 1.04 | 9.7 |
| 垂線高 | 3.0 | 3.7 | | 2.9 | 1.7 | 4 | 2.8 | 0.84 | 3.6 |
| 平坦度示数 | 35.3 | 34.9 | | 29.4 | 15.5 | 4 | 28.7 | 9.25 | 37.0 |
| 頬上顎弦 | 93.5 | 98.9 | | | | 2 | 96.2 | | |
| 垂線高 | 18.0 | 24.4 | | | | 2 | 21.2 | | |
| 平坦度示数 | 19.3 | 24.7 | | | | 2 | 22.0 | | |

(mm)

## 第75表　上肢骨計測値（男性）

| 上腕骨 | | 22号墓 ♂ | 27号-3 ♂ | 27号 ♂ | 15号 ♂ | 15号 ♂ | 11号 ♂ | 11号 ♂ | 11号 ♂ | 11号 ♂ | 11号 ♂ | 11号 ♂ | n | mean | s.d |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 最大長 | r | 261 | | | | | | | | | | | 1 | 261 | |
| | l | 258 | | | | | | | | | | | 1 | 258 | |
| 2 全長 | r | 256 | | | | | | | | | | | 1 | 256 | |
| | l | 253 | | | | | | | | | | | 1 | 253 | |
| 3 上幅 | r | 44 | | | | | | | | | | | 1 | 44 | |
| | l | 42 | | | | | | | 47 | | | | 2 | 44.5 | |
| 4 下端幅 | r | 59 | | | 59 | | | | | | | | 2 | 59.0 | |
| | l | 58 | | | | | | 63 | | | | | 2 | 60.5 | |
| 5 中央最大幅 | r | 21 | 22 | 24 | 23 | | | | | | 23 | | 5 | 22.6 | 1.14 |
| | l | 22 | | | 23 | 42 | 22 | 26 | | 24 | 24 | | 7 | 23.6 | 1.40 |
| 6 中央最小幅 | r | 16 | 17 | 19 | 18 | | | | | | 16 | | 5 | 17.2 | 1.30 |
| | l | 16 | | | 17 | 81 | 71 | 18 | | 17 | 18 | | 7 | 17.3 | 0.76 |
| 7 最小周 | r | 60 | 58 | 66 | 61 | | | | | | 60 | | 5 | 61.0 | 3.00 |
| | l | 59 | 58 | | 61 | 06 | 06 | 66 | | 61 | 64 | | 8 | 61.1 | 2.64 |
| 7a 中央周 | r | 62 | 61 | | 66 | | | | | | 65 | | 4 | 63.5 | 2.38 |
| | l | 62 | | | 66 | 76 | 47 | 74 | | 69 | 69 | | 7 | 67.0 | 4.40 |
| 6/5 体断面示数 | r | 76.2 | 77.3 | 79.2 | 78.3 | | | | | 70.8 | 75.0 | 69.6 | 7 | 75.2 | 3.69 |
| | l | 72.7 | | | 73.9 | 75.0 | 77.3 | 69.2 | | | | | 5 | 73.6 | 3.00 |
| 7/1 長厚示数 | r | 23.0 | | | | | | | | | | | 1 | 23.0 | |
| | l | 22.9 | | | | | | | | | | | 1 | 22.9 | |

| 尺骨 | | 22号墓 ♂ | 27号-3 ♂ | 27号 ♂ | 15号 ♂ | 15号 ♂ | 15号 ♂ | 15号 ♂ | 11号 ♂ | 11号 ♂ | 11号 ♂ | 11号 ♂ | 11号 ♂ | n | mean | s.d |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 最大長 | r | 226 | | | | | | | | | | | | 1 | 226 | |
| | l | 221 | | | | | | | | | | | | 1 | 221 | |
| 2 生理長 | r | 197 | | | | | | | | | | | | 1 | 197 | |
| | l | 194 | | | | | | | | | | | | 1 | 194 | |
| 3 最小周 | r | 33 | | | | | | | | | | | | 1 | 33 | |
| | l | 33 | | | | | | | | | | | | 1 | 33 | |
| 11 体矢状径 | r | 12 | | 14 | 13 | 15 | | | 14 | 12 | 15 | | | 7 | 13.6 | 1.27 |
| | l | 14 | 11 | 13 | | | 12 | 13 | | | 15 | 14 | 14 | 8 | 13.3 | 1.28 |
| 12 体横径 | r | 16 | | 19 | 16 | 17 | | | 18 | 16 | 17 | | | 7 | 17.0 | 1.15 |
| | l | 15 | 15 | 18 | | | 16 | 17 | | | 17 | 16 | 16 | 8 | 16.3 | 1.04 |
| 3/2 長厚示数 | r | 16.8 | | | | | | | | | | | | 1 | 16.8 | |
| | l | 17.0 | | | | | | | | | | | | 1 | 17.0 | |
| 11/12 体断面示数 | r | 75.0 | | 73.7 | 81.3 | 88.2 | | | 77.8 | 75.0 | 88.2 | | | 7 | 79.9 | 6.20 |
| | l | 93.3 | 73.3 | 72.2 | | | 75.0 | 76.5 | | | 88.2 | 87.5 | 87.5 | 8 | 81.7 | 8.25 |

| 橈骨 | | 22号墓 ♂ | 27号-3 ♂ | 27号 ♂ | 15号 ♂ | 15号 ♂ | 15号 ♂ | 15号 ♂ | 11号 ♂ | 11号 ♂ | 11号 ♂ | n | mean | s.d |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 最大長 | r | 208 | | | | | | | | | | 1 | 208 | |
| | l | 206 | | | | | | | | | | 1 | 206 | |
| 2 生理長 | r | 199 | | | | | | | | | | 1 | 199 | |
| | l | 195 | | | | | | | | | | 1 | 195 | |
| 3 最小周 | r | 37 | 38 | | 43 | 40 | | | 41 | | | 5 | 39.8 | 2.39 |
| | l | 36 | 38 | | | | 40 | 43 | 40 | 46 | 40 | 7 | 40.4 | 3.26 |
| 4 体横径 | r | 15 | 15 | | 15 | 16 | 15 | | 17 | | | 6 | 15.7 | 0.82 |
| | l | 15 | 16 | 16 | | | 16 | 16 | 16 | 17 | 16 | 8 | 16.0 | 0.53 |
| 5 体矢状径 | r | 11 | 11 | | 13 | 12 | 11 | | 12 | | | 6 | 11.7 | 0.82 |
| | l | 11 | 11 | 12 | | | 12 | 13 | 11 | 13 | 22 | 8 | 11.9 | 0.83 |
| 3/2 長厚示数 | r | 18.6 | | | | | | | | | | 1 | 18.6 | |
| | l | 18.5 | | | | | | | | | | 1 | 18.5 | |
| 5/4 体断面示数 | r | 73.3 | 73.3 | | 81.3 | 75.0.0 | 73.3 | | 70.6 | | | 6 | 74.5 | 3.63 |
| | l | 73.3 | 68.8 | 75.0 | | | 75.0 | 81.3 | 68.8 | 76.5 | 75.0 | 8 | 74.2 | 4.08 |

(mm)



## 第76表　上肢骨計測値（女性）

| 上腕骨 | | 27号-5 ♀ | 13号 ♀ | 15号 ♀ | n | mean | s.d |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 中央最大幅 | r | | 21 | 21 | 2 | 21.0 | |
| | l | | 21 | 20 | 2 | 20.5 | |
| 6 中央最小幅 | r | | 15 | 14 | 2 | 14.5 | |
| | l | | 15 | 14 | 2 | 14.5 | |
| 7 最小周 | r | 45 | 56 | 54 | 3 | 51.7 | 5.86 |
| | l | 42 | 54 | 52 | 3 | 49.3 | 6.43 |
| 7a 中央周 | r | | | 60 | 1 | 60 | |
| | l | | | 55 | 1 | 55 | |
| 6/5 体断面示数 | r | | 71.4 | 66.7 | 2 | 69.1 | |
| | l | | 71.4 | 70.0 | 2 | 70.7 | |

| 尺骨 | | 13号 ♀ | 15号 ♀ | 11号 ♀ | n | mean | s.d |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 最小周 | r | 39 | | | 1 | 39 | |
| 11 体矢状径 | r | 12 | 11 | | 2 | 11.5 | |
| | l | 12 | 11 | 13 | 3 | 12.0 | 1.00 |
| 12 体横径 | r | 17 | 16 | | 2 | 16.5 | |
| | l | 14 | 15 | 15 | 3 | 14.7 | 0.58 |
| 11/12 体断面示数 | r | 70.6 | 68.8 | | 2 | 69.7 | |
| | l | 85.7 | 73.3 | 86.7 | 3 | 81.9 | 7.46 |

| 橈骨 | | 27号-5 ♀ | 13号 ♀ | n | mean | s.d |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 最小周 | r | 32 | | 1 | 32 | |
| | l | 29 | | 1 | 29 | |
| 4 体横径 | r | 12 | 13 | 2 | 12.5 | |
| | l | 11 | 13 | 2 | 12.0 | |
| 5 体矢状径 | r | 8 | 11 | 2 | 9.5 | |
| | l | 9 | 10 | 2 | 9.5 | |
| 5/4 体断面示数 | r | 66.7 | 84.6 | 2 | 75.7 | |
| | l | 81.8 | 76.9 | 2 | 79.4 | |

(mm)

## 第77表　下肢骨計測値（男性）

| 大腿骨 | | 21号墓 ♂ | 22号墓 ♂ | 27号-3 ♂ | 27号-4 ♂ | 27号-6 ♂ | 27号 ♂ | 15号 ♂ | 15号 ♂ | 11号 ♂ | 11号 ♂ | 11号 ♂ | 11号 ♂ | 11号 ♂ | n | mean | s.d |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 最大長 | r | 410 | 362 | | | | | | | | 390 | | | | 3 | 387.3 | 24.11 |
| | l | | 360 | | | | | | | | | | | 397 | 2 | 378.5 | |
| 2 全長 | r | 409 | 359 | | | | | | | | 386 | | | | 3 | 384.7 | 25.03 |
| | l | | 357 | | | | | | | | | | | 394 | 2 | 375.5 | |
| 6 体中央矢状径 | r | 29 | 25 | 26 | 31 | 30 | 33 | 27 | 29 | | 27 | 29 | 28 | 28 | 12 | 28.5 | 2.20 |
| | l | | 22 | 25 | 29 | | 31 | 27 | 27 | 30 | 27 | 29 | 30 | 28 | 11 | 28.0 | 2.00 |
| 7 体中央横径 | r | 25 | 27 | 25 | 24 | 26 | 28 | 24 | 25 | | 26 | 26 | 27 | 26 | 12 | 25.8 | 1.22 |
| | l | | 26 | 25 | 26 | | 29 | 24 | 25 | 28 | 25 | 27 | 27 | 26 | 11 | 26.2 | 1.47 |
| 8 体中央周径 | r | 85 | 81 | 81 | 89 | 89 | 95 | 81 | 84 | | 83 | 86 | 87 | 87 | 12 | 85.7 | 4.14 |
| | l | | 80 | 79 | 87 | | 95 | 81 | 81 | 92 | 83 | 87 | 88 | 85 | 11 | 85.3 | 5.12 |
| 9 体上横径 | r | 30 | 28 | 28 | | 32 | | 29 | 30 | | 31 | 31 | | | 8 | 29.9 | 1.46 |
| | l | | 29 | 31 | 31 | | 32 | 29 | 31 | 31 | 30 | 32 | | 30 | 10 | 30.6 | 1.07 |
| 10 体上矢状径 | r | 24 | 22 | 24 | | 26 | | 23 | 25 | | 24 | 22 | | | 8 | 23.8 | 1.39 |
| | l | | 22 | 21 | 24 | | 28 | 24 | 25 | 24 | 24 | 23 | | 23 | 10 | 23.8 | 1.87 |
| 8/2 長厚示数 | r | 20.8 | 22.6 | | | | | | | | 21.5 | | | | 3 | 21.6 | 0.91 |
| | l | | 22.4 | | | | | | | | | | | 21.6 | 2 | 22.0 | |
| 6/7 体中央断面示数 | r | 116 | 92.6 | 104.0 | 129.2 | 115.4 | 117.9 | 112.5 | 116.0 | | 103.8 | 111.5 | 103.7 | 107.7 | 12 | 110.9 | 9.31 |
| | l | | 96.2 | 100.0 | 111.5 | | 106.9 | 112.5 | 108.0 | 107.1 | 108.0 | 107.4 | 111.1 | 107.7 | 11 | 106.9 | 4.85 |
| 10/9 体上断面示数 | r | 80 | 78.6 | 85.7 | | 81.3 | | 79.3 | 83.3 | | 77.4 | 71.0 | | | 8 | 79.6 | 4.37 |
| | l | | 75.9 | 67.7 | 77.4 | | 87.5 | 82.8 | 80.6 | 77.4 | 80.0 | 71.9 | | 76.7 | 10 | 77.8 | 5.51 |

| 脛骨 | | 21号墓 ♂ | 22号墓 ♂ | 27号-3 ♂ | 27号-4 ♂ | 27号-6 ♂ | 27号 ♂ | 15号 ♂ | 15号 ♂ | 11号 ♂ | 11号 ♂ | 11号 ♂ | n | mean | s.d |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8a 栄養孔位最大径 | r | 32 | 32 | 31 | | 33 | | 34 | 30 | 32 | 34 | 33 | 9 | 32.3 | 1.32 |
| | l | | 32 | 30 | | | 37 | 35 | 32 | | 34 | 33 | 7 | 33.3 | 2.29 |
| 9a 栄養孔位横径 | r | 23 | 21 | 23 | | 28 | | 26 | 24 | 25 | 24 | 25 | 9 | 24.3 | 2.00 |
| | l | | 21 | 23 | | | 25 | 24 | 24 | | 25 | 25 | 7 | 23.9 | 1.46 |
| 10a 栄養孔位周 | r | 87 | 84 | 85 | | 95 | | 95 | 85 | 89 | 93 | 91 | 9 | 89.3 | 4.36 |
| | l | | 86 | 84 | | | 100 | 92 | 87 | | 91 | 91 | 7 | 90.1 | 5.27 |
| 10b 最小周 | r | | 68 | | | 79 | 83 | 76 | 71 | 74 | 74 | | 7 | 75.0 | 4.97 |
| | l | | 69 | | | | 81 | 74 | 70 | | 73 | | 5 | 73.4 | 4.72 |
| 9a/8a 栄養孔位断面示数 | r | 71.9 | 65.6 | 74.2 | | 84.8 | | 76.5 | 80.0 | 78.1 | 70.6 | 75.8 | 9 | 75.3 | 5.60 |
| | l | | 65.6 | 76.7 | | | 67.6 | 68.6 | 75.0 | | 73.5 | 75.8 | 7 | 71.8 | 4.46 |

(mm)

## 第78表　下肢骨計測値（女性）

| 大腿骨 | | 27号-1 ♀ | 27号-5 ♀ | 13号 ♀ | 15号 ♀ | 11号 ♀ | 11号 ♀ | 11号 ♀ | n | mean | s.d |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 6 体中央矢状径 | r | 23 | 22 | 25 | 23 | | 27 | 24 | 6 | 24.0 | 1.79 |
| | l | 23 | 21 | 26 | 23 | | 26 | | 5 | 23.8 | 2.17 |
| 7 体中央横径 | r | 24 | 18 | 25 | 24 | | 24 | 27 | 6 | 23.7 | 3.01 |
| | l | 25 | 19 | 24 | 25 | | 24 | | 5 | 23.4 | 2.51 |
| 8 体中央周径 | r | 74 | 65 | 78 | 74 | | 80 | 78 | 6 | 74.8 | 5.38 |
| | l | 74 | 64 | 78 | 75 | | 79 | | 5 | 74.0 | 5.96 |
| 9 体上横径 | r | 29 | | 29 | 28 | 30 | 29 | 31 | 6 | 29.3 | 1.03 |
| | l | 31 | | 29 | 29 | 31 | 29 | | 5 | 29.8 | 1.10 |
| 10 体上矢状径 | r | 20 | | 19 | 22 | 22 | 22 | 23 | 6 | 21.3 | 1.51 |
| | l | 21 | | 19 | 22 | 23 | 21 | | 5 | 21.2 | 1.48 |
| 6/7 体中央断面示数 | r | 95.8 | 122.2 | 100.0 | 92.0 | | 112.5 | 88.9 | 6 | 101.9 | 12.90 |
| | l | 92.0 | 110.5 | 108.3 | 32.4 | | 108.3 | | 5 | 90.3 | 33.21 |
| 10/9 体上断面示数 | r | 69.0 | | 65.5 | 75.9 | 73.3 | 75.9 | 74.2 | 6 | 72.3 | 4.19 |
| | l | 67.7 | | 65.5 | | 74.2 | 72.4 | | 4 | 70.0 | 4.04 |

| 脛骨 | | 27号-1 ♀ | 15号 ♀ | 13号 ♀ | 11号 ♀ | n | mean | s.d |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8a 栄養孔位最大径 | r | | 30 | 32 | 30 | 3 | 30.7 | 1.15 |
| | l | | | 31 | | 1 | 31 | |
| 9a 栄養孔位横径 | r | | 23 | 19 | 24 | 3 | 22.0 | 2.65 |
| | l | | | 21 | | 1 | 21 | |
| 10a 栄養孔位周 | r | | 83 | 81 | 86 | 3 | 83.3 | 2.52 |
| | l | | | 81 | | 1 | 81 | |
| 10b 最小周 | r | 64 | 68 | 65 | 70 | 4 | 66.8 | 2.75 |
| | l | 65 | | 67 | | 2 | 66.0 | |
| 9a/8a 栄養孔位断面示数 | r | | 76.7 | 59.4 | 80.0 | 3 | 72.0 | 11.06 |
| | l | | | 67.7 | | 1 | 67.7 | |

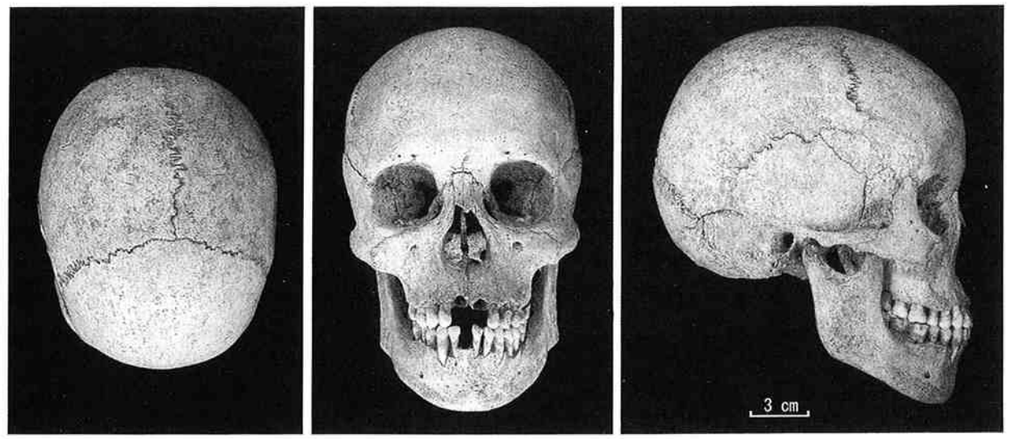
(mm)

## 第79表　頭蓋非計測的形質

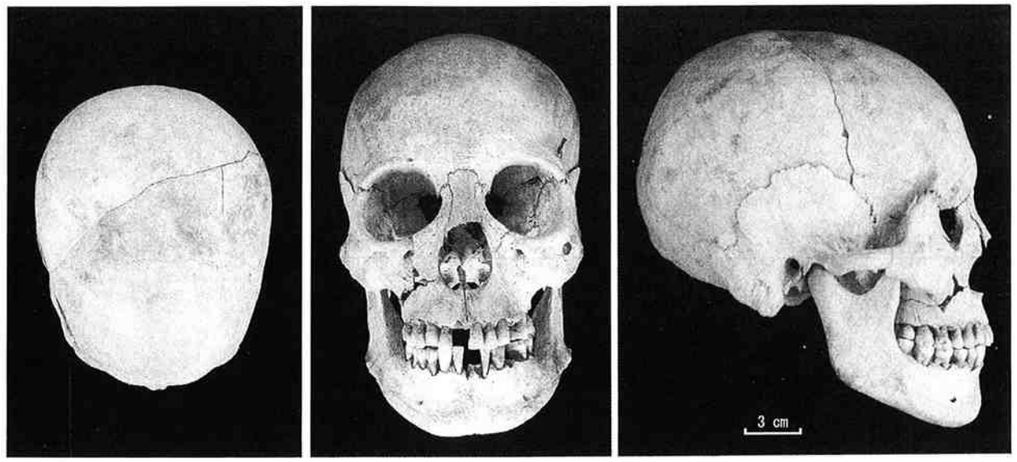
| 項　目 | 20号 ♂ r | 20号 ♂ l | 21号 ♂ r | 21号 ♂ l | 22号 ♂ r | 22号 ♂ l | 11号1 ♂ r | 11号1 ♂ l | 11号 ♂ r | 11号 ♂ l | 11号 ♂ r | 11号 ♂ l | 11号 ♂ r | 11号 ♂ l | 11号 ♂ r | 11号 ♂ l | n | + | freq |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 前頭縫合 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | 8 | 0 | 0.000 |
| 眼窩上神経溝 | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 0 | | 0 | 0 | 13 | 0 | 0.000 |
| 眼窩上孔 | 1 | 1 | 1 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | | 0 | | | | 11 | 4 | 0.364 |
| 副眼窩下孔 | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | | | 0 | | | | | | | | 6 | 0 | 0.000 |
| 二分頬骨 | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | 0 | | | | | | 4 | 0 | 0.000 |
| 内側口蓋管骨橋 | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | | 6 | 0 | 0.000 |
| ラムダ小骨 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | 8 | 0 | 0.000 |
| インカ骨 | | 0 | | 0 | | 1 | | 0 | | 1 | | 1 | | 0 | | 0 | 8 | 3 | 0.375 |
| 横後頭縫合(10mm〈) | 1 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 15 | 4 | 0.267 |
| 矢状洞溝左偏位 | | 0 | | 0 | | 0 | | | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | 7 | 0 | 0.000 |
| 顎管 | 1 | 1 | 1 | | 0 | | | | | | | | | | | | 4 | 3 | 0.750 |
| 舌下神経管骨橋 | 0 | 0 | 0 | | 0 | | | | 0 | 0 | | | | | | | 6 | 0 | 0.000 |
| 頬静脈孔骨橋 | 0 | 0 | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | 0 | | | | | | | 7 | 0 | 0.000 |
| アステリオン小骨 | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | 0 | 0 | 12 | 0 | 0.000 |
| 乳突後頭縫合骨 | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | 10 | 1 | 0.100 |
| 翼鰓問骨橋 | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | | | 3 | 0 | 0.000 |
| 鼓室骨裂孔 | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 13 | 0 | 0.000 |
| 外耳道骨腫 | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 14 | 0 | 0.000 |
| 頭頂切痕骨(5mm〈) | 0 | 0 | 0 | | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | 0 | 0 | 12 | 1 | 0.083 |
| 副オトガイ孔 | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | | 6 | 0 | 0.000 |
| 顎舌骨筋神経管骨橋 | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | | 6 | 0 | 0.000 |

1：＋　0：－

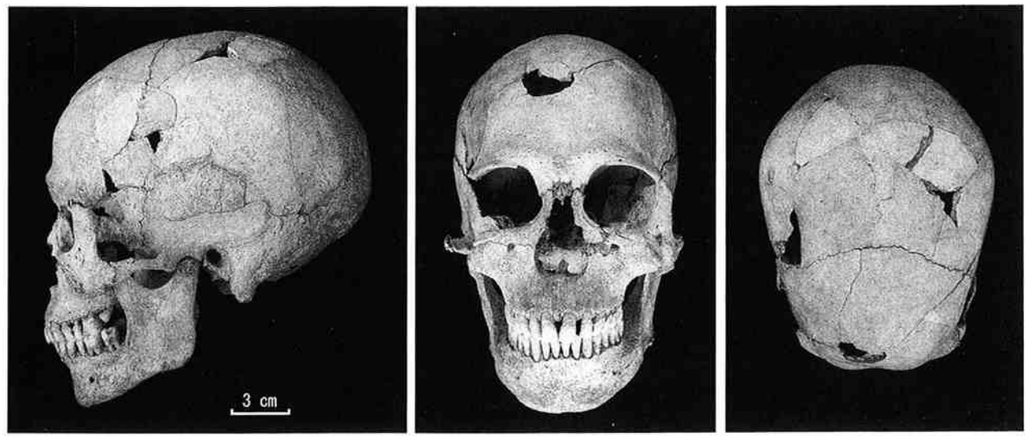
# 図　　版




20号墓人骨（男性・若～成年）



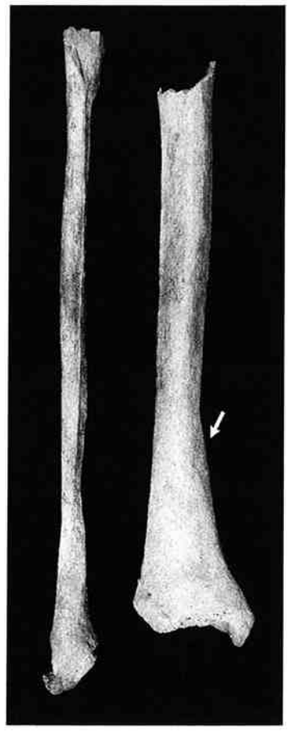
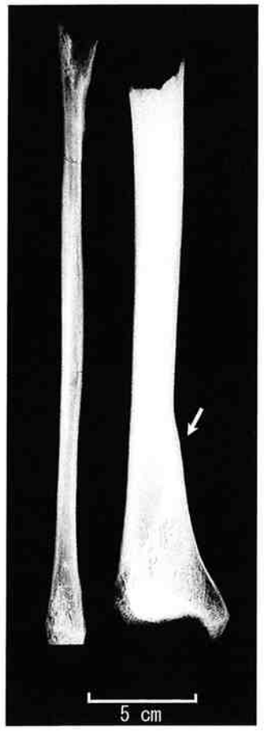

21号墓人骨（男性・成年）




22号墓人骨（男性・成年）

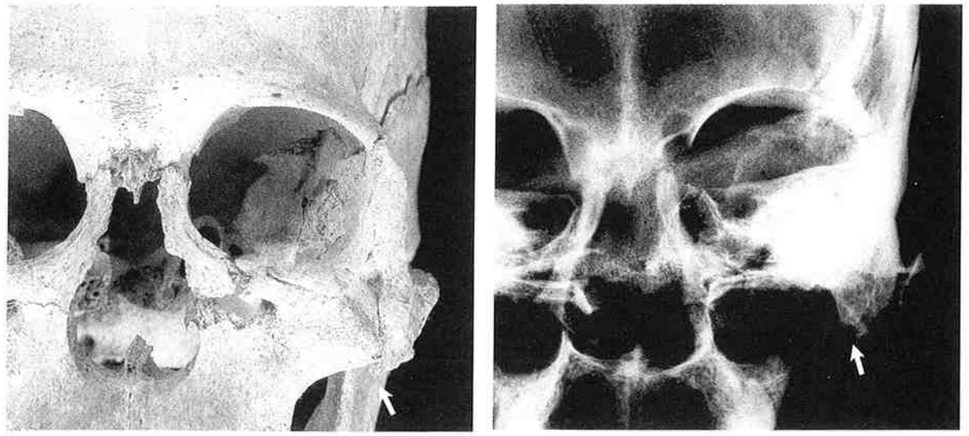
図版44　人骨1

20号墓人骨
右前腕遠位部の骨折痕

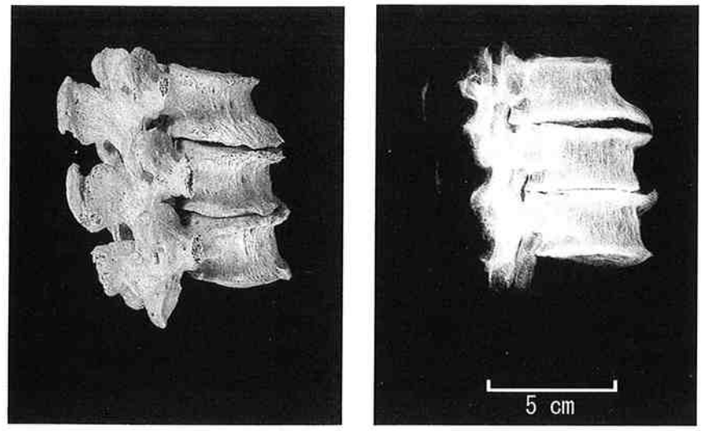




21号墓人骨
右脛骨遠位部の骨折痕

図版45　人骨２



22号墓人骨　左頬骨の傷痕




22号墓人骨　腰椎の嘴状骨増殖

図版46　人骨3

# 第６章　結語

今回の成果をあげると次のとおりである。

・本古墓群の時期は近世～近代に位置づけられ、近代を主体とする。
・墓の形態は二次葬の石積石室墓を主体とし、一次葬の地下式石棺墓を３基確認した。
・遺物は沖縄産陶器が最も多く、本土産、中国産陶磁器の割合も比較的高い。
・陶磁器が積み重ねられた状態で出土し、一括遺物（デポ）と思われる。
・陶磁器には県内で初確認の資料や墨書を記した資料がある。
・タカラガイ・イモガイ製品が墓に伴い、何らかの儀礼に用いたと考えられる。
・近代の埋葬人骨を３体確認した。その他、納骨器に納められた人骨を10数例や焼骨を確認した。

## １　遺構

本古墓群では33基の墓を確認し、主体は石積石室墓（Ⅰ類ａ種）である。墓の構築年代は伴う遺物から考えて近世に構築された墓と近代に構築された墓がある。前者は10・27号墓などで、墓室内から出土した遺物の多くが18世紀頃の陶磁器である。後者は８・30号墓などで、８号墓は墓室に本土産近代磁器が伴い、30号墓は石積み内に瓦が伴う。遺構と遺物の関係は後述する。

地下式石棺墓とした20～22号墓から埋葬人骨を各１体ずつ確認した。後述の文献資料には個人墓があったとの記録が残る。聞き取りでは「洗骨を行うことが基本で、洗骨しないということはない」との話があり、急死や流行病で死亡したあるいは島外の者はこれに似た墓に葬った事例もあったとのことである。また、資金のない者も個人墓で済ませたようである。これについては「名のなき者は土中に埋めて、上から土を盛り、土饅頭型の墓を造った」（池間1959）とあり、22号墓は一部土が被っていたことからこの記録のように、「土饅頭型」であったと思われる。ただし、直接土中に埋めるものではないため同一のタイプとはみなせない。

以上の点から、地下式石棺墓は洗骨を行うはずのものが何らかの理由でなされなかったか、一次葬のみで終える墓と考えられる。

石積石室墓は外面形態のみで分類を行ったが、10号墓などのように比較的広い墓室を持つタイプと、２号墓などのように墓室が狭いタイプにも分けられる。

10号墓はサンアイイソバに縁をもつ家筋が管理していた。岩陰を利用して天井石に畳１枚ほどもあるビーチロックを用い外観は破風墓に似ており墓室は広い。地区内で最大規模のものである。与那国では財力のあるものが大きな墓を築いたとされる（池間1959）。調査前に移転しており納骨方法は定かでないが、褐釉陶器などに納骨していたと考えられる。30号墓は納骨器が残り、納骨器は棚状にした墓室奥に配され、墓室手前（墓口側、イキマ？）には碗などが散乱し、ある程度の空間を有する。

２号墓は墓室内に人骨の細片が散乱し納骨器はなかった。骨は細片のみで大型の四肢骨がないことから移転時に納骨器とともに持ち出されたと思われる。ただ、墓室は狭く大きな納骨器は入らない。27号墓は11基の納骨器を納めていた。墓室は納骨器で満たされ、一時期にまとめて納めたのだろう。

10・30号墓は墓室がある程度広いことから、墓室で骨化を行うことと納骨器を納めることの機能を併せ持っていたとも考えられる。２・27号墓など大多数の墓は墓室が極めて小さいことから骨化後の骨を入れた納骨器を納めるために用い、骨化は20号墓などで行ったと考えられる。後者については文献資料からも追認でき、発掘調査の成果と合わせて後述する。

## ２　遺物

１つの墓に多量の遺物、特に陶磁器が伴う点が特徴である。これは碗や皿を積み重ねた状態であることから、まとめて納めた一括性が高いもの（デポ）と思われる。八重山では死者に対する副葬品として陶磁器などを墓に納める習俗があり、フルスト原遺跡（石垣市教委1977）では墓内に10点ほどの陶磁器が伴った事例が確認されている。祖納集落北側の浦野墓地でも墓内に陶磁器を伴う事例をみることができる。本古墓群もこれと同様に副葬品と考えられる。しかし、本古墓群は遺物の数が多く、27号墓では納骨器が11点であったのに対して、碗、瓶などは80余点であった。死者に対する副葬か、あるいはそれ以外の意味があったのか検討が必要だろう。

陶磁器の組成は10・27・30号墓は本土産・中国産染付の組成が似ており、福建・広東系碗は27・30号墓で、



本土産染付瓶は10・27号墓で多く出土し、第27図９は11・25・30・32・33号墓で出土している。これらの点から考えると、10・27・30号墓が比較的近い時期に構築されたと考えられる。しかし、30号墓は石積みに瓦が伴う[1]ことから近代に構築されたと考えられ、伝世品を納めた可能性もある。

本古墓群の陶磁器の器種構成等を考えるため比較を行った。沖縄県立博物館所蔵の与那国と波照間の資料（以下、県博資料）は対瓶が全体の約３割を占め、さらに対瓶を含めた瓶類が半数を超えるのに対して、碗は２割程度である（瑞慶山・津波古1998）。これらを参考資料として比較すると、県博資料は本古墓群の沖縄産陶器灰釉碗、嘉瓶はおよそ近いタイプであるが、沖縄産陶器の瓶は形状が異なり、かつ中国・本土産磁器は数が少ない。また、本古墓群では壺・甕をのぞいた沖縄産陶器では碗が全体の４割強を占めるのに対し、瓶は３割に満たない。本土産陶磁器は瓶の割合が高いものの、壺・甕をのぞいた陶磁器では碗の占める割合が高い。県博資料は出所が不明であるため一概に比較できないが、本古墓群と様相が異なる。ヤッチのガマでは白磁で小杯、本土産染付では瓶が多い傾向を示すのに対して、碗は白磁、青花など平均的に出土する。本古墓群では、白磁、本土産染付がヤッチのガマに似た出土傾向があるのに対して、中国産染付は碗が卓越する点がヤッチのガマと異なる。

本土産陶磁器には県内で初確認の資料があり、第37図８の皿、第38図15～17の蕎麦猪口は初期のタイプで、後者は県外でも出土例が少ない。上述のように、本古墓群には１つの墓に多量の陶磁器が伴い、特に27号墓には80点余を陶磁器が伴う。近年、本土産陶磁器の報告事例が増加し、沖縄本島だけでなく離島地域からの報告も多い。これらの陶磁器がどのようなルートで与那国島までもたらされたのか、陶磁器の流通を考える上で鍵になると考える。

墨書で文字や記号を記した利用が複数得られた。県博資料やヤッチのガマにも墨書はあったが、量的には少ない。本古墓群では墨書資料が多く、意味は判然としないものの所有を示すと考えられる。

第43図２は墨が濃く残る「阿ら満可り壱敷／與那國嶋さたら屋ノ／こやまさ（殿ヵ）」と薄くなった「佐久本屋／（亀ヵ）仲本尓屋」の２の文に分けられ、「“さたら屋”、“佐久本屋”の碗（阿ら満可り=アラマカイ？）一式」という意味だろうか。湧田古窯跡出土の碗の墨書を記した事例は注文品に記されたものとされる（沖縄県教委1999）。本例は二家（あるいはいずれか）の所有を示したと考えられる。

碗や瓶などの底部に記された記号は「家判（ダハン）」と思われる。家判は与那国島では各家ごとにあり、所有を明らかにするため様々なものに記していた（与那国町教委1992）。前述の「佐久本」は同じ姓を祖納に確認できるが、記された記号と家判は一致しない。同図の「さらた屋」の屋号は確認できなかった。その他の記号と家判を対比したが、類似する家判はあるが完全に一致するものはなかった。ただし、第43図６はカイダー字の「米三俵」に似る。そのため、これらは既になくなった家判か家判以外の意味も考えられる。

貝製品ではタカラガイ・イモガイ製品が得られた。これらの類例資料はヤッチのガマ、ナーチュー毛古墓群、庸原第一墓にある。その他に与那国、久米島、那覇の３地域に共通する貝製品としてヤコウガイ製匙がある。穿孔を行う貝は先史時代から存在し、葬送に伴うものではないかとの指摘があることからも貝を用いた儀礼が広い地域で行われたことが考えられる。特に本古墓群ではタカラガイが多いことから[2]タカラガイが重視されたと考えられる。

20号墓などから木棺に用いた鉄釘が出土した。20号墓から出土した釘は断面形が方形の角釘、21・22号墓では断面形が円形の丸釘であった。同様な傾向が大分県大分市所在の中尾近世墓地（大分県教委1999）の調査で確認されている。報告によると、日本では明治20～30年（1890年代前後）に鉄釘の使用が角釘から丸釘へ変わり、また、調査では江戸末期の墓に角釘、明治中頃の墓に丸釘を用いていることから、明治20年代前後に角釘から丸釘への置換があったと想定している。この点を参考にして明治20年代前後を画期として20号墓と21・22号墓の時期が分けられるのではないかと仮定できるが、20号墓に共伴するビール瓶（キリンビール）は昭和９～14（1934～39）年頃に製造されたタイプとのことであり、本古墓群にこの点を当てはめることはできない。また、共伴する近代陶磁器の時期を決定できないため、ビール瓶のみから考えると20号墓は昭和９年以降に造られたものとしておく。

遺構に近代遺物が伴う例が複数ある。近世陶磁器と近代陶磁器が共伴しない墓（どちらかが単独で出土する墓）は近世もしくは近代に構築したものと考えてよいだろう。近世陶磁器のみが出土するのは10号墓などで、近代陶磁器のみが出土するのは８号墓などである。しかし、近世の陶磁器が伝世して近代陶磁器とともに墓に納められた点や、近代陶磁器を後世に墓内へ納めた点も検討する必要がある。この点については、10

号墓と27号墓では陶磁器が重ねられた状態で出土したことから、陶磁器が近世のある時期に墓に納められ、墓の構築時期も近世の可能性が高いと考えられる。

## 3　人骨

人骨は全体的に保存状態は悪いが、20号墓などから埋葬人骨を３体、27号墓などから納骨器に納めた人骨、７号墓などから焼骨など85体分の人骨を確認した。人骨の形質は特徴的な部分はみられるが、「低身長」であるなど、概ねこれまで確認されている沖縄のグループに属するものという結果であった。また、３体の人骨からは当時の与那国島の生活が分かった。これらには鉄欠乏性貧血などが認められ、「生活は厳しい環境の中での重労働で」、「与那国島における生活環境は相当に厳しかった」と推察している。

27号墓には納骨器があり、それに納められた人数を確認すると、９例中７例が１人のみを納めたものであった。確認例が27号墓に止まっており、15号墓では３人を納めていることから、与那国で納骨器１つに１人が一般的な葬法か判然としない。ヤッチのガマでは１人のみを納めるのは２割に満たないのに対し、２人以上が８割超である点と比較すると興味深い。

７号墓からは焼骨が得られた。聞き取りでは現在の与那国では水で洗骨し、さらに火で焼くとのことであった。30号墓などの移転の際にも骨をバーナーで焼いた（炙った）後に墓に納めていた。また、久米島では十分に骨化していない骨は焼いていたという（沖縄県立埋文センター2001）。さらに26号墓からは刃物傷のある人骨があり、第５章では洗骨によるとした。これらは、地下式石室墓などに納めていた遺骸が骨化していた際には焼き、十分に骨化していなかった際に刃物で削ぎ取ったと考えられる。

## 4　他分野からの検証

与那国島での墓（埋葬）を対象とした調査・記録は、古くは笹森儀助が大和墓を平家の落武者の墓ではないかとするが（笹森1895）、池間栄三はキセルなどが出土することからこれを否定した（池間1959）。永井昌文らは大和墓と樽舞崖葬墓、祖納集落内の埋葬遺跡を調査し、祖納は層序から先史時代の埋葬とした（永井・佐野1966）。与那国島全体の遺跡分布調査では大和墓から中森式土器やパナリ焼を採集し（沖縄県教委1980）、島仲村跡遺跡内の分布調査では石積石室墓を４ヶ所確認した（与那国町教委2002）。

与那国島における墓に関する民俗調査は多い。墓の変遷について原知章の報告では、大正期の記録などと併せて考えると第２次大戦までは石積石室墓や掘込墓が多く、浦野墓地にみられるような巨大な亀甲墓が一般化するのはそれ以降であるとした（原2000）。原の報告は本古墓群の調査成果と比較できる部分が多い。

与那国での墓に関する文献記録は、1477年に与那国島に漂着した朝鮮人の報告を記した「成宗大王実録」には崖葬墓があったとあり、19世紀後半の富川親方による『八重山嶋御規模帳』に、まず別の場所に墓所をつくり、洗骨した後に家単位の墓に移していたとある[3)]。

八重山での近世に属する墓の発掘調査事例で本古墓群と比較できる資料は少ないが、フルスト原遺跡内の積石墓は17～18世紀とされる。また、『参遣状』の18世紀初めの記録に１ｍほどの石積みの個人墓をつくっていたとある。これらの点から島袋は、発掘調査や文献記録から八重山で墓の形態が17世紀末～18世紀初に改葬を伴わない個人墓から改葬を行う合葬墓に変わったとする（島袋2003）。

以上から、与那国島では先史時代には土中への埋葬があり、15世紀には崖葬が存在した。そして、19世紀には石積石室墓や地下式石棺墓が存在したと考えられ、池間の記録に土葬があったとされることから近世まで土中への埋葬があったと思われる。これらをつなぐ資料は不足しているが、「土中への埋葬」→「崖葬」→「石積石室墓・地下式石棺墓」との変遷するのか、あるいはいくつかが併存しながら、漸次、埋葬や崖葬が消失したと考えられる。島袋の論考から考えると後者が妥当と思われる。

本古墓群の石積石室墓は改葬を伴う合葬墓であることと出土遺物から、本古墓群は18世紀以降から使用された墓域と考えられる。また、19世紀後半には個人墓を止め家単位の墓にするように達しがでているが、与那国ではその後も個人墓が継続し、20号墓などから昭和10年代頃まで存続したことが分かる。

墓の構造は２号墓などは床面に板状砂岩を敷く事例が多い。原の調査では、墓室の床はコンクリートを敷き残した部分を「イキマ（池間）」と称し、その部分に「ナリイチ（流れ石）」を敷くとある。サンゴジャリを敷く事例は27号墓などにあるが、多くは床を板状砂岩で覆っている。イキマを設けるのは床全体をコンクリートで覆うと「生きている人（子孫）」によくないからとされる。本古墓群ではイキマと思われる部分を



持った（板状砂岩を敷かない）墓は７号墓など少ない。７・30号墓は墓内で骨化を行っていた可能性があり、板状砂岩を敷く２号墓などは別の場所で骨化を行っていたと考えられるため、イキマの有無は墓内で骨化を行っていたか否かの違いとも考えられる。

同じく原の調査では、与那国では墓の向きは西向きがよいとされ、浦野墓地でも西側を主体とする。本古墓群では南向きを主体とするが、「墓の向きを選定する際には周囲の墓の向きに合わせることが多い」といった点や、本古墓群一帯が南へ傾斜する地形も影響して、墓の向きが南を主体とすると思われる。

＜注事項＞

１）瓦は石積内の深い部分からの出土であったため、構築当時からのものと考えてよいだろう。

２）イキマにナリイチを敷く事例があり、タカラガイが多く得られた27号墓は墓室内にサンゴジャリを敷いている。その際に混入した自然貝とも考えられる。

３）『朝鮮王朝実録』「成宗大王実録」巻一〇六に「人死則坐置棺中。置於厓厂下。不埋之以土。厓厂広則並置五六棺。」（日本史料集成編纂会1979）、『八重山嶋御規模帳』では「死者葬方之儀、あけ方与申、他所江墓所新仕立、相葬候而、洗骨之砌、先祖之墓所江相移由」（喜舎場1977）、『参遣状』に「墓一所ニ壱人ツヽ葬置候墓所ハ三四尺程之石ニ而造」や「死人銘々墓壱ツヽ宛拵申とて大石切取又ハ細者抔過分ニ取集囲仕」（石垣市史編集室1995）とある。『規模帳』、『参遣状』の文言は、個人墓を止め家単位の墓に変えるよう達しを出した折りに触れたものである。

＜引用・参考文献一覧＞


石垣市教育委員会　1977年『フルスト原遺跡』

石垣市総務部市史編集室　1995年『石垣市史叢書』８　石垣市

池間　栄三　1959年『与那国の歴史』　自費出版

浦添市教育委員会　1997年『伊祖の入め御拝領墓の厨子甕と被葬者　近世墓の考古学的調査による家族復元』

大分県教育委員会　1999年『中尾近世墓地』

沖縄県教育委員会　1980年『竹富町・与那国町の遺跡』

沖縄県教育委員会　1985年『与那国島　トゥグル浜遺跡　与那国空港整備工事に伴う緊急発掘調査報告』

沖縄県教育委員会　1988年『首里城跡　歓会門・久慶門内側地域の復元整備業にかかる遺構調査』

沖縄県教育委員会　1991年『西表島　上村遺跡　重要遺跡確認調査報告』

沖縄県教育委員会　1999年『喜友名貝塚・喜友名グスク　－宜野湾北中城線（伊佐～普天間）道路改築工事に伴う緊急発掘調査報告書（Ⅰ）－』

沖縄県教育委員会　1999年『湧田古窯跡（Ⅳ）　県民広場地下駐車場建設に係る発掘調査』

沖縄県教育委員会　2000年『空港整備予定地周辺の遺跡　与那国空港・新多良間空港・波照間空港整備予定地周辺における遺跡詳細分布調査報告書』

沖縄県立埋蔵文化財センター　2001年『天界寺跡（Ⅰ）　－首里杜館地下駐車場入り口新設工事に伴う緊急発掘調査－』

沖縄県立埋蔵文化財センター　2001年『ヤッチのガマ・カンジン原古墓群　－県営かんがい排水事業（カンジン地区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』

沖縄県立埋蔵文化財センター　2002年『円覚寺跡　－遺構確認調査報告書－』

沖縄県立埋蔵文化財センター　2003年『首里城跡　－右掖門及び周辺地区発掘調査報告書－』

喜舎場永珣　1977年『八重山民俗誌』上（民俗篇）　沖縄タイムス社

國分　直一　1976年『環シナ海民俗文化考』　慶友社

桜井　準也　2000年「近代遺物の表象－機能・記号・身体－」『メタ・アーケオロジー』第2号　メタ・アーケオロジー研究会

坂井　　卓　1985年「与那国島」『琉球弧の地質誌』　沖縄タイムス社

笹森　儀助　1895年『南嶋探験』

潮見　　浩　1988年『図解　技術の考古学』　有斐閣

島袋　綾野　2003年「石垣島を中心とした墓の事例紹介－八重山における墓の変遷試案－」『南島考古』22　沖縄考古学会

新村　出 編　1998年『広辞苑』第五版　岩波書店

瑞慶山　昇・津波古　聰　1998年「資料紹介・波照間の古墓出土の陶磁器」『波照間島総合調査報告書』沖縄県立博物館

知念　　勇　1989年「与那国島の遺跡」『県立博物館総合調査報告書』Ⅵ　沖縄県立博物館

北谷町教育委員会　1996年『上勢頭古墓群　―嘉手納(７)貯油施設建設工事に伴う文化財発掘調査報告―』
仲間　留美　1998年「毛原第一墓・庸原第一墓の調査」『波照間島総合調査報告書』　沖縄県立博物館
中村　　愿　1989年「墓の形態と厨子甕のタイプについて」『南島の墓－沖縄の葬制・墓制』沖縄出版
今帰仁村教育委員会　1983年『今帰仁城跡発掘調査報告Ⅰ　志慶真門郭の調査』
那覇市教育委員会　1999年『天界寺跡　－首里城線街路事業に伴う緊急発掘調査報告－』
那覇市教育委員会　2000年『ナーチュー毛古墓群　－那覇新都心土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査報告Ⅶ－』
那覇市教育委員会　2001年『首里崎山古墓群　崎山公園整備事業に伴う緊急発掘調査報告』
日本史料集成編纂会　1979年『中国・朝鮮の史籍における日本史料集成－李朝実録之部４』　国書研究会
原　　知章　2000年『民俗文化の現在－沖縄・与那国島の「民俗」へのまなざし－』　同成社
宮良　　文　1972年『八重山生活誌』　沖縄タイムス社
宮良　保全　2000年『与那国島の民俗と暮らし　第一分冊－住居・墓・水－』　与那国町教育委員会
与那国町　2003年『町史（本巻）』第１巻
与那国町教育委員会　1986年『慶田崎遺跡　久部良小学校体育館建設に伴う緊急発掘調査報告』
与那国町教育委員会　1988年『与那原遺跡　個人農家の畑地改良等に伴う緊急発掘調査報告』
与那国町教育委員会　1992年『与那国町の家畜耳印・家判・カイダー字・水田名』
与那国町教育委員会　2002年『島仲村跡遺跡　島仲地区遺跡詳細分布調査に係る調査報告書』
渡辺　欣雄　1994年「現代沖縄の墓地風水について－与那国島を中心とした比較研究－」『風水論叢』　凱風社

沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書　第21集

与那国島

# 嘉田地区古墓群

－嘉田地区ほ場整備事業に伴う緊急発掘調査報告書－

発行年　2004年（平成16）3月26日
発行・編集　沖縄県立埋蔵文化財センター
〒903-0125　沖縄県中頭郡西原町字上原193番地の7
TEL　098-835-8751・8752
印刷　第一印刷株式会社
〒901-0201　沖縄県豊見城市真玉橋158番地
TEL　098-850-5858

©沖縄県立埋蔵文化財センター　2004　Printed in Japan
許可なく本書の無断複製、転載、複写を禁ずる。